

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第211集

# イタドリA遺跡・イタドリB遺跡・イタドリC遺跡

第二東名No.13・No.14・No.15地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

沼津市-3

2009

中日本高速道路株式会社東京支社  
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第211集

# イタドリA遺跡・イタドリB遺跡・イタドリC遺跡

第二東名No.13・No.14・No.15地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

沼津市 - 3

2009

中日本高速道路株式会社東京支社  
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

## 序

この度、『イタドリA遺跡・イタドリB遺跡・イタドリC遺跡』が刊行されました。これは、第二東名高速道路建設に伴い発掘調査が実施されましたイタドリA遺跡（沼津工区№13地点）、イタドリB遺跡（沼津工区№14地点）、イタドリC遺跡（沼津工区№15地点）（以下イタドリA/B/C遺跡）の報告書です。

イタドリA/B/C遺跡は愛鷹山南麓に位置し、隣り合う尾根に分布しています。イタドリA遺跡からは、主に縄文時代草創期から前期の資料と、後期旧石器時代の資料が発掘されました。イタドリB遺跡からは、わずかではありますが後期旧石器時代と縄文時代の資料が発掘されました。イタドリC遺跡からは、主に後期旧石器時代の石器と礫群が発掘されました。また、縄文時代の土坑も見つかりました。

近年、様々な開発行為に伴って埋蔵文化財の発掘調査が急増し、数多くの遺跡が消滅しています。その中にはイタドリA/B/C遺跡と同時代、同時期の遺跡が数多く含まれます。是非多くの方々に、これらの遺跡の発掘の成果を知っていただきたいと思います。そして、記録保存という形で蓄積された資料から、これら遺跡を関係づけ、そこに暮らした人々の生活像と文化の流れを詳らかにし、歴史の理解と保護のために十分に活用されていくことを切に願っています。

むすびに、調査ならびに報告書の作成にあたり多大なる援助・協力をいただきました中日本高速道路株式会社東京支社（旧日本道路公団静岡建設局）・静岡県教育委員会をはじめ、多くの関係諸機関の方々に厚くお礼を申し上げます。

平成21年11月

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長 天野 忍

# 例 言

1. 本書は、静岡県沼津市足高尾上51-44他に所在するイタドリA遺跡（第二東名№13地点）、静岡県沼津市足高尾上43-25他に所在するイタドリB遺跡（第二東名№14地点）、及び静岡県沼津市宮本字元野266-18他に所在するイタドリC遺跡（第二東名№15地点）の発掘調査報告書である。
2. 調査は平成9年度・平成10年度に実施した確認調査の結果を受け、平成10年度第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、日本道路公団静岡建設局沼津工事事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が現地調査を実施した。
3. イタドリA遺跡・イタドリB遺跡・イタドリC遺跡の確認調査・本調査および資料整理の期間は以下のとおりである。

イタドリA遺跡（№13地点）調査面積1,925㎡

確認調査（その1） 平成10年4月～5月

本調査Ⅰ期 平成10年6月～8月

本調査Ⅱ期 平成10年9月～10月

資料整理・報告書作成 平成20年6月～平成21年11月

イタドリB遺跡（№14地点）調査面積3,320㎡

確認調査（その1） 平成9年7月～8月

確認調査（その2） 平成10年2月～3月

本調査 平成10年4月～6月

資料整理・報告書作成 平成20年6月～平成21年11月

イタドリC遺跡（№15地点）調査面積8,808㎡

確認調査（その1） 平成9年7月～8月

確認調査（その2） 平成10年1月～2月

本調査Ⅰ期 平成10年6月～9月

確認調査（その3） 平成10年9月～12月

資料整理・報告書作成 平成20年6月～平成21年11月

4. 調査担当者は以下の通りである。

平成9年度

イタドリB遺跡（確認調査その1）

主任調査研究員 中嶋郁夫

調査研究員 望月友佳子・後藤正人・小林靖彦

イタドリC遺跡（確認調査その1）

主任調査研究員 中嶋郁夫

調査研究員 望月友佳子・後藤正人・小林靖彦

平成10年度

イタドリA遺跡（確認調査その1・本調査Ⅰ期・本調査Ⅱ期）

主任調査研究員 中嶋郁夫

調査研究員 岩本 貴（確認調査その1・本調査Ⅰ期・本調査Ⅱ期）

高野穂多果（本調査Ⅱ期）

イタドリB遺跡（確認調査その2・本調査）

主任調査研究員 中嶋郁夫

調査研究員 高野穂多果

イタドリC遺跡（確認調査その2・本調査I期・確認調査その3）

主任調査研究員 中嶋郁夫

調査研究員 後藤正人（確認調査その2）

小林靖彦（確認調査その2・本調査I期・確認調査その3）

佐野暢彦（確認調査その3）

平成20年度

イタドリA遺跡・イタドリB遺跡・イタドリC遺跡（資料整理）

東部総括係長 中鉢賢治

東部調査係長 笹原千賀子

調査研究員 壬生亮輔

平成21年度

イタドリA遺跡・イタドリB遺跡・イタドリC遺跡（資料整理）

次長兼東部総括係長 中鉢賢治

東部調査係長 笹原千賀子

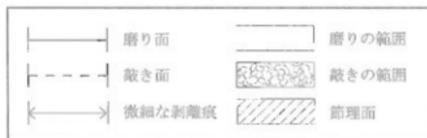
調査研究員 壬生亮輔

- 平成11年度 イタドリA遺跡から出土した旧石器時代の礫の基礎整理業務をバリノ・サーヴェイ株式会社へ委託した。その成果は報告書に反映させた。
- 平成11年度 イタドリA遺跡から出土した旧石器時代の石器の母岩・剥離技術の同定作業を株式会社アルカに委託した。その成果は報告書執筆の際の参考とした。
- 平成11年度 イタドリA遺跡の黒曜石の原産地分析を独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授・望月明彦氏に依頼した。その分析結果は附編に収録した。
- 平成17年度 イタドリB遺跡・イタドリC遺跡の黒曜石の原産地分析を独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授・望月明彦氏に依頼した。その分析結果は附編に収録した。
- 平成20年度 土器付着炭化物の放射性炭素年代測定を株式会社加速器研究所に依頼した。その分析結果は附編に収録した。
- 平成20年度 作業の迅速化を図るため、一部の剥片石器実測については株式会社シン技術コンサルに委託した。
- 平成20年度 本遺跡にて出土した縄文時代草創期の土器は脆弱であったため、遺物保護の観点及び風化・摩滅等により損傷のある遺物の文様判読において大きな効果を上げることが期待できる点から3次元レーザー照射計測による実測を株式会社ラングに依頼した。報告書作成に当たり納品物に加工を加え掲載した。
- 本書の執筆分担は以下の通りである。  
第Ⅱ章5節 杉山和徳 左記以外 壬生亮輔
- 整理作業では、池谷信之氏、小崎晋氏に御指導、御助言を賜った。厚く御礼申し上げる。
- 発掘調査の資料は、すべて静岡県教育委員会が保管する。

## 凡 例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

- 調査区の方眼設定は、国家座標（日本測地系・平面直角座標体系）を基準に、  
 イタドリA遺跡：(X, Y) = (-94360.0, 31450.0) = (A, 1)  
 イタドリB遺跡：(X, Y) = (-94370.0, 31300.0) = (A, 1)  
 イタドリC遺跡：(X, Y) = (-94320.0, 31000.0) = (A, 1)と設定した。
- 出土遺物は通し番号を付して取り上げ、石器S、土器P、礫R、炭化物Cの略号を付した。本文中の4桁の遺物番号は、現場での取り上げ番号を使用した。
- 石器の実測は、原則として第三角投影図法に拠った。  
 実測図中の指示記号及び表現は、以下の通りである。



- 出土遺物の縮尺は原則として土器は1/3、石器は小型石器を4/5、中型石器を3/5または2/5、大型石器を1/5とし、それぞれスケールを付した。
- 挿図の縮尺は各図に示す通りである。
- 本文中もしくは観察表に用いる色彩に関する用語・記号は、新版『標準土色帳』（農林水産省技術会議事務局監修1992）を使用した。
- 石器の石材分類は（有）考古石材研究所の柴田徹氏と山本薫氏による石材標準資料を用い、当研究所技術員 森嶋富士夫が実施した。ただし、イタドリA遺跡の旧石器時代の礫についてはパリノ・サーヴェイ株式会社の委託資料を用いた。
- 黒曜石の産地判別群は独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授 望月明彦氏の分類によるものである。結果を附編1に掲載する。なお、微細な試料や風化等により分析不可能だった試料で肉眼観察を行った資料に関しては、「桓州系（S Y）」「箱根系（H N）」「神津島系（K Z）」「天城系（A G）」に分類し、分類できなかったものを「小不可」と記載した。

産地	略号	産地	略号
旗山群	HO1Y	御坊	SHD
小塚沢群	HO2B	惣持	TSTY
土産橋北群	HO7K	高塚	HRNJ
土産橋西群	HO7N	天城	AKT
土産橋南群	HO7P	神津島	KZB

9. 本文中・挿図中の石材の略号は以下のとおりである。

番号	和名	英名	標準 資料番号	番号	和名	英名	標準 資料番号
1	玄武岩	basalt	Ba	20	ホルンフェルス	hornfels	Hr
2	多孔質玄武岩	vesicular basalt	VBa	21	凝灰岩	tuff	Tu
3	スコリア質玄武岩	basalt (scoria)	Ba (Scr)	22	細粒凝灰岩	fine-grained tuff	FT
4	ガラス質黒色安山岩	glassy black andesite	BAn	23	粗粒凝灰岩	hard fine-grained tuff	HFT
5	細粒安山岩	fine-grained andesite	FAn	24	火山噴出凝灰岩	lapilli tuff	LT
6	輝石安山岩	pyroxene andesite	An (Py)	25	緑色凝灰岩	green tuff	GT
7	角閃石安山岩	hornblende andesite	An (Hb)	26	珪質シルト岩	siliceous siltstone	SSI
8	多孔質安山岩	vesicular andesite	VAn	27	頁岩	shale	Sh
9	デイサイト	dacite	Da	28	珪質頁岩	siliceous shale	SSH
10	流紋岩	rhyolite	Rhy	29	硬質頁岩	hard shale	HS
11	黒曜石	obsidian	Ob	30	粘板岩	slate	Sl
12	ひん巻	porphyry	Po	31	珪質粘板岩	siliceous slate	SSI
13	閃緑岩	diorite	Di	32	凝結砂岩	fine-grained sandstone	FSS
14	斑レイ岩	gabro	Ga	33	中粒砂岩	medium-grained sandstone	MSS
15	メノウ(粗粒)	agate	Ag	34	粗粒砂岩	coarse-grained sandstone	CSS
16	水晶	rock crystal	RC	35	粗粒岩	gravel conglomerate	GC
17	黄玉石(碧玉)	yellow jasper	YJa	36	チャート	chert	Ch
18	赤玉石(碧玉)	red jasper	RJa	37	チャート(赤色)	red chert	Ch (Re)
19	成層岩	gneissite	Gy				

10. 層位名の略号は、土層の説明と共に、「2節 基本層序」に明示する。
11. 実測図中に用いた略号は以下の通りである。
- 礫 群 RG 石器集中 SS
12. 第1図「沼津市内第二東名関連遺跡及び主要遺跡」は、国土地理院発行1:25,000地形図「沼津」を複写し加工・加筆した。

# 目 次

序  
例  
凡

言  
例

## 第Ⅰ章 遺跡周辺の環境

- 第1節 地理的環境 ..... 1
- 第2節 歴史的環境 ..... 4

## 第Ⅱ章 イタドリA遺跡 第二東名No.13地点

### 第1節 調査の方法と経過

- 1. 調査の方法 ..... 5
- 2. 調査の経過 ..... 5
- 3. 資料整理 ..... 6

### 第2節 土層の堆積状況

### 第3節 旧石器時代の遺構と遺物

- 1. 第Ⅰ文化層 ..... 13
  - (1) 遺 物
- 2. 第Ⅱ文化層 ..... 16
  - (1) 遺 構
  - (2) 遺 物

### 第4節 縄文時代の遺構と遺物

- 1. 遺 構 ..... 34
  - (1) 集 石
  - (2) 焼 土
  - (3) 土 抗
- 2. 遺 物 ..... 39
  - (1) 土 器
  - (2) 石 器

### 第5節 奈良・平安時代の遺物 ..... 91

## 第Ⅲ章 イタドリB遺跡 第二東名No.14地点

### 第1節 調査の方法と経過

- 1. 調査の方法 ..... 92
- 2. 調査の経過 ..... 92
- 3. 資料整理 ..... 94

### 第2節 土層の堆積状況 ..... 95

第3節 旧石器時代の遺構と遺物	
1. 遺物	97
第4節 縄文時代の遺構と遺物	
1. 遺構	100
(1) 土坑	
(2) 焼土	
2. 遺物	105
(1) 土器	
(2) 石器	
第IV章 イタドリC遺跡 第二東名No15地点	
第1節 調査の方法と経過	
1. 調査の方法	111
2. 調査の経過	111
3. 資料整理	112
第2節 土層の堆積状況	115
第3節 旧石器時代の遺構と遺物	
1. 遺構	119
2. 遺物	128
第4節 縄文時代の遺構と遺物	
1. 遺構	170
(1) 土坑	
2. 遺物	178
(1) 土器	
(2) 石器	
第V章 調査の成果とまとめ	
第1節 イタドリA遺跡	181
第2節 イタドリB遺跡	186
第3節 イタドリC遺跡	187
附編 分 析	
分析1 出土黒曜石製石器産地推定分析	
独立行政法人 沼津工業高等専門学校 名誉教授 望月明彦	211
分析2 イタドリA遺跡(第二東名No13地点)出土土器放射性炭素年代測定	
株式会社 加速器分析研究所	219
写真図版	
報告書抄録	

# 挿図目次

遺跡周辺の環境	第24図 縄文時代統土	・・・ 37
第1図 沼津市内第二東名関連遺跡 及び主要遺跡・・・ 2	第25図 縄文時代土坑	・・・ 38
第2図 遺跡周辺地形図	第26図 遺構内出土石器	・・・ 38
イタドリA遺跡	第27図 I群土器分布	・・・ 41
第3図 イタドリA遺跡周辺地形及び グリッド配置・・・ 6	第28図 II群土器分布	・・・ 42
第4図 基本土層	第29図 III群土器分布	・・・ 43
第5図 土層堆積状況	第30図 IV群土器分布	・・・ 44
第6図 旧石器時代遺構配置	第31図 V群土器分布	・・・ 45
第7図 第I文化層石器集中分布	第32図 VI群土器分布	・・・ 46
第8図 第I文化層出土石器	第33図 出土土器(1) I群	・・・ 47
第9図 第II文化層礫群	第34図 出土土器(2) I群	・・・ 48
第10図 礫群内出土石器	第35図 出土土器(3) II群	・・・ 55
第11図 第II文化層石器集中分布 (器種別)・・・ 21	第36図 出土土器(4) II群	・・・ 56
第12図 第II文化層石器集中分布 (石材別)・・・ 22	第37図 出土土器(5) II・III群	・・・ 57
第13図 第II文化層2号石器集中 出土石器(1)・・・ 23	第38図 出土土器(6) IV群	・・・ 58
第14図 第II文化層2号石器集中 出土石器(2)・・・ 24	第39図 出土土器(7) IV群	・・・ 59
第15図 第II文化層2号石器集中 出土石器(3)・・・ 25	第40図 出土土器(8) V群	・・・ 60
第16図 第II文化層2号石器集中 出土石器(4)・・・ 26	第41図 出土土器(9) V群	・・・ 61
第17図 第II文化層3号石器集中 出土石器	第42図 出土土器(10) V・VI群	・・・ 62
第18図 第II文化層包含層出土 石器分布(器種別)・・・ 30	第43図 縄文時代剥片石器分布 (器種別)・・・ 66	
第19図 第II文化層包含層出土 石器分布(石材別)・・・ 31	第44図 縄文時代剥片石器分布 (石材別)・・・ 67	
第20図 第II文化層包含層 出土石器(1)・・・ 32	第45図 縄文時代接合資料分布	・・・ 68
第21図 第II文化層包含層 出土石器(2)・・・ 33	第46図 縄文時代礫石器分布 (器種別)・・・ 69	
第22図 縄文時代遺構配置	第47図 縄文時代礫石器分布 (石材別)・・・ 70	
第23図 縄文時代集石	第48図 縄文時代出土石器(1)	・・・ 77
	第49図 縄文時代出土石器(2)	・・・ 78
	第50図 縄文時代出土石器(3)	・・・ 79
	第51図 縄文時代出土石器(4)	・・・ 80
	第52図 縄文時代出土石器(5)	・・・ 81
	第53図 縄文時代出土石器(6)	・・・ 82
	第54図 縄文時代出土石器(7)	・・・ 83
	第55図 縄文時代出土石器(8)	・・・ 84
	第56図 縄文時代出土石器(9)	・・・ 85
	第57図 縄文時代出土石器(10)	・・・ 86

第58図 縄文時代出土石器 (11)	・ ・ ・ 87	第95図 礫群出土石器・	
第59図 縄文時代出土石器 (12)	・ ・ ・ 88	石器集中出土石器 (1)	・ ・ ・ 148
第60図 縄文時代出土石器 (13)	・ ・ ・ 89	第96図 石器集中出土石器 (2)	・ ・ ・ 149
第61図 縄文時代出土石器 (14)	・ ・ ・ 90	第97図 石器集中出土石器 (3)	・ ・ ・ 150
第62図 奈良・平安時代の遺物	・ ・ ・ 91	第98図 石器集中出土石器 (4)	・ ・ ・ 151
イタドリB遺跡		第99図 石器集中出土石器 (5)	・ ・ ・ 152
第63図 イタドリB遺跡周辺地形及び		第100図 石器集中出土石器 (6)	・ ・ ・ 153
グリッド・テストピット配置	・ ・ ・ 93	第101図 石器集中出土石器 (7)	・ ・ ・ 154
第64図 基本土層	・ ・ ・ 95	第102図 石器集中出土石器 (8)	・ ・ ・ 155
第65図 土層堆積状況	・ ・ ・ 96	第103図 石器集中出土石器 (9)	・ ・ ・ 156
第66図 旧石器時代遺物分布	・ ・ ・ 98	第104図 石器集中出土石器 (10)	・ ・ ・ 157
第67図 旧石器時代出土石器	・ ・ ・ 99	第105図 石器集中出土石器 (11)	・ ・ ・ 158
第68図 縄文時代遺構配置	・ ・ ・ 101	第106図 石器集中出土石器 (12)	・ ・ ・ 159
第69図 縄文時代土坑	・ ・ ・ 103	第107図 包含層出土石器分布	・ ・ ・ 164
第70図 縄文時代焼土	・ ・ ・ 104	第108図 包含層出土石器分布	
第71図 出土土器	・ ・ ・ 106	(細石刃)	・ ・ ・ 165
第72図 縄文時代出土石器 (1)	・ ・ ・ 109	第109図 包含層出土石器 (1)	・ ・ ・ 166
第73図 縄文時代出土石器 (2)	・ ・ ・ 110	第110図 包含層出土石器 (2)	・ ・ ・ 167
イタドリC遺跡		第111図 包含層出土石器 (3)	・ ・ ・ 168
第74図 イタドリC遺跡周辺地形及び		第112図 包含層出土石器 (4)	・ ・ ・ 169
グリッド配置	・ ・ ・ 113	第113図 縄文時代遺構配置	・ ・ ・ 171
第75図 テストピット配置	・ ・ ・ 114	第114図 縄文時代土坑 (1)	・ ・ ・ 172
第76図 基本土層	・ ・ ・ 117	第115図 縄文時代土坑 (2)	・ ・ ・ 173
第77図 土層堆積状況	・ ・ ・ 118	第116図 縄文時代土坑 (3)	・ ・ ・ 174
第78図 旧石器時代遺構配置	・ ・ ・ 120	第117図 縄文時代土坑 (4)	・ ・ ・ 175
第79図 礫群 (1)	・ ・ ・ 123	第118図 縄文時代土坑 (5)	・ ・ ・ 176
第80図 礫群 (2)	・ ・ ・ 124	第119図 縄文時代遺物分布	・ ・ ・ 177
第81図 礫群 (3)	・ ・ ・ 125	第120図 出土土器	・ ・ ・ 178
第82図 礫群 (4)	・ ・ ・ 126	第121図 縄文時代出土石器	・ ・ ・ 180
第83図 礫群 (5)	・ ・ ・ 127	調査の成果とまとめ	
第84図 石器集中 (1号・2号)	・ ・ ・ 135	第122図 イタドリA遺跡旧石器時代	
第85図 石器集中 (3号・4号)	・ ・ ・ 136	主要出土遺物	・ ・ ・ 182
第86図 石器集中 (5号)	・ ・ ・ 137	第123図 イタドリA遺跡縄文時代	
第87図 石器集中 (6号)	・ ・ ・ 138	主要出土遺物 (1)	・ ・ ・ 184
第88図 石器集中 (7号・8号)	・ ・ ・ 139	第124図 イタドリA遺跡縄文時代	
第89図 石器集中 (9号)	・ ・ ・ 140	主要出土遺物 (2)	・ ・ ・ 185
第90図 石器集中 (10号)	・ ・ ・ 141	第125図 イタドリA遺跡分類別	
第91図 石器集中 (11号)	・ ・ ・ 142	土器分布	・ ・ ・ 185
第92図 石器集中 (12号・13号)	・ ・ ・ 143	第126図 イタドリB遺跡主要出土遺物	・ ・ ・ 186
第93図 石器集中 (14号)	・ ・ ・ 144	第127図 イタドリC遺跡旧石器時代	
第94図 石器集中 (15号)	・ ・ ・ 145	主要遺物分布	・ ・ ・ 188

# 挿表目次

## 遺跡周辺の環境

第1表 第二東名調査対象地点	・・・2
----------------	------

第2表 周辺遺跡及び 本遺跡関連時期	・・・3
-----------------------	------

## イタドリA遺跡

第3表 第Ⅰ文化層石器組成	・・・13
---------------	-------

第4表 第Ⅱ文化層石器組成	・・・16
---------------	-------

第5表 第Ⅱ文化層 ナイフ形石器分類	・・・16
-----------------------	-------

第6表 第Ⅱ文化層黒曜石 分析不可資料肉眼分類	・・・16
----------------------------	-------

第7表 第Ⅱ文化層礫群石材集計	・・・17
-----------------	-------

第8表 第Ⅱ文化層2号石器集中 石器組成	・・・18
-------------------------	-------

第9表 第Ⅱ文化層2号石器集中黒曜石 分析不可資料肉眼分類	・・・18
----------------------------------	-------

第10表 第Ⅱ文化層3号石器集中 石器組成	・・・27
--------------------------	-------

第11表 第Ⅱ文化層包含層出土 石器組成	・・・29
-------------------------	-------

第12表 縄文時代集石一覧	・・・34
---------------	-------

第13表 縄文時代焼土一覧	・・・34
---------------	-------

第14表 縄文時代土坑一覧	・・・35
---------------	-------

第15表 縄文時代土器分類基準	・・・40
-----------------	-------

第16表 縄文土器観察資料	・・・63
---------------	-------

第17表 縄文時代石器組成	・・・65
---------------	-------

第18表 須恵器観察資料	・・・91
--------------	-------

## イタドリB遺跡

第19表 旧石器時代石器組成	・・・97
----------------	-------

第20表 縄文時代土坑一覧	・・・100
---------------	--------

第21表 縄文時代焼土一覧	・・・102
---------------	--------

第22表 遺物出土グリッド一覧	・・・105
-----------------	--------

第23表 縄文土器観察資料	・・・107
---------------	--------

第24表 縄文時代石器組成	・・・108
---------------	--------

## イタドリC遺跡

第25表 礫群一覧	・・・122
-----------	--------

第26表 休場層石器組成	・・・128
--------------	--------

第27表 各石器集中出土石器一覧	・・・146
------------------	--------

第28表 休場層包含層出土石器組成	・・・160
-------------------	--------

第29表 縄文時代土坑一覧	・・・170
---------------	--------

第30表 縄文土器観察資料	・・・178
---------------	--------

第31表 縄文時代石器組成	・・・179
---------------	--------

## 調査の成果とまとめ

第32表 濃集範囲別石器組成	・・・189
----------------	--------

## 計測資料

第33表 イタドリA遺跡石器計測資料	・・・191
--------------------	--------

第34表 イタドリB遺跡石器計測資料	・・・199
--------------------	--------

第35表 イタドリC遺跡石器計測資料	・・・200
--------------------	--------

第36表 イタドリA遺跡礫計測資料	・・・207
-------------------	--------

第37表 イタドリB遺跡礫計測資料	・・・207
-------------------	--------

第38表 イタドリC遺跡礫計測資料	・・・208
-------------------	--------

## 写真図版目次

- 写真図版中原 イタドリA遺跡縄文時代出土遺物 図版11 縄文土器3 茅山上層式土器  
条痕文土器
- 図版1 遺跡周辺全景（南から） 図版12 縄文土器4 条痕文土器（無文）  
相木式併行  
下吉井式土器  
木鳥式土器
- イタドリA遺跡 図版13 縄文土器5 清水ノ上Ⅱ～上の坊式併行  
有尾式土器
- 図版2 イタドリA遺跡全景（西から）  
土層堆積状況（G-6グリッド） 図版14 縄文土器6 諸磯b式土器
- 図版3 旧石器時代第Ⅰ文化層石器集中  
出土状況 図版15 縄文土器7 縄文  
旧石器時代第Ⅰ文化層出土石器 図版16 縄文土器8 縄文
- 図版4 旧石器時代第Ⅱ文化層1号礫群  
検出状況（南西から） 図版17 縄文土器9 縄文・中期  
旧石器時代第Ⅱ文化層2号礫群  
検出状況（南から） 図版18 縄文石器（尖頭器・石鏃）  
縄文石器（スクレイパー1）
- 旧石器時代第Ⅱ文化層石器集中  
出土状況（南西から） 図版19 縄文石器（スクレイパー2）  
縄文石器（石核1）
- 図版5 旧石器時代第Ⅱ文化層  
出土石器（1） 図版20 縄文石器（石核2）  
縄文石器（石斧）
- 図版6 旧石器時代第Ⅱ文化層  
出土石器（2） 図版21 縄文石器（磨石・敲石類1）  
縄文石器（磨石・敲石類2）
- 図版7 縄文時代1号土坑（南から） 図版22 縄文石器（磨石・敲石類3）  
縄文時代1号焼土（南東から）  
縄文時代2号焼土（南西から）  
縄文時代3号焼土（東から）  
縄文時代4号焼土（西から）  
縄文時代5・6号焼土（東から）  
縄文時代2号集石（西から）  
縄文時代3号集石（西から）
- 図版8 縄文時代4号集石（南東から）  
縄文時代5号集石（南東から）  
縄文時代6号集石（南から）  
縄文時代遺構内出土石器
- 図版9 縄文土器1 草創期  
燃糸文・押型文土器  
鶴ヶ島台式土器（立面）
- 図版10 縄文土器2 茅山下層式土器 図版23 縄文石器（石鏃）  
縄文石器（台石・石皿）
- イタドリB遺跡
- 図版24 イタドリB遺跡全景（西から）  
土層堆積状況（テストピット1）
- 図版25 旧石器時代石器  
縄文時代 1号土坑検出状況  
縄文時代 2号土坑検出状況  
縄文時代 3号土坑検出状況  
縄文時代 4号土坑検出状況
- 図版26 縄文時代土器 図版27 縄文時代石器1  
縄文時代石器2

イタドリC遺跡

- |      |   |      |  |
|------|---|------|--|
| 図版28 | イタドリC遺跡全景 (南から)<br>土層堆積状況 (K-15グリッド)  | 図版33 | 旧石器時代出土石器 1 (集中)   |
| 図版29 | 1号礫群検出状況 (北から)<br>2号礫群検出状況 (北から)<br>3号礫群検出状況 (南から)<br>4号礫群検出状況 (南から)<br>5号礫群検出状況 (南から)<br>6号礫群検出状況 (南から)<br>7号礫群検出状況 (南西から)<br>8号礫群検出状況 (北から)       | 図版34 | 旧石器時代出土石器 2 (集中)   |
| 図版30 | 9号礫群検出状況 (南から)<br>10号礫群検出状況 (南から)<br>11号礫群検出状況 (東から)<br>12号礫群検出状況 (東から)<br>13号礫群検出状況 (南から)<br>14号礫群検出状況 (南から)<br>15号礫群検出状況 (西から)<br>16号礫群検出状況 (南から) | 図版35 | 旧石器時代出土石器 3 (集中)   |
| 図版31 | 17号礫群検出状況 (南から)<br>18号礫群検出状況 (西から)<br>19号礫群検出状況 (東から)<br>1号～6号石器集中出土状況<br>(南東から)  | 図版36 | 旧石器時代出土石器 4 (包含層)  |
| 図版32 | 6号～10号石器集中出土状況<br>(南から)<br>11号～13号石器集中出土状況<br>(北東から)  | 図版37 | 旧石器時代出土石器 5 (包含層)<br>縄文時代1号～5号土坑<br>(東から)<br>縄文時代1号土坑<br>縄文時代2号土坑<br>縄文時代3号土坑                        |
|      |   | 図版38 | 縄文時代4号土坑<br>縄文時代5号土坑<br>縄文時代6号土坑<br>縄文時代7号土坑<br>縄文時代8号土坑<br>縄文時代9号土坑<br>縄文時代10号土坑<br>縄文時代11号土坑       |
|      |   | 図版39 | 縄文時代12号土坑<br>縄文時代13号土坑<br>縄文時代14号土坑<br>縄文時代15号土坑<br>縄文時代16号土坑<br>縄文時代17号土坑<br>縄文時代18号土坑<br>縄文時代19号土坑 |
|      |   | 図版40 | 縄文時代出土石器<br>縄文時代出土石器   |

# 第1章 遺跡周辺の環境

## 第1節 地理的環境

沼津市は静岡県東部、伊豆半島の付け根に位置する。比較的温暖な気候に恵まれ、北に富士山、東に箱根山、南に伊豆半島と駿河湾を臨み、東海道の要地として栄えてきた。現在も東名高速道路、国道1号線といった主要道路が走り、県東部の主要都市として重要な役割を担っている。

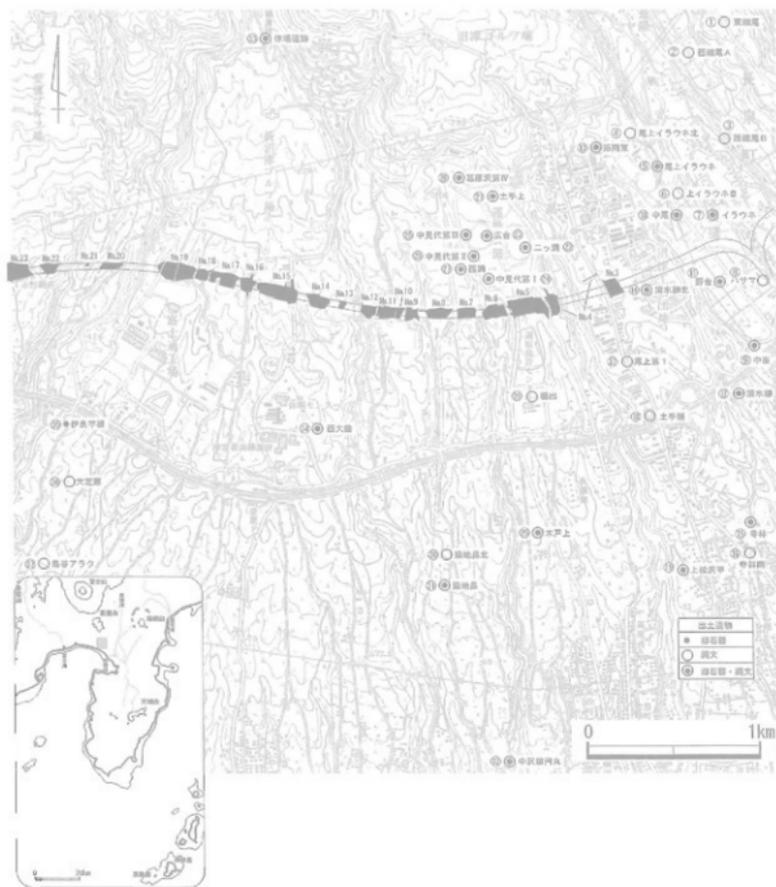
沼津市の地勢は、概略的に南部・中部・北部の三区に区分できる。南部は、伊豆半島の付け根を東に切り込む海岸線に沿う地域である。海岸線まで山並みが迫る沈降地形で、平地がほとんど存在しない。中部は、周辺火山から噴出した火山砂礫や黄瀬川や狩野川が運んだ土砂が堆積した沖積平野である。市街地周辺もこの区域にあたる。北部は、愛鷹山と富士川からの砂礫が堆積した弧状の砂浜、愛鷹山麓と砂浜の間を埋める旧浮島沼の低湿地の区域である。現在この地域は、第二東名高速道路や東駿河湾環状道路等の交通網の整備が進められ、大規模な開発工事が進められている。

市北部に位置する愛鷹山は約40万年前に活動を開始し、約10万年前に活動を停止した円錐形をした成層火山である。現在の愛鷹山麓は複数の峰に分岐しており、山裾は富士市、沼津市、長泉町、裾野市に及び、特に東南方向に大きく広がる。複数の峰より生ずる水系は、浸食作用によって多数の入り組んだ開析谷を形成し、黄瀬川などの主流となる水系に合流する。愛鷹山の活動は古期・中期・新期Ⅰ・新期Ⅱ・最新期の5期に区分され、玄武岩質や凝灰角礫岩質、安山岩質の噴出物によって形成される。これらの噴出物の上に古富士火山・新富士火山や箱根火山帯の噴出物を含んだ愛鷹ローム層と呼ばれる何層もの火山灰層が厚く堆積し、特に山麓部南東側では20mもの厚さで堆積し現在の愛鷹山麓を形成している。愛鷹ローム層は上・中・下の3層のローム層とその上の現生質火山灰層に分けられる。今までのところ、上部ローム層以上においてのみ人類の遺跡が確認されており、旧石器時代の遺構・遺物は上部ローム層から、縄文時代以降の遺構・遺物は現生腐植質火山灰層から出土している。

イタドリA/B/C遺跡は、東名高速道路の愛鷹パーキングエリアの北側約1km、高橋川と西川に挟まれた丘陵上に位置する。丘陵は開析により扇状に広がり、更にその南端部は数条の舌状に分岐する。

イタドリA遺跡の調査区は開析谷に挟まれたやせた舌状台地に立地する。調査区付近は、東西幅約90m、南北幅約50mの緩やかな斜面となっている。この緩斜面は標高175m付近を地形変換点とし、その周囲は、比高差約20mの谷底へと続く比較的急峻な傾斜を形成する。

イタドリB遺跡・イタドリC遺跡は、舌状台地の先端近くであるため、平坦面はほとんど存在しない。尾根の傾斜は比較的緩やかで、調査区付近で約15～20度である。イタドリB遺跡とイタドリC遺跡の間には比高差約8mの小規模な谷が存在する。



第1図 沼津市内第二東名関連遺跡及び主要遺跡

第1表 第二東名調査対象地点

番号	遺跡名	本遺跡調査時代	番号	遺跡名	本遺跡調査時代
No. 3 地点	岡上第1遺跡	未報告	No. 14 地点	イタドリB遺跡	縄文・旧石器
No. 4 地点	ニッ洞遺跡	未報告	No. 15 地点	イタドリC遺跡	縄文・旧石器
No. 5 地点	福出来遺跡	未報告	No. 16 地点	土橋第1遺跡	未報告
No. 6 地点	中見代第1遺跡	未報告	No. 17 地点	土橋第2遺跡	未報告
No. 7 地点	西洞遺跡	未報告	No. 18 地点	土橋第3遺跡	未報告
No. 8 地点	八兵衛洞B遺跡	未報告	No. 19 地点	元野遺跡	縄文(早期鉄器)
No. 9 地点	八兵衛洞A遺跡	未報告	No. 20 地点	弁戸川遺跡	未報告
No. 10 地点	八兵衛洞C遺跡	未報告	No. 21 地点	弁戸川西遺跡	未報告
No. 11 地点	八兵衛洞D遺跡	未報告	No. 22 地点	遺跡なし	
No. 12 地点	八兵衛洞E遺跡	縄文・旧石器	No. 23 地点	赤野遺跡	未報告
No. 13 地点	イタドリA遺跡	縄文・旧石器			



第2図 遺跡周辺地形図

第2表周辺遺跡及び本遺跡開運時期

番号	遺跡名	本遺跡開運時期	番号	遺跡名	本遺跡開運時期
1	室細坂遺跡	縄文(早期・前期)	20	堀野沢原野遺跡	縄文(草創期・早期・前期・中期) / 旧石器(YL)
2	新堀尾A遺跡	縄文(早期・前期)	21	土手土遺跡	縄文(早期・前期・中期) / 旧石器(YL・L)
3	藤野野8遺跡	縄文(早期・前期)	22	ニッ洞遺跡	縄文(草創期・早期・前期・中期) / 旧石器(YL・L)
4	嵐上行分土遺跡	縄文(早期・前期)	23	広谷遺跡	縄文(早期・前期・中期) / 旧石器(YL)
5	嵐上(分)B遺跡	縄文(草創期・早期・前期・中期) / 旧石器(YL)	24	中見代第1遺跡	縄文(草創期・早期・前期・中期) / 旧石器(YL)
6	上(分)B遺跡	縄文(早期)	25	中見代第2遺跡	縄文(早期) / 旧石器(YL)
7	(分)A遺跡	縄文(早期) / 旧石器(YL)	26	中見代第3遺跡	縄文(早期・前期・中期) / 旧石器(YL)
8	ハヤシ遺跡	縄文(早期)	27	藤井遺跡	縄文(草創期・早期・前期・中期) / 旧石器(YL)
9	中寄遺跡	縄文(早期・前期・中期) / 旧石器(YL)	28	堀出遺跡	縄文(早期・前期・中期)
10	中尾遺跡	縄文(早期・前期・中期) / 旧石器(YL)	29	水戸上遺跡	縄文(早期・前期) / 旧石器
11	野倉遺跡	縄文(早期・前期・中期) / 旧石器(YL・L)	30	築地基土遺跡	縄文(早期)
12	清水塚遺跡	縄文(早期・中期) / 旧石器(YL)	31	跡池島遺跡	縄文(早期・前期)
13	新南堂遺跡	縄文(草創期・早期・前期・中期) / 旧石器(YL)	32	中沢田内丸遺跡	縄文(早期) / 旧石器(YL)
14	清水塚北遺跡	縄文(草創期・早期・前期・中期) / 旧石器(YL・L)	33	住居遺跡	縄文 / 旧石器
15	香林遺跡	縄文(早期・中期) / 旧石器(YL)	34	西大曲遺跡	縄文(早期・中期) / 旧石器
16	幸野南遺跡	縄文(早期・中期)	35	伊島平塚遺跡	旧石器
17	嵐上第1遺跡	縄文(早期・前期)	36	大空塚遺跡	縄文(中期)
18	土手無遺跡	縄文(後期)	37	鳥塚アラク遺跡	縄文(早期・後期)
19	上松沢平遺跡	縄文(早期・前期・中期) / 旧石器(YL)			

## 第2節 歴史的環境

愛鷹山麓に人類が残した最古の痕跡としてはおよそ3万年前のものが確認されている。当時は、ヴュルム氷期にあたり、気温も低く現在と違った自然環境で、海岸線もおおよそ100～150m低かったとされる。尾上イラウネ遺跡では富士黒土層以下の花粉分析が行われており、層位ごとに植生の復元も試みられている。また、スコリアと黒色土の互層が結果として調査、編年作業において好条件となっている。出土層位を元いくつかの編年が提示されており、「箱根・愛鷹の旧石器時代編年」（静岡県考古学会1995-1996）においては後期旧石器時代を5期に大別する編年が提示されている。

当地域で最も古い第Ⅰ期の遺跡は中見代第Ⅰ遺跡第Ⅵ黒色帯・第Ⅴ黒色帯や清水柳北遺跡中央尾根第Ⅴ黒色帯出土の石器群が挙げられる。

第Ⅱ期の遺跡は中見代第Ⅱ遺跡第Ⅲスコリア帯b1、柏葉尾遺跡第Ⅲ黒色帯、西洞遺跡b1区第Ⅱ黒色帯出土の石器群が挙げられる。また、この時期の遺構として箱根西麓の初音ヶ原遺跡群で多数の土坑が検出されている。

第Ⅲ期の石器群の主な出土層位は第Ⅰ黒色帯～休場層直下黒色帯である。遺跡は子ノ神第Ⅱ・第Ⅲ文化層、上ノ池第Ⅱ・第Ⅲ文化層、清水柳北東尾根第Ⅱ黒色帯・ニセローム層出土の石器群が挙げられる。

第Ⅳ期の石器群の主な出土層位は休場層である。この時期には、ナイフ形石器に加え、尖頭器が利用されるようになる。またⅣ期前半には石刃を素材とした石器群が顕著に見られるようになる。遺跡は二ッ洞遺跡a区、野台遺跡第Ⅱ文化層、拓南東遺跡、鉄平遺跡休場層上位出土の石器群が挙げられる。

第Ⅴ期の石器群の主な出土層位は休場層上層である。遺跡は中見代第Ⅲ遺跡休場層、休場遺跡上層出土の石器群が挙げられる。休場遺跡では、昭和39年に行われた発掘調査において多くの細石器と、石囲い炉が発掘され、現在では国指定史跡となっている。

約1万数千年前から様々な変化が生じてくる。ヴュルム氷期が終わったことにより自然環境も変化する。何をもって縄文文化とするかは別として、有舌尖頭器や土器、石鏝の出現が生活の変化を物語る。

草創期は、石器の資料は数多く出土しているものの、土器の資料は今のところそれほど豊富ではない。市内では葛原沢第Ⅳ遺跡、清水柳北遺跡、中見代第Ⅰ遺跡、大谷津遺跡等で確認されている。

早期の資料は草創期に比べ増加する。集落跡としては清水柳北遺跡、尾上イラウネ遺跡や清水柳遺跡等が知られている。清水柳北遺跡では比較的規模の大きな集落跡が発見されている。また尾上イラウネ遺跡では押型文、条痕文をともなう時期の住居跡が検出されている。元野遺跡では早期の土器片と共に貯蔵していたと考えられる炭化クリ等が多量に発見されている。平沼吹上遺跡では7基の住居跡が確認されている。また、石鏝が多数出土している点特徴的である。

続く前期の遺跡には清水柳北遺跡、平沼吹上遺跡などがあり、木島式土器、諸磯式土器が出土している。また、長泉町中見代遺跡、東野Ⅱ遺跡などからは、清水ノ上Ⅱ式～上の坊式併行の土器が出土している。

愛鷹山麓の遺跡数は、中期までは遺跡数が増加するものの、後・晩期には再び減少していく。これには、今からおよそ2,800年前のカワゴ平・仙石火山砂礫噴出の影響があると考えられる。後期の遺跡はわずかな遺物が散発的に出土しているのみで、資料は極めて少ない。

## 第Ⅱ章 イタドリA遺跡 第二東名No.13地点

### 第1節 調査の方法と経過

#### 1. 調査の方法

イタドリA遺跡(第二東名No.13地点)の調査対象面積は計約4,329㎡(実掘削面積1,925㎡)に及ぶ。(第3図)

遺跡全体の把握と作業の効率化を図るため、国家標準座標第Ⅷ系(X=94360.0, Y=31450.0)=(A、i)上を原点とし、遺跡全体に10×10mのグリッドを設定した。グリッドのX軸方向(南北方向)をアルファベット、Y軸方向(東西方向)をアラビア数字と設定した。(註1)

確認調査ではテストピットとトレンチを併用して掘削を行い、本調査においては面的な掘削を行った。掘削は基本的に人力で行ったものの、表土や遺構・遺物が存在しない層位においては重機を用いた。また人力と重機を併用して掘削を行った場合もある。

遺物の取り上げは光波測定器および水準器を用いて実施し、株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」に入力して管理した。(註2)

遺物には層位別に石器=P、石器=S、礫=R、炭化物=C等の略号と4桁の通し番号を付け、X・Y座標値と標高値(Z)を記録し取り上げた。地形測量は遺構検出面での測量を基本とし、2mメッシュで測量した。個別遺構図は平面図・立面図等を縮尺1/20を基本として手実測により図化し、微細図は縮尺1/10で作成し保管している。

写真撮影は必要に応じて随時行った。写真撮影には35mmの小型カメラ、およびブローニー6×7判の中型カメラ、三脚を使用した。フィルムは35mm(カラー、白黒、リバーサル)の3種類及びブローニー判(白黒)フィルムを使用した。また、全景写真を撮影するために適宜ローリングタワーを使用して高所から撮影した。

註1 平成14年4月1日に測量法が改正され、日本測地系から世界測地系に変更することとなった。今回の調査はそれ以前に行われた調査であり、この座標は日本測地系による数値である。

註2 整理段階で、本調査Ⅰ期に光波測定器設置時の後視点入力を誤った日があり、遺物出土位置座標(X、Y値)に大幅なズレが生じていることが判明した。検討の結果、標高値(Z値)は正確な値であると判断し、遺物取り上げ日時毎に異常データを一括し、正常な遺物の標高データおよび地形図と照らし合わせ、遺物の大凡の出土地点を割り出し遺物出土地点の修正を行った。

また、本調査Ⅱ期においてデータの記録不備のため出土地点が不明な遺物があり、石器観察表の座標値を空欄とした。なお、縄文時代2号集石、3号集石は光波測定器による遺物の座標値(X・Y・Z)は存在しないものの実測図はあり、遺構図は掲載可能であった。上記の理由から栗色土層・富士黒土層・漸移層の遺物については、出土分布の座標は部分的に不確実な面を孕んでおり、詳細な位置的・層位的検討は難しいと判断した。

#### 2. 調査の経過

確認調査は平成10年4月から5月にかけて行われた。まず、尾根に沿ってテストピットを3箇所、これと交差するトレンチを4箇所設定した。その後、重機による表土除去の後、人力・重機の併用により掘削・精査を行い、縄文土器と石器(縄文・旧石器)を確認し、遺構・遺物の包含状況を把握した。遺

跡が痩せ尾根上に立地するため、土層の確認は非常に困難であった。特に表土～富士黒土層にその傾向が顕著であり、遺構の確認も難しかった。

本調査Ⅰ期は、確認調査の成果をもとに平成10年6月より平成10年8月にかけて行われた。遺跡の主要範囲である丘陵状の平坦面を中心に調査区を設定、重機による表土除去の後、6月中旬より人力による掘削・精査を行った。8月、休場層からニセローム層を精査し調査を終了した。調査の結果、土坑（縄文時代）・石器集中（旧石器時代）を検出、縄文土器・石器（縄文・旧石器）が出土した。

本調査Ⅱ期は平成10年9月より11月にかけて行われた。Ⅰ期調査において栗色土層から休場層にかけて多くの遺物が検出されていることから、栗色土層から休場層にかけて全面調査を行った。10月下旬、休場層下部の黒色帯から第Ⅰ黒色帯の間については、Ⅰ期調査において遺物が確認されていないため2m方眼のテストピットを任意に8箇所設定し人力による掘削を行ったが、遺物は継2点が出土したのみであった。ニセローム層に関してはⅠ期調査で検出した石器ブロックの広がりが見込まれたため全面掘削を行った。第Ⅱ黒色帯から中部ロームにかけてはテストピットを任意に3箇所設定し人力による掘削を行い調査を終了した。



第3図 イタドリA遺跡周辺地形及びグリッド配置

### 3. 資料整理

石器、土器、礫は洗浄の後、順次遺物番号の注記作業を行った。ホルンフェルス製の製品については薬品処理（PARALOID B-72）によって劣化遅延措置を施した。

本格的な資料整理に先立ち、平成11年に3件の委託業務を行った。

旧石器時代の礫の基礎整理業務をバリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その成果を報告書に反映した。また石器の母岩・剥離技術の同定作業を株式会社アルカに委託し、報告書執筆の参考とした。黒曜石製石器については、873点を抽出し、独立行政法人沼津工業高等専門学校 名誉教授 望月明彦氏に依頼し、産地推定分析を行った。抽出の基準は、縄文時代の石器については調整・加工のあるものを中心に、旧石器時代に関しては黒曜石全点を分析の対象とした。

資料整理・報告書作成は平成20年6月から平成21年11月にかけて行った。

出土遺物の内訳は、旧石器時代の石器548点、礫169点、縄文時代の石器599点、礫1,339点、縄文時代の土器1,459点、弥生時代以降の遺物は、須恵器4点であった。それらをまとめると出土遺物総点数は4,118点であった。

まず、石器・礫の石材分類や層位ごとの分類を行い、あわせて接合作業も行った。石器は調整・加工の施されているものを中心に実測図を作成した。

石器実測については、礫石器類（磨石・敲石・石皿・台石等）と一部の剥片石器類を除き、接合石器を中心に石器実測図作成業務を株式会社シン技術コンサルに委託した。

土器は型式分類を行った後、文様構成が明確なものを中心に拓本及び断面実測を行った。また、残存状態が良好な1個体に関しては復元を試みた。

また、平成20年、土器に付着した炭化物の年代測定を行った。測定業務は株式会社加速器分析研究所に委託し、<sup>14</sup>C年代測定（AMS法）を用いた。

石器を整理するにあたり、文化層の識別を行った。文化層を設定するにあたり、まず層位および黒曜石の産地による文化層分離を試みたが、愛鷹山麓において主に旧石器時代の遺物包含層であると考えられる休場層と、縄文時代の遺物包含層であると考えられる漸移層・富士黒土層の石器については、場所により層位および黒曜石の産地・石材による文化層の分離が困難であった。

そのため、漸移層以上の層位から出土した製品・接合資料を縄文時代の遺物、休場層から出土した製品・接合資料を旧石器時代の遺物と予想し、仮分類を行った。次に石器の形態や風化の程度を観察し、休場層出土の製品・接合資料から縄文時代の遺物であると考えられるもの、漸移層以上の層位から出土した製品・接合資料から旧石器時代の遺物であると考えられるもの抽出し、それぞれを再分類した。剥片・砕片類については、上記の作業で既に分類されている製品との接合を手がかりに、石材分類・個別別分類をもとに分類を行った。同一個体分類内に製品・接合資料が存在しない場合、それぞれの個体を肉眼観察するとともに、遺物の平面分布状況、高さおよび周辺遺物との関係を参考に分類を試みた。更に、非常に微細な砕片等、最終的に帰属文化層の判断ができなかった遺物については、層位によって分類した。最後に、旧石器時代の石器群について石器形態および石材分類・個別別分類をもとに文化層の識別を行った。

整理の結果、旧石器時代石器群を2つの文化層に識別し縄文時代遺構・遺物群に関しては主として早期から前期のものを確認した。

報告書作成に伴い、全体図や遺構図等の図版作成、出土状況の記録と台帳に基づく一覧表の作成、拓本、実測図の図版作成、遺物写真撮影と写真図版の作成を行い、整理成果を踏まえて本文を執筆した。調査現場で用いた光波測定器の記録データはCADで図画化されるが、図画されたデータをベクトルグラフィックソフトに取り込み、ソフト上で図版の編集を行った。

## 第2節 土層の堆積状況

愛鷹山南麓には愛鷹ロームが堆積しており、愛鷹ローム団体研究グループによる火山灰層序学的区分に準拠して考古学的基本層序が定義されている。この基本土層はスコリア礫・軽石礫・ガラス質火山灰層を根拠に定義されたものであり、イタドリA遺跡の基本層序は、愛鷹山麓の考古学的基本層序(以下、愛鷹基本層序)とはほぼ一致する。第14層のニセローム層には広域火山灰である始良・丹沢パミスが認められ、他の層位においても富士起源の地域火山灰の肉眼観察が可能である。堆積状況により分層出来なかった箇所もあるが、基本的に33層に分層した。各層位は以下の通りである(図4)。

第1層は表土である。黒色を呈する。

第2層は発泡の進んでない橙色スコリア(砂沢スコリア)を多量に含むしまりが強い層である。本書では(SNZ)と略す。

第3層は白色のパミス(カワゴ平パミス)を多量に含む層である。本書では(KGP)と略す。

第4層は白色のパミスとφ2mm以下の赤褐色スコリアを微量に含む層である。

第5層は栗色土層(KC)である。

第6層は富士黒土層(FB)である。下位になるに従い黄色味の強い褐色になり本遺跡内においては漸移層(第7層)と分層出来なかった箇所がある。

第7層は漸移層である。本遺跡内においては富士黒土層(第6層)と分層出来なかった箇所がある。本書では(ZN)と略す。

第8層は休場層上位(YLU)である。黄褐色を呈し、スコリア等の含有物が少なく粘性が非常に強い。

第9層は休場層中位(YLM)である。本遺跡内においては休場層下位(第10層)と分層出来なかった箇所がある。褐色を呈し、発泡の進んだスコリアを含む。粘性が非常に強く、第7層より硬質である。

第10層は休場層下位(YLL)である。本遺跡内においては休場層中位(第9層)と分層出来なかった箇所がある。

第11層は休場層直下黒色帯(BB0)である。φ3mm以下の多様なスコリアが少量入る。

第12層は第Iスコリア層(SCI)である。φ3mm以下の多様なスコリアが多量に入る。スコリアが多い所では、層の色が赤色に見える。

第13層は第I黒色帯(BBI)である。φ4mm以下のスコリアを微量に含む。

第14層はニセローム層(NL)である。φ2mm~4mmの多様なスコリアを多量に含む。層の中位から下位にかけてATがバッチ状に入る。クラックが入ると硫黄色の根毛の様な白いスジが入る。

第15層は第II黒色帯(BBII)である。φ1mm~5mmの発泡の進んだスコリアを少量含む。

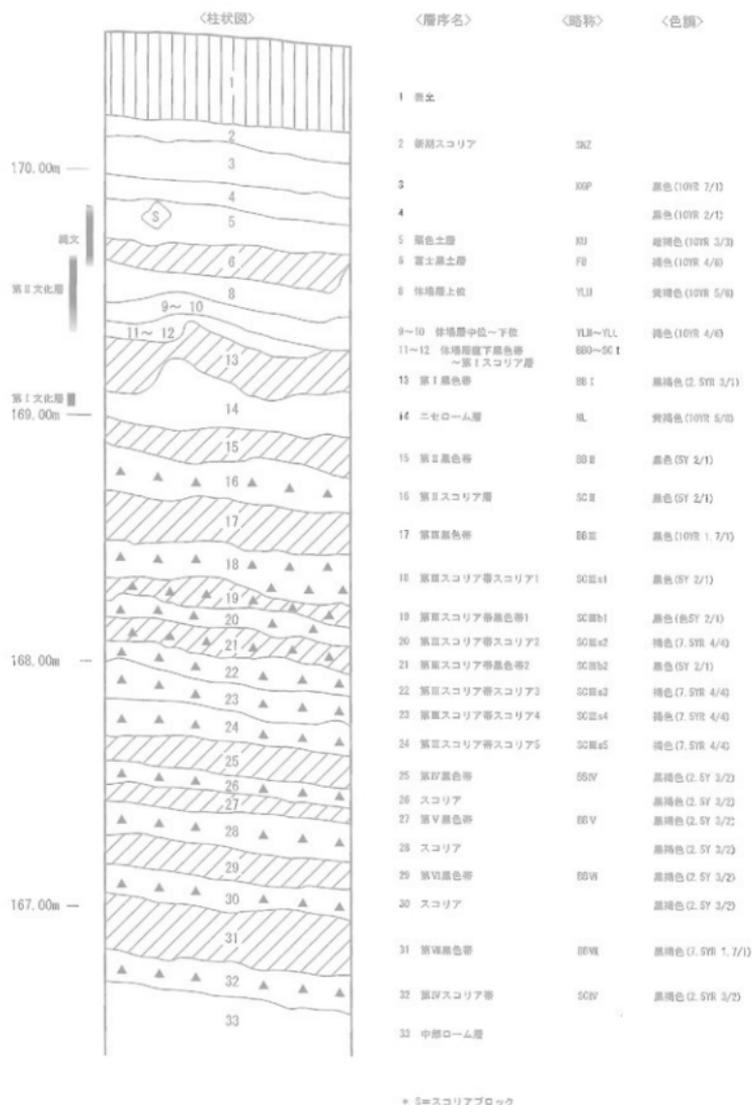
第16層は第IIスコリア層(SCII)である。φ1cm以下の発泡の進んだスコリアを多量に含む。(第17層よりもスコリア粒が全体的に大きい)

第17層は第III黒色帯(BBIII)である。φ1cm以下の発泡の進んだスコリアを微量に含む。

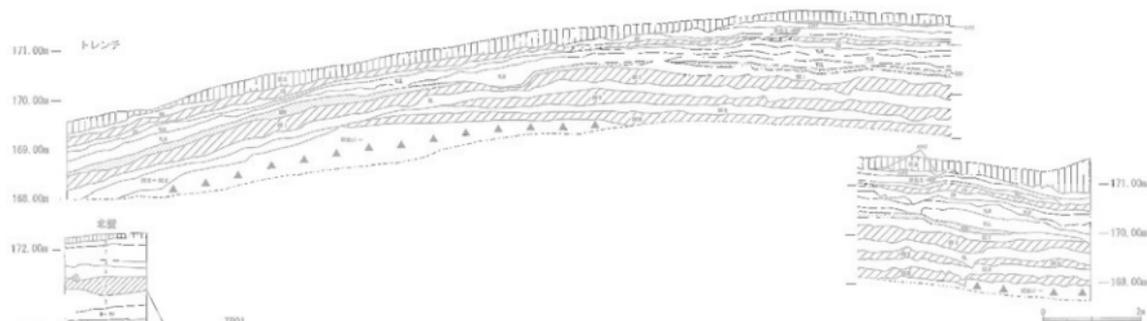
第18層は第IIIスコリア帯スコリア1(SCIIIsl)である。φ8mm以下の発泡の進んだスコリアを多量に含む。第19層よりもスコリア量が多く、多い部位は褐色に見える。

第19層は第IIIスコリア帯黒色帯1(SCIIIbl)である。φ5mm以下の発泡の進んだスコリアを多量に含む。スコリア量は第18層よりは少ない。

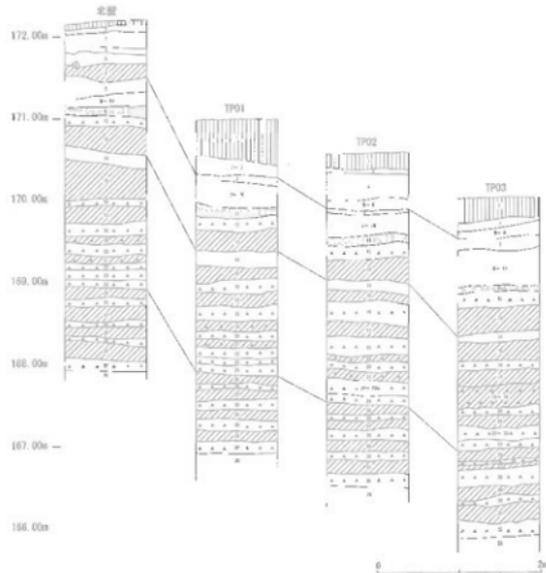
- 第20層は第Ⅲスコリア帯スコリア2 (SCⅢs2) である。φ3mm以下の多様なスコリアを多量に含む。なかでも橙色スコリアを多く含む。乾くと白くなるスコリアがパッチ状に見られる。スコリアの量は第22層程ではない。
- 第21層は第Ⅲスコリア帯黒色帯2 (SCⅢb2) である。φ2mm～8mmの多様なスコリアを多量に含む。スコリアは比較的大きなものが多い。細かいものは赤褐色スコリアが主である。
- 第22層は第Ⅲスコリア帯スコリア3 (SCⅢs3) である。φ1mm～10mmの大小様々なスコリアを多量に含む。硬質で青緑色石片を多く含む。
- 第23層は第Ⅲスコリア帯スコリア4 (SCⅢs4) である。φ2mm～8mmの多様なスコリアを多量に含む。乾くと白くなる非常に硬いスコリア (硫黄色) を多量に含む。
- 第24層は第Ⅲスコリア帯スコリア5 (SCⅢs5) である。φ2mm以下の細かいスコリアを多量に含む。乾くと白くなる非常に硬いスコリアを少量含む。
- 第25層は第Ⅳ黒色帯 (BBⅣ) である。φ1mm～4mmの多様なスコリアを多量に含む。第26層に比べ細かいスコリアが多い。
- 第26層はスコリア質土層である。φ2mm～4mmの多様なスコリアを多量に含む。乾くと白くなるスコリア (SCⅢs4に類似) を少量含む。硬質な層である。
- 第27層は第Ⅴ黒色帯 (BBⅤ) である。φ2mm～4mmの多様なスコリアを多量に含む。第24層に比べ大きなスコリアが多い。中位にスコリアの密集した層が部分的に認められる。
- 第28層はスコリア質土層である。φ5mm～10mmの多様なスコリアを多量に含む。第29層より含まれるスコリア粒が大きく量も多い。赤褐色スコリアが比較的多い。
- 第29層は第Ⅵ黒色帯 (BBⅥ) である。φ3mm～8mmの多様なスコリアを少量含む。比較的赤褐色スコリアが多く、上位は7mm～8mmの大きなスコリア粒が多い。
- 第30層はスコリア質土層である。φ2mm～5mmの多様なスコリアを多量に含む。
- 第31層は第Ⅶ黒色帯 (BBⅦ) である。φ1mm～4mmの多様なスコリアを少量含む。赤みのある黒色で、他の黒色帯よりも粘性が強い。
- 第32層は第Ⅳスコリア帯 (SCⅣ) である。φ2mm以下の多様なスコリアを多量に含む。
- 第33層は中部ローム層である。



第4図 基本土層



第5図 土層堆積状況



- 1 表土
- 2 腐葉土層
- 3 腐葉土層 (50%腐葉土/40%赤土)
- 4 腐葉土層
- 5-6 腐葉土層 (50%腐葉土/50%赤土)
- 7 腐葉土層
- 8-9 腐葉土層 (50%赤土/50%腐葉土)
- 10 赤土層
- 11 赤土層
- 12 赤土層
- 13 赤土層
- 14 赤土層
- 15 赤土層
- 16 赤土層
- 17 赤土層
- 18 赤土層
- 19 赤土層
- 20 赤土層
- 21 赤土層
- 22 赤土層
- 23 赤土層
- 24 赤土層
- 25 赤土層
- 26 赤土層
- 27 赤土層
- 28 赤土層
- 29 赤土層
- 30 赤土層
- 31 赤土層
- 32 赤土層
- 33 赤土層
- 34 赤土層
- 35 赤土層
- 36 赤土層
- 37 赤土層
- 38 赤土層
- 39 赤土層
- 40 赤土層
- 41 赤土層
- 42 赤土層
- 43 赤土層
- 44 赤土層
- 45 赤土層
- 46 赤土層
- 47 赤土層
- 48 赤土層
- 49 赤土層
- 50 赤土層
- 51 赤土層
- 52 赤土層
- 53 赤土層
- 54 赤土層
- 55 赤土層
- 56 赤土層
- 57 赤土層
- 58 赤土層
- 59 赤土層
- 60 赤土層
- 61 赤土層
- 62 赤土層
- 63 赤土層
- 64 赤土層
- 65 赤土層
- 66 赤土層
- 67 赤土層
- 68 赤土層
- 69 赤土層
- 70 赤土層
- 71 赤土層
- 72 赤土層
- 73 赤土層
- 74 赤土層
- 75 赤土層
- 76 赤土層
- 77 赤土層
- 78 赤土層
- 79 赤土層
- 80 赤土層
- 81 赤土層
- 82 赤土層
- 83 赤土層
- 84 赤土層
- 85 赤土層
- 86 赤土層
- 87 赤土層
- 88 赤土層
- 89 赤土層
- 90 赤土層
- 91 赤土層
- 92 赤土層
- 93 赤土層
- 94 赤土層
- 95 赤土層
- 96 赤土層
- 97 赤土層
- 98 赤土層
- 99 赤土層
- 100 赤土層



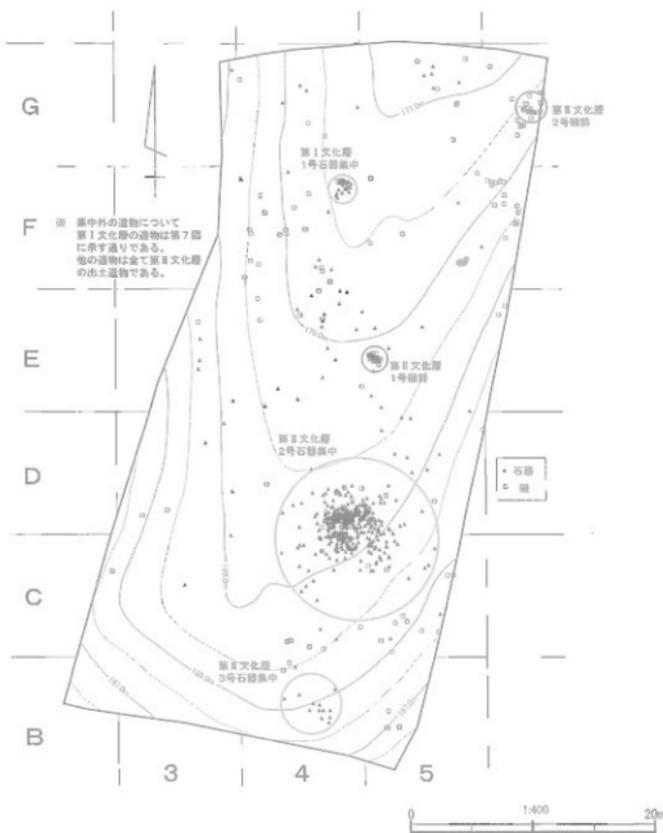
テスットピット及びトレンチ位置図

### 第3節 旧石器時代の遺構と遺物

旧石器時代の遺構・遺物はニセローム層、休場層にて確認した。石器548点、礫169点、総計717点が出土した。遺構は休場層にて礫群2基を検出した。また、ニセローム層・休場層で石器集中3箇所を確認した。旧石器時代石器群の時期区分は、第1節3. 資料整理に述べた通り、形態および石材、平面／垂直分布密度等の観点から行った。その結果、以下のような文化層が設定された。

第I文化層 ニセローム層 (NL) に包含される礫と石器で構成される。

第II文化層 休場層上位(YLU)を中心にその上下の層にも僅かに包含される礫と石器で構成される。



第6図 旧石器時代遺構配置

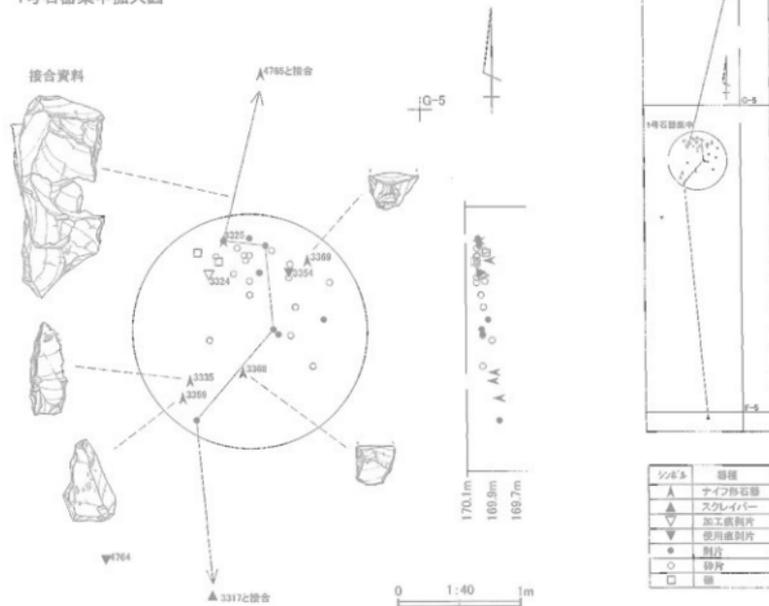
## 1. 第I文化層

本文化層はニセローム層(NL)にて確認された1箇所の石器集中およびその他の石器で構成される。遺構は検出されなかった。出土遺物の内訳は、石器41点と礫2点である。石器集中は、F-4グリッドを中心に石器38点と礫2点で構成される。石器の内訳はナイフ形石器7点、スクレイパー1点、加工痕剥片1点、使用痕剥片1点、剥片8点、砕片23点および礫2点である。石器構成石材は全て天城柏峠群の黒曜石で、石器個体分類では7つの個体に分類された。近傍産石材の消費によって形成された石器群である。

第3表 第I文化層石器組成

	黒曜石	
	天城柏峠群	合計
ナイフ形石器	7	7
スクレイパー	1	1
加工痕剥片	1	1
使用痕剥片	1	1
剥片	8	8
砕片	23	23
合計	41	41

1号石器集中拡大図



第7図 第I文化層石器集中分布

## (1) 遺物

### 1号石器集中(第7図)

F-4グリッドを中心に認められた。検出層準はニセローム層である。実測図および投影できる土層断面図がないため、ニセローム層内における位置は不明である。遺構内外の遺物と接合関係が認められるため、ここで石器製作を行ったと考えられるが、剥片・砕片の点数から、大半の製品は持ち込まれたものであると考えられる。

### ナイフ形石器(第8図1~5・7a)

ナイフ形石器は7点出土した。石材は、全点天城柏峠群の黒曜石を用いる。いずれの製品も縦長の不定型な剥片を素材とし、二次加工により大幅に形状を整えている。

1(3335)は肉厚な縦長剥片を素材とする二側縁加工のナイフ形石器である。リングの方向から、主要剥離面打点側を先端とし、急斜度の二次加工により打点部を除去したと考えられる。左側縁は、基部から先端にかけて表裏から二次加工を施し、急斜度の背部を形成する。右側縁は張り出し部分まで表面から二次加工を施す。基部は平らに加工する。

2(3359)は基部に主要剥離面の打面を残す。左側縁は基部から先端にかけて二次加工を施し、急斜度の背部を形成する。

3(4764)は基部の一部と刃部側の大部分を折損しているため全体形状は不明である。リングの方向から、主要剥離面打点側を基部としたと考えられる。左側縁は表裏から二次加工を施し急斜度の背部を形成する。右側縁は張り出し部分まで表面から二次加工を施す。

4(3368)・5(3369)はいずれも刃部を折損した二側縁加工のナイフ形石器だと思われる。4(3368)は主要剥離面打点側を先端、5(3369)は主要剥離面打点側を基部側に置き、基部側に二次加工を施す。

7a(3325+4765)は後述の接合資料(接-16)の一部である。左側縁は先端にかけて表裏両面から二次加工を施し急斜度の背部を形成する。二次加工の際の剥片が2点接合する。基部形状は一部折損のため判然としない。右側縁は基部から張り出し部分まで剥片剥離以前の旧斜度な剥離面を二次加工の代わりとする。

### スクレイパー(第8図7b)

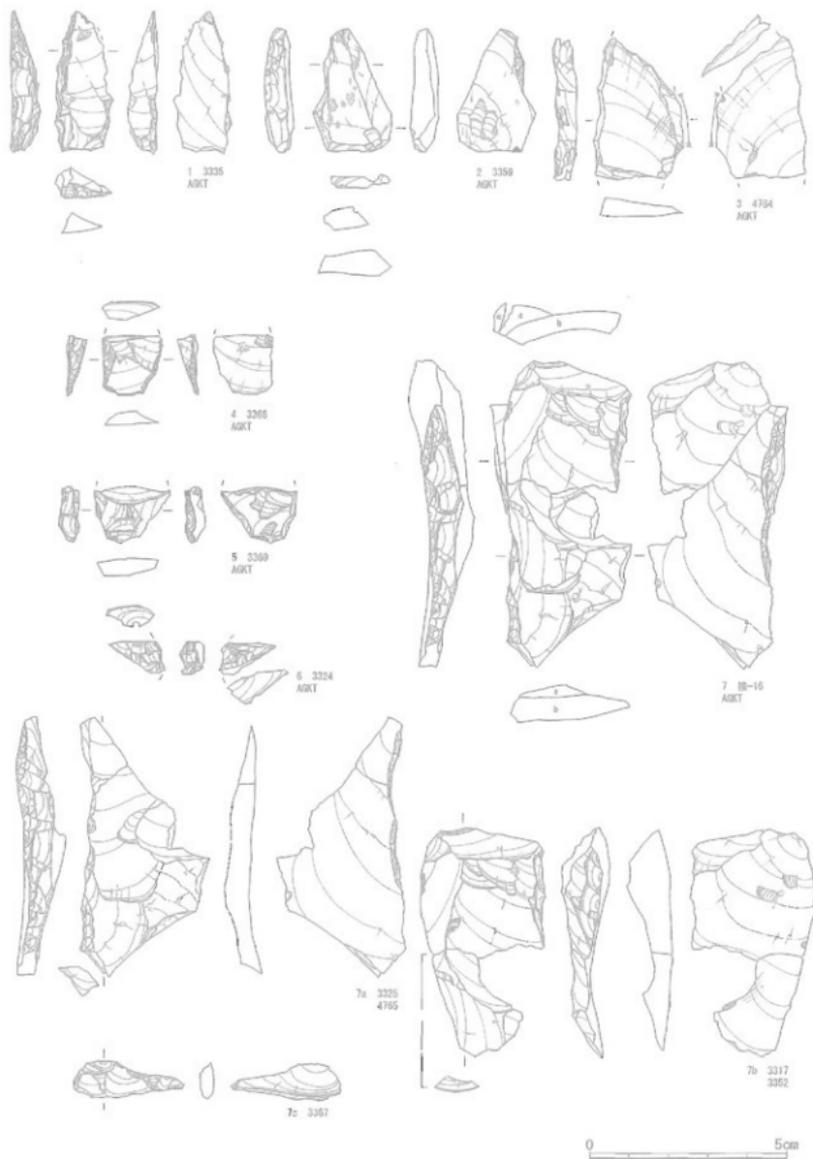
7b(3317+3352)は後述の接合資料(接-16)の一部である。左側縁に表面から二次加工を施す。

### 加工痕剥片(第8図6)

6(3324)は左側縁に表裏からの二次加工が認められる。基端、末端共に折損する。

### 接合資料(第8図7)

1資料(接-16)が出土した。包含層出土の4765・3317を含む6点の接合資料である。7aナイフ形石器と7bスクレイパーを含む。ナイフ形石器には背部加工の際の二次加工剥片が2点、スクレイパーには1点の剥片が接合する。石核からの剥離に規則性は見られず、多方向から剥片剥離が行われている。また、出土した剥片の量と接合石器の状態から考え、石核と剥片の一部は持ち去ったと考えられる。



第8図 第I文化層出土石器

## 2. 第Ⅱ文化層

本文化層は休場層上位（YLC）を中心にその上下の層にも僅かに包含された2箇所の石器集中とその他の石器・礫で構成される。出土遺物の内訳は、石器507点と礫166点の計673点である。遺構は礫群2基を検出した。石器の内訳は、ナイフ形石器19点、スクレイパー5点、加工痕剥片4点、使用痕剥片12点、楔形石器1点、石核9点、剥片256点、砕片185点、礫器1点、敲石8点、台石・石皿類7点である。石器集中2箇所を確認した。構成石材は箱根燧石群の黒曜石が最も多く71.6%を占める。（表4）

第4表 第Ⅱ文化層石器組成

	黒曜石							メノウ	輝石安山岩	チャート	緑泥砂岩	ガラス質黒雲母山岩	ホルンフェルス	中粒砂岩	ひん岩	流紋岩	合計
	天城粘結岩	箱根燧石群	箱根燧石群	箱根燧石群	箱根燧石群	箱根燧石群	分析不可										
	AGK1	HNKJ	SHK	ISTY	BDTH	—	—	Ag	An (Py)	Qtz	FSS	Gln	Hbr	BSS	Po	Rhy	
ナイフ形石器		14	2	2	2	1											19
スクレイパー		2					1	1									5
剥片石器							1										1
加工痕剥片		3					1										4
使用痕剥片		4	2														12
剥片	1	208	29	8		4	1						13		1		256
砕片		128	21	3			32			1							185
石核		4										1	3			1	9
敲石									4		1			3			8
礫器																1	1
台石・石皿類										7							7
合計	1	363	46	19		1	35	2	11	1	1	1	16	3	1	2	507
石材比率	0.2%	71.6%	9.1%	3.7%		0.2%	7.7%	0.4%	2.2%	0.2%	0.2%	0.2%	3.2%	0.6%	0.2%	0.4%	100.0%

第5表 第Ⅱ文化層 ナイフ形石器分類

	黒曜石				合計
	天城粘結岩	箱根燧石群	箱根燧石群	箱根燧石群	
	HNKJ	SHK	ISTY	BDTH	
一級加工	2	1	1		4
二級加工	9	1		1	11
基礎加工					
剥片石器	3		1		4
その他・不明					
合計	14	2	2	1	19

第6表 第Ⅱ文化層黒曜石  
分析不可資料内訳分類

	黒曜石			合計
	箱根燧石群	箱根燧石群	小水町	
	SHK	ISTY	BDTH	
スクレイパー	1			1
剥片石器		1		1
加工痕剥片		1		1
剥片	1	3		4
砕片	3	29		32
合計	2	8	29	39

### (1) 遺 構

#### 礫群（第9図）

第Ⅱ文化層からは礫166点が出土した。特に礫が集中して検出された地点を便宜的に礫群とした。礫群は2基検出された。石器集中部との関係は不明である。

##### 1号礫群

E-5グリッド内で休場層上位から検出した。北西～南東12m、南西～北東0.8mの範囲に32点の礫が傾斜に添うように集中して出土する。石材は輝石安山岩14点、玄武岩15点、スコリア質玄武岩1点、石材不明2点である。29点は赤化が確認され、内4点はスズ状の黒色付着物が、1点はタール状の黒色付着物が確認された。総重量は5,371g（平均重量167.8g）である。

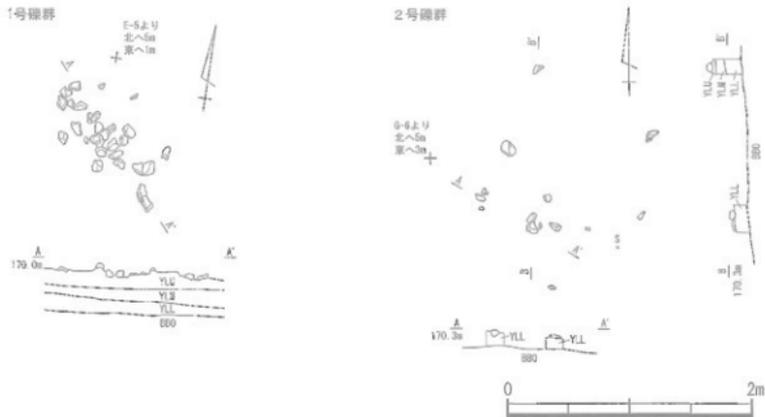
##### 2号礫群

G-6グリッド内で休場層中～上位から検出した。南北1.8m、東西1.6mの範囲に15点の礫が傾斜に添うように集中して出土する。石材は輝石安山岩6点、玄武岩4点、デイサイト4点、多孔質安山岩1

点である。14点は赤化が確認され、内1点はスス状の黒色付着物が確認された。総重量は2,993g（平均重量199.5g）である。礫群内からガラス質黒色安山岩製の石核が1点出土した。

石核（第10図8）

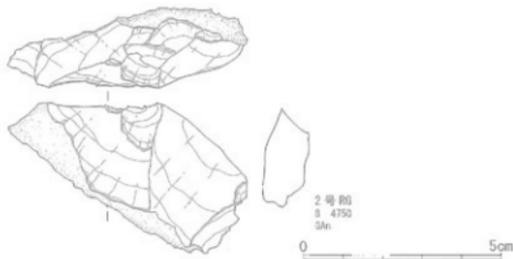
8（4750）はガラス質黒色安山岩製の石核である。表面全体と表面の一部が礫面であることから、比較的小さな原石を用いていると考えられる。同一方向から少なくとも2回剥片を剥離している。



第9図 第II文化層礫群

第7表 第II文化層礫群石材集計

	1号礫群	2号礫群	
玄武岩	Ba	15	4
スコリア質玄武岩	Ba (Ser)	1	
輝石安山岩	An (Py)	14	3
多角質安山岩	Van		1
チャサイト	Ch		4
不明		3	
計	33	15	
総重量 (g)	5,371	2,693	
平均重量 (g)	162.8	199.5	



第10図 礫群内出土石器

## (2) 遺物

### 2号石器集中 (第11・12図)

C・D-4・5グリッドの交点付近を中心に確認された。長軸13.2m短軸9.4mの範囲に黒曜石427点、メノウ1点、チャート1点、流紋岩1点が密集して分布する。黒曜石製の剥片が大部分を占め、微細な剥片が多数出土していること、接合資料12個体26点が出土していることから黒曜石製の石器を製作していたと考えられる。出土層位は休場層上位が中心である。石器集中部内から礫が出土しているが、出土層位は剥片石器類の中心よりも若干低い休場層中位から出土した。出土範囲は標高168.8mを中心に約0.5mのレベル差が生じている。北西から南東にかけて傾斜しており、それに沿って遺物が検出された。石器群はナイフ形石器12点、スクレイパー4点、楔形石器1点、加工痕剥片3点、使用痕剥片7点、石核5点、剥片類395点の合計427点である。黒曜石産地同定の結果、箱根畑宿群が346点と81%を占め、残り2割を諏訪星ヶ台群、蓼科冷山群および分析不可の石材で占める。詳細を第8・9表に示す。出土した黒曜石の総重量は490g (平均重量1.16g)であった。

第8表 第II文化層2号石器集中石器組成

	黒曜石							メノウ	チャート	流紋岩	合計	
	箱根畑宿群	群	諏訪星ヶ台	蓼科冷山群	分析不可	分析不可						
						Ag	Ch					Dhy
ナイフ形石器	10		2								12	
スクレイパー	2	1					1				4	
楔形石器					1						1	
加工痕剥片	3										3	
使用痕剥片	4			3							7	
剥片	157	12	7	3							219	
砕片	126	16	3	29			1				176	
石核	4								1		5	
合計	346	31	15	32	1		1		1		427	
石材比率	81.0%	7.3%	3.5%	7.5%	0.2%		0.2%		0.2%		100%	

第9表 第II文化層2号石器集中黒曜石分析不可資料肉隠分類

	黒曜石分析不可			合計
	箱根畑宿群	蓼科冷山群	小水町	
ナイフ形石器	1			1
剥片	1	2		3
砕片	1	1	27	29
合計	1	4	27	32

### ナイフ形石器 (第13図9～19)

12点が該当する。10点が在地系石材である箱根畑宿群の黒曜石を用い、2点が蓼科冷山群の黒曜石を用いる。石器の最大長を縦軸とした際の刃部側と基部側における長さの比率で分類し、刃部側が最大長の半分以上となるものをナイフ形石器 (9～16)、半分未満となり刃部の角度が傾くものを切出形石器 (17～19) としナイフ形石器に含めた。ナイフ形石器は比較的基部に近い位置に最大幅があり、切出形石器は先端部側に最大幅がきている。形態により二側縁加工 (9～15) 一側縁加工 (16) 切出形石器 (17～19) に分類できる。

9 (3174) は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。肉厚な縦長剥片を素材とした二側縁加工のナイフ形石器である。主要剥離面打点側を基部に置く。右側縁には張り出し部分まで表面より加工を施し急斜度の背部を形成する。基部に主要剥離面の打点を残し、主要剥離面の打面から二次加工を行う。

10 (接-4) は接合資料である。箱根畑宿群の黒曜石を用いる。肉厚な縦長剥片を素材とした二側縁加工のナイフ形石器である。主要剥離面打点側を基部に置き、左側縁に表面から二次加工を施し急斜度の背部を形成する。右側縁は張り出し部まで表面より急斜度の二次加工を施す。先端部折損のため全体形状は判然としない。基部の平坦剥離により打点を除去する。刃部側 (2606) は折損面を打面とし、再度基部加工を施すことから、基部折損後、刃部側の折損面に再度基部加工を施し、その後刃部損傷のため放棄された可能性がある。

11 (2765) は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。縦長の剥片を素材とした二側縁加工のナイフ形石器である。リングの方向から主要剥離面の打点側を基部としていていると考えられる。先端と両側縁の一部を折損

する。

12 (2822) は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。二側縁加工のナイフ形石器である。リングの方向から打点部を主要剥離面の基部斜め下に据え、打点を除去する。表面は風化のため灰色に変色、磨りガラス状の感触で光沢もない。

13 (4769) は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。二側縁加工のナイフ形石器である。主要剥離面打点側を基部に置く。左側縁部には裏面から急斜度の二次加工を施す。右側縁の基部側は打面を二次加工の代わりにする。張り出し部分から先には裏面から二次加工を施し急斜度の背部を形成すると思われるが、先端部折損のため先端部側の形状及び加工は判然としない。

14 (2942) は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。二側縁加工のナイフ形石器である。リングの方向から打点部を主要剥離面の基部斜め下に据え、左側縁は表面からの急斜度の二次加工で打点を除去する。右側縁の二次加工は細かく角度も緩やかである。

15 (2818) は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。二側縁加工のナイフ形石器である。リングの方向から打点部を主要剥離面の基部斜め下に据え、左右側縁に裏面からの急斜度の二次加工を施す。打面は除去する。基端部は表面に平坦剥離を行う。

16 (1407) は蓼科冷山群の黒曜石を用いた一側縁加工のナイフ形石器である。主要剥離面打点側を基部に置く。基部は裏面側に平坦剥離を施す。右側縁部には表裏両面から二次加工を施し急斜度の背部を形成する。刃部に複数の剥離痕が認められる。

17 (3170) は蓼科冷山群の黒曜石を用いた切出形石器である。横長剥片を横位に用い左右側縁に裏面から加工を施す。打点を側縁の二次加工により除去する。

18 (2903) は箱根畑宿群の黒曜石を用いた切出形石器である。横長剥片を横位に用いる。主要剥離面の打面を右側縁に置き、表面に打面から二次加工を施す。剥片の稜を横位に置き左右側縁と基部に加工を施していることから台形棒石器にも分類できる。

19 (3221) は箱根畑宿群の黒曜石を用いた切出形石器である。右側縁には裏面より急斜度の二次加工を施す。左側縁は折れ面を二次加工の代わりにすると考えられる。

スクレイパー (第14図20~23)

4点が該当する。剥片の縁部に連続して加工が施されているものをスクレイパーとした。石材は黒曜石製3点(箱根畑宿群2点、諏訪星ヶ台群1点)、メノウ製1点である。全点を図示した。

20 (413) はメノウ製である。表面基端部のそばに、一部礫面を残す。左右縁辺に裏面から加工を施し刃部を作り出す。全体形状は三角錐状である。

21 (3168) は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。右縁辺の裏面から加工を施し、比較的急斜度な刃部を作り出している。

22 (2605) は諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いる。末端部に表面から加工を施し、若干挟れた刃部を作り出している。表面が風化しているように見えるが、他の石器に比べ作りも粗く、この石器群に含まれる石器ではない可能性がある。

23 (2859) は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。末端部に裏面から加工を施し、挟りを作り出している。楔形石器 (第14図24)

1点が該当する。上端部と下端部につぶれたような細かなひび割れが見られ、そこから対向方向の剥離痕が残ることから衝撃痕であると考え楔形石器とした。

24 (3159) は黒曜石の厚手の剥片を用いる。産地は測定不可である。肉眼観察からは信州系黒曜石だと推定される。石器表面は風化し曇っている。

#### 加工痕剥片（第24図25・26）

3点が該当する。二次加工の痕跡が見られるもののスクレイパーとして分類できなかったものを分類した。2点を図示する。

25（2602）は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。左縁辺部、上端部に二次加工が見られる。

26（3184）は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。右縁辺から末端部にかけて裏面からの加工が見られる。

#### 石核（第14図27～29）

5点が該当する。石器集中部内から箱根畑宿群黒曜石を用いた剥片や砕片が多数出土していることから在地系石材を使用した石器製作が行われていたと考えられる。箱根畑宿群の黒曜石を用いた資料2点、流紋岩を用いた資料1点を図示する。

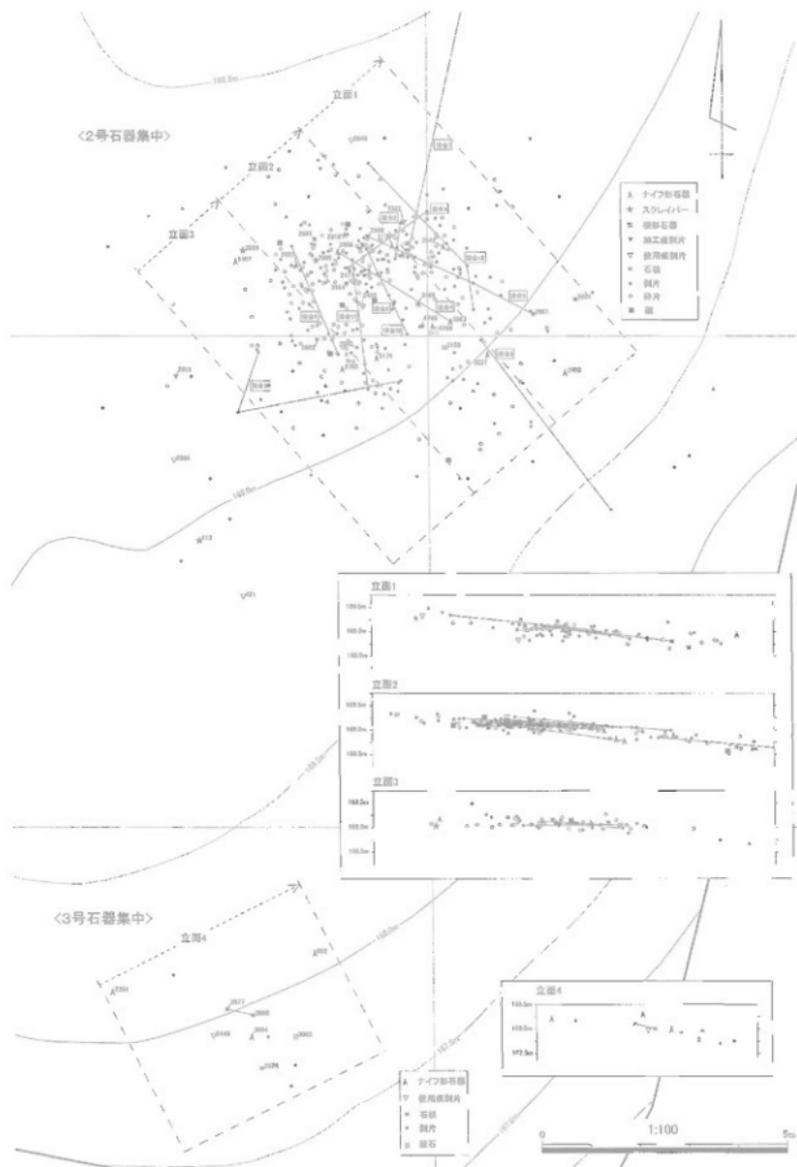
27（2545）は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。剥片を素材とした石核であると考えられる。剥離面を打面とし、少なくとも2枚の剥片を剥離していると考えられる。目的の剥片は不定形であると考えられる。

28（2891）は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。剥離面を打面とし、打面転移しながら多方向から打撃を加えている。目的の剥片は不定形である。表面には一部礫面が残る。

29（2697）は流紋岩を用いる。剥片剥離の回数は少なく原石に近い。

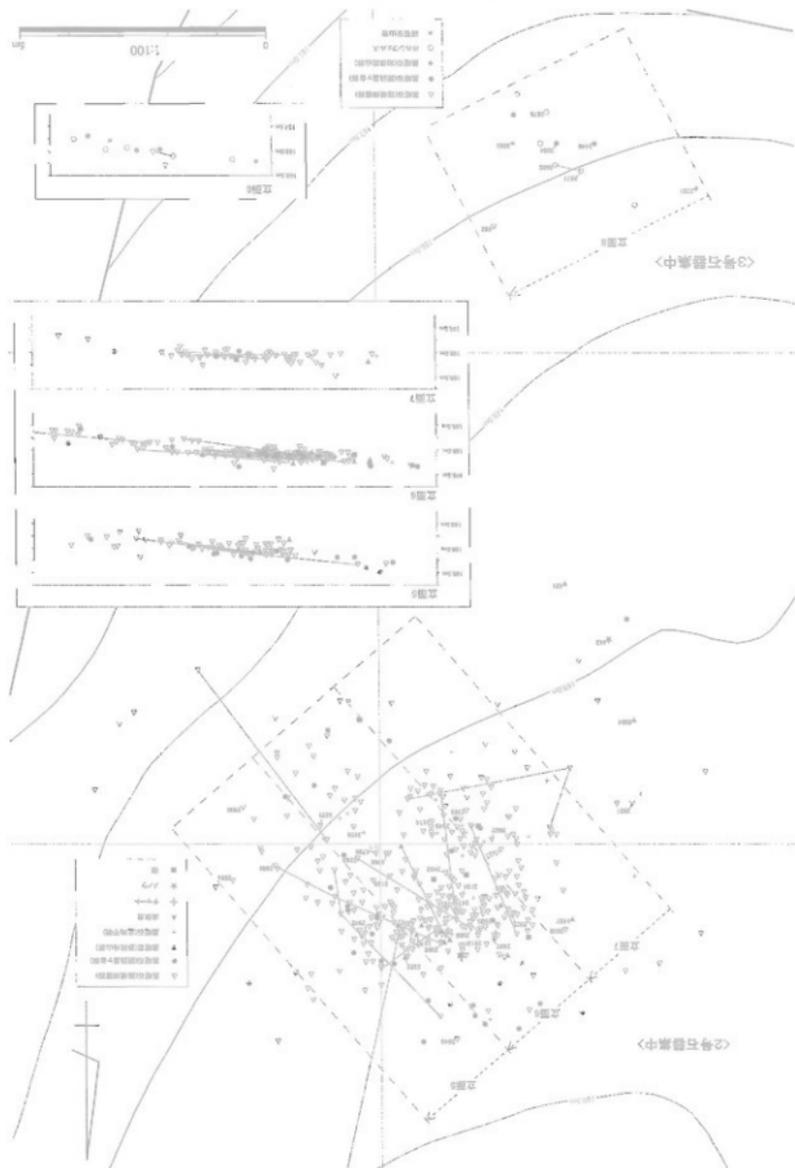
#### 接合資料（第15図30～第16図32）

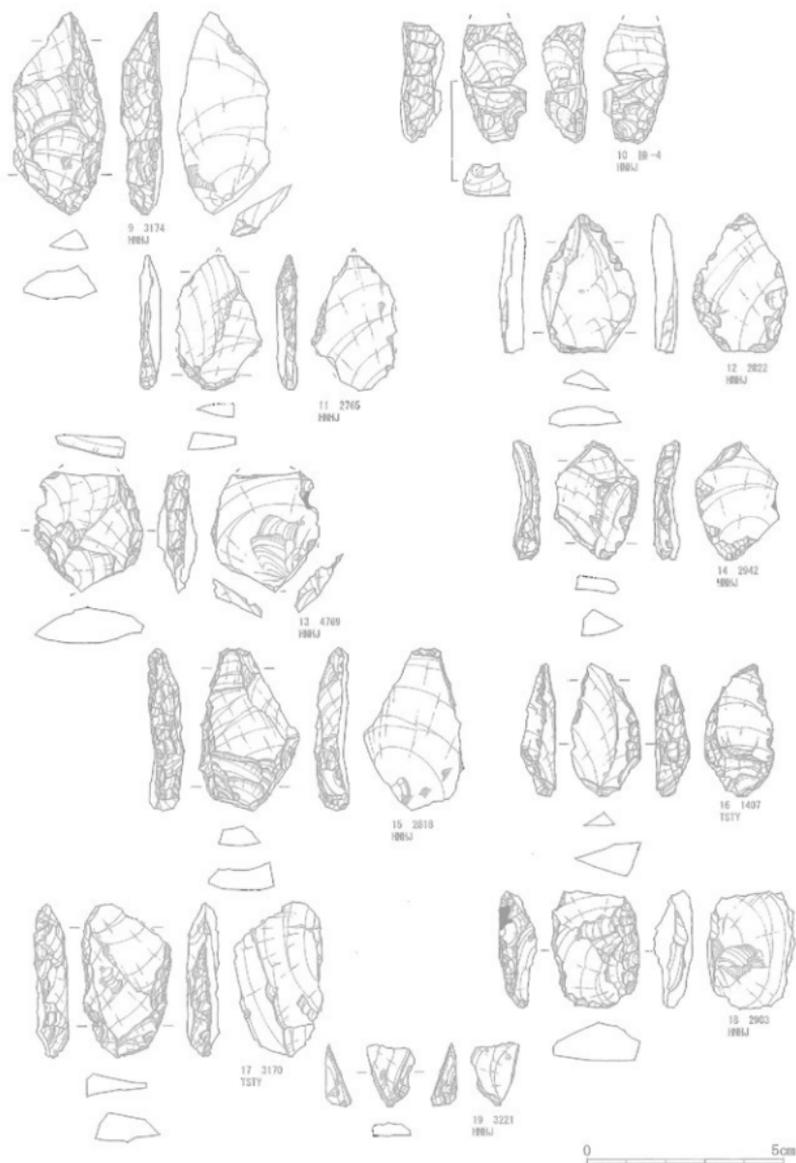
12資料26点が該当する。すべて黒曜石製で、産地の内訳は箱根畑宿群11個体23点、蓼科冷山群1個体3点である。箱根畑宿群の接合資料3資料を図示する。いずれも、剥片剥離に規則性はなく、打面転移しながら多方向から打撃を加えている。必然的に得られる剥片は不定形となる。また、夾雑物も多くリッジは不規則な方向に広がる。



第11図 第II文化層石器集中分布(器種別)

第12圖 第五文化層石器集中分布(石材別)

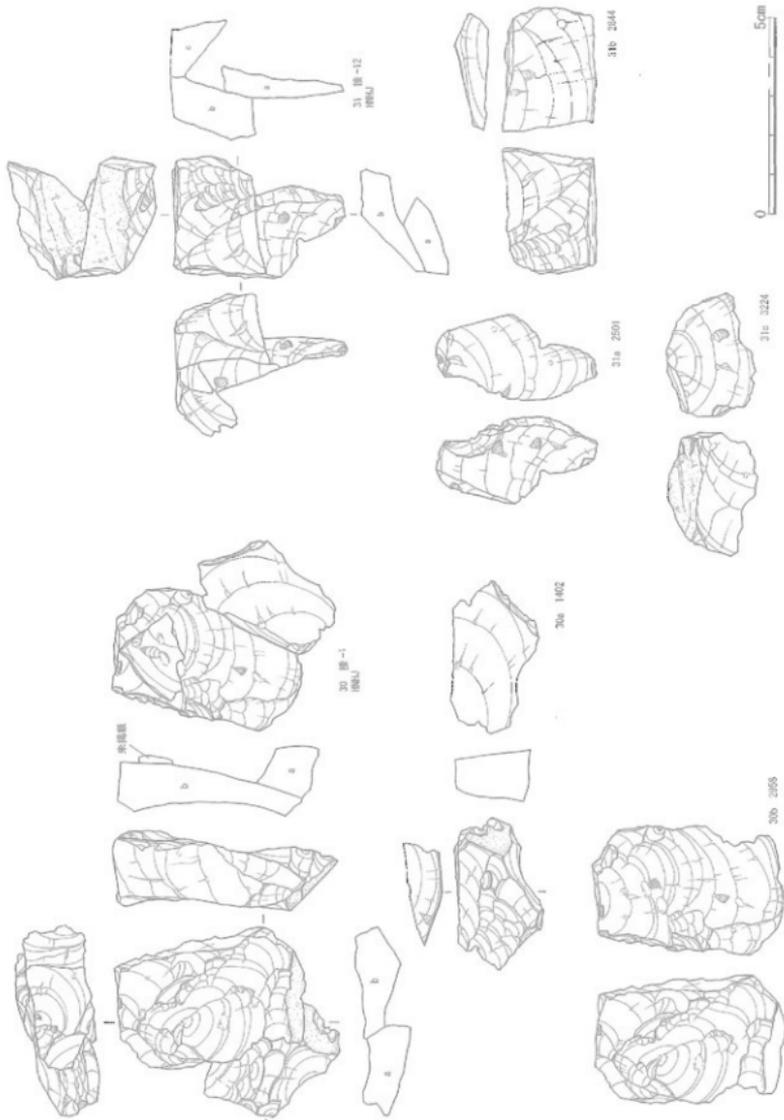




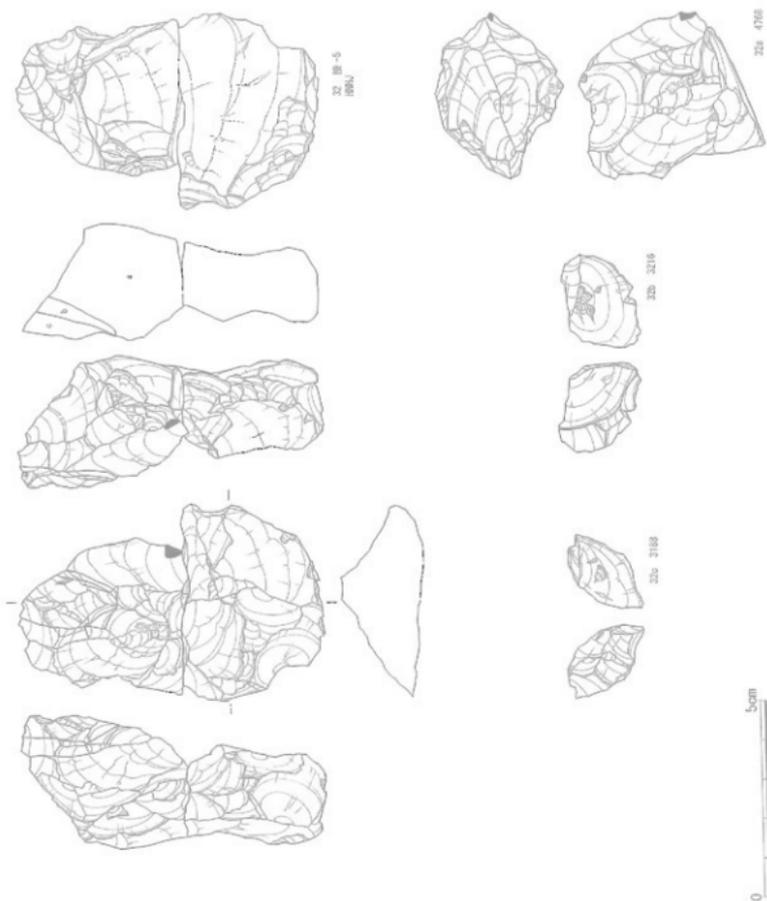
第13図 第Ⅱ文化層2号石器集中出土石器(1)



第14图 第Ⅱ文化层2号石器集中出土石器(2)



第15図 第Ⅱ文化層2号石器集中出土石器(3)



第16图 第Ⅱ文化层2号石器集中出土石器(4)

## 3号石器集中 (第11・12図)

B-4グリッドで確認され、2号石器集中の南約10mに位置する。長軸39m短軸2.6mの範囲に黒曜石5点、ホルンフェルス6点、輝石安山岩1点が集中して分布する。出土層位は休庵層上位が中心である。出土範囲は標高168.0mを中心に約0.6mのレベル差が生じている。北東から南西にかけて傾斜しており、それに沿って遺物が検出されている。石器群はナイフ形石器3点、使用痕剥片1点、石核3点、剥片類4点、敲石1点の合計12点である。黒曜石産地同定の結果、箱根畑宿群1点、諏訪星ヶ台群3点、和田土屋橋西群1点となっている。ナイフ形石器3点、使用痕剥片1点、石核・接合資料3点、敲石1点を図示する。

第10表 第II文化層3号石器集中石器組成

	黒曜石			輝石安山岩	ホルンフェルス	合計
	箱根畑宿群	諏訪星ヶ台群	和田土屋橋西群			
	HBL	SDB	WT	An (Py)	Hsr	
ナイフ形石器	1	1	1			3
使用痕剥片		1				1
剥片		1			3	4
石核				1	2	3
敲石				1		1
合計	1	2	1	1	5	12
石材比率	8.3%	25.0%	8.3%	8.3%	50.0%	100.0%

## ナイフ形石器 (第17図33~35)

33 (692) は箱根畑宿群の黒曜石を用いた一側縁加工のナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし、主要剥離面打点側を基部に置く。左側縁には裏面から先端まで二次加工を施し急斜度な背部を形成する。基部形状は折損のため判然としない。

34 (2351) は和田土屋橋西群の黒曜石を用いたナイフ形石器である。比較的厚みのある剥片を素材とし、主要剥離面打点側を先端に置く。左側縁は張り出し部分まで裏面より二次加工を施す。右側縁は先端部まで裏面から二次加工を施し急斜度の背部を形成する。基部は裏面に平坦剥離を施す。

35 (3004) は諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いたナイフ形石器であると考えられる。薄手の横長剥片を横位に用いる。基部及び右側縁に裏面から二次加工を施している。基部側左側縁を折損する。

## 使用痕剥片 (第17図36)

36 (2440) は諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いる。石刃を素材とする。剥片の左右縁辺に細かな剥離痕が認められる。

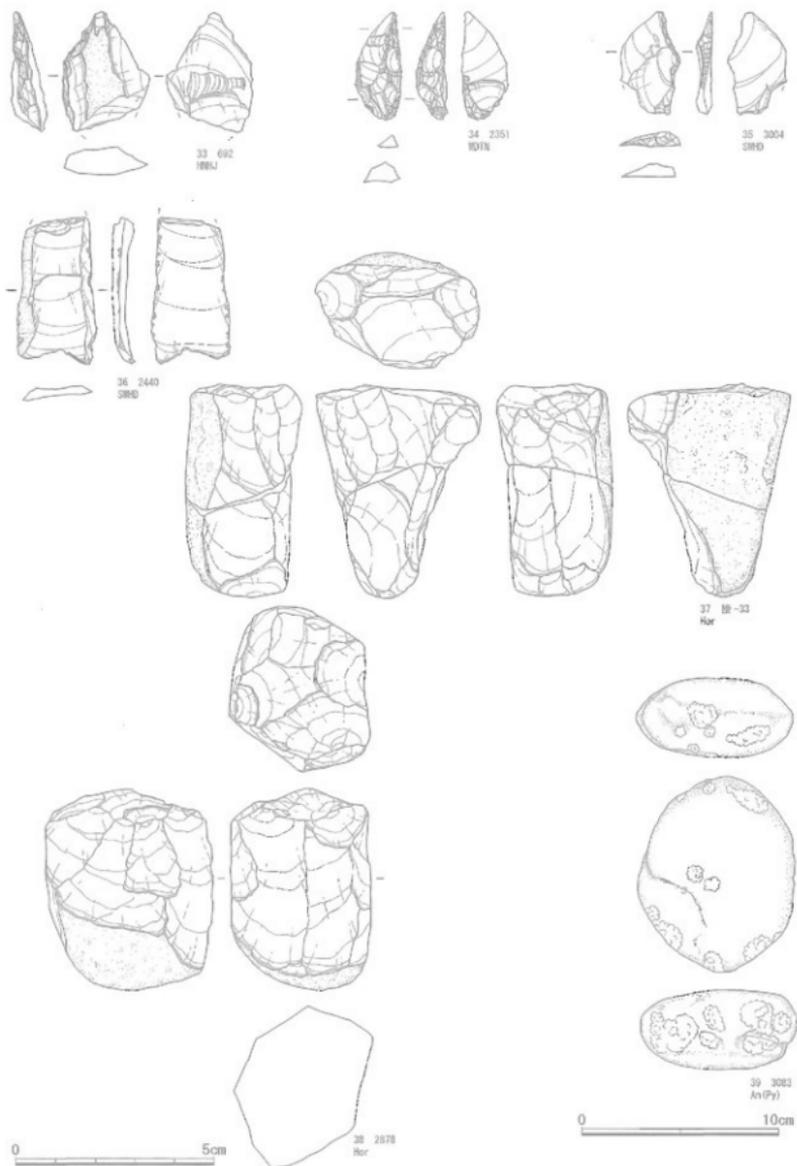
## 石核・接合資料 (第17図37・38)

37 (接-33) はホルンフェルスを用いる。礫面が多く残る石核である。打面調整、頭部調整を行い剥片剥離を行う。打面転移の痕跡も認められる。接合部は節理面である。

38 (2878) はホルンフェルスを用いる。下端に礫面が残り。卵大の石核である。打面調整、頭部調整を施し、同一方向から複数枚の剥片を剥離する。

## 敲石 (第17図39)

39 (3083) は輝石安山岩を用いる。主に扁平な礫の縁辺部に敲打痕が残る。



第17图 第Ⅱ文化层3号石器集中出土石器

## 包含層出土石器

石器集中以外から出土した石器をまとめて報告する。ナイフ形石器4点、スクレイパー1点、加工痕剥片1点、使用痕剥片4点、敲石7点、台石・石皿類7点、礫器1点、剥片類42点の合計67点が出土した。黒曜石産地同定の結果、箱根畑宿群が14点と約20%を占め、諏訪星ヶ台群12点約18%、ホルンフェルス10点約15%、輝石安山岩10点約15%で石材の約7割を占める。詳細を第11表に示す。

第11表 第Ⅱ文化層包含層出土石器組成

	黒曜石					Jノウ	輝石安山岩	縦長礫器	ホルンフェルス	中形礫器	ひん礫	流紋岩	合計
	使用痕剥片	加工痕剥片	剥片類	台石	分研小石								
	AGT	HHL	SMD	TSTV	—	Ag	As (Py)	PSS	Hor	MSS	Pe	Rhy	
ナイフ形石器	3		1										4
スクレイパー		1											1
加工痕剥片					1								1
使用痕剥片			1	3									4
剥片	1	11	7	1	1	1			10				32
砕片		2	3		4								9
敲石							3	1		3			7
礫器											1		1
台石・石皿類							7						7
合計	4	14	12	4	6	1	10	1	10	3	1	1	67
石材比率	6.0%	20.9%	17.9%	6.0%	9.0%	1.5%	14.9%	1.5%	14.9%	4.5%	1.5%	1.5%	100.0%

## ナイフ形石器 (第20図40~43)

4点が該当する。3点が在地系石材である箱根畑宿群の黒曜石を用い、1点が諏訪星ヶ台群黒曜石を用いる。剥片剥離に規則性は認められず、様々な方向から打撃を加え剥片剥離を行っている。ナイフ形石器は石器集中部と同様に比較的基部に近い位置に最大幅があり、切出形石器は先端部側が最大となる。二側縁加工40 (3002)・43 (2386)、一側縁加工42 (2770)、切出形石器41 (84) に分類できる。

40 (3002) は箱根畑宿群の黒曜石を用いた二側縁加工のナイフ形石器である。剥片を横位に用い、裏面からの左側縁の二次加工で打点を除去している。基部の表面には礫面を残す。表面は風化のため灰色に変色、磨りガラス状の感触で光沢もない。

41 (84) は箱根畑宿群の黒曜石を用いた切出形石器である。横長剥片を横位に用い、左側縁には裏面から二次加工を施す。右側縁および基部は折れ面を二次加工の代わりとし、表面には折れ面から二次加工を施し器形を整えていると考えられる。

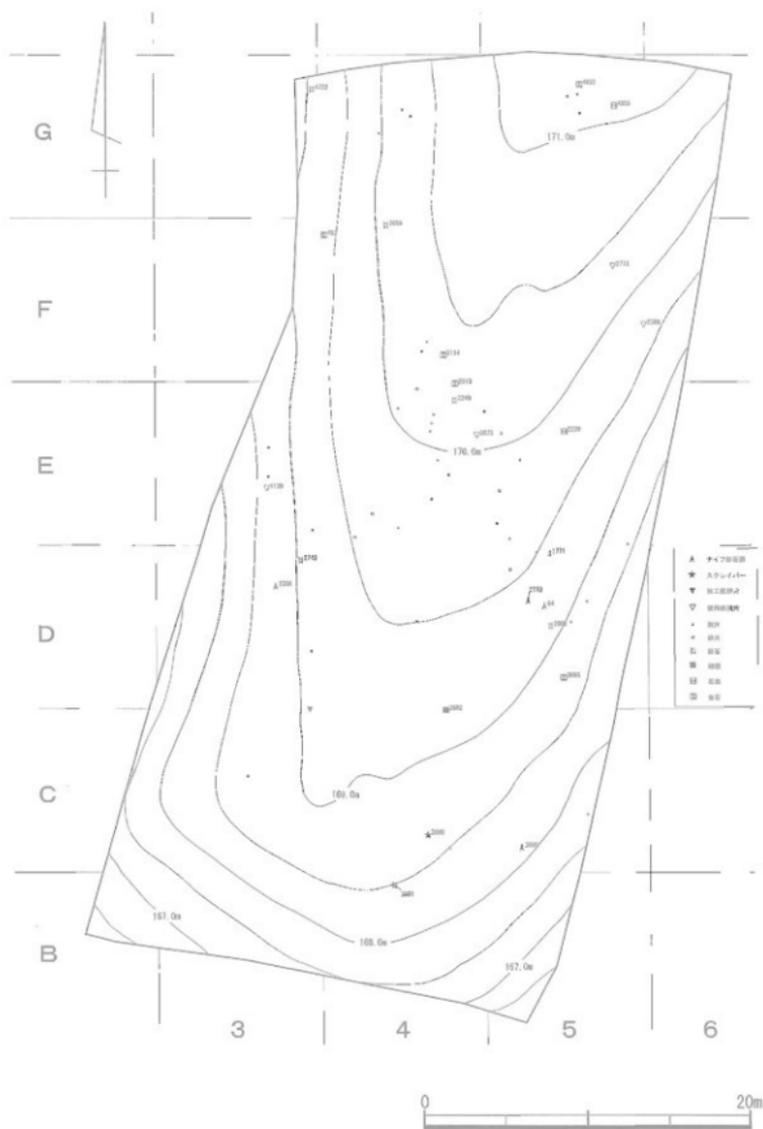
42 (2770) は箱根畑宿群の黒曜石を用いた一側縁加工のナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし、主要剥離面打点側を基部に置く。左側縁には裏面から先端まで二次加工を施し急斜度な背部を形成する。先端部及び基部を折損するため全体形状は判然としない。

43 (2386) は諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いる。二側縁加工のナイフ形石器である。薄手の縦長剥片を用い、主要剥離面打点側を基部に置く。打点は基部折損により失われる。左右側縁には裏面から急斜度の二次加工を施す。先端部折損のため先端部側の加工は判然としない。

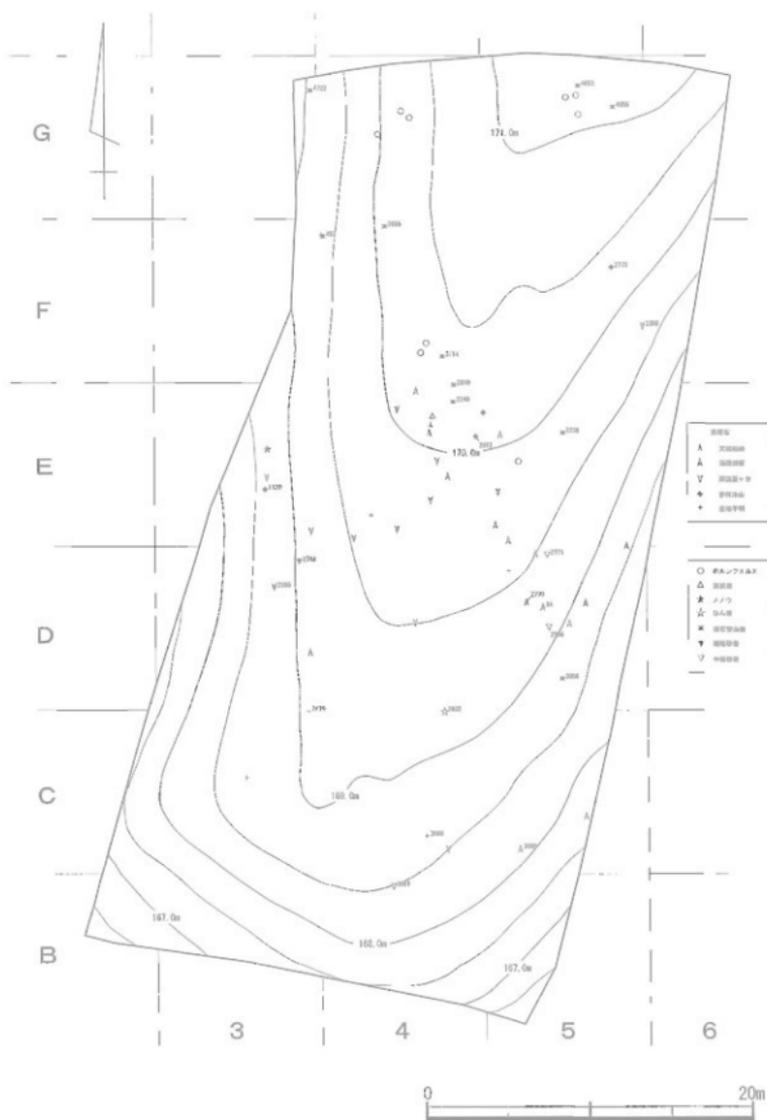
## スクレイパー (第20図44)

1点が該当する。剥片の1辺全てに連続して加工が施されているものをスクレイパーとした。石材は黒曜石を用いる。

44 (3008) は黒曜石製である。風化のため産地は測定不可である。肉眼観察からは箱根畑黒曜石である可能性が高いと思われる。剥片の右側縁と基部に裏面から加工を施し、鋸歯状の比較的急斜度な刃部を作り出す。左側縁・先端部は折損する。



第18図 第Ⅱ文化層包含層出土石器分布(器種別)



第19図 第II文化層包含層出土石器分布(石材別)

#### 使用痕剥片（第20図45・46）

4点が該当する。2点を図示する。

45（2073）は夢科冷山群の黒曜石を用いる。剥片の左右縁辺に微細な剥離痕が認められる。

46（2773）は夢科冷山群の黒曜石を用いる。三角錐状の剥片の基端に複数の剥離が認められる。縁辺に微細な剥離痕が認められる。

#### 礫器（第21図47）

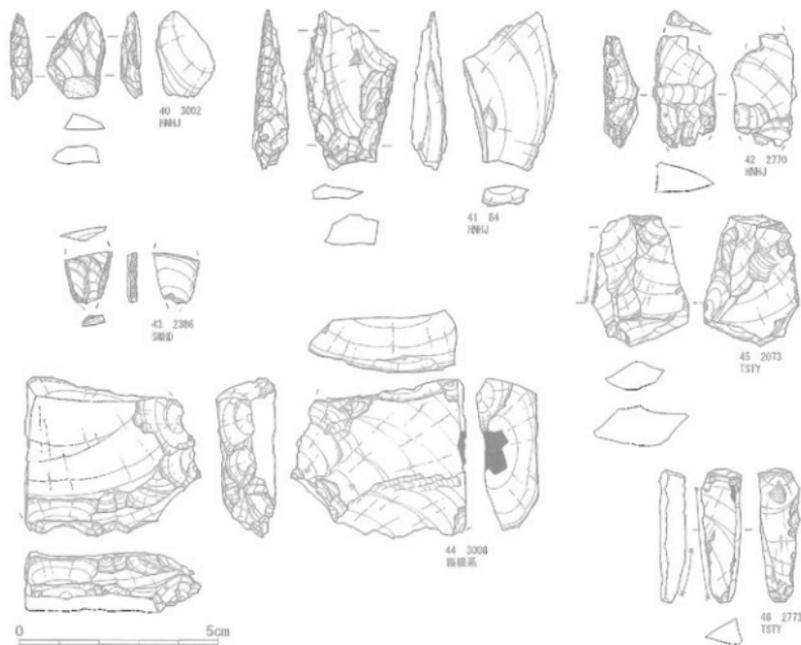
1点が該当する。47（2682）はひん岩を用いる。小振りな礫器である。扁平な礫を使用し、主に裏面からの剥離で刃部を作り出す。

#### 敲石（第21図48）

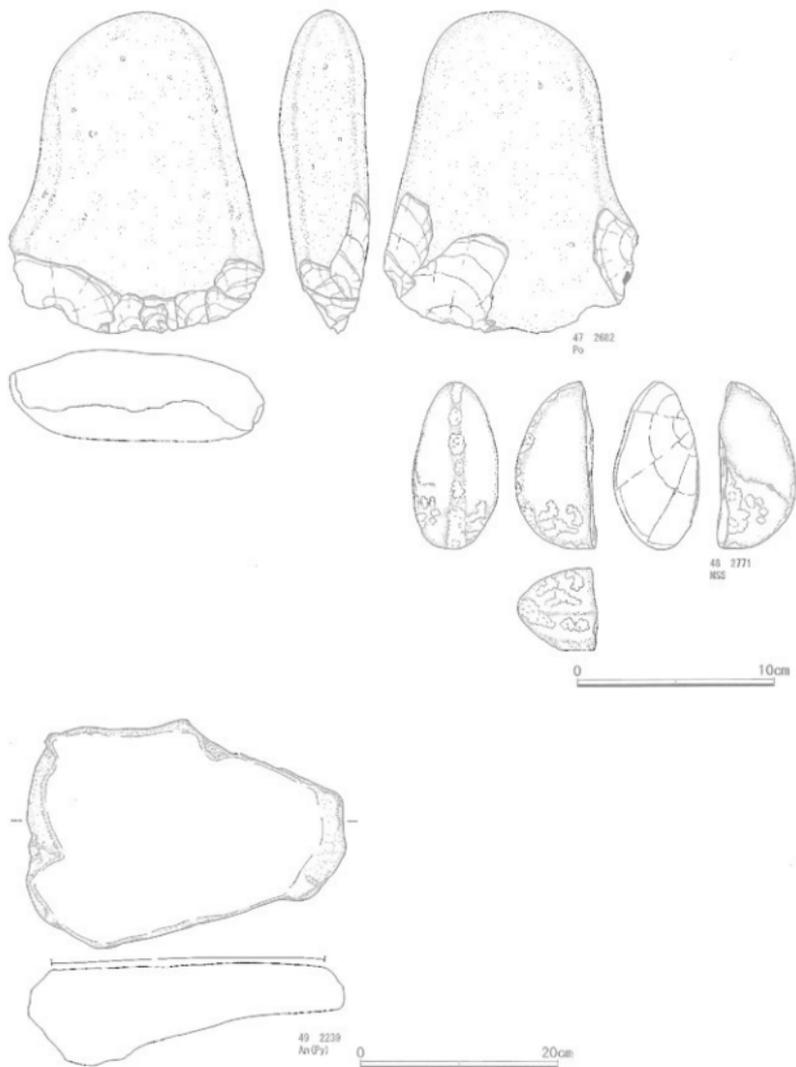
1点が該当する。48（2771）は中粒砂岩を用いる。扁平な礫の縁辺に敲打痕が残る。

#### 石皿・台石類（第21図49）

1点が該当する。49（2239）は輝石安山岩を用いる。敲打痕の他、磨り痕ともとらえられる摩擦面が認められる。



第20図 第Ⅱ文化層包含層出土石器（1）



第21図 第Ⅱ文化層包含層出土石器(2)

## 第4節 縄文時代の遺構と遺物

### 1. 遺 構

ここでは、縄文時代の遺構を一括して報告する。検出した遺構は、集石遺構6基、焼土6基、土坑1基であった（第22図）。検出層準は主に富士黒土層中である。遺構の検出地点は調査区北側の尾根上と調査区南よりの舌状台地の先端部付近とに分かれる。遺構内から出土した土器（P）・石器（S）・礫（R）は、実測図上に検出位置を記した。

#### （1）集 石（第23図）

集石遺構は6基検出された。掘り込みを伴う集石は検出されなかった。3号集石の脇から焼土が検出されているが、集石内で火を焚いた痕跡は見あたらない。1～6号集石において検出された礫は平面的に検出され、レベル差はなく掘り込みも伴わない。

3号集石より剥片2点（ガラス質黒色安山岩1点、神津高恩馳鳥群黒曜石1点）、ホルンフェルスを用いた石核1点、細粒安山岩を用いた敲石1点が出ている。石核1点、敲石1点を図示する。

#### 石核

1（4433）はホルンフェルスを用いる。表面には大きく礫面が残る。主に礫面を打面とし打面転移して数度の剥片剥離作業を行う。

#### 敲石

2（4423）は細粒安山岩を用いる。扁平な礫の不特定の箇所には敲痕が残る。

4号集石より土器片5点（茅山下層式土器1点、条痕文土器4点）が出土しているが、小破片のため未実測である。

第12表 縄文時代集石一覧

遺構	検出層位		計	積石範囲 (cm)	遺物	検出層位		計	積石範囲 (cm)
	富士黒土層	栗色土層				富士黒土層	栗色土層		
1号集石	7		7	57 × 53	4号集石	36		36	120 × 110
2号集石	61		61	170 × 113	5号集石	26		26	192 × 200
3号集石	29	1	30	180 × 165	6号集石	27		27	158 × 168

#### （2）焼 土（第24図）

焼土は6基検出された。検出層準は栗色土層である。焼土には焼土粒を含む掘り込みを持つものを分類した。以下、平面形態により3群に分類した。

I群 平面形態が楕円形のもの（1・2号焼土）

II群 平面形態が円形のもの（3号焼土）

III群 平面形態が不定形のもの（4～6号焼土）

明確な焼土層を持つものは4・6号焼土2基のみである。1号焼土からは大型の炭化物が検出されている。2号焼土からは土器1点が出土している。4号焼土は形状から連結土坑の可能性があり、5・6号焼土は重なり合う形で検出されている。6号焼土内から礫10点が出土している。

第13表 縄文時代焼土一覧

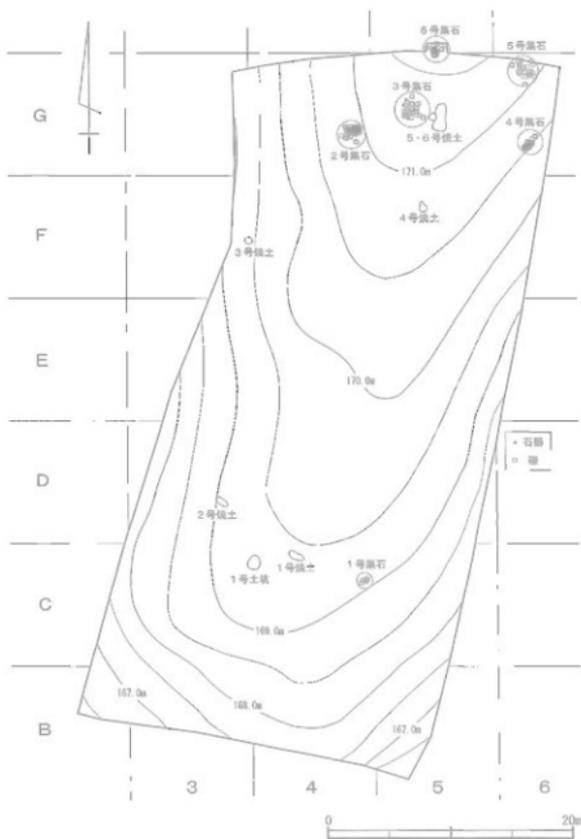
焼土坑名	検出層位	グリッド	検出面		最大厚 (cm)	形態	富士 黒土	分類	備考
			長さ	幅					
1号焼土	富士黒土層	G-4	135	×	89	15	楕円	中	I 炭化材検出
2号焼土	富士黒土層	D-3	115	×	50	15	楕円	中	I 土器片出土
3号焼土	赤褐色土層	F-4	55	×	50	10	円	有	II
4号焼土	富士黒土層	F-5	67	×	62	11	不定形	有	III 礫・土器片出土
5号焼土	富士黒土層	D-5	111	×	90	25	楕円	中	III
6号焼土	富士黒土層	D-6	379	×	232	23	不規則	有	III 礫出土

## (3) 土 坑 (第25図)

調査の結果、縄文時代の遺構と考えられる土坑は1基検出された。検出層は富士黒土層である。1号土坑はC-4グリッドから検出された。長軸1.2m、短軸1.05m、深さ0.5mの楕円形で円錐形を呈する。底部の形状は楕円形である。遺構内より礫が出土しているが流れ込みであると考えられる。

第14表 縄文時代土坑一覧

土坑名	分類	形態	検出層位	グリッド	断面		検出深	最大深	層厚
					長径×短径 (cm)	長径×短径 (cm)			
1号土坑	-	楕円	富士黒土層	C-4	51 × 29	130 × 105	50	50	層



第22図 縄文時代遺構配置



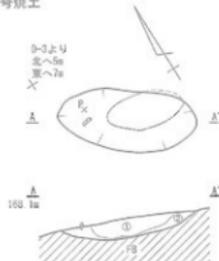
第23図 縄文時代集石

1号焼土



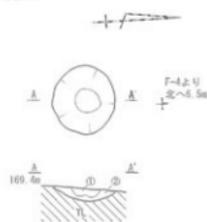
- ① 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物・焼土を含む
- ② 褐色土 (10YR4/6) 炭化物・焼土を含む

2号焼土



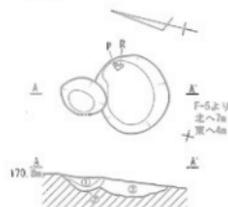
- ① 明褐色土 (5YR5/8) 焼土多量、 $\Phi 3\text{mm}$ 程度のカーボンごく少量
- ② 灰褐色土 (5YR4/2) 焼土多量、 $\Phi 3\text{mm}$ 程度のカーボン少量

3号焼土



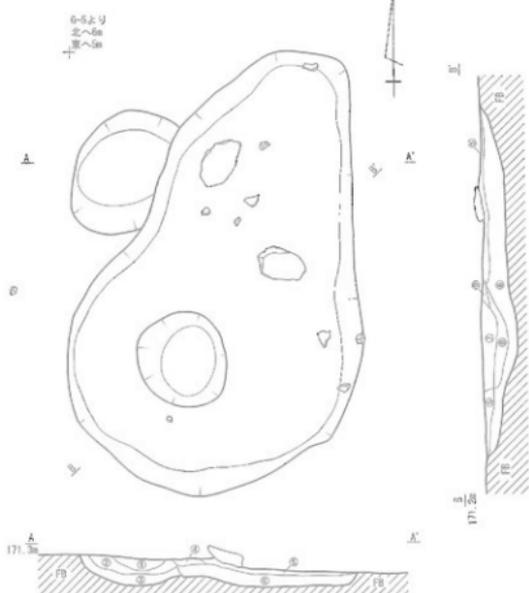
- ① 明褐色土 (5YR5/8) 焼土が部分的に混入する  
 $\Phi 2\text{mm}$ 程度のカーボン少量
- ② 濃い赤褐色土(5YR4/4) 焼土がまばらに散在する  
 $\Phi 2\text{mm}$ 程度のカーボン少量

4号焼土



- ① 黄褐色土 (10YR5/8) 焼土
- ② 黄褐色土 (10YR5/6) ①の粒を含む
- ③ 褐色土 (10YR4/4)

5号・6号焼土

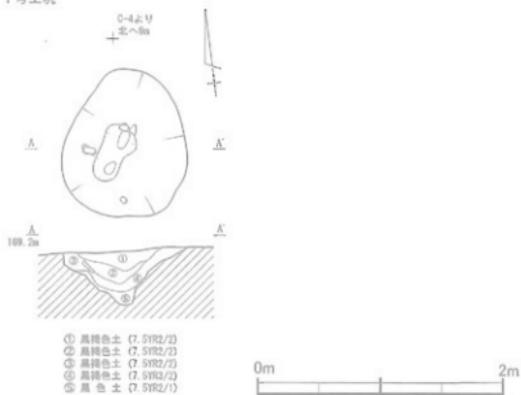


- ① 暗褐色土 (7.5YR3/3) 焼土多量、 $\Phi 5\text{mm} \sim 0.5\text{mm}$ のカーボン多量、粘性強、しまり強
- ② 暗褐色土 (7.5YR3/3) 焼土多量、 $\Phi 3\text{mm} \sim 0.5\text{mm}$ のカーボン多量、粘性強、しまり強  
①層に比べて焼土が少なく、カーボンも $\Phi 1\text{mm}$ 位の細かいものが多い
- ③ 明褐色土 (7.5YR5/6) 焼土多量、 $\Phi 2\text{mm} \sim 1\text{mm}$ のカーボン少量、粘性強、しまり強
- ④ 暗褐色土 (10YR3/2) 焼土少量、 $\Phi 4\text{mm} \sim 0.5\text{mm}$ のカーボン少量、粘性強、しまり強
- ⑤ 暗褐色土 (10YR3/2) 焼土少量、 $\Phi 5\text{mm} \sim 0.5\text{mm}$ のカーボン少量、粘性強、しまり強
- ⑥ 褐色土 (10YR4/6) 焼土少量、 $\Phi 2\text{mm} \sim 0.5\text{mm}$ のカーボン少量、粘性強、しまり強
- ⑦ 暗褐色土 (10YR3/2) 焼土多量、 $\Phi 5\text{mm} \sim 0.5\text{mm}$ のカーボン多量、粘性強、しまり強
- ⑧ 褐色土 (10YR4/6) 焼土少量、 $\Phi 3\text{mm} \sim 0.5\text{mm}$ のカーボン少量、粘性強、しまり強
- ⑨ 暗褐色土 (10YR3/2) 焼土少量、 $\Phi 5\text{mm} \sim 0.5\text{mm}$ のカーボン少量、粘性強、しまり強

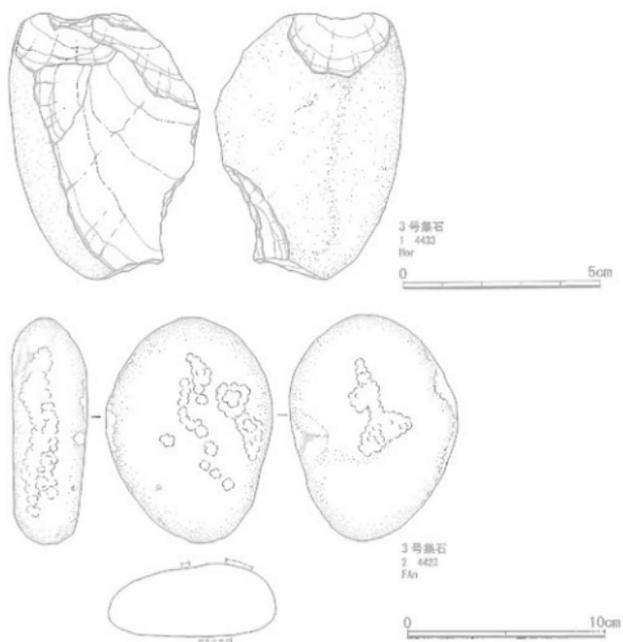


第24図 縄文時代焼土

1号土坑



第25図 縄文時代土坑



第26図 遺構内出土石器

## 2. 遺物

ここでは、縄文時代の遺物を一括して報告する。出土した遺物は、土器1,459点、石器599点、計2,058点である。

## (1) 土器 (第33図～42図)

土器は縄文時代草創期～中期の資料と考えられるものが出土した。このうち274点、66個体を報告する。なお、小破片・器面の状態が悪い等の理由で拓影未掲載の資料について、記載可能なものはP-O〇〇〇という形で文章記載した。出土状況から層位的な出土傾向をとらえることはできなかった。平面分布では草創期はC・D-4・5グリッド、早期は調査区全面、早期末～前期初頭はD-5グリッド、前期は調査区全面に分布する。また遺構出土の土器は第Ⅱ章第4節1. 遺構でも記載したが、点数が少ないこともあり便宜上この項に再掲する。分類は、時期(群)、系統(類)、形式(種)等の分類を行った後、主に胎土、器形、施文から細分した(第15表)。分類は以下のとおりである。

## 第Ⅰ群 草創期 (第33図1～第34図19)

- A類 表裏縄文を施すもの
- B類 縄文を施すもの
- C類 撚糸文を施すもの
- D類 その他

## 第Ⅱ群 早期 (第35図20～第37図39)

- A類 撚糸文
- B類 押型文
- C類 条痕文
  - 1種 鶴ヶ島台式土器
  - 2種 茅山下層式土器
  - 3種 茅山上層式土器
  - 4種 柏畑式土器
  - 5種 型式不明 (a) 外面に条痕調整有  
(b) 外面に条痕調整無

## D類 その他

## 第Ⅲ群 早期末～前期初頭 (第37図40・41)

- A類 条痕文 1種 下吉井式土器
- B類 細線文 2種 木島式土器

## 第Ⅳ群 前期 (第38図42～第39図60)

- 1種 清水ノ上Ⅱ式～上の坊式併行の土器
- 2種 有尾式土器
- 3種 諸磯b式土器
- 4種 無文

## 第Ⅴ群 早期～前期 (第40図61～第42図91)

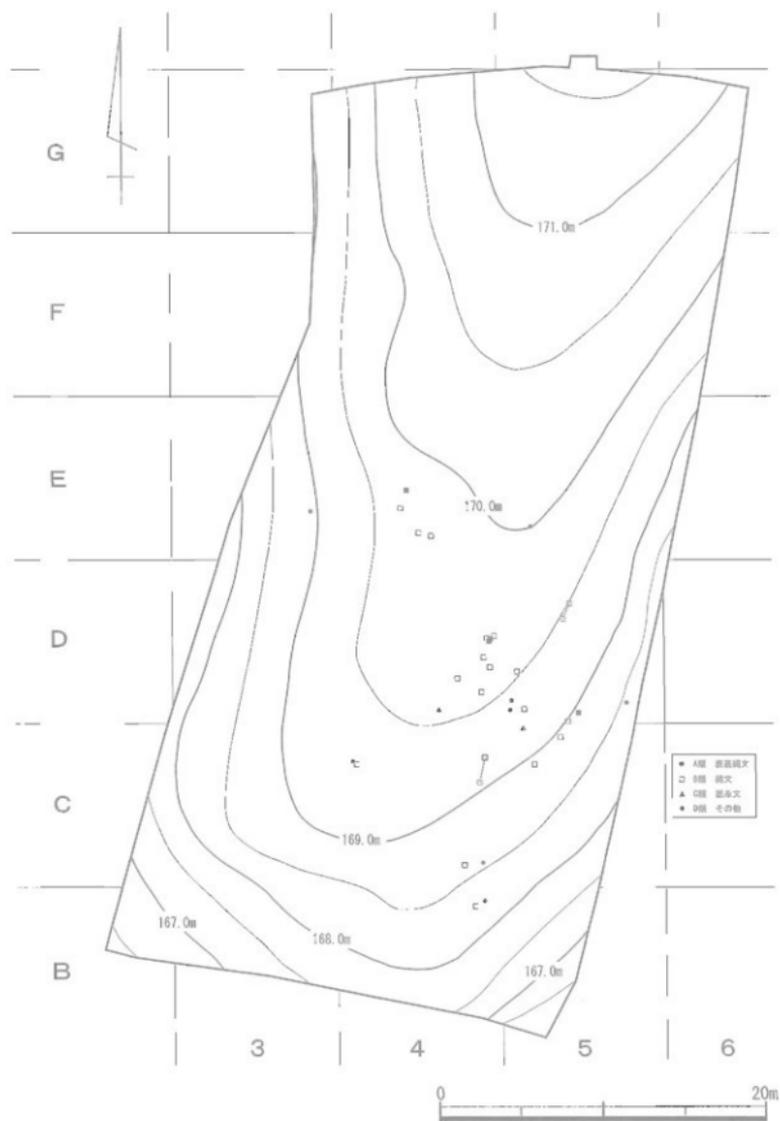
- A類 縄文 (a) 繊維痕有  
(b) 繊維痕無

## 第Ⅵ群 中期～後期 (第42図92～94)

- 1種 型式不明 (a) 縄文を伴う  
(b) 網代痕

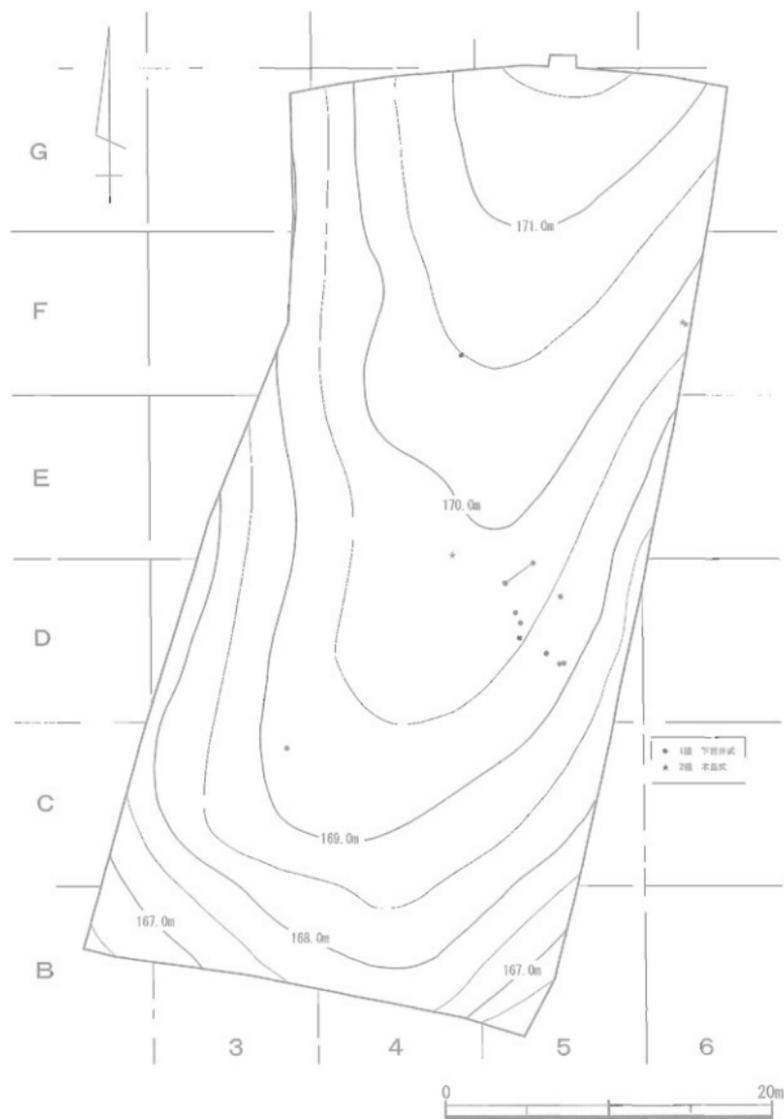
第15表 縄文時代土器分類基準

群	種類	器	分類	器	形式	その他細分類	胎土	胎質	焼成度	埋没年代	備考				
I	塚前群	A	底面瓦文	-	-	-	赤土胎土	-	多	1-2					
		B	縄文	-	-	-	赤土胎土	-	多	4-11	古墳・古				
		C	縄文	-	-	-	赤土胎土	-	多	12-13					
		D	縄文虎斑不明	-	-	-	赤土胎土	-	多	14-19	古墳・古				
		E	縄文	-	-	-	赤土胎土	-	多	20	久末付				
II	群	A	赤土瓦	1	屈斗舟瓦	-	-	-	山形瓦	少	21	遺跡(少)・久末付			
									2	山形瓦	多	22			
									3	山形瓦	多	23	遺跡(少)・久末付		
									4	山形瓦	多	24	久末付		
									5	山形瓦	多	25	久末付		
		B	赤土瓦	1	山形瓦	-	-	-	-	山形瓦	多	26			
										2	山形瓦	多	27		
										3	山形瓦	多	28		
										4	山形瓦	多	29		
										5	山形瓦	多	30		
		C	赤土瓦	1	山形瓦	-	-	-	-	山形瓦	多	31			
										2	山形瓦	多	32		
										3	山形瓦	多	33		
										4	山形瓦	多	34		
										5	山形瓦	多	35		
		D	赤土瓦	1	山形瓦	-	-	-	-	山形瓦	多	36			
										2	山形瓦	多	37		
										3	山形瓦	多	38		
										4	山形瓦	多	39		
										5	山形瓦	多	40		
E	赤土瓦	1	山形瓦	-	-	-	-	山形瓦	多	41					
								2	山形瓦	多	42				
								3	山形瓦	多	43				
								4	山形瓦	多	44				
								5	山形瓦	多	45				
III	群	A	赤土瓦	1	下直形瓦	-	-	-	下直形瓦	多	46				
									2	下直形瓦	多	47			
									3	下直形瓦	多	48			
									4	下直形瓦	多	49			
									5	下直形瓦	多	50			
		B	赤土瓦	1	下直形瓦	-	-	-	-	下直形瓦	多	51			
										2	下直形瓦	多	52		
										3	下直形瓦	多	53		
										4	下直形瓦	多	54		
										5	下直形瓦	多	55		
		C	赤土瓦	1	下直形瓦	-	-	-	-	下直形瓦	多	56			
										2	下直形瓦	多	57		
										3	下直形瓦	多	58		
										4	下直形瓦	多	59		
										5	下直形瓦	多	60		
D	赤土瓦	1	下直形瓦	-	-	-	-	下直形瓦	多	61					
								2	下直形瓦	多	62				
								3	下直形瓦	多	63				
								4	下直形瓦	多	64				
								5	下直形瓦	多	65				
E	赤土瓦	1	下直形瓦	-	-	-	-	下直形瓦	多	66					
								2	下直形瓦	多	67				
								3	下直形瓦	多	68				
								4	下直形瓦	多	69				
								5	下直形瓦	多	70				
IV	群	A	赤土瓦	1	下直形瓦	-	-	-	下直形瓦	多	71	遺跡(少)・久末付			
									2	下直形瓦	多	72	遺跡(多)・久末付		
									3	下直形瓦	多	73	遺跡(多)・久末付		
									4	下直形瓦	多	74	遺跡(多)・久末付		
									5	下直形瓦	多	75	遺跡(多)・久末付		
		B	赤土瓦	1	下直形瓦	-	-	-	-	下直形瓦	多	76	遺跡(少)・久末付		
										2	下直形瓦	多	77	遺跡(少)・久末付	
										3	下直形瓦	多	78	遺跡(少)・久末付	
										4	下直形瓦	多	79	遺跡(少)・久末付	
										5	下直形瓦	多	80	遺跡(少)・久末付	
		C	赤土瓦	1	下直形瓦	-	-	-	-	下直形瓦	多	81	遺跡(少)・久末付		
										2	下直形瓦	多	82	遺跡(少)・久末付	
										3	下直形瓦	多	83	遺跡(少)・久末付	
										4	下直形瓦	多	84	遺跡(少)・久末付	
										5	下直形瓦	多	85	遺跡(少)・久末付	
		D	赤土瓦	1	下直形瓦	-	-	-	-	下直形瓦	多	86	遺跡(少)・久末付		
										2	下直形瓦	多	87	遺跡(少)・久末付	
										3	下直形瓦	多	88	遺跡(少)・久末付	
										4	下直形瓦	多	89	遺跡(少)・久末付	
										5	下直形瓦	多	90	遺跡(少)・久末付	
		E	赤土瓦	1	下直形瓦	-	-	-	-	下直形瓦	多	91	遺跡(少)・久末付		
										2	下直形瓦	多	92	遺跡(少)・久末付	
										3	下直形瓦	多	93	遺跡(少)・久末付	
										4	下直形瓦	多	94	遺跡(少)・久末付	
										5	下直形瓦	多	95	遺跡(少)・久末付	
		V	赤土瓦	A	縄文	1	底面瓦	-	-	-	底面瓦	多	96	遺跡(多)・久末付	
											2	底面瓦	多	97	遺跡(多)・久末付
											3	底面瓦	多	98	遺跡(多)・久末付
											4	底面瓦	多	99	遺跡(多)・久末付
											5	底面瓦	多	100	遺跡(多)・久末付
6	底面瓦										多	101	遺跡(多)・久末付		
7	底面瓦										多	102	遺跡(多)・久末付		
8	底面瓦										多	103	遺跡(多)・久末付		
9	底面瓦										多	104	遺跡(多)・久末付		
10	底面瓦										多	105	遺跡(多)・久末付		
VI	中国一線	瓦	1	底面瓦	-	-	-	-	底面瓦	多	106	遺跡(多)・久末付			
									2	底面瓦	多	107	遺跡(多)・久末付		
									3	底面瓦	多	108	遺跡(多)・久末付		
									4	底面瓦	多	109	遺跡(多)・久末付		
									5	底面瓦	多	110	遺跡(多)・久末付		
									6	底面瓦	多	111	遺跡(多)・久末付		
									7	底面瓦	多	112	遺跡(多)・久末付		
									8	底面瓦	多	113	遺跡(多)・久末付		
									9	底面瓦	多	114	遺跡(多)・久末付		
									10	底面瓦	多	115	遺跡(多)・久末付		

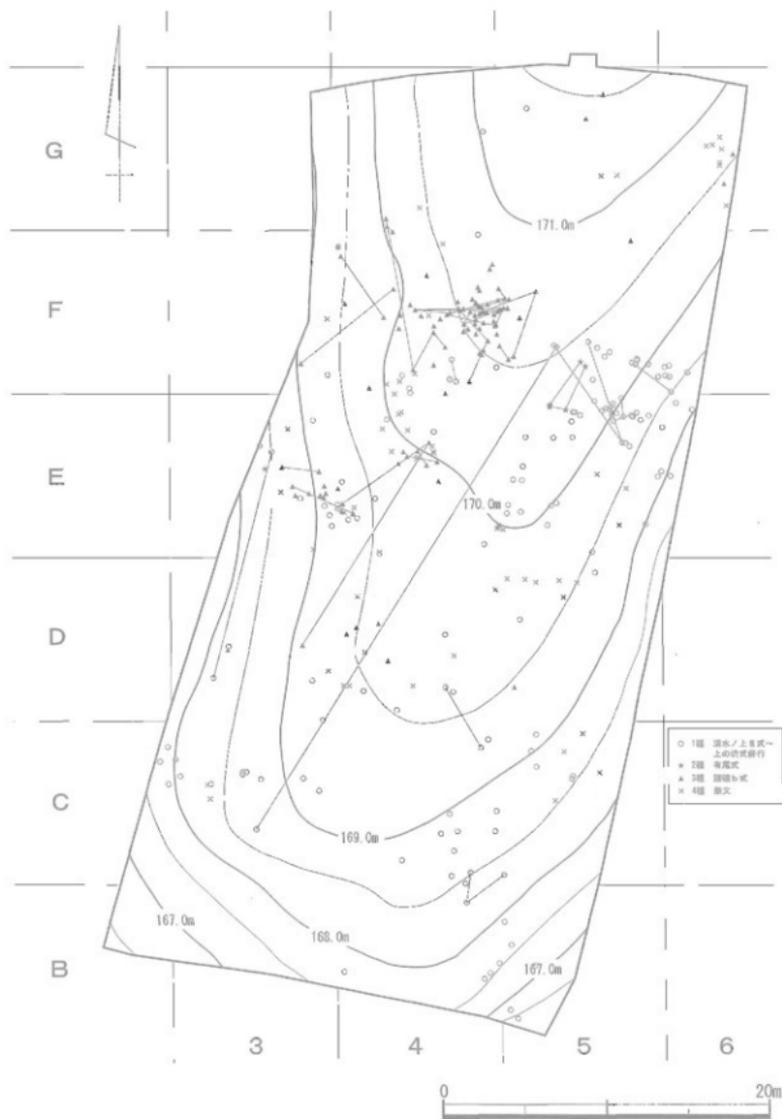


第27図 I 群土器分布

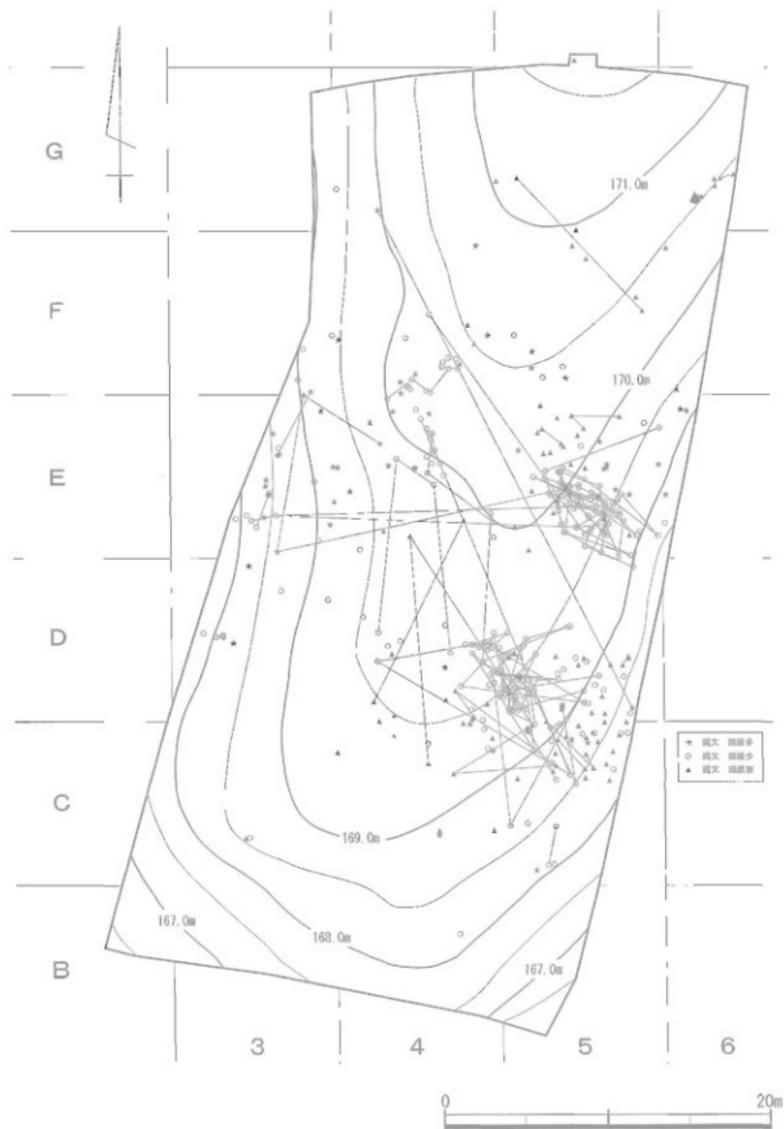




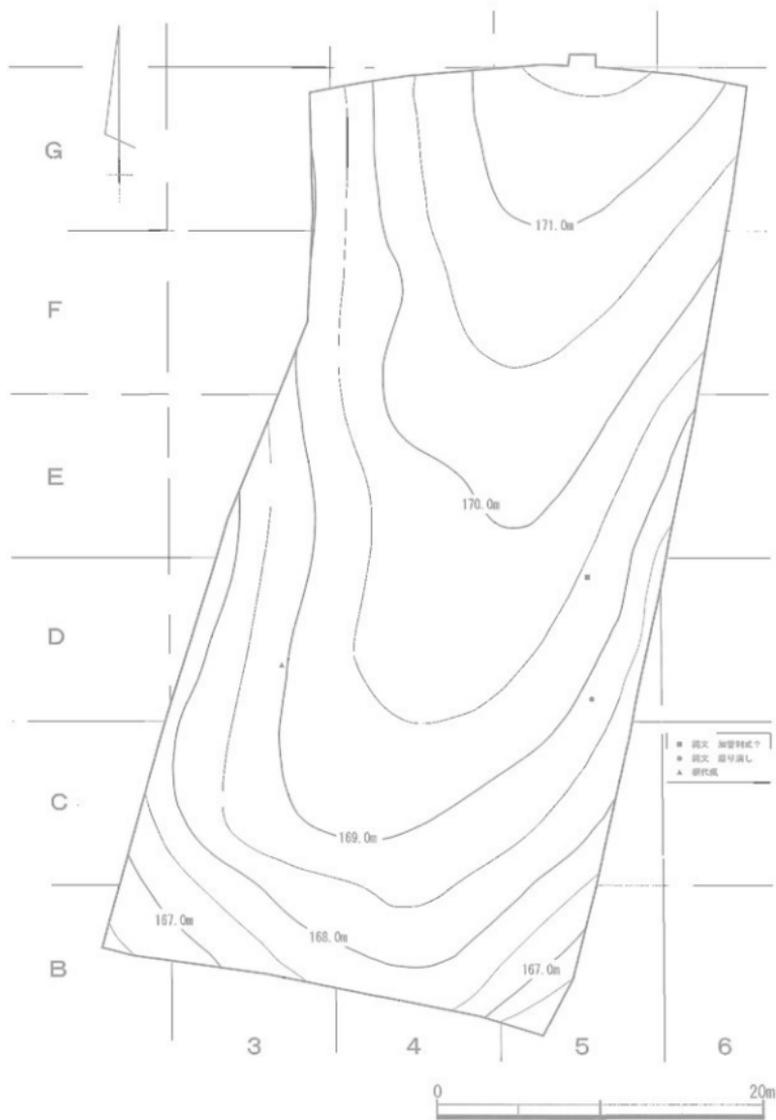
第29図 III群土器分布



第30圖 IV群土器分布



第31図 V群土器分布



第32図 VI群土器分布

## 第I群 草創期 (第33図1～第34図19)

繊維痕が非常に多く、表裏に縄文を施す土器を草創期の土器と分類した。分類上、表裏に縄文を施す土器と①繊維痕、②胎土、③出土点、④色調の似通う土器を草創期に分類し報告する。草創期の土器は調査区D-4・5グリッドを中心に出土した。胎土の傾向として、繊維痕の他、いずれの破片も1mm程度の白色粒子を多量に含み3mm程度の白色岩片を含む。資料が小破片である上、器面の風化による損傷が著しいものが多いため、施文の状況から分類し報告する。なお、草創期に分類した遺物は、器面の風化・摩滅による損傷が著しく、遺物保護の観点及び、損傷のある遺物の文様判読のため3次元レーザー照射による遺物実測、陰影・稜線強調加工を行い、それを基に作図した。

## I群A類 表裏縄文を施すもの(1～3)

1～3は表裏に縄文を施す。いずれも胎土は類似し、L Rの縄文を横位に施文する。2は比較的に長い繊維痕が内外両面に残る。3は尖底部の破片である。特に内面に多量の繊維痕が残る。

## I群B類 縄文を施すもの(4～11)

4～10は外面にL Rの縄文を横位に施文する。4は口縁部の破片である。内面には横方向のナデ痕が残る。口唇部は薄く形成する。2mm程度の赤色粒子を少量含む。6は口縁部の破片である。口唇部には縄文を押捺し、刻みを施す。内面には太い繊維痕が残る。6と5、7と4、8と2～3、9と1はそれぞれ胎土・色調が類似する。10は内外面共に損傷が著しい。2mm程度の赤色粒子を少量含む。

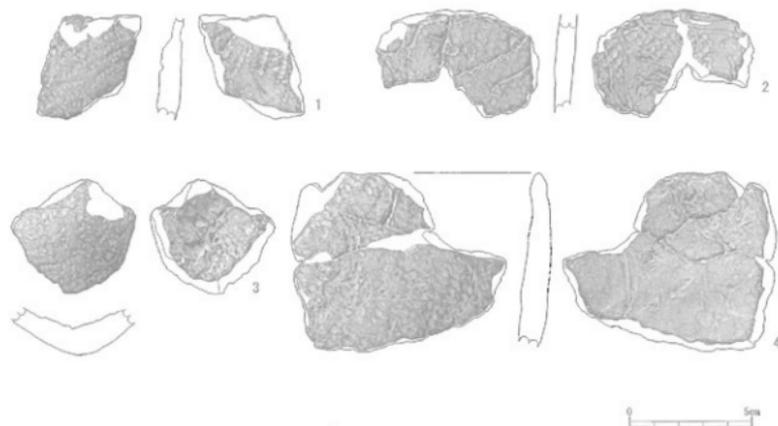
11はRの縄文を横位・斜位に施文する。

## I群C類 撚糸文を施すもの(12・13)

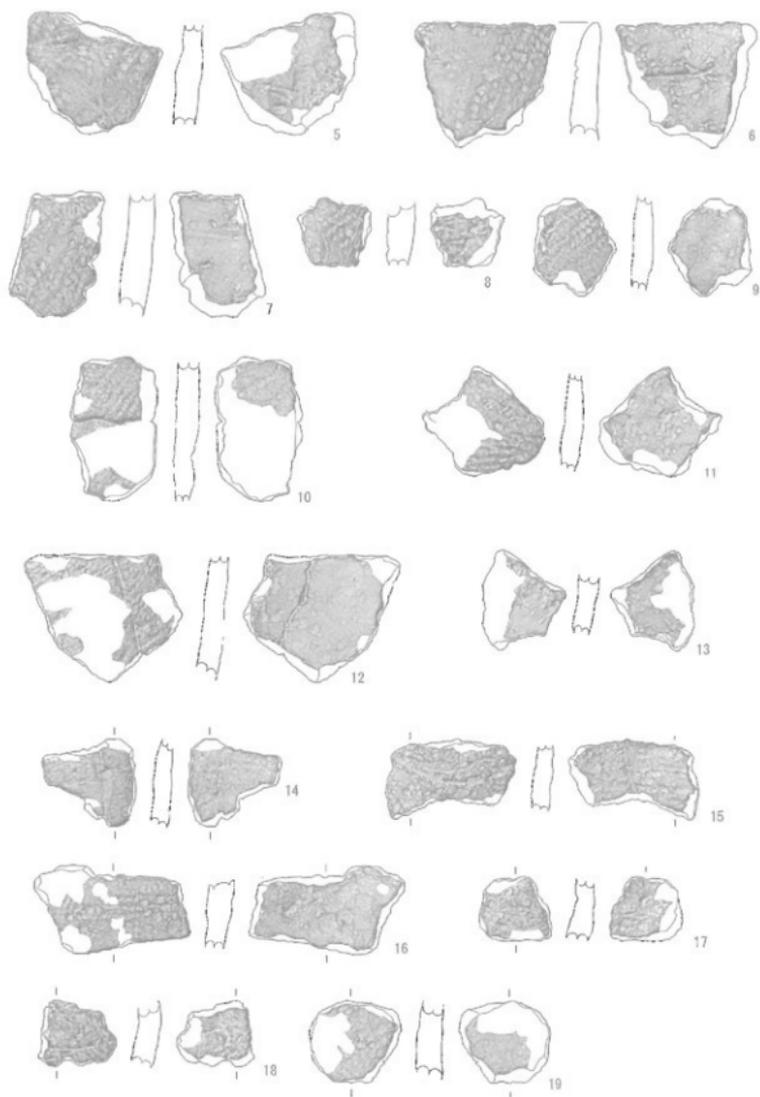
12・13はRの撚糸文を施文する。12は斜位に施文する。12は条の間隔が不揃いであること、節のそれぞれが鮮明に残ることから撚糸文と判断したが、L Rの縄文を横位に施文している可能性もある。13は文様が12に類似するためI群C類としたが、L Rの縄文を施文している可能性もある。

## I群D類 その他(14～19)

14～19は施文状況が判然としない。胎土・色調より、16は4と、17・18は8と、19は9と類似すると思われる。



第33図 出土土器(1) I群



第34图 出土土器(2) I群

## 第II群 早期 (第35図20～第37図39)

## II群A類 摺糸文 (20～21)

20-a・bは同一個体だと考えられ、Rの摺糸原体を斜位に施文する。

21はRの摺糸原体を斜位に施文する。

## II群B類 押型文 (22)

22は山型文の原体を斜位・横位に施文するが、上部の斜位の施文はまばらである。推定径から、底部に近い胴部であると考えられるが、詳細は不明である。

## II群C類1種 鶺鴒ヶ島台式土器 (23)

23は底部を欠失しているが胴部が1/2程度残存していたため復元実測を試みた。復元口径32cm、残存高32.5cm、器壁は厚さ10mm程である。口縁は7単位の波状口縁である。波頭部口唇にはごく浅い皿状の凹みを作る。胴部には2箇所の段を形成する。底部の形状は欠失のため不明である。器体下部無文部分と内面には横方向の貝殻条痕による調整が残る。調整痕は内面中央部が最も細かい。口唇は角頭状で若干内側に傾斜するよう形成し、外面との境目に竹管状工具の胴部押印により刻みを施すと考えられる。文様は口唇と1段目の段の間、1段目と2段目の段の間に施文する。波頭部より縦に細隆起線文を施し、沈線によりその区画の間を埋めるように帯掛け状・弧状の幾何学的な区画文を描く。縦の細隆起線文による区画は3本が対となる。7箇所の縦位の区画線のうち1箇所のみ2本の細隆起線文により区画する。更に区画文の交差した部分を中心に、細い竹管状のL具で一定の間隔に押捺文を施し、更に沈線により空白部を充填する。2段目より下部は無文で底部へつなぐと考えられる。

## II群C類2種 茅山下層式土器 (24～26)

24-a-eは施文状況、胎土及び器形から同一個体である可能性が高い。胎土には多量の繊維を含む。口縁の形状は残存部が少ないため判然としないが平縁だと思われる。胴部には2箇所の段を形成する。胎土及び色調から同一個体である可能性が高い平底の底部未掲載(P-1222)が出土している。器体の内外面に横方向の条痕調整が残る。文様は口縁と1段目の間、1段目と2段目の間に施文する。口唇部内面側には竹管状工具を用い、下方より1列の刺突を施す。口縁と1段目の間は竹管状工具を用い円形及び半円形刺突により斜め格子状に区画する。隣り合わない区画に細い丸棒状工具を用い、斜め下方からの細かい刺突で充填する。1段目と2段目の間は竹管状工具を用いた3列の円形及び半円形刺突によって横長の格子状に区画する。隣り合わない区画に竹管状工具より細い丸棒状工具を用い斜め下方からの細かい刺突で市松模様状に充填する。2段目より下部は無文で底部へつなぐと考えられる。24-bは1段目と2段目の間の文様帯部分だと考えられる。器壁に補修孔と思われる孔を開けている。

なお、器壁に付着していた炭化物の<sup>14</sup>C年代測定を行った。24 (測定番号IAAA-80619) は2σ年代範囲は6016BC-5984BC (93.5%) という結果を得た。(詳細は附録参照)

25は胎土に多量の繊維を含む。口縁は平縁、胴部には2箇所の段を形成する。底部の形状は欠失のため不明である。器体の内外面に横方向の条痕調整が残る。文様は口縁と1段目の間、1段目と2段目の間及びそれぞれの段上に施文する。口縁と1段目の間は、1段目の段の後縁上に及ぶ右上がりの沈線を描く。1段目と2段目の間には縦位に沈線を描く。1段目と2段目の間の沈線は浅くまばらで、部分的にしか描いていない。2段目の段上には丸棒状工具で縦または右上がりの短い刻みを施す。2段目より下部は無文で底部へつなぐと考えられる。

26-a-cは胎土に多量の繊維を含む。残存高13.3cm、器壁は厚さ11～16mm程である。口縁の形状は残存部が少ないため判然としない。胴部には2箇所の段を形成する。底部の形状は欠失のため不明である。器体下部無文部分と内面に横方向の条痕調整が残る。内面の条痕調整は口唇部にまで及ぶ。文様は口縁と1段目の間、1段目と2段目の間、及びそれぞれの段上に施文する。口縁と1段目の間は、L R

の縄文原体を横位に施文した後、沈線によってS字状の文様を鏡写しに交互に描く。1段目と2段目の間はL Rの縄文原体を横位に施文した後、沈線によってS字状の文様を繰り返し描く。S字状の沈線内には施文具による引きずり痕が認められる。2箇所目の段の後縁上に丸棒状工具で縦の短い刻みを施す。2段目より下部は無文で底部へつなぐと考えられる。

#### Ⅱ群C類3種 茅山上層式土器 (27)

27-a-cは施文状況、胎土から同一個体である可能性が高い。胴部に明確な段を形成していない点、縄文を施文する点から茅山上層式土器として分類した。口縁の形状は波状口縁で、波頭部口唇にはごく浅い皿状の凹みを作るものと作らないものとが混在する。配置及び波頭部の数は不明である。胴部には明確な段は存在しない。底部の形状は欠失のため不明である。器面には口縁部から胴部にかけてR Lの縄文を施す。口縁部文様帯は縄文の上に棒状工具により3~4本の沈線でV字形を描き、その下位に横位の沈線を描き胴部と区画する。沈線間の空白部を竹管を用い円形の刺突で充填する。更に横位の沈線の下位に竹管による1列の円形刺突を施す。胴部にはR Lの縄文が残る。

なお、器壁に付着していた炭化物の<sup>14</sup>C年代測定を行った。27 (測定番号IAAA-80618) は2σ暦年代範囲は4457BC-4346BC (95.4%) という結果を得た。(附編参照)

#### Ⅱ群C類4種 柏畑式土器 (28・29)

28-a-cは施文状況、胎土及び器形から同一個体である可能性が高い。器面の色調は灰黄色からにぶい黄褐色でいわゆる東海系土器の色調を呈す。胎土には繊維を多く含む。器壁は厚さ6mm程である。口縁部とわずかな小破片しか出土していないため、器体の形状は不明である。器体内面には横方向の条痕調整が残る。口縁の形状は波状であるが波頭部の数は不明である。波頭部には皿状の突起を作り出し突起の周囲に刻みを施す。口唇部にはへら状工具により刻みが施され、その刻みは皿状突起の直前から器体の内面に回り込み刺突列となって波頭部を横切り、再び皿上突起横の口唇部の刻みへ繋がる。器面には、口縁に沿うようにへら状工具により1列、その下部に更に1列の刺突を施す。下部の刺突列は斜め右上がりに施す。この刺突列は、一見波状に施文するように見えるが、文様は途中で途切れ右下がりの刺突は観察できない。同一個体と考えられる土器片も少なく施文のパターンは判然としにくい。

29-a-dは施文状況、胎土及び器形から同一個体である可能性が高い。器面の色調は灰黄色からにぶい黄褐色で胎土には繊維を多く含む。器壁は厚さ8mm程である。わずかな小破片しか出土していないため、器体の形状は不明である。器体の内外面には横方向の条痕調整が残る。口縁の形状は残存部が少ないため判然としにくい。平縁であると考えられる。器面には、口縁に沿うように細く薄いへら状工具により1列の刺突列を施し、下部にもう1列の刺突を施していると考えられる。29-bの刺突列は途中で途切れる。同一個体と考えられる土器片も少なく施文のパターンは判然としにくい。

#### Ⅱ群C類5種 胎土に繊維を含む無文土器 (30~35)

胎土に繊維を含むことから早期に帰属すると考えられる無文土器をまとめた。ほとんどが断片的な胴部破片の資料であるため、器体の形状は不明である。

(a) 外面に条痕調整の残るもの。(30~33)

4個体全てを図示する。

30・31は繊維を多量に含む。30は焼成不良で脆い。32は繊維を多量に含む、内外両面に条痕調整が残る。33は雲母・繊維を含む。同一個体と考えられる平底の土器片が出土している。底面の推定径は6.0cmである。外面にのみ横・斜位の条痕調整が残る。

(b) 外面に条痕調整のないもの。(34・35)

12個体中2個体を図示する。

34-a-cは胎土及び器形から同一個体である可能性が高い。内面には擦痕による斜方向の調整痕が残る

る。

35は底部の破片で、底面の推定径は6.0cmである。内面には斜方向の条痕調整が残る。

#### Ⅱ群D類 その他(36~39)

早期の土器と考えられるが、A類からC類に分類できない個体を分類した。

36~39は内面に山形文の施文が認められないものの、口縁部の形状と施文の状況及び白色岩片を含む胎土は富士宮市石敷遺跡出土の土器と類似することから、Ⅱ群D類は相木式に併行する土器の可能性がある。

36は口縁部の破片である。残存部は少ないが平縁であると思われる。口唇は薄く外反するように形成する。口縁部に数条の沈線を横位に描き隆帯状の隆起を作り出す。内面には調整による擦痕が残る。隆起した部分に丸棒状工具により連続した縦位の沈線を描く。

37-a・bは胎土・施文の状況から同一個体であると考えられる。36と同じく、口縁部の破片である。口唇は薄く外反するように形成する。口縁部に数条の押し文を横位に施し隆帯状の隆起を作り出す。隆起した部分に丸棒状工具により連続した縦位の沈線を描く。37-aは器壁に補修孔と思われる孔を開けている。

38-a・bは胎土・施文の状況から同一個体であると考えられる。破片上部には数条の沈線を横位に施し隆帯状の隆起を作り出す。破片下部には斜位に押し文を施している。

39-a~cは胴部の破片である。胎土・施文の状況から同一個体であると考えられる。破片上部には横位に棒状工具により1本の沈線を描き、それに直行するように連続した沈線を描く。縦位の沈線の下位には半截竹管状の工具により斜位に押し文を施す。

### 第Ⅲ群 早期末~前期初頭(第37図40・41)

#### Ⅲ群A類1種 下吉井式土器(40-a・b)

40-a・bは胴部の破片である。文様帯にあたる破片は2点のみの出土であるため、器体の形状は不明であるが、胎土・施文の状況から下吉井式土器として分類した。器体の外面下部には横方向の擦痕が残る。破片上部には隆帯を貼り付けその上位に押し文を施す。隆帯の貼り付け方は粗雑で、紐状の粘土を付けるのみで器面になじませていない部分が残る。押し文は隆帯の際から離れ、曲線を描くと推測される。

#### Ⅲ群B類2種 木島式土器(41)

わずかな小破片しか出土していないため、器体の形状は不明であるが、胎土・器厚・施文の状況から東海系のいわゆる「おせんべい土器」の特徴を備えるため木島式土器として分類した。41は胴部の破片である。器面の色調は暗灰黄色からぶい黄色で胎土には微量の繊維を含む。胎土は細かく、白色粒子・石英が多く含まれ、焼成も良い。器壁は厚さ5mm程と薄手である。器体の内面には横・斜位の条痕調整が残る。外面に連続した浅い指頭圧痕が残る、その上から縦位の細線文を施す。

### 第Ⅳ群 前期(第38図42~第39図60)

#### Ⅳ群1種 清水ノ上Ⅱ式~上の坊式併行の土器(42~56)

棒状・ヘラ状工具を用い刺突列を施し文様帯を形成する土器を、清水ノ上Ⅱ式~上の坊式に併行する土器として分類した。底部の破片は見つからず、口縁部及び胴部の破片のみ出土した。16個体中15個体を図示する。器面の色調は赤褐色~橙色である。42~49・51・52は胎土に白色岩片を含む。42~44・46・48~50は繊維を少量含む。42~53・55は焼成も良好である。54・56は石英を多く含み脆い。器面の色調は黒褐色で他の土器とは胎土の違いが明確である。

42~50は口縁部から胴部に右上がりの刺突を施す。

42～44は口唇部に刻みを施し、胴部には比較的細い工具を用いてひっかくように刺突を施す。

45～50は比較的幅のあるヘラ状工具を用いて刺突する。47～49は刺突する際、工具を少し横にずらすように押しつけて施文する。47は口唇部に刻みを施す。

51a・b、52は先端が方形に近い棒状工具を用い縦位に刺突する。

53は比較的器面に垂直な刺突が施されている。刺突具の先が3つに分かれており刺突孔には3つの瘤がある。54a～c、55はヘラ状工具の角を用いた点状の刺突と棒状の刺突を組み合わせる。55、56は右上がりの刺突と左上がりの刺突を施し矢羽根状に施文する。

なお、42、49、53、54は、器壁に付着していた炭化物の<sup>14</sup>C年代測定を行った。2σ暦年代範囲は、42(測定番号IAAA-80623)は4525BC-4363BC(95.4%)、49(測定番号IAAA-80620)は4497BC-4357BC(95.4%)、53(測定番号IAAA-80621)は4489BC-4352BC(95.4%)、54(測定番号IAAA-80622)は4453BC-4344BC(95.4%)という結果を得た。(附屬参照)

IV群1種から採取した試料の4点は前期に帰属し最大幅でも181年の間に収まる結果となった。なお、清水ノ上Ⅱ式～上の坊式併行の土器の類例は駿東郡長泉町中見代遺跡・東野Ⅱ遺跡が挙げられる。

#### IV群2種 有尾式土器(57)

57-a・bは胎土・施文の状況から同一個体である可能性が高い。57-aは口縁部から胴部の破片である。器体下部が欠失しているため全体形状は不明であるが、施文の状況から有尾式土器として分類した。胎土には繊維を多く含んでいる。器壁は厚さ6mm程である。口縁部の形状は波状であるが波頭部の数は不明である。口唇部は角頭状で若干内傾するように形成する。口縁部に歯状工具を縦位に用い列点状刺突文を施す。縦位の列点状刺突文の下位の菱形文様は、半截竹管状の工具を用い平行沈線を描き、更に3列の列点状刺突文を施す。歯状工具は9本1単位だと考えられる。57-bは菱形文様下位にあたるくびれの位置にあたると思われる。

#### IV群3種 諸磯b式土器(58～60)

浮線文、平行沈線を有するものを諸磯b式土器として分類した。4個体中3個体を図示する。

58-a～dは胎土・施文の状況から同一個体である可能性が高い。出土した資料は全て胴部の破片である。断片的な資料であるため器体の形状は不明である。器体外面にはRLの縄文を地文とし、半截竹管状の工具を用い2本から4本の平行沈線により文様を描く。沈線内には同様の工具を用いて連続した爪形文を施す。

59は最大復元径26.8cm、残存高7.5cm、器壁は厚さ10mm程である。器形は2つの段を持つ浅鉢であると考えられる。口縁部内面、口唇部から1.5cm程の位置には一見沈線のようにも見える輪積痕が残る。口縁部は大きく内側に屈曲し、口縁部に沿うように1cm～1.5cm程の間隔で貫通孔を巡らす。貫通孔に沿うように器面をナデ、隆起した部分にヘラ状工具を用いて刺突を施す。口唇部は内割ぎ状でゆるやかな波状を描くように見えるが判然としない。口縁部と各段の間には半截竹管状の工具を用いた平行沈線により木の葉形文、変形繁ぎ手文を施す。沈線内はヘラ状工具による刺突によって充填する。各文様帯の木の葉形文の外側には1本の沈線を横位に描く。それを軸とするようにヘラ状工具により矢羽根状の刺突を施す。2つめの段はそのまま底部につながると考えられる。同一個体の底部の可能性の高い資料も出土しているが接合せず、底部につながる部分の形状は不明である。

60-a～dは胎土・器形及び施文の状況から同一個体である可能性が高い。最大復元径30.2cm、残存高23.2cm、器壁は厚さ11mm程である。器形は、口縁部が外反し、口縁部から底部までは緩やかにすぼみ深鉢であるとされる。胴部から底部の資料も出土しているが接合していない。口縁部は角頭状の平縁である。口唇部に残る輪積痕から接合した口縁部は角頭状の口唇を形成した後、突起状の装飾を貼り付けていると考えられるが欠失のため突起の形状及び数は不明である。口唇の下位には半截竹管状の工具

を用いて横位の平行沈線を4本描き、描いた沈線上に更に押し引状の連続刺突を施す。2組の平行沈線の間には半載竹管状工具の外を用いて刺突を施す。2本の沈線間には他の器面より盛り上がっているが、平行沈線を描く前に沈線間を盛り上げているのか隆帯を巡らせているのかは不明である。横位の沈線の下位には半載竹管状の工具を用いた平行沈線により木の葉形文を描く。木の葉形文の下位に再び半載竹管状の工具を用いて横位の平行沈線を4本描き、描いた沈線上に更に押し引状の連続刺突を施す。2組の平行沈線の間には半載竹管状工具の外を用いて刺突を施し、その下位に木の葉形文を描く。木の葉形文の下位には半載竹管状の工具を用いて横位の平行沈線を2本描き区画する。文様帯の下位にはR Lの縄文原体を横位に施文する。同一個体と考えられる底部付近の土器片が出土している。底部は平底で立ち上がりやや丸みを帯びる。

#### IV群4種 無文（未掲載）

胎土内の繊維痕が少ない、または繊維痕が無い無文土器を分類した。ここでは22個体に分類したが、器体形状が判断できる資料は無く、全点未掲載とした。

#### 第V群 早期～前期（第40図61～第42図91）

早期～前期の土器に併行すると考えられる縄文土器を分類した。細分は胎土内の繊維によって大別、縄文原体・施文方向により小別した。37個体中31個体を図示する。

##### V群A類（a）繊維痕有（61～83）

61～70は明確に繊維痕が認められる。

61・62はL Rの縄文原体を異方向に施文する。

63はL Rの縄文原体を横位に施文する。

64～68・P-1767他は、R Lの縄文原体を横位に施文する。

69はR Lの縄文原体を異方向に施文する。

70は器面の摩滅が著しい。縄文を羽状に施文していると思われるが、器面摩滅のため原体は特定できない。結節の有無も観察できない。

71～84は前述の土器に比べ繊維痕が少ない。

71はRの縄文原体を異方向に施文する。最大復元径31.4cm、残存高42.6cm、器壁は厚さ85mm程である。底部欠失のため全体形状は不明である。口縁部は若干広がる。8単位のゆるやかな波状縁で、向かい合う2箇所を波頭部にのみ刻みを施す。内外面には至る所に指頭圧痕が残る。

72-a・bは胎土・施文状況から同一個体である可能性が高い。L Rの縄文原体の撚りに沿って1の縄文原体を2本巻き付けた付加条縄文を横位に施文する。口縁の形状は平縁だと考えられる。底部の推定復元径は10.0cm、全体形状は不明である。

73はL Rの縄文を横位に施す。外面にはススが附着する。

74は口縁部の破片である。L Rの縄文を横位に施す。口唇にはL Rの縄文原体の端部を押捺する。内面は横方向にナデている。

75a・bは胎土・施文状況から同一個体である可能性が高い。L Rの縄文を横位に施す。

76はL Rの縄文を横位に施す。

77は口唇部の破片である。L Rの縄文原体を横位に施文する。

78は口唇部の破片である。L Rの縄文原体を縦位に施文する。

79はL Rの縄文を左上-右下方向の斜位に施文する。内面は横方向のナデ痕が残る。

未掲載（P-842）はL Rの縄文原体を左上-右下方向の斜位に施文する。

80は推定復元径は24.6cm、残存高27.5cm器壁は厚さ10mm程である。内面は横方向のナデ痕が残る。口

縁部は平縁か線やかな波状口縁のであると考えられるが、残存部位がわずかであるため判然としない。底部の形状も不明である。R Lの縄文原体を横方向に施文する。

81はR Lの縄文原体を、縦・斜位に施文する。

82はR Lの縄文原体を横位に施文する。

83は口縁部の破片である。R Lの縄文原体を横・縦位に羽状に施文する。内面にはナデによる調整を行う。口唇部にはLの縄文原体を押捺する。

V群A類 (b) 縦縞痕無 (84~91)

84~88・未掲載 (P-4582) は縦縞痕が観察できない。

84はLの縄文原体を押圧施文する。

85はRの縄文原体を異方向に施文する。

未掲載 (P-4582) は小破片のため施文方向は不明である。

85は胎土に雲母を含む。最大復元径30.0cm、残存高26.0cm、器壁は厚さ7mm程である。口縁はわずかに波打つように見えるが、判然としない。底部も欠失のため全体形状は不明である。内面には調整による擦痕が残る。

なお、85は器壁に付着していた炭化物の<sup>14</sup>C年代測定を行った。85 (測定番号IAAA-80624) は2σ暦年代範囲は4330BC-4223BC (55.6%) という結果を得た。(附編参照)

86はL R前段然り戻しの縄文原体を横位に施文する。

87・88はL Rの縄文原体を横位に施文する。共に内面に調整による擦痕が認められる。

89・90・未掲載 (P-89) はR Lの縄文原体を横位に施文する。

91は底部である。外面上部に縄文と思われる痕が認められるためV群に分類した。断面には輪積痕が認められる。縄文原体は無節Lの縄文原体を横位に施文しているように見えるが、詳細は不明である。底部には木葉痕が残る。底部の推定径は8.2cm、器壁は厚さ13mm程である。若干の上げ底状を呈するが、焼成時の焼き締まりの結果と考えられる。

#### 第VI群 中期~後期 (第42図92~94)

中期~後期に属すると考えられる土器は、出土点数が少なく小破片の為、詳細な時期については言及できない。まとまった資料は出土していない。

VI群1種 (a) 縄文を伴う (92・93)

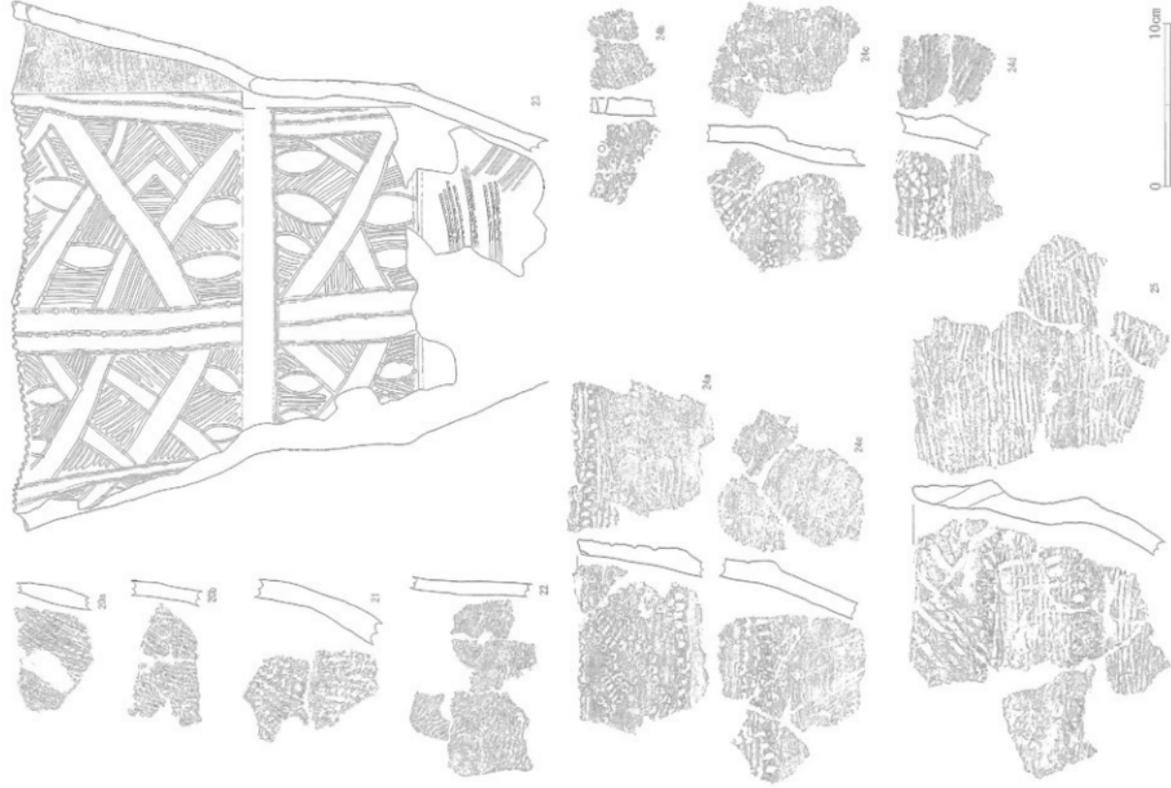
中期と考えられるが、燔属時期の不明な縄文土器をここにまとめた。

92はL Rの縄文を横位に施文する。

93はL Rの縄文を縦位に施文し、その上に沈線により文様を描く。掲載した小片のみの出土であるため詳細は不明である。

VI群2種 (b) 網代痕 (94)

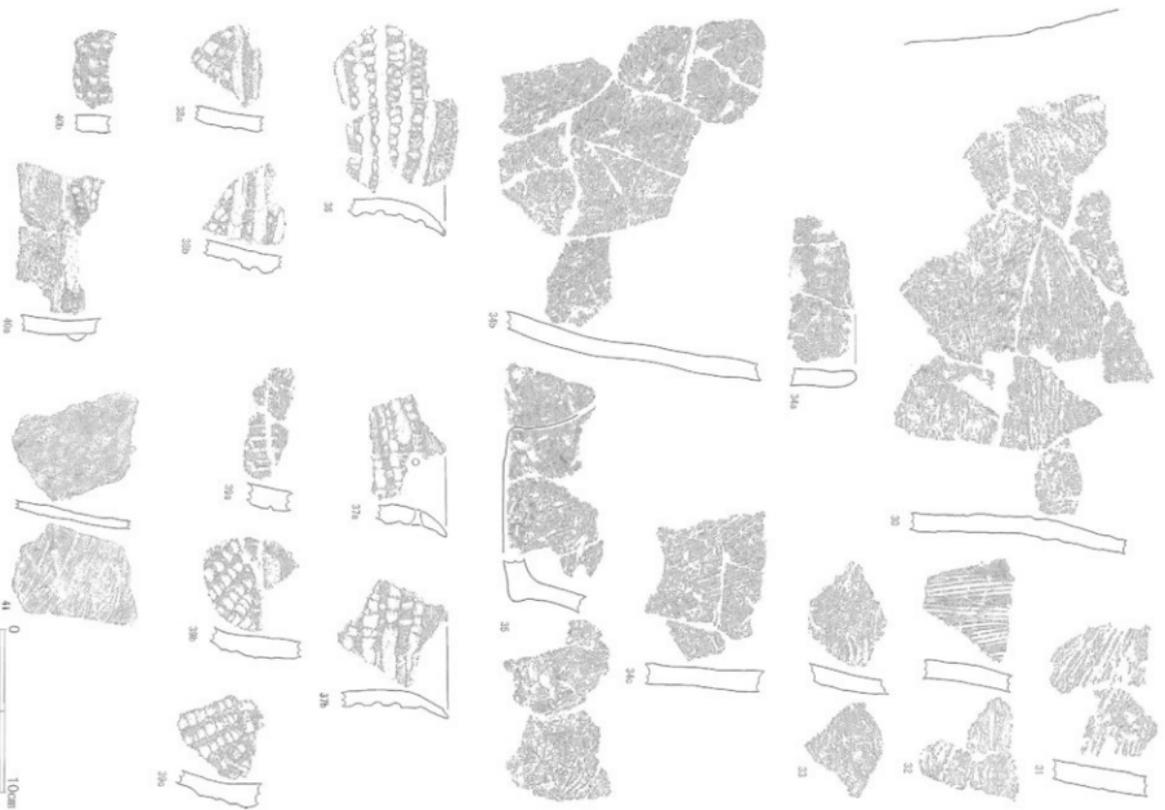
94は土器の底部である。VI群中期~後期に分類したが、詳細は不明である。底部の推定径は8.7cm、器厚は9mm程である。



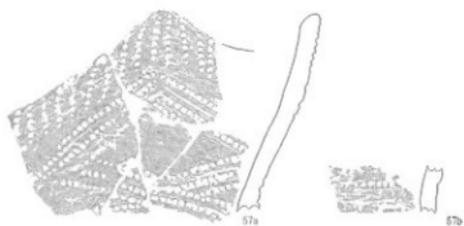
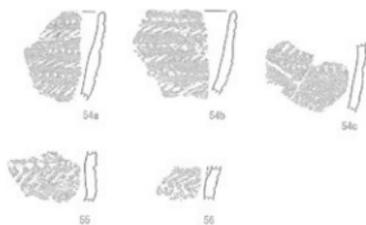
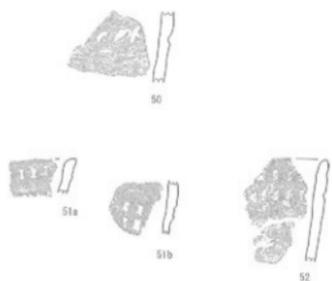
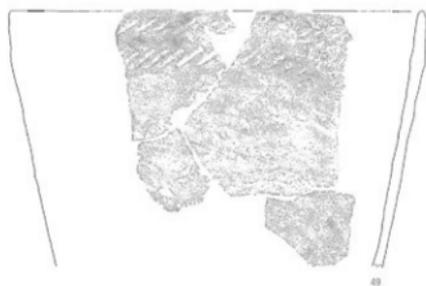
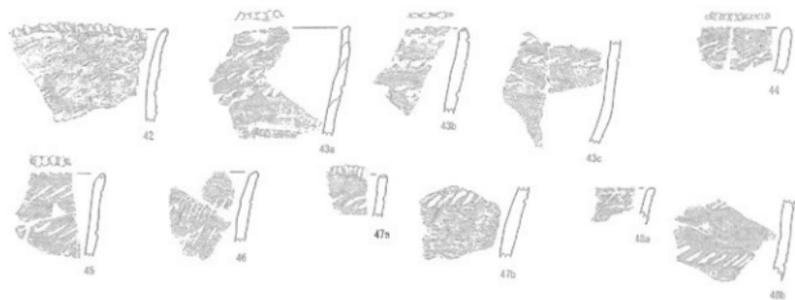
第35図 出土器(3) II群



第36圖 出土土器(4) II群



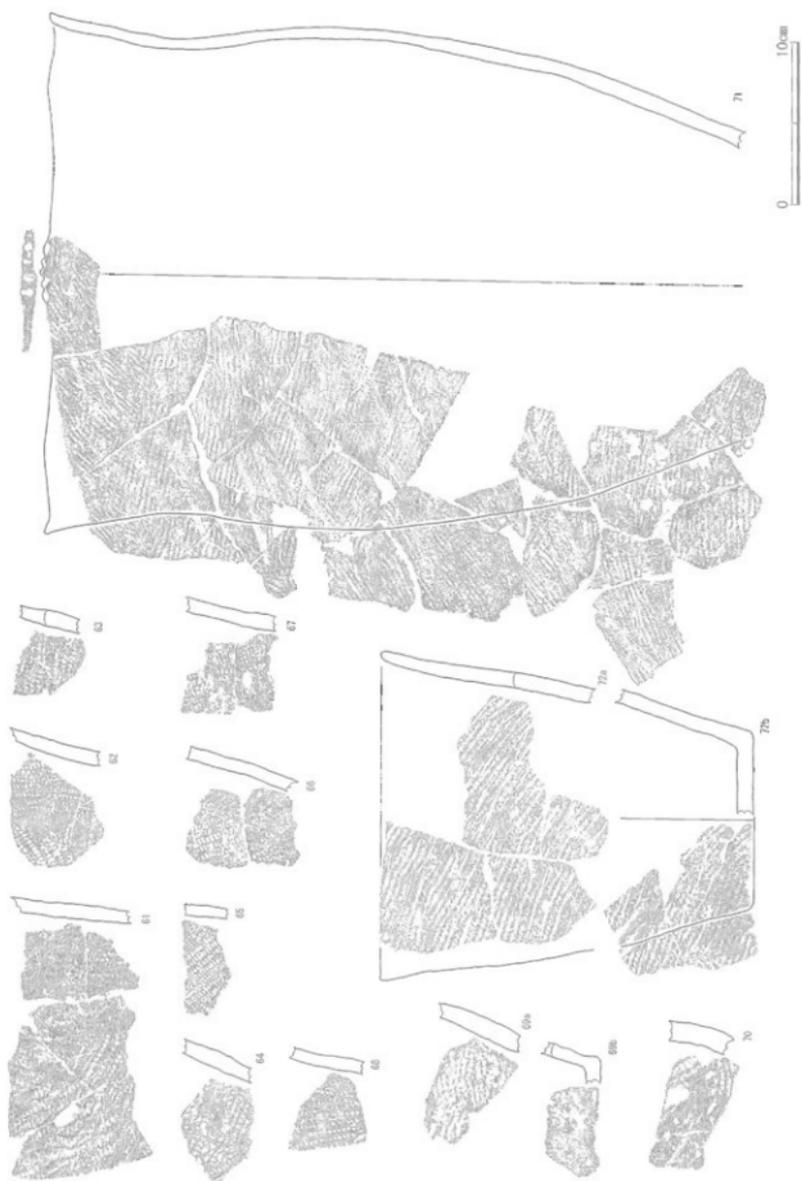
第37図 出土土器(5)Ⅱ・Ⅲ群



第38圖 出土土器(6)IV群

第39圖 出土土器(7)IV群





第40圖 出土土器(8) V群



第41図 出土土器(9) V群



第42圖 出土土器(10) V・VI群

第16表 縄文土器観察資料

序番号	種類	形式	器式	文様・特徴等	色調	材質 内装	胎地	副産品
1	草履形	草履形	-	底の縄文文様。	2. 598/0 黄 2. 598/1 黄緑		灰質、黒色砂子、赤色薄片、黄片	多
2	草履形	草履形	-	底の縄文文様。内外面に黒い縦線。	2. 598/0 黄緑 2. 598/1 黄緑		灰質、黒色砂子、白色薄片	多
3	草履形	草履形	-	底の縄文文様。内面に少量の縦線。	1. 598/0 黄 2. 598/1 黄緑		灰質、黒色砂子、白色薄片、黄片	多
4	草履形	瓶状	-	内面に黒い斜格子。底の縄文文様。	598/1 黄 598/1 黄		灰質、黒色砂子、赤色砂子、白色薄片	多
5	草履形	瓶状	-	口縁部に縄文文様・黒点。底の縄文文様。内面に黒い縦線。	2. 598/4 白っぽい黄 2. 598/4 白っぽい黄		灰質、黒色砂子、赤色砂子、黄片	多
7	草履形	瓶状	-	底の縄文文様。	1. 598/0 黄 2. 598/1 黄緑		灰質、黒石、黄砂、白色薄片、黄片	多
8	草履形	瓶状	-	底の縄文文様。	2. 598/0 黄緑 2. 598/1 黄緑		黒色砂子、赤色砂子、赤色薄片	多
9	草履形	瓶状	-	底の縄文文様。	2. 598/0 黄 2. 598/1 黄緑		黄質、黒石、白色薄片、赤色薄片、灰色薄片	多
10	草履形	瓶状	-	底の縄文文様。	598/4 白っぽい黄 598/1 黄		灰質、内肉片、黒石、赤色砂子、赤色薄片	多
11	草履形	瓶状	-	底の縄文文様・縦線。	598/1 黄 598/1 黄		黒色砂子、白色薄片	多
12	草履形	瓶状	-	底の縄文文様。	2. 598/2 白っぽい黄 2. 598/2 黄緑		黒色砂子、赤色砂子、白色薄片、赤色薄片	多
13	草履形	瓶状	-	底の縄文文様。口部の縄文の可能性あり。	1. 598/1 黄 2. 598/2 黄緑		灰質、黒石、黄砂、白色薄片	多
14	草履形	その他	-	縄文平刷	2. 598/2 黄緑 2. 598/1 黄緑		灰質、黒石、白色薄片	多
15	草履形	その他	-	縄文平刷	2. 598/0 黄 2. 598/4 白っぽい黄		灰質、赤色砂子、黒砂、白色薄片	多
16	草履形	その他	-	縄文平刷	598/4 白っぽい黄 598/1 黄		灰質、黒色砂子、赤色薄片	多
17	草履形	その他	-	縄文平刷	598/4 黄砂質 598/4 黄		黄質、白色砂子、赤色薄片	多
18	草履形	その他	-	縄文平刷	2. 598/4 白っぽい黄 2. 598/1 黄		黄質、赤色砂子、白色薄片、赤色薄片	多
19	草履形	その他	-	縄文平刷	1098/4 白っぽい黄 2. 598/4 黄		黒色砂子、赤色砂子、白色薄片、灰色薄片	多
20	草履形	瓶状	-	底の縄文文様。入り付。	2. 598/4 黄 1/3割付 2. 598/4 黄		赤色砂子、黒色砂子、赤色砂子、赤色薄片、灰色薄片	多
21	草履形	瓶状	-	底の縄文文様。	598/0 黄砂質 598/2 黄砂質		白色砂子、黒色砂子、赤色薄片	多
22	草履形	瓶状	-	山口標式文様・斜線。入り付。	598/2 黄砂質 598/2 黄砂質		赤色砂子、黒色砂子、黒砂 (少)	少
23	草履形	瓶状	瓶ヶ丘標式	頸部白線。赤点縦線。口縁部に黒点。黒線部に黒点の欠片。黒点部・口部・頸部に。縦線欠片。	598/4 白っぽい黄 598/4 白っぽい黄		灰質、黒石、黒石、赤色砂子、白色薄片	多
24	草履形	草履形	瓶ヶ丘上層式	赤点縦線。竹管部・丸形状頸部。頸部欠片。入り付。	598/4 黄砂質 598/4 黄砂質		灰質、黒石、赤色砂子、白色薄片、黄片	多
25	草履形	草履形	瓶ヶ丘上層式	頸部。赤点縦線。次期。頸部に黒点。入り付。	598/4 黄砂質 598/4 黄砂質		白色砂子、黒色砂子、赤色砂子、白色薄片、黄片	多
26	草履形	草履形	瓶ヶ丘上層式	赤点縦線。底の縄文文様。次期平文様。頸部に黒点。	598/4 黄砂質 598/4 黄砂質		赤色砂子、黄砂、黒砂	多
27	草履形	草履形	瓶ヶ丘上層式	頸部白線。赤点縦線に黒点の欠片。黒点部・口部・頸部に。縦線欠片。入り付。	598/4 黄砂質 598/4 白っぽい黄		灰質、黒石、黒砂 (少)、白色薄片、灰色薄片	多
28	草履形	草履形	瓶ヶ丘式	頸部白線・赤点縦線。赤点縦線。口縁部に黒点。頸部。	1098/4 黄砂質 2. 598/2 白っぽい黄		黄質、黒石、赤色薄片	多
29	草履形	草履形	瓶ヶ丘式	頸部。内外面に赤点縦線。頸部。	598/4 黄砂質 598/4 白っぽい黄		黄質、黒色砂子、白色薄片	多
30	草履形	草履形	瓶ヶ丘式不明	外面に赤点縦線。頸部不肖。	2. 598/4 黄 2. 598/0 黄		赤色砂子、黄砂、白色薄片、黄片	多
31	草履形	草履形	瓶ヶ丘式不明	外面に赤点縦線。	2. 598/0 黄砂質 2. 598/1 黄砂質		白色砂子、黒色砂子、赤色砂子、赤色薄片、黄片	多
32	草履形	草履形	瓶ヶ丘式不明	内外面に赤点縦線。	598/4 黄砂質 598/4 黄砂質		黒砂、内肉片、黒砂 (少)、白色薄片	少
34	草履形	草履形	瓶ヶ丘式不明	頸部による赤点の縦線。	2. 598/0 黄砂質 2. 598/4 白っぽい黄		赤色砂子、黒色砂子、白色薄片、黄片	多
35	草履形	草履形	瓶ヶ丘式不明	内面に赤点の縦線。	2. 598/0 黄砂質 2. 598/4 黄砂質		灰質、黒色砂子、赤色砂子、赤色薄片、黄片	多
36	草履形	その他	瓶ヶ丘式 瓶ヶ丘式	平底。内面に黒点に上毛筋線。黒点部に黒点の縦線。黒点部・口部・頸部に黒点の縦線。頸部に黒点。頸部欠片。入り付。	598/4 黄砂質 598/4 黄砂質		灰質、黒石、黒石、赤色砂子、白色薄片	多
37	草履形	その他	瓶ヶ丘式 瓶ヶ丘式	口縁部に黒点。頸部に次期で黄砂質の縦線。頸部。頸部欠片。入り付。	2. 598/4 白っぽい黄 2. 598/4 白っぽい黄		灰質、黒色砂子、白色薄片	多
38	草履形	その他	瓶ヶ丘式 瓶ヶ丘式	頸部に白線の黒点で黄砂質の縦線。頸部。頸部欠片。入り付。	598/4 黄砂質 598/2 黄砂質		灰質、黒色砂子、赤色薄片	多
39	草履形	その他	瓶ヶ丘式 瓶ヶ丘式	頸部に黒点に黒点で黄砂質の縦線。頸部。頸部欠片。入り付。	598/4 黄砂質 598/4 黄砂質		灰質、黒石、赤色砂子、赤色薄片、白色薄片、黄片	少
40	草履形	草履形	瓶ヶ丘式	頸部の黒点に黒点で黄砂質の縦線。頸部。頸部欠片。入り付。	598/4 白っぽい黄 598/0 黄砂質		灰質、黒色砂子、内肉片、白色薄片	少
41	草履形	瓶状	白土式	外面に赤点縦線。外面に黒い縦線。縦線文。	2. 598/2 黄砂質 2. 598/4 白っぽい黄		黄質、白色砂子	少
42	瓶状	-	高水ノ上層式 →上の形式移行	D型に類似。右上がり口の頸部。入り付。	598/2 黄砂質 598/4 黄砂質		灰質、黒色砂子、赤色薄片	少
43	瓶状	-	高水ノ上層式 →上の形式移行	C型に類似。右上がり口の頸部。	2. 598/6 黄 2. 598/6 黄		黄質、内肉片、赤色砂子、白色薄片	少
44	瓶状	-	高水ノ上層式 →上の形式移行	D型に類似。右上がり口の頸部。	598/4 白っぽい黄 1098/4 白っぽい黄		灰質、内肉片、白色薄片	少
45	瓶状	-	高水ノ上層式 →上の形式移行	D型に類似。右上がり口の頸部。	2. 598/4 黄 2. 598/4 黄		灰質、黒石、黄砂、赤色砂子、白色薄片	多
46	瓶状	-	高水ノ上層式 →上の形式移行	右上がり口の頸部。	2. 598/4 黄 2. 598/4 黄		灰質、黄質、内肉片、赤色薄片	少
47	瓶状	-	高水ノ上層式 →上の形式移行	D型に類似。右上がり口の頸部。	598/4 黄砂質 598/4 黄砂質		灰質、内肉片、白色薄片	少
48	瓶状	-	高水ノ上層式 →上の形式移行	右上がり口の頸部。	598/4 黄砂質 598/4 黄砂質		灰質、内肉片、赤色薄片	少



## (2) 石器 (第48図～第61図)

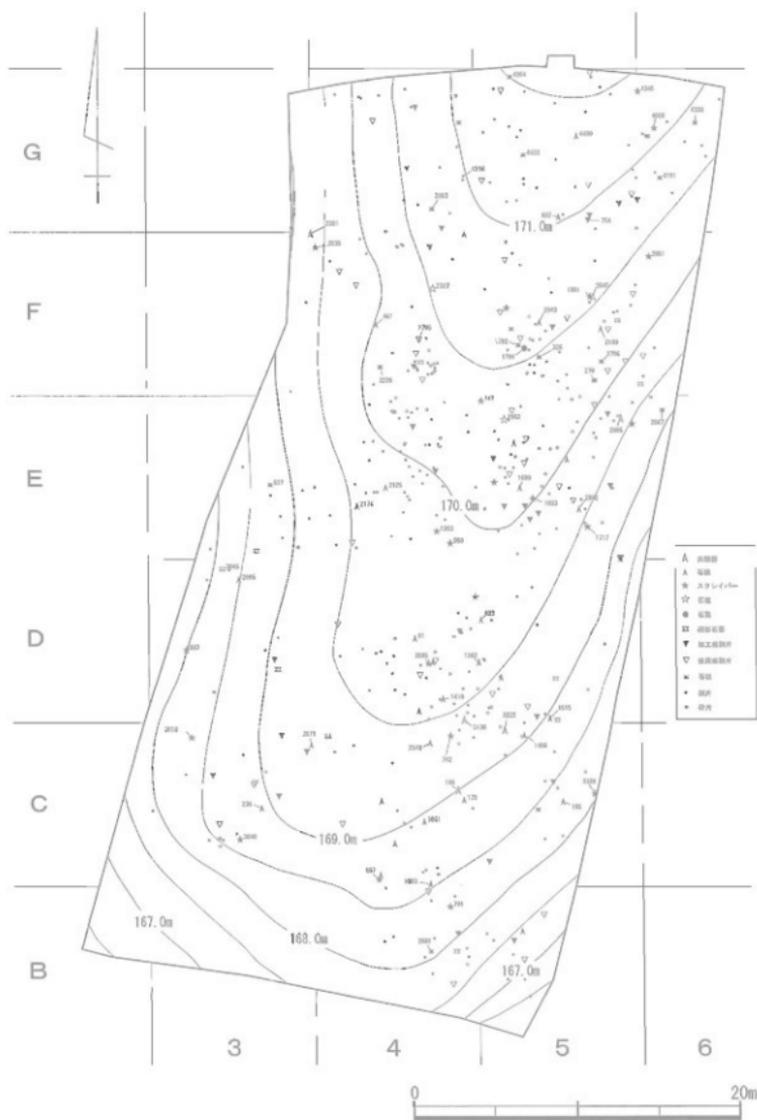
縄文時代包含層の石器は599点出土し、剥片石器90点、礫石器44点を図化した。

遺物は漸移層、富士黒土層を中心にその前後の層からも出土している。出土土層の様相から主に縄文時代草創期～前期の遺物であると考えられるが、層位も不安定で遺跡全体に拡散して出土しており時期は明確ではない。以下器種別に分類し報告する。

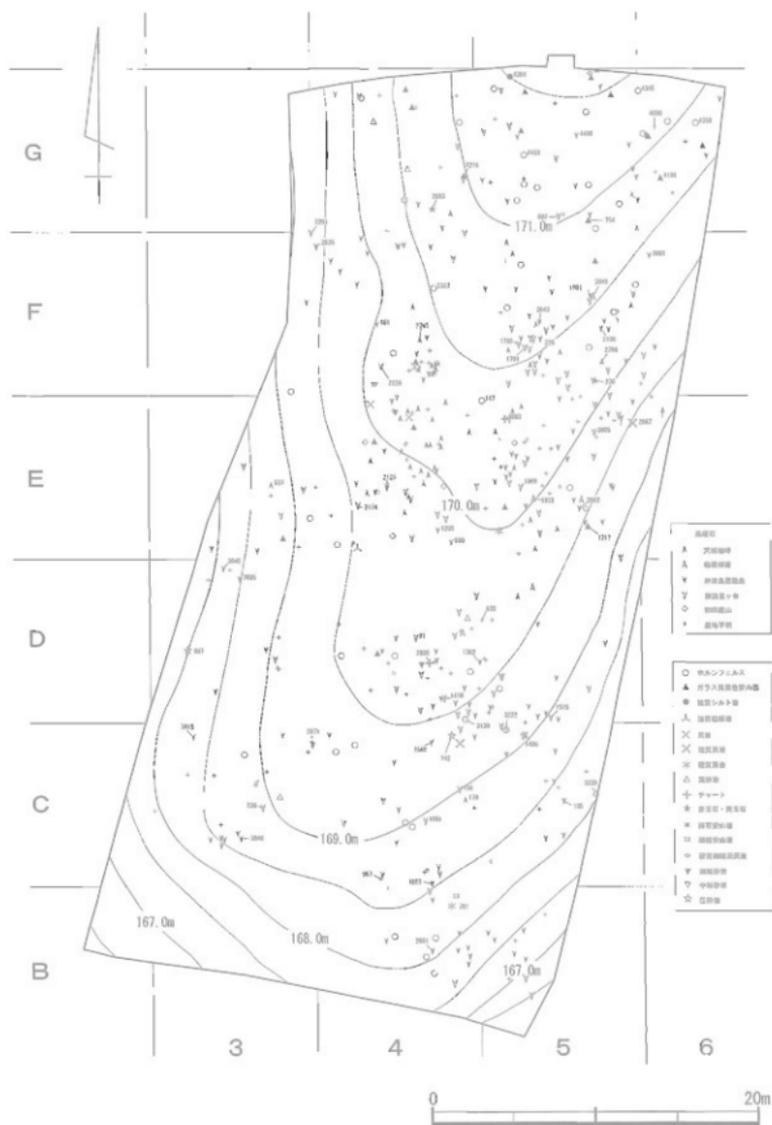
第17表 縄文時代石器組成

	原産石						ノメウ	Mg	Ca	Yba	Fba	An (Py)	An (G)	Yba	Si	Ga	Da	Ch
	天城山砂岩	御油砂岩	御油層下砂岩	御油層上砂岩	御油層下粘板岩	御油層上粘板岩												
考古学分類																		
尖頭器			2			1												
石鏃	1	17			1	14	1											
石鏃先端品						1	1											
スクレイパー		4	1			8	2										1	
石匙			1															
石鏃																	1	
磨製石鏃						7	3											
加工産剥片	1		2			14	7											
使用産剥片	5		13			16	10											
剥片	37	5	46		4	74	88				2	1						
砕片	8		9			19	25											
石核	4		3			2	1											
磨製石鏃																		
磨製石鏃先端品																		
打製石鏃																		
打製石鏃先端品																		
石鏃																		
磨石・磨石鏃	1							2	2	3	20	1	3	1	2	1	1	
磨石											1							
磨石・石鏃鏃										1	6							
磨石																		
合計	54	5	94	0	5	196	110	8	2	3	5	26	2	3	1	3	1	3
石材比率	9.0%	0.8%	15.7%	0.0%	0.8%	25.0%	19.7%	0.8%	0.2%	0.5%	0.8%	4.0%	0.2%	0.8%	0.2%	0.5%	0.2%	0.5%

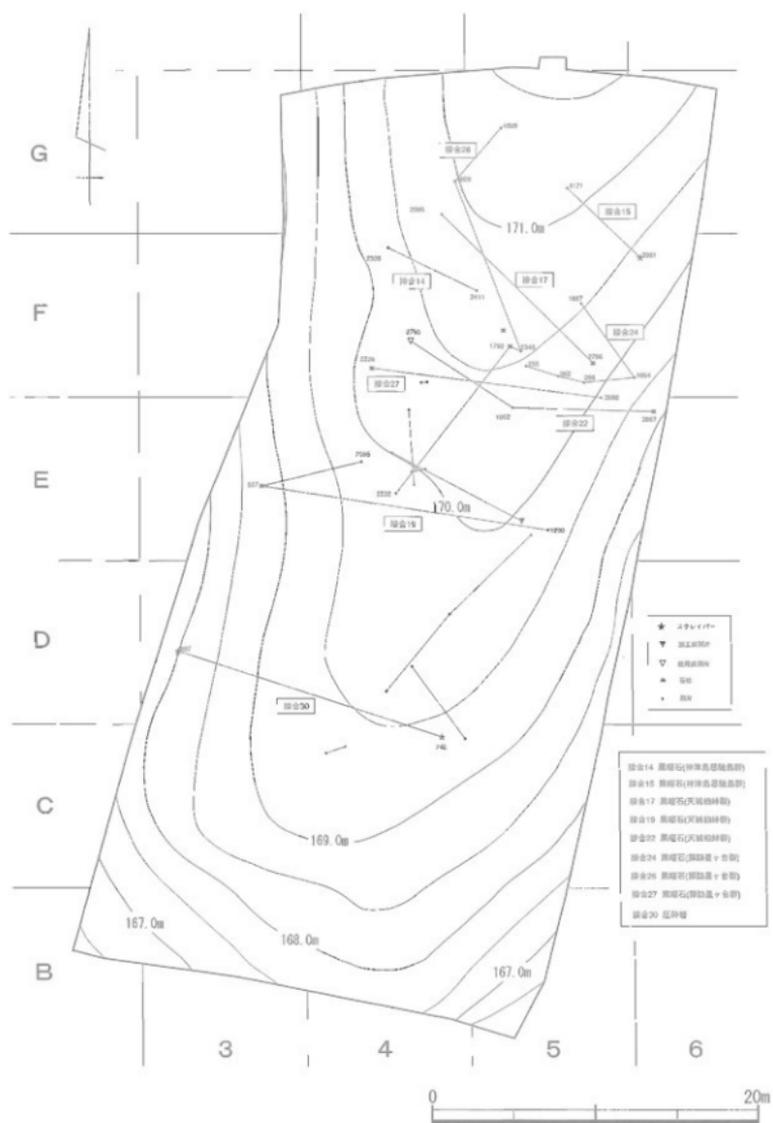
	御油砂岩		中粒砂岩		粗粒砂岩		ゴウス質色変成岩		ホルンフェルス		ひん		花砂岩		黒雲母変成岩		黒雲母		御油層上粘板岩		御油層下粘板岩		御油層下砂岩		御油層上砂岩		天城山砂岩		合計	
	FGS	MG	CG	Gm	hr	Pe	By	BC	Sh	SCh	PT	Yaj	Rn	Si	Ry	GI	SiI	C												
考古学分類										2																			2	
尖頭器																													4	
石鏃																													34	
石鏃先端品																													1	
スクレイパー						1	3			3	1											1							23	
石匙																													2	
磨製石鏃																													10	
加工産剥片																													32	
使用産剥片																													46	
剥片	1					14	32					1	2															293		
砕片																													85	
石核																													17	
磨製石鏃																													1	
磨製石鏃先端品																													1	
打製石鏃																													3	
打製石鏃先端品																													3	
磨石・磨石鏃																													50	
磨石																													1	
磨石・石鏃鏃																													7	
磨石																													1	
合計	4	5	5			20	44	0	3	2	4	3	1	1	1	1	1	5	1	2	2	2	2	2	2	2	2	599		
石材比率	0.7%	0.8%	1.3%	2.3%	7.2%	0.0%	0.9%	0.3%	0.7%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.8%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	102.0%		



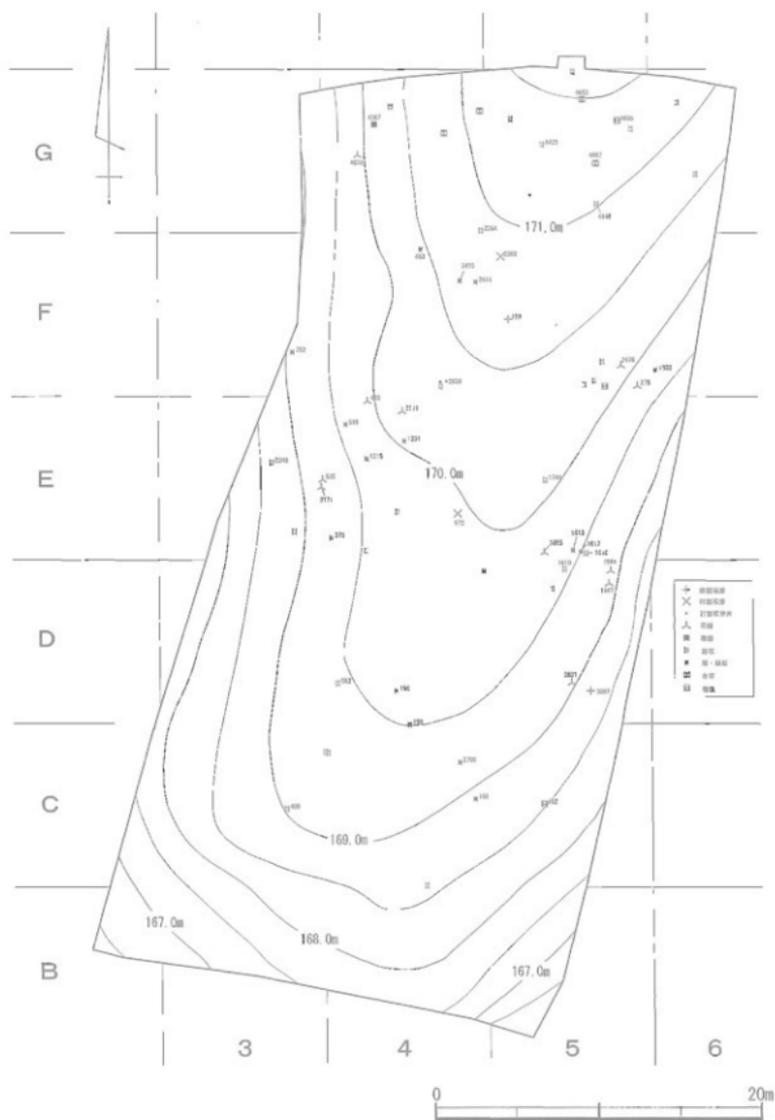
第43図 縄文時代割片石器分布（器種別）



第44図 縄文時代剥片石器分布 (石材別)



第45圖 縄文時代接合資料分布



第46図 縄文時代礫石器分布（器種別）



## 尖頭器（第48図1～4）

4点が該当する。全点図示する。すべて器体を損傷する。

1（2805）は本遺跡においては大型の尖頭器である。神津島恩馳島群の黒曜石を用いる。薄造りで両面に細かな加工が施され器体に歪みがない。先端部と基部を折損しているため全体形状は判然としない。

2（2045）は箱根加宿群の黒曜石を用いる。肉厚な両面加工の尖頭器の先端部で、基部を折損する。裏面の加工は周縁のみにとどまり素材剥片の歪みが残る。断面は凸レンズ型である。中央から折損し全体の形状は不明である。

3（2281）は諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いる。表に残る素材面は、礫面か節理面かの判断がつかない。

4（166）は諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いる。端部のみの非常に小さな資料である。折れ面の形状から、失われた部分に厚みがあり石鏃ではないと判断し尖頭器とした。表面の周縁には細かな二次加工が認められる。裏面の加工は表面と比較し少ない。器体のほとんどを損傷し、全体形状は不明である。

## 有舌尖頭器（第48図5～6）

2点全てを図示した。折損面付近の器体幅、厚さ及び折損面の角度から、同一個体の可能性が高いと思われるが、折損面風化のため判然とせず、ここでは別個体として報告する。2点共にホルンフェルスを用い薄造りである。共に風化が著しくリングの方向及び接線は判然としない。

5（3222）は先端の一部と基部側を折損する。

6（3130）は先端部を折損する。舌状突起は小さく、発達していない。

## 石鏃（第48図7～29）

36点が該当する。全て黒曜石製である。黒曜石原産地の内訳は神津島恩馳島群15点、諏訪星ヶ台群17点、天城柏峠群1点、和田鷹山群1点である。状態の良い23点23個体を図示した。部分的に欠損等があるものの形態分類が可能であり、基部形態により細分を試みた。ここでは黒曜石原産地毎、下記の基準に従って分類・図示する。

A類 平基または平基に近い

B類 凹基

C類 未製品

## A類 平基または平基に近い（7～11・17～23）

12点が該当する。7～11は神津島恩馳島群、17～23は諏訪星ヶ台群である。A類にはB類に比べ小型の石鏃7・19～21が含まれる。7（2802）は基部が膨らみ凸基に近い。11（4480）は側縁の形状が若干ではあるが外湾する。逆に17（607）は側縁が若干内湾する。

## B類 凹基（12～15・24～27・29）

9点が該当する。12～16は神津島恩馳島群、24～27は諏訪星ヶ台群、29は天城柏峠群である。12・24・25は基部の挟りが浅い。13は他の石鏃に比べ幅が狭く細長い器形で先端部の平面形は丸みを帯びる。15（461）は側縁の形状が外湾し、脚部も丸みを帯びる。18（1410）は表面側の加工が少なく素材剥片の反りが残る。

## C類 未製品（16・28）

2点が該当する。他の製品に比べ厚手で素材面が広く残り、周縁部においても未加工に近い部分が残るため未製品とした。

16（2190）は神津島恩馳島群の黒曜石を用いる。未加工の部分が多く厚手である。素材剥片の反りが残る。側縁に段がある5角形状を呈す。

28 (633) は産地同定の結果は分析不可であった。肉眼観察では信州系黒曜石と思われる。厚手の剥片を素材とし周縁部のみ加工を施す。また、側縁が内湾し内縁中央部にゆるやかな段を作り出す。スクレイパー (第49図30～第51図46)

剥片の1辺全てに連続して加工が施されているものをスクレイパーとした。23点21個体が該当する。石材の内訳は黒曜石製12点 (神津島恩馳島群8点、箱根畑宿群1点、諏訪星ヶ台群1点、未分析2点)、ホルンフェルス製3点、ガラス質黒色安山岩製1点、珪質頁岩製1点、硬質頁岩製1点、流紋岩製1点、チャート製1点、圧砕岩製3点1資料である。そのうち17個体19点を図示した。図示した資料は加工形状により細分を試み、ここでは下記の基準に従って分類・図示した。加工の形態上、A類は比較的薄く鋭い刃部を作出、B・C類は比較的厚みのある刃部を作出している。

A類 主に素材の両面に加工を施し、刃部を作り出しているもの

B類 主に素材の片面に加工を施し、刃部を作り出しているもの

C類 素材の縁辺を抉るように加工を施し、刃部を作り出しているもの

A類 主に素材の両面に加工を施し、刃部を作り出しているもの

7点が該当する。30・31・33は神津島恩馳島群の黒曜石を用いる。

30 (1203) は素材剥片の基端・左縁辺には裏面から、右縁辺には表裏両面から加工を施し刃部を作る。二次加工により主要剥離面の打点を除去する。右縁辺には押圧剥離による加工を施す。素材剥片の基端の加工に注目すればB類に、左縁辺の加工に注目すればC類に分類することも可能である。

31 (3018) は薄手の剥片素材の左右縁辺部に加工を施し刃部を作る。加工は細かな剥離のみで縁辺のみにとどまる。素材剥片の末端は折損する。基端部は発掘時の欠損により失われる。

32 (4008) は産地同定を行っていない。肉眼観察では神津島系の黒曜石だと思われる。素材剥片の基端・左縁辺には表裏両面から、末端には裏面から加工を施し刃部を作る。末端の加工に注目すればB類に分類することも可能である。

33 (2835) は右縁辺に打面調整と考えられる剥離が認められる点、両極剥離の痕跡も認められる点から石核から転用された石器の可能性がある。

34 (791) は硬質頁岩を用いる。左右縁辺に表裏両面から加工を施し刃部を作る。二次加工により主要剥離面の打点を除去する。分類当初は木葉形の尖頭器として分類していたが、先端部に相当する部分に加工が見られない部分がある点からスクレイパーとして分類した。

35 (1717) はガラス質黒色安山岩を用いる。左縁辺に表裏両面からの加工を施し刃部を作る。

36 (4345) はホルンフェルスを用いる。表裏両面から加工を施し、左右縁辺に刃部を作り出す。基端部は折損のため失われ全体形状は判然としない。剥片石器素材のホルンフェルス製である点、左右縁辺に細かな加工が見られる点からスクレイパーとしたが、打製石斧の折損品の可能性もある。

B類 主に素材の片面に加工を施し、刃部を作り出しているもの

8点が該当する。37～39は神津島恩馳島群の黒曜石を用いる。

37 (接-15) は接合資料である。左縁辺に裏面より加工を施し刃部を作り出す。二次加工剥片と考えられる剥片が1点接合する。

38 (1801) は左側縁に裏面より加工を施し刃部を作り出す。

39 (3040) は右縁辺に裏面より加工を施し刃部を作り出す。

40 (3339) は流紋岩を用いる。右縁辺部に裏面より加工を施し急斜度の刃部を作り出す。二次加工は縁辺部のみにとどまる。折損のため全体形状は判然としない。発掘時の欠損部から観察すると灰色であるが、器体表面は風化のため白く変色する。

41 (接-30) は圧砕岩を用いる。折損により3つに割れている。左右縁辺に裏面より加工を施し刃部

を作り出す。

42 (2885) はチャートを用いる。左縁辺は表面より加工を施し刃部を作る。右縁辺は表面に細かな剥離が認められる。

43 (147) はホルンフェルスを用いる。裏面は礫面である。縁辺のほとんどに裏面から加工を施し刃部を作り出す。

C類 素材の縁辺を抉るように加工を施し、刃部を作り出しているもの

4点が該当する。3点を図示する。44~46は全て黒曜石を用いる。

44 (1933) は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。剥片の左右縁辺に裏面から加工を施し抉りを作り出す。特に右縁辺は全体に加工が及ぶ。他の黒曜石に比べ表面の風化が進んでいるため古い遺物の可能性がある。

45 (957) は産地同定を行っていない。肉眼観察では神津島系の黒曜石だと思われる。素材剥片の末端部には表裏両面から、左縁辺基端部側には表から、右縁辺基端部そばには表裏両面から加工を施し抉りを作り出している。左縁辺末端部近くにも表面からの加工が認められる。加工の形状は44に類似する。

46 (980) は神津島恩馳島群の黒曜石を用いる。剥片の右縁辺より加工を施し連続する2箇所の抉りを作る。

他、46 (980) と抉りの形状の類似する神津島恩馳島群の黒曜石を用いた未掲載石器 (1825) が出土している。

#### 石匙 (51図47)

1点が該当する。47 (1791) は諏訪屋ヶ台群の黒曜石を用いる。この地域には珍しい縦長の石匙である。三角錐状の素材剥片の形を活かし、つまみと右縁辺に表裏両面から加工を施す。加工は縁辺のみにとどまる。

#### 石錐 (51図48・49)

2点が該当する。

48 (2327) はホルンフェルスを用いる。つまみ状の角形の頭部と長い錐部を作り出す。風化による損傷が著しい。

49 (1983) はチャートを用いる。不定形の剥片の一端に加工を施し、短い錐部を作り出す。錐部は少なくとも2箇所あると考えられる。

#### 楔形石器 (第51図50)

10点が該当する。基端部と末端部から両極方向の剥離痕が残ることから衝撃痕であると考え楔形石器とした。

50 (3045) は神津島恩馳島群の黒曜石を用いる。対向する剥離の他、右縁辺に表裏両面からの加工が認められる。

#### 使用痕剥片 (51図51)

46点が該当する。黒曜石製42点、硬質細粒凝灰岩製1点、ホルンフェルス製1点、流紋岩製1点、黄玉石製1点である。黒曜石産地の内訳は、神津島恩馳島群16点、諏訪屋ヶ台群13点、天城柏峠群3点、分析不可10点である。1点を図示する。

51 (2) は黄玉石を用いる。横長の素材剥片の末端部、基端部に連続する細かな剥離が認められる。石核 (第52図52~58)

石核は接合資料も含め17点が該当する。石核は7点を図示した。礫面の残る石核も多く、元々小さな原石を素材としていたことがうかがえる。得られる剥片形状は不定形で小さいものが多い。

52 (4338) はホルンフェルスを用いる。礫面の一端から同一方向へ連続して打撃を加え幅広い剥片を得ている。

53 (4204) は珪質シルト岩を用いる。礫面を残す剥片を素材とする。礫面を打面として打面調整をせ

ず不定定方向から打撃を加える。遺跡内から同一石材の剥片類の出土もないため、本遺跡内において剥片剥離作業が行われた痕跡は確認できない。

54 (2883) は赤玉石を用いる。頭部調整によって作り出した打面から両極剥離によって剥片剥離作業を行っていると考えられる。遺跡内から同一石材の剥片類の出土がないため、本遺跡内において剥片剥離作業が行われた痕跡は確認できない。

55 (4191) はガラス質黒色安山岩を用いる。打面の剥離は夾雑物によって不規則に広がる。作業面には対向する剥離痕が残る。頭部調整を行いながら剥片を剥離したと考えられる。

56 (2881) は神津島恩馳島群の黒曜石を用いる。基端部・末端部にはつぶれたような細かなひび割れが見られ、そこから両極方向の剥離痕が残る。小さな石核から執拗に剥片剥離を繰り返していると考えられる。得られる剥片は非常に小さい。

57 (326) は神津島恩馳島群の黒曜石を用いる。両極剥離によって剥片剥離作業を行った石核を打面転移し、更に剥片剥離作業を行う。最終作業面の剥離は作業面調整の可能性がある。

58 (270) は天城柏峠群の黒曜石を用いる。表面は礫面である。剥片を素材とした石核だと考えられる。礫面を打面として打面調整をせずに不定定方向から打撃を加える。

#### 接合資料 (第53図59～第54図65)

18資料49点が該当する。天城柏峠群の接合資料3資料、諏訪屋ヶ台群の接合資料3資料、神津島恩馳島群の接合資料1資料の7個体を図示した。いずれの資料も原石は礫面の残るビンボン球大であると考えられ、必然的に得られる剥片も小さい。主に礫面を打面とし、打面転移を繰り返しながら不定定方向から打撃を加えている。

59 (接-17)～61 (接-19) は天城柏峠群の黒曜石を用いた石核接合の資料である。

59 (接-17) は剥片素材の石核に剥片が1点接合する。剥離面を打面として剥片剥離を行っていると考えられる。打面転移の痕跡も認められる。

60 (接-22) は両極からの剥離痕が残る。礫面の多く残る石核に1点の剥片、1点の使用痕剥片が接合する。

61 (接-19) は石核に2点の剥片が接合する。打面転移の痕跡が認められる。

62 (接-27)～64 (接-26) は諏訪屋ヶ台群の黒曜石を用いる。諏訪屋ヶ台群の接合資料はいずれの資料も多量の夾雑物が層状に含まれ質が悪い。

62 (接-27) は剥片素材の石核に剥片が1点接合する。

63 (接-24) は剥片接合の資料である。不定定方向から打撃を加え剥片を得ようとしている。

64 (接-26) は石核に3点の剥片が接合する石核接合の資料である。不定定方向から打撃を加え剥片を得ようとしている。

65 (接-14) は剥片接合の資料である。神津島恩馳島群の黒曜石を用いる。打点をずらしながら同一方向から複数の剥片を剥離している。

#### 磨製石斧・関連資料 (第55図66・67)

2点が該当する。

66 (199) は緑色凝灰岩を用いる。縁辺部と基端部には打撃によって形を整えた際の剥離痕が残る。刃部を中心に研磨する。刃部の形状は両凸に形成する。横断面は楕円形である。刃部には三箇所剥離痕があるが、剥離面の稜線が研磨により磨滅しているため使用痕ではないと考えられる。また、着柄痕と考えられる明確な痕跡は認められない。

67 (3097) は粘板岩製の磨製石斧関連資料として報告するが、磨製石斧であるかは疑わしい。左右縁辺部を研磨し断面形は薄い蒲鉾形である。末端部は風化により損傷する。節理の方向は研磨の方向と平

行する。類似資料が集成されている（村松2000）が、本遺跡出土の資料とは石材が異なる。

#### 打製石斧・関連資料（第55図68～70）

6点5資料が該当する。完形のものはない。

68（4610）は珪質粘板岩を用いる。両縁辺に着柄のためと考えられる袢りを作り分銅形を呈す。袢り部分には稜線のつぶれが認められる。刃部は節理に沿って板状の剥離が見られる。

69（2268）は中粒砂岩を用いる。素材剥片は横長剥片である。円礫面をそのまま活かし周縁部に礫面から加工を施し器形を整える。基端部は折損のため失われ全体形状は判然としない。

70（972）は粘板岩を用いる関連資料である。打製石斧調整剥片の可能性はある。

#### 石錘（第56図71～81）

11点が該当する。いずれも礫石錘に分類され、1点を除き、楕円形の礫の長軸の両端に剥離によって袢りを作り出す。73・81は欠損品または未製品であると考えられる。

71（493）は長軸端の袢り以外に礫短軸の縁辺に敲打痕によるつぶれが認められ、剥離による加工も施している。紐を十字にかけようとした可能性も考えられるが、他の用途・目的があった可能性も考えられる。

79（275）は、両端の袢り部分の稜線につぶれが認められる。

#### 敲石・磨石類（第56図82～第60図109）

敲石は37点、磨石・敲石（凹石3点を含む）13点、合計50点が出土している。このうち敲打痕・磨痕の明確な敲石12点、磨石・敲石17点を図示した。石材は50点中約56%が輝石安山岩製、次いで粗粒砂岩製が約8%、細粒砂岩製・多孔質安山岩製が各約6%、玄武岩製・多孔質玄武岩製・斑レイ岩製・中粒砂岩製が各約4%で上記の石材で約90%弱を占める。図示した遺物に関しては敲打痕・磨面の部位により細分を試み、ここでは下記の基準に従って分類・図示した。

##### A類 敲石（82～92）

- 1種 棒状の礫の胴部・端部に敲打痕を有するもの（82・83）
- 2種 卵状の礫の胴部・端部に敲打痕を有するもの（84・85）
- 3種 扁平な礫の不特定の箇所敲打痕を有するもの（86～92）

なお、86（2638）・87（1610）については、平坦部数箇所に集中して敲打したと思われる窪みを有するため、凹石と分類できるが、不特定の箇所に敲打痕を有するためA類-2種に分類した。また86（2638）は裏面が皿状に窪み、小さな石皿状を呈す。

##### B類 磨石・敲石併用（93～109）

- 1種 棒状の礫の胴部に磨面、不特定の箇所に敲打痕を有するもの（93～97）
- 2種 扁平な礫の平坦部に磨面、不特定の箇所に敲打痕を有するもの（98～100）
- 3種 扁平な礫の周縁部に磨面、不特定の箇所に敲打痕を有するもの（101～104）

なお、102（518）については、平坦部数箇所に集中して敲打したと思われる窪みを有するため、凹石と分類できるが、扁平な礫の周縁部に磨面、不特定の箇所に敲打痕を有するためB類-3種に分類した。

- 4種 扁平な礫の不特定の箇所に磨面・敲打痕を有するもの（105～109）

#### 磨器（第60図110）

1点が該当する。110（4367）は輝石安山岩を用いる。平坦な礫を使用し裏面からの大きな剥離で刃部を作り出しその表面からの剥離で形状を整えていると考えられる。

#### 台石・石皿類 (第61図111~115)

台石・石皿には重量1kg以上で手持ち使用に適さないと判断した礫石器を分類した。石材は輝石安山岩製6点、多孔質安山岩製1点の合計7点である。使用痕の顕著な5点を図示した。欠損等があるものの形態分類が可能であり、平面形態により、ここでは下記の基準に従って分類・図示した。

A類 礫の比較的平坦な面に主に敲打痕が認められるもの

B類 礫の比較的平坦な面に磨痕・敲打痕が認められるもの

C類 礫の比較的平坦な面に主に磨痕が認められるもの

A類 礫の比較的平坦な面に主に敲打痕が認められるもの

111 (4697) は多孔質玄武岩を用いる。偏った部分に敲打痕が認められる。

112 (4653) は輝石安山岩を用いる。縁辺を大きく破損する。

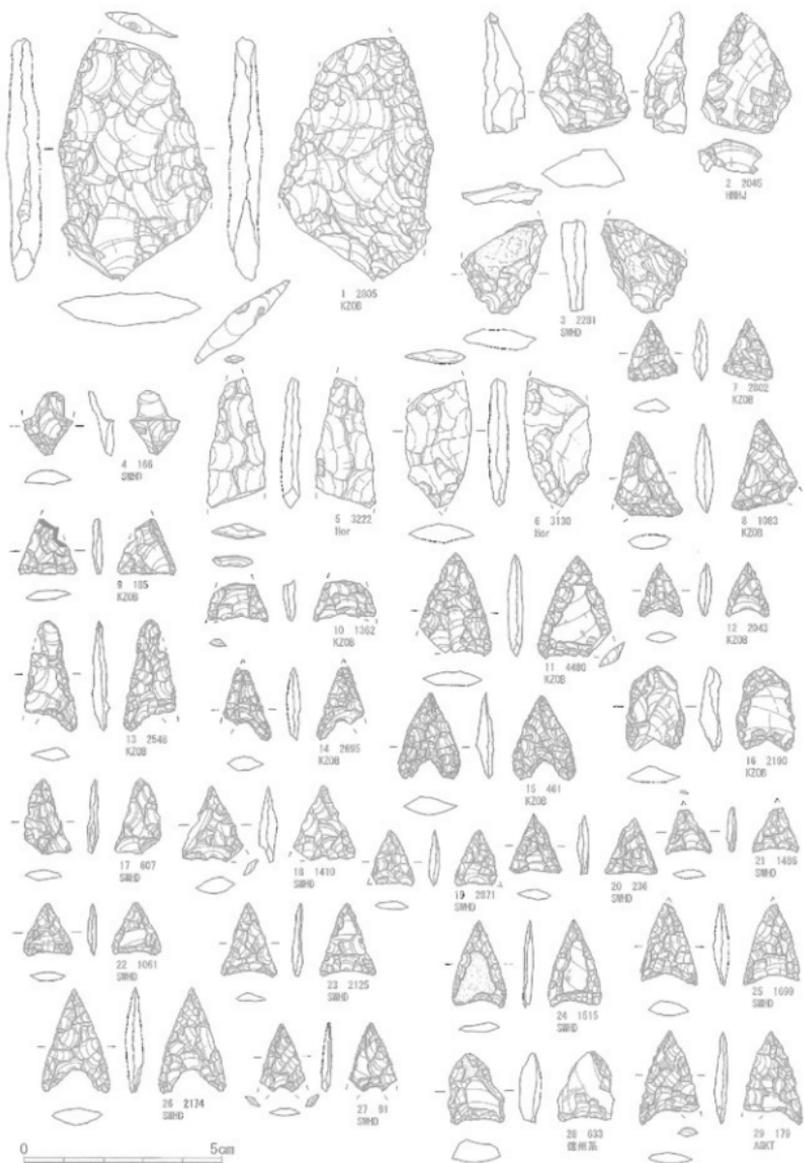
B類 礫の比較的平坦な面に磨痕・敲打痕が認められるもの

113 (4655) は輝石安山岩を用いる。表面の半分に主に磨面、残り半分に集中的に敲打痕が残る。磨面部分は皿状に窪む。

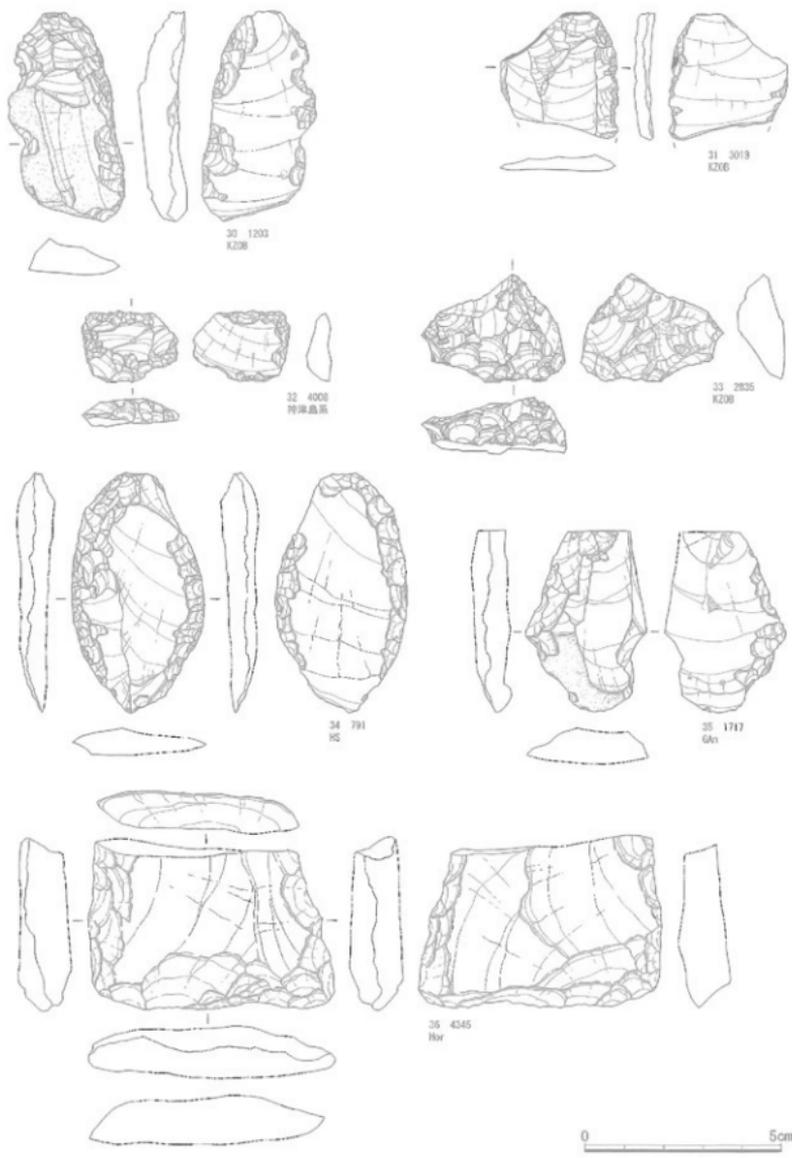
114 (3278) は輝石安山岩を用いる。磨面と敲打痕が同一面に認められ、皿状に窪む。裏面は平坦面全体に敲打痕が残り、数箇所に集中して敲打したと思われる凹みを有する。裏面に磨痕は認められない。

C類 礫の比較的平坦な面に主に磨痕が認められるもの

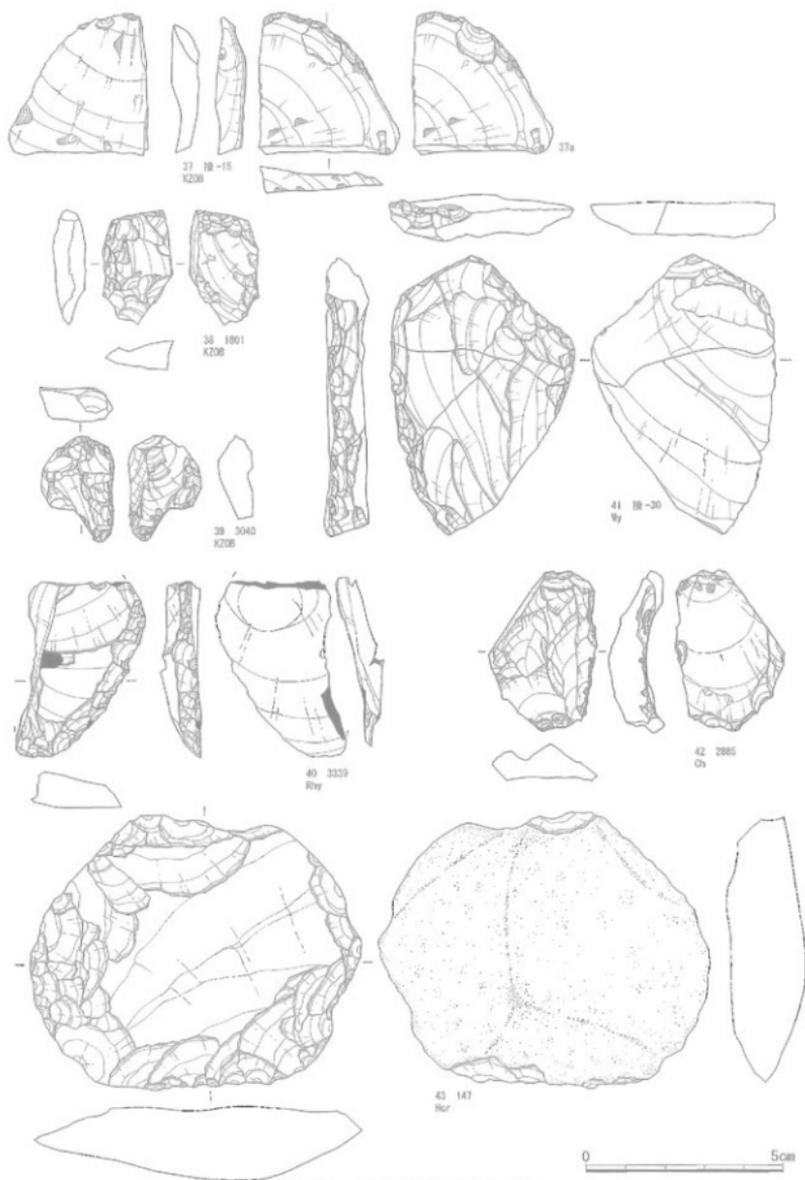
115 (182) は輝石安山岩を用いる。平坦面全体に磨痕が認められ、緩やかではあるが桶状に湾曲する。



第48図 縄文時代出土石器(1)



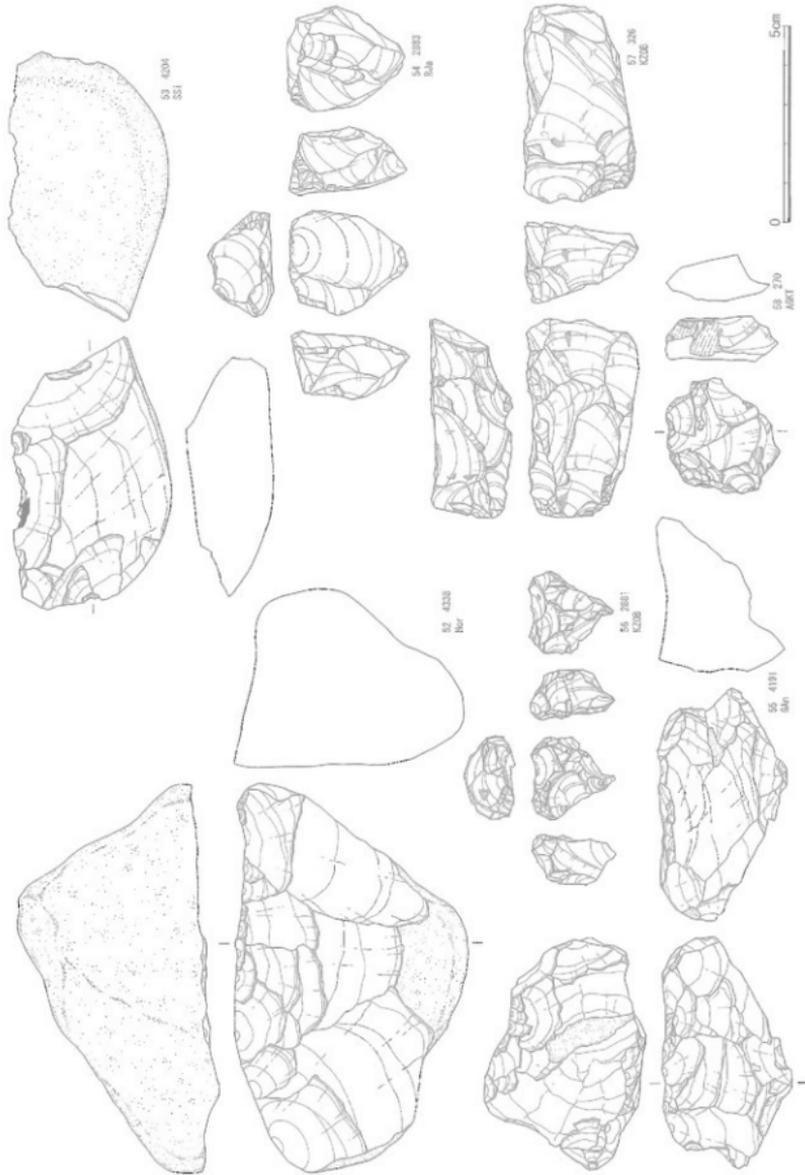
第49圖 縄文時代出土石器（2）



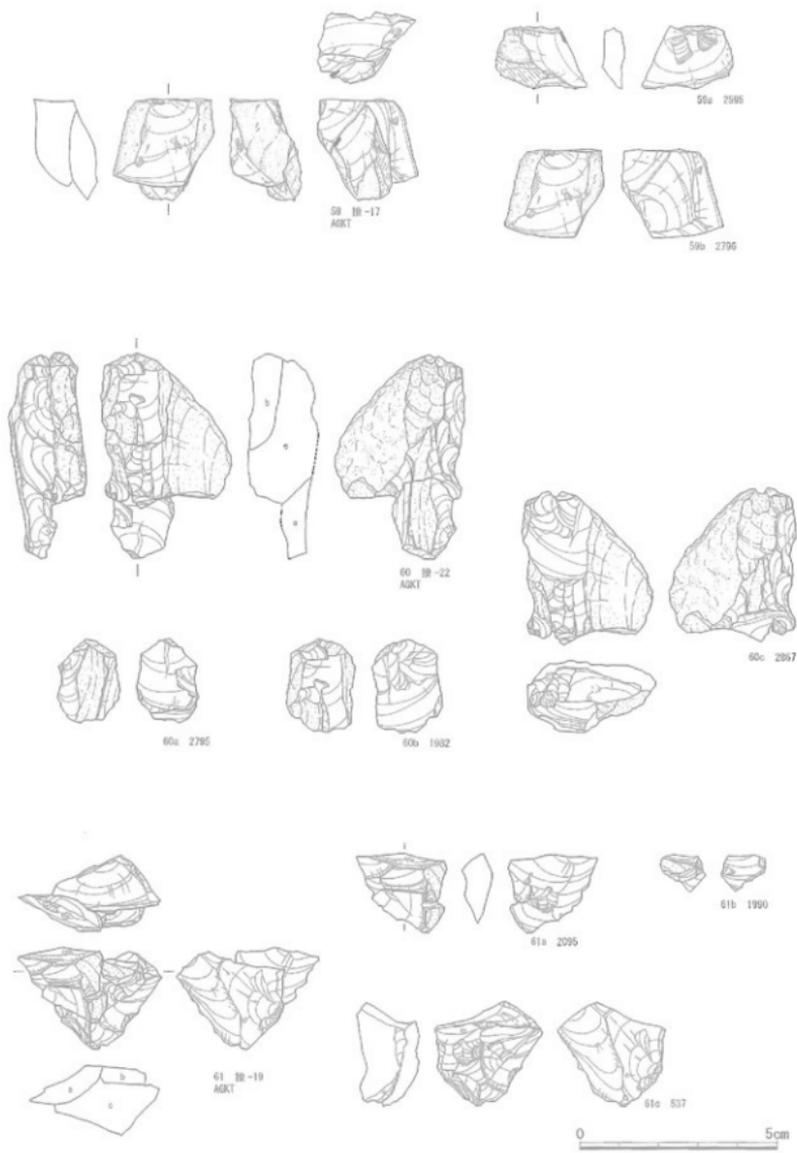
第50図 縄文時代出土石器(3)



第51圖 縄文時代出土石器（4）



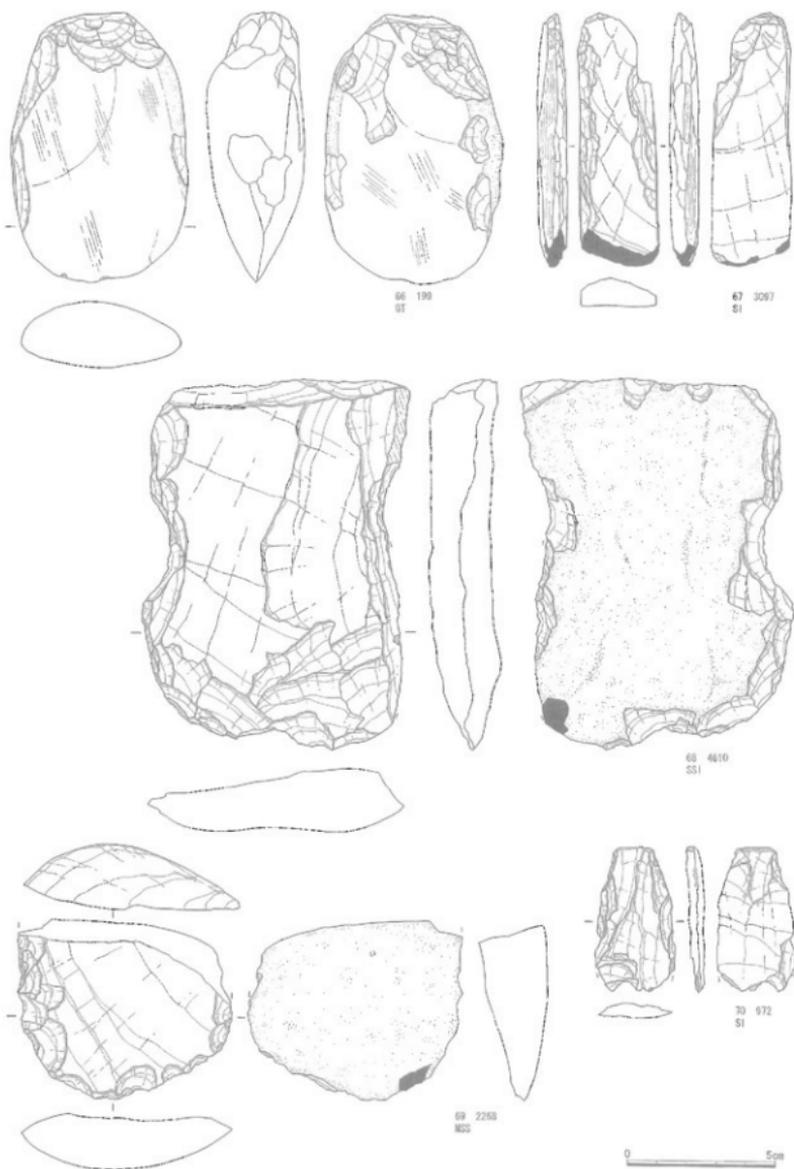
第52図 縄文時代出土石器(5)



第53図 縄文時代出土石器(6)



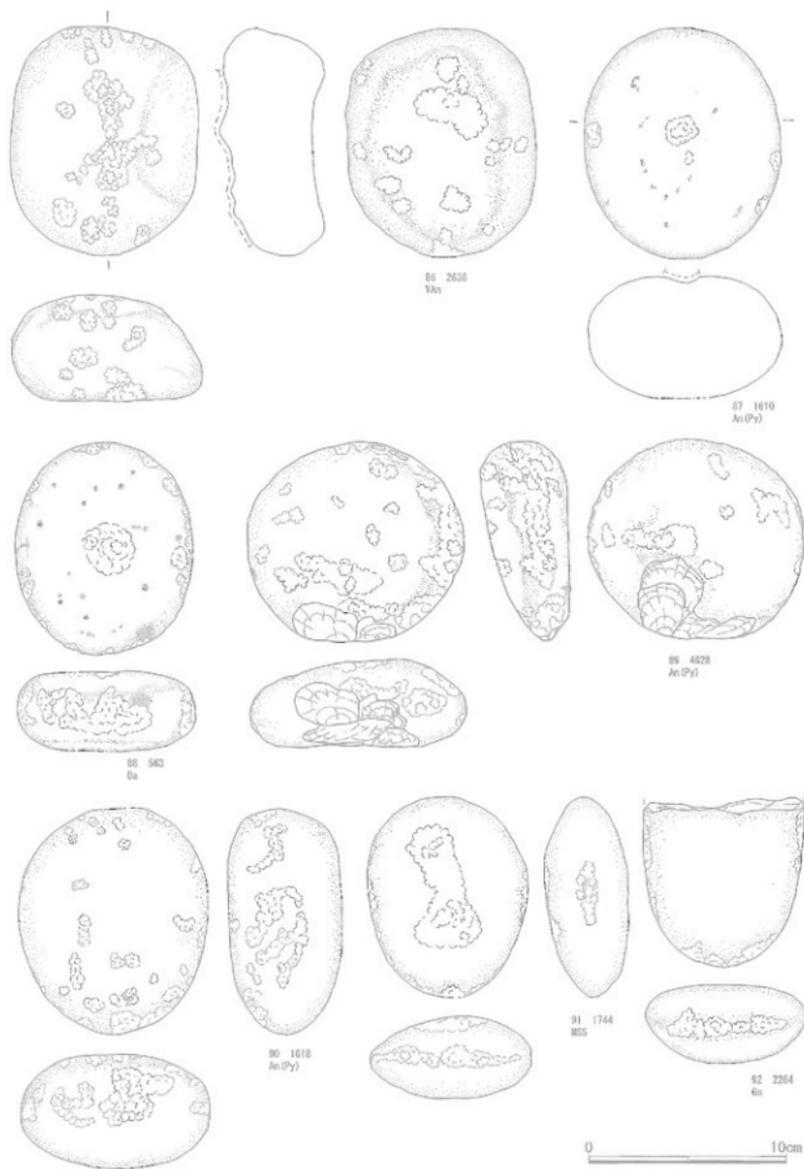
第54図 縄文時代出土石器(7)



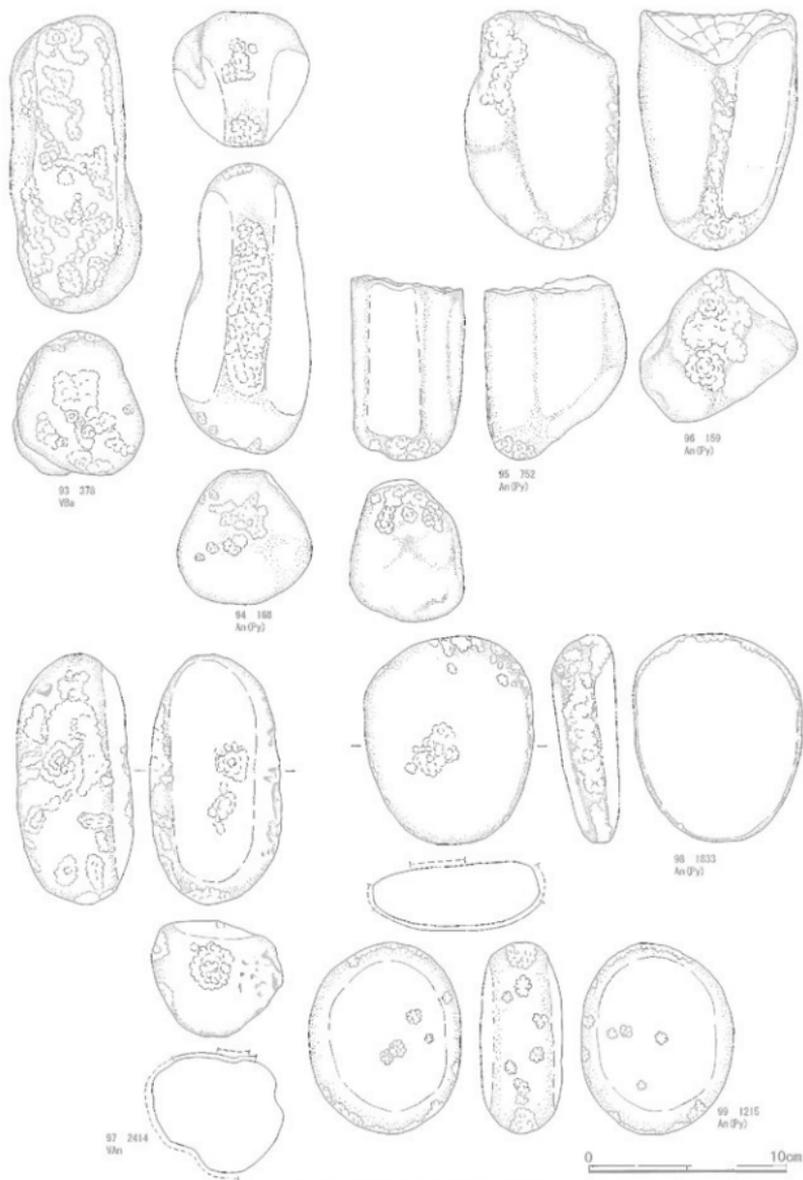
第55圖 縄文時代出土石器（8）



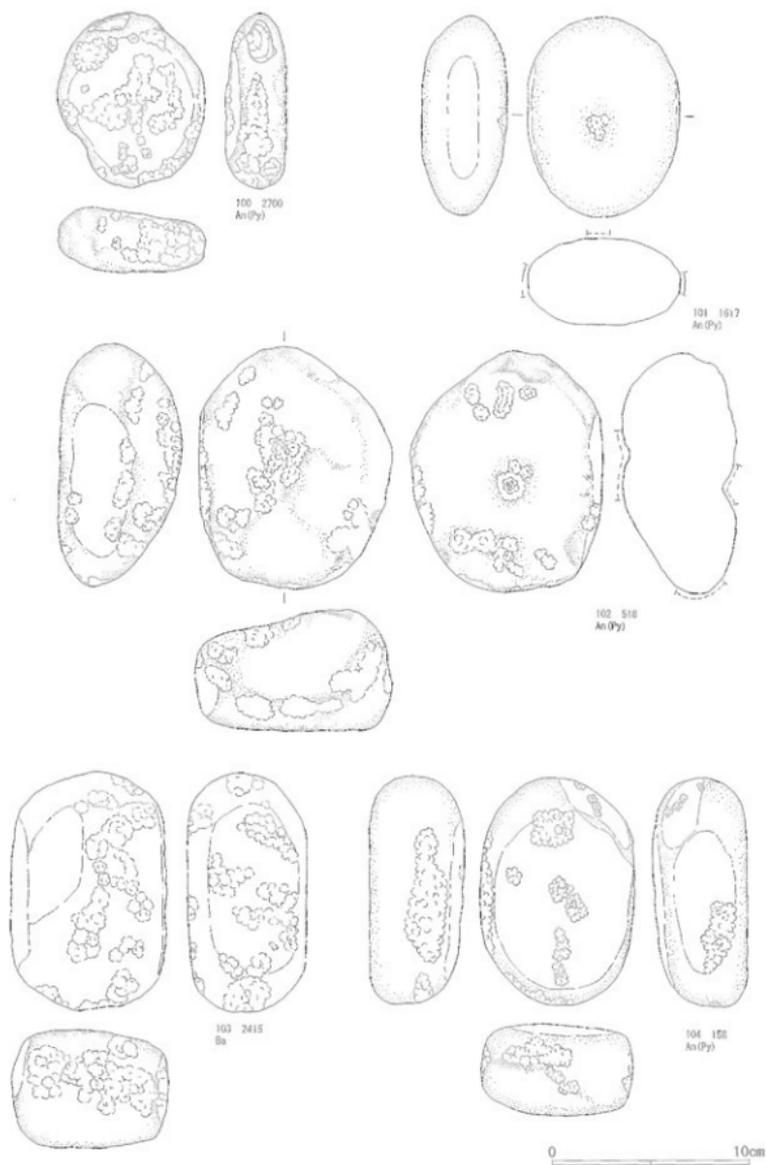
第56図 縄文時代出土石器(9)



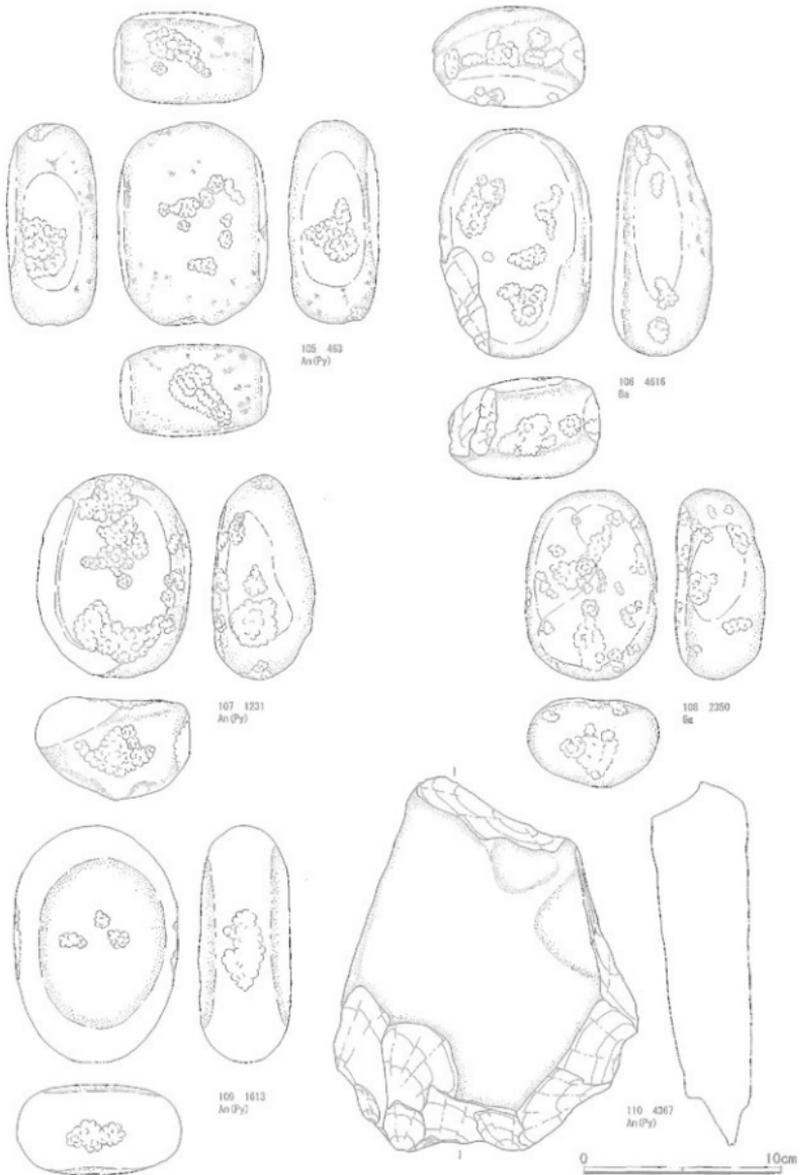
第57圖 縄文時代出土石器 (10)



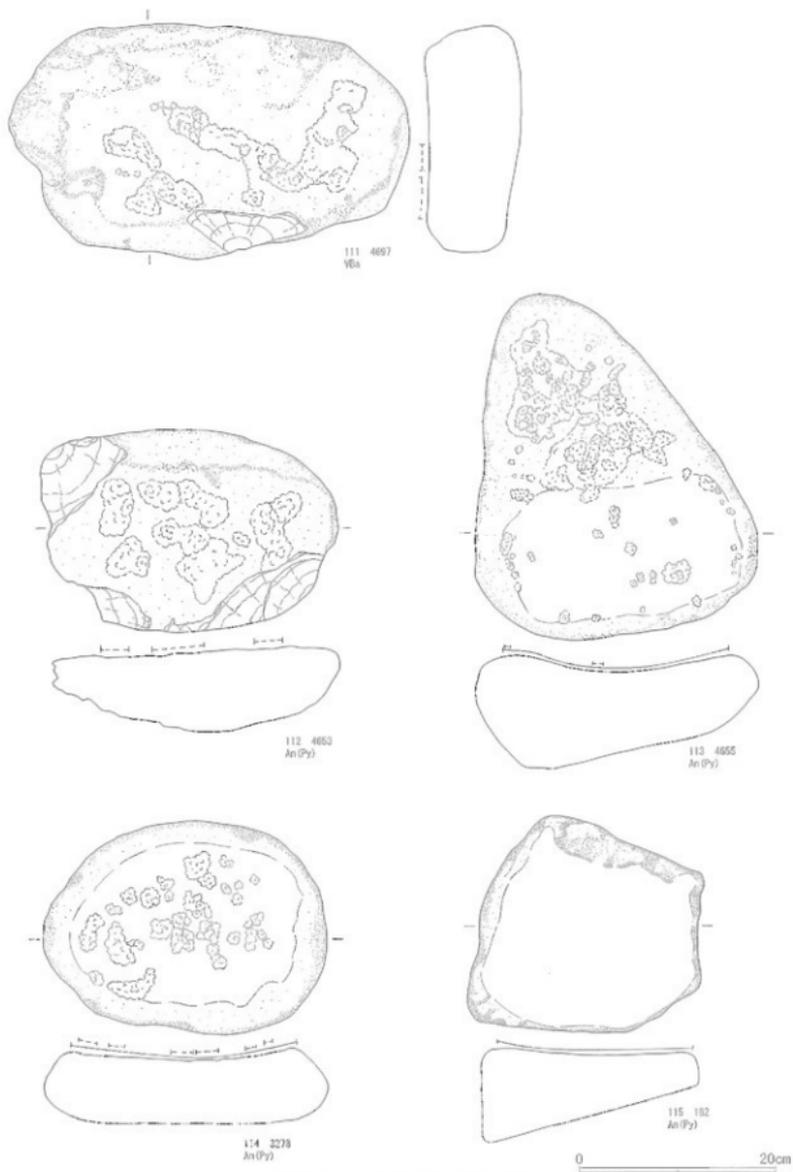
第58図 縄文時代出土石器 (11)



第59圖 繩文時代出土石器(12)



第60図 縄文時代出土石器 (13)



第61圖 縄文時代出土石器 (14)

## 第5節 奈良・平安時代の遺物

律令期の坏や坏蓋が数点出土している。

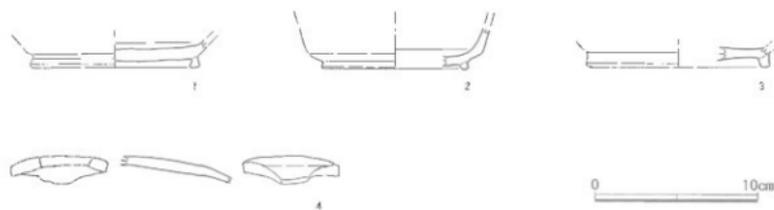
1は高台を伴う有台坏の底部から体部にかけての破片である。底部には高台を貼り付けて整形している。底部から体部へは、みこみ部で屈曲した後、急な立ち上がりを見せ、シャープな印象を受ける。

2と3は有台坏の底部片である。どちらも、底部には高台を貼り付けて整形している。

4は坏蓋の破片である。頂部および口縁端部は欠損しているため詳細は不明である。

2と3は底部のみの出土であるが、底径は1に近いサイズである。また、1～3は平底で、貼り付け高台をもつという点においても共通している。

駿河・伊豆の須恵器有台坏は、7世紀末から8世紀初頭にかけて、底部が丸底で高台部よりも突出する特徴的なものが散見される。その後、底部の平底化が進み、9世紀代になると、高台部をヘラによって削りだして整形するものが顕著に見られるようになる。平底で貼り付け高台を持つ本例は、8世紀中頃から後半にかけての所産であると考えられる。



第62図 奈良・平安時代の遺物

第18表 須恵器観察資料

調査番号	遺物番号	部位・造形	種類	破片部位	口径 (cm)	底径 (cm)	最高 (cm)	焼成	色相	胎土
1	345	胴深	須恵器	坏	底部一体部片	-	8.6	2.5	黄	灰 (2.5YR5/1) 密。径1mm以下の白色胎土を含む。
2	345	胴深	須恵器	坏	底部片	-	10	1.2	黄	黄灰 (2.5YR6/1) 密。径1mm以下の白色・黒色胎土を含む。
3	347	胴深	須恵器	坏	底部片	-	11	1.2	黄	黄灰 (2.5YR5/1) 密。径1mm以下の白色・黒色胎土を含む。
4	7	胴深	須恵器	坏蓋	破片	-	-	1.7	黄	灰 (5Y5/1) 密。径3mm以下の白色胎土を含む。

# 第三章 イタドリB遺跡 第二東名No.14地点

## 第1節 調査の方法と経過

### 1. 調査の方法

イタドリB遺跡(第二東名No.14地点)の調査対象面積は計約10,147㎡(実掘削面積3,320㎡)に及ぶ(第63図)。

遺跡全体の把握と作業の効率化を図るため、国家標準座標第Ⅷ系(X, Y) = (-94370.0, 31300.0) = (A, 1)上を原点とし、遺跡全体に10×10mのグリッドを設定した。グリッドのX軸方向(南北方向)をアルファベット、Y軸方向(東西方向)をアラビア数字と設定した。

確認調査ではテストピットとトレンチを併用して掘削を行い、本調査においては面的な掘削を行った。掘削は基本的に人力で行ったものの、表土や遺構・遺物が存在しない層位においては重機を用いた。また人力と重機を併用して掘削を行った場合もある。なお、掘削した土砂はベルトコンベアで集め、バックフォールとクローラダンプを用いて排出した。

遺物の取り上げは株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を用い、光波測定器によって実施した。遺物には層位別に土器=P、石器=S、礫=R、炭化物=C等の略号と3桁の通し番号を付け、X・Y座標値と標高値(Z)を記録し取り上げ、コンピューターデータとして保管している。ただし、当時の財団の方針により、調査途中より縄文時代の包含層と考えられる富士黒土層以上出土の遺構外遺物を各グリッドごと一括で取り上げた。

地形測量は遺構検出面での測量を基本とし、2.0mメッシュで測量し手実測により図化、個別遺構図は手実測により平面図・立面図等を縮尺1/20を基本とし図化・保管している。

写真撮影は必要に応じて随時行った。写真撮影には35mmの小型カメラ、およびブローニー6×7判の中型カメラ、三脚を使用した。フィルムは35mm(カラー、白黒、リバーサル)の3種類及びブローニー判(白黒、リバーサル)を使用した。

### 2. 調査の経過

確認調査その1は、平成9年7月22日～同年8月6日にNo.15地点遺跡の確認調査と併せて実施した。試掘対象地は台地の西斜面で、東西方向で0～2列、南北方向でE～M列の範囲にトレンチ2本とテストピット2ヶ所を設定した。

7月22日に発掘区を設定、重機による表土除去を行う。24日より人力による掘削を開始。8月1日に富士黒土層までの調査を終える。8月4日および6日に写真撮影及び実測、資材を撤収。確認調査の結果、東側の高所では栗色土層までが削平を受けていることが判明。遺物は、土器・石器・礫が少量出土したのみであった。

確認調査その2は平成10年2月2日～同年3月12日に実施した。対象地は台地上の緩やかな斜面で、東西方向で1～15列、南北方向でD～M列の範囲にテストピット14ヶ所、トレンチ9本を設定した。

2月2日～9日にテストピットを設定、重機による表土除去を行った後、実測。9日～13日に人力と重機を併用した掘削作業の後、実測。16日、調査区の範囲を確認するため2本のトレンチを設定。重機による表土除去の後、人力掘削を行い、写真撮影・実測を3月6日に終了。9日～13日に撤収及び埋め戻し、確認調査を終了した。茶畑の削平により表土下にニセローム層が露出する箇所も見られたが、調査区東斜面には良好な土層堆積が残り、中部ローム層まで確認した。遺構面は栗色土層上面・富士黒土



第63図 イタドリB遺跡周辺地形及びグリッド・テストピット配置

層上面・休場層上面の三面で、縄文時代の土坑・焼土を検出。旧石器時代の遺構は検出されなかった。遺物は、縄文時代の土器・石器・礫、旧石器時代の石器・礫が出土した。

本調査は平成10年4月20日～同年6月15日に調査区を東区と西区に分けて実施した。確認調査の結果を踏まえ、第10層休場層下部の黒色帯までを本調査の対象とした。

4月27日より表土除去を開始。調査区西側は第3層黒色土層から第8層漸移層まで削平を受けており確認できない。5月6日に表土除去完了、暗褐色土層の調査を行い、東区から焼土を検出。7日から栗色土層の精査。栗色土層から土坑・焼土を検出。22日から東区富士黒土層上面の地形測量。27日に東西両地区の地形測量、並行してテストピットの掘削。富士黒土層は栗色土層同様、遺構・遺物が散漫であったため、各グリッドに4m方眼のテストピットを設定、人力で掘削し遺物の取り上げを行った。6月1日から残りの部分を重機で掘削、漸移層上面・休場層上面を精査。精査の結果、土坑と思われる落ち込みを検出した。4日から土坑の掘り下げを行う。覆土は富士黒土層、底に逆茂木痕を残すものも見られた。土坑の掘り下げと並行し、漸移層～休場層下部の黒色帯までのテストピットを掘削。富士黒土層からは、縄文時代早期後半の条痕文系土器・石鏃・石核等の石器が出土した。漸移層からの遺物出土は僅かであった。休場層は調査区全体に広がっていた。遺構は検出されなかったが、ナイフ形石器等10点の石器が出土した。11日に掘削完了。12日にハイライダーによる写真撮影を行う。15日に実測が完了し、調査を終了した。

### 3. 資料整理

石器・土器・礫は洗浄の後、順次遺物番号の注記作業を行った。ホルンフェルス製の製品については薬品処理（PARALOID B-72、ワッカーOH-100）によって劣化遅延措置を施した。

本格的な資料整理に先立ち、平成17年、黒曜石製石器28点を抽出し独立行政法人沼津工業高等専門学校 名誉教授 望月明彦氏に依頼し、産地推定分析を行った。抽出の基準は、縄文時代の石器については調整・加工のあるものを中心に、旧石器時代に関しては黒曜石全点を分析の対象とした。

資料整理・報告書作成は平成20年6月～平成21年11月にかけて行った。出土遺物の内訳は、旧石器時代の石器15点、礫9点、縄文時代の石器31点、礫82点、縄文時代早期以降の土器80点であった。それらをまとめると出土遺物総点数は219点であった。

まず石器、礫の石材分類や層位ごとの分類を行い、あわせて接合作業も行った。石器は調整・加工の施されているものを中心に実測図を作成した。

土器は型式分類を行った後、文様構成が明確なものを中心に拓本及び断面実測を行った。

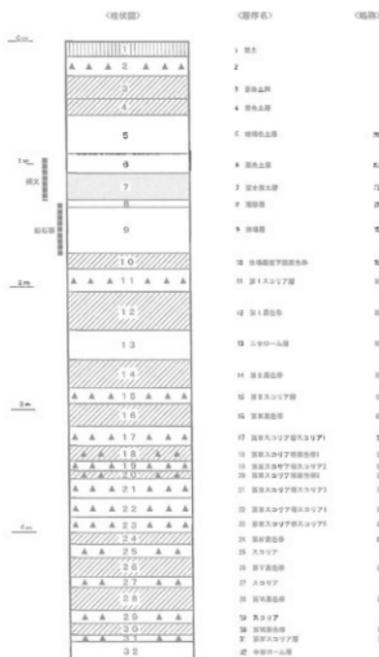
報告書作成に伴い、全体図や遺構図等の図版作成、出土状況の記録と台帳に基づく一覧表の作成、拓本、実測図の図版作成、遺物写真撮影と写真図版の作成を行い、整理成果を踏まえて本文を執筆した。また、調査現場で用いた光波測定器の記録データはCADで図化されるが、図化されたデータをベクトルグラフィックソフトに取り込み、ソフト上で図版の編集を行った。

## 第2節 土層の堆積状況

本遺跡は南にのびる舌状台地の南端の緩斜面に位置している。調査区全体が耕作により削平されており、表土を除去すると第2層砂沢スコリアを含む層から第8層漸移層までは確認できない箇所が多く見られた。しかし、第9層休場層から第32層中部ローム層までは調査区の西側では削平されていたものの、中央部では愛鷹山麓で見られる基本的な土層堆積が比較的良好な状態で確認できた。

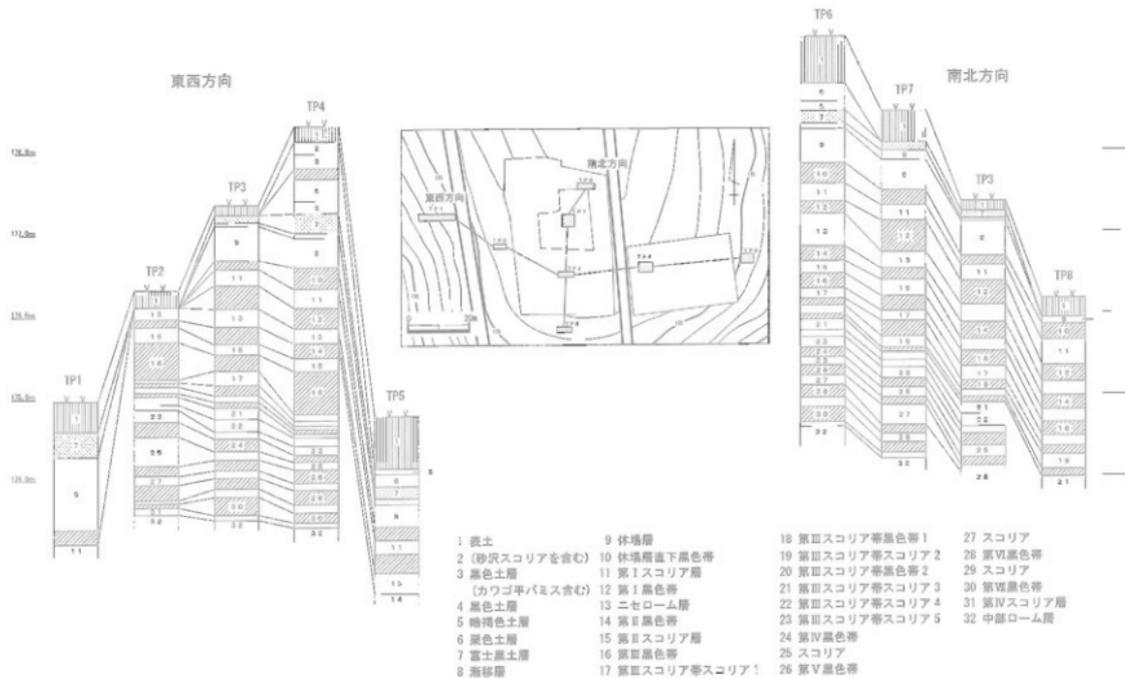
第65図に示した土層図は、確認調査時の土層図を基に、本調査の土層図と合成して作成した。調査区の西側のテストピット2では、第2層スコリア層から第12層スコリア層が削平されており、表土の下は第13層ニセローム層であった。また、調査区南側のテストピット8では第2層スコリア層から第8層漸移層までが削平されており、表土の下は第9層休場層であった。休場層の堆積は調査区全体で安定しており調査区の西側を除き広い範囲で確認された。休場層上面では遺跡が細い舌上台地の先端部から斜面に位置していることが確認できる。

第64図は土層が最も良好な状態で確認できたテストピット4の土層堆積を基に作成した。



第64図 基本土層

第69図 土層地質状況



### 第3節 旧石器時代の遺構と遺物

休場層以下旧石器時代の包含層から、旧石器時代の遺構は確認されなかった。旧石器時代の遺物は、総数24点（石器17点、礫9点）と少量である。旧石器時代の遺物は休場層とその上下の層にも包含されていた。出土状況を見ると、調査区の中央部での出土は少なく、調査区の外側、台地の縁辺部から比較的多く出土している。漸移層以上の出土であっても形態により明らかに旧石器時代の遺物と判断できるものは旧石器時代の遺物として扱い、一括して報告する。

第19表 旧石器時代石器組成

	黒曜石					ホルンフェルス	水晶	合計
	和歌山県産	和歌山県産	和歌山県産	和歌山県産	和歌山県産			
ナイフ形石器	2	1				1	4	
尖頭器			1				1	
細石刀	1	1			1		3	
加工産物片	1		1				2	
使用産物片				1			1	
剥片						4	4	
砕片						1	1	
石核						1	1	
合計	4	2	2	1	1	6	17	

#### 1. 遺物

##### ナイフ形石器（第67図1～4）

4点が該当する。石器の最大長を縦軸とした際の刃部側と基部側における長さの比率で分類し、刃部側が最大長の半分以上となるものをナイフ形石器、半分未満となり刃部の角度が傾くものを切出形石器と分類し、ナイフ形石器に含めた。

1 (130) はホルンフェルス製の側縁加工ナイフ形石器である。素材剥片を縦位に用いる。素材剥片の打点を先端部側に置く。右側縁には先端部まで表面からの急斜度な背部加工を施す。リングの方向から考え、背部加工により打点は除去されていると考えられるが先端部折損のため判然としない。風化のため変色する。

2 (13) は和歌山県産の黒曜石を用いた基部加工のナイフ形石器である。素材剥片を縦位に用いる。素材剥片の打点を基部側に置く。基部の表裏両面からの加工で打点を除去する。左右側縁は基部側に裏面からの急斜度の二次加工を施す。左側縁の刃部側には先端部まで剥離痕が認められる。先端部は折損する。

3 (48) は和歌山県産の黒曜石を用いた側縁加工のナイフ形石器である。素材剥片を縦位に用いる。素材剥片の打点を基部側に置く。左側縁は張り出し部まで、右側縁は先端部まで裏面から急斜度の二次加工を施す。素材剥片の打点を基部に残置する。

4 (75) は和歌山県産の黒曜石を用いたナイフ形石器の基部だと考えられる。素材剥片の打点を先端に置く。右側縁には表裏両面から急斜度の二次加工を施す。左側縁は素材剥片の剥離に先行する面が残り、二次加工の代わりとなる。基部の裏面には平坦剥離を行う。刃部は折損する。

##### 尖頭器（第67図5）

1点が該当する。5 (44) は和歌山県産の黒曜石を用いた片面加工の尖頭器である。素材剥片の打点を基部に置き裏面から二次加工を施している。表面の一部には礫面が残る。器体には素材剥片の歪み

が残る。基部は折損する。

#### 加工痕剥片 (第67図6・7)

2点が該当する。

6 (23)は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。左縁辺部に裏面から加工を施す。加工部は鋸歯状を呈する。右縁辺・末端を折損し、全体形状は判然としない。

7 (73)は神津島恩馳島群の黒曜石を用いる。厚手の石刃の左右縁辺に主に表面からの加工痕が認められる。

#### 使用痕剥片 (第67図8)

1点が該当する。8 (74)は和田鷹山群の黒曜石を用いる。左右縁辺に微細な剥離痕が認められる。末端部は折損する。

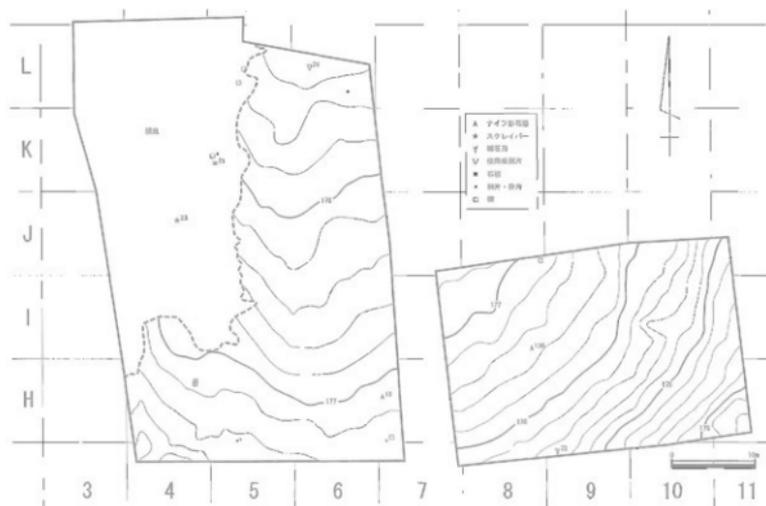
#### 石核 (第67図9)

1点が該当する。9 (21)は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。小さな石核である。頭部調整後、複数の剥片を剥離していると考えられる。正面には両極からの剥離痕が認められる。目的の剥片は小さく不定形である。

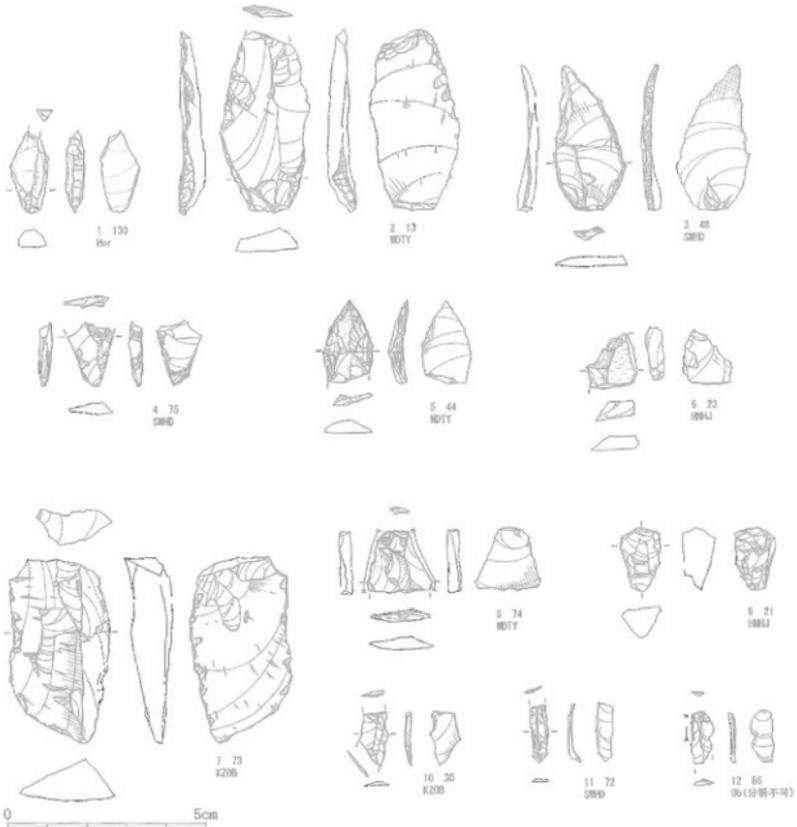
#### 細石刃 (第67図10~12)

3点が該当する。いずれも黒曜石を用いる。

10 (30)は神津島恩馳島群、11 (72)は源訪星ヶ台群の黒曜石を用いる。12 (86)は同定不可であるが、肉眼観察では11 (72)の源訪星ヶ台群の黒曜石に似る。11 (72)は基部部を発掘時に欠損する。12 (86)は左縁辺に微細な剥離痕が認められる。



第66図 旧石器時代遺物分布



第67図 旧石器時代出土石器

## 第4節 縄文時代の遺構と遺物

### 1. 遺 構

ここでは、縄文時代の遺構を一括して報告する。検出した遺構は、土坑8基と焼土29基であった。本遺跡における縄文時代に相当する土層は暗褐色土層・栗色土層・富士黒土層である。

#### (1) 土 坑 (第69図)

土坑は8基検出された。底部の形状により分類した。遺構の構築時期については、覆土・検出状況の情報のみで判断材料に乏しく、詳細な時期特定は不可能であった。

第I群 底部に小穴を伴うもの

第II群 底部に小穴を伴わないもの

#### 第I群 底部に小穴を伴うもの (1号～3号)

1～3号土坑3基がこれに該当する。

1号土坑はK-6グリッド東側から検出した。底部の平面形は最長径46cmの円形である。深さは100cmを測り、第I黒色帯 (BB I) まで掘り込まれている。

2号土坑はK-6グリッドから検出した。底部の平面形は最長径57cmの円形である。深さは95cmを測り、第I黒色帯 (BB I) まで掘り込まれている。

3号土坑はI-6グリッドで検出した。遺構東半分は確認調査の際に休場層下位から中位 (YLL～YLM) で検出、本調査の際、西側半分を休場層上面で検出した。そのため、東半分の遺構外径線を推定し作図した。底部の平面形は最長径136cmの不整形である。深さは69cmを測り、第Iスコリア層 (SC I) まで掘り込まれていた。底部小穴は土層断面では確認できたものの平面的には不明瞭で、図化できたのは2基のみであった。

#### 第II群 底部に小穴を伴わないもの (4号)

4号土坑1基が該当する。4号土坑はK-5グリッドで検出した。底部の平面形は最長径91cmの楕円形である。深さ50cmを測り、休場層直下黒色帯 (BB 0) まで掘り込まれていた。

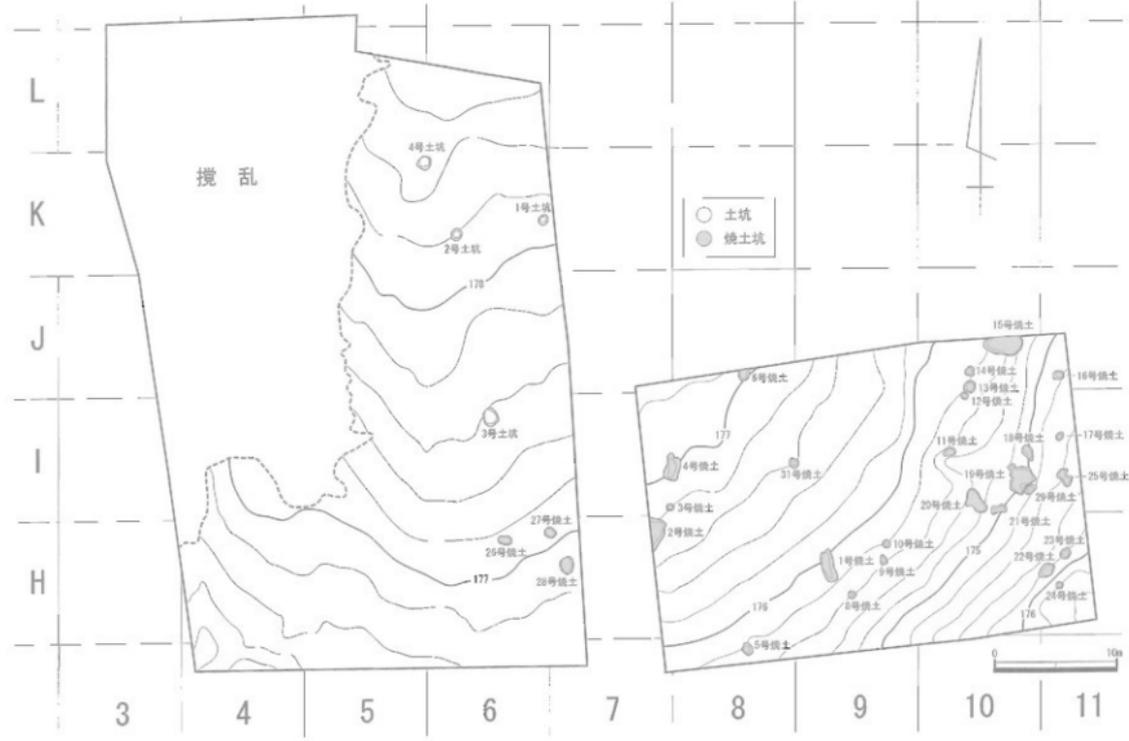
第20表 縄文時代土坑一覧

土坑名	分類	形状	検出層位	グリッド	底面 表径×短径 (cm)	検出面 最長×短径 (cm)	最大深 (cm)	底層 小穴
1号土坑	I	円	休場層上面	K-6	46 × 38	81 × 73	100	有
2号土坑	I	円	休場層上面	K-6	57 × 52	82 × 95	95	有
3号土坑	I	楕円	休場層上面	I-6	136 × 107	150 × 122	69	有
4号土坑	II	楕円	休場層上面	K-5	91 × 70	110 × 94	50	無

#### (2) 焼 土 (第70図)

焼土には覆土に焼土粒を含み掘り込みを持つと考えられる土坑を分類した。焼土はH-J-6～11グリッドから集中して検出された。検出グリッド周辺では焼土粒、炭化物が散見された。29基全てが栗色土層での検出である。焼土の平面形は円形・楕円形・不整形の3種である。皿状に掘り込まれており、深さは平均13cmで、最も深いもので26cm、浅いもので7cmである。当時の調査担当者の所見には、全ての焼土において掘り込みの縁や底に明確に被熱した痕跡が見られず、焼土が集中している箇所も希薄であるため、遺構ではない可能性が指摘されている。上記の理由から、これらの焼土が炉などの役割をなす人為的な遺構であるかどうかの判断は難しい。また、覆土・検出状況の情報のみで判断材料に乏しく、詳細な時期特定は不可能であった。以下、検出面の平面形態により3群に大別、覆土の状況により小別

第88圖 縄文時代遺構配置



し、主な形状の土坑を図示した。大別の基準は、長幅比1.2以下を円形または歪円形、1.21以上を楕円形、円・歪円形、楕円形でないものを不定形、部分的に検出ができなかったものを不明として分類した。

なお、本遺跡の検出形態と類似すると考えられる明確に被熱した痕跡が見られず、焼土の集中箇所も希薄な焼土245基が元野遺跡においても報告されている。

第Ⅰ群 平面形態が円形のもの 11基

A類 焼土集中有 (12~16号)

B類 焼土集中無 (3・5・8~10・23・24号)

第Ⅱ群 平面形態が楕円形のもの 10基

A類 焼土集中有 (17・18・20・21号)

B類 焼土集中無 (19・22・26~29号)

第Ⅲ群 平面形態が不定形のもの 3基

A類 焼土集中有 (1号)

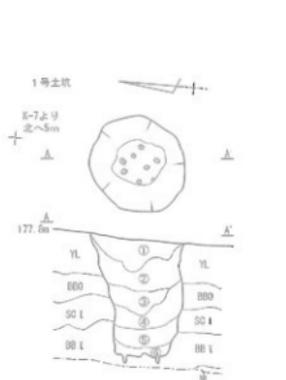
B類 焼土集中無 (4・25号)

第Ⅳ群 平面形態が不明不定形のもの 5基

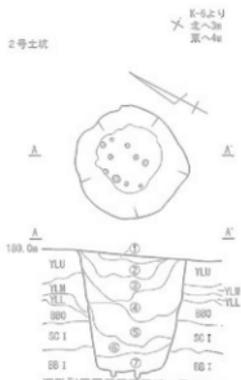
A類 焼土集中有 (2・6・11・15・31号)

第21表 縄文時代焼土一覧

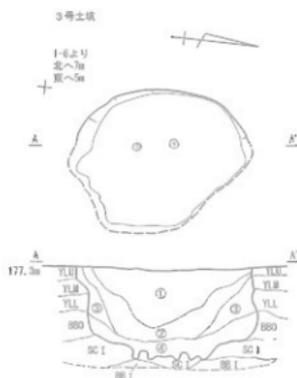
焼土名	検出層位	グリッド	検出箇 長径×短径 (cm)	最大径 (cm)	形態	焼土 集中	分類	備考
1号焼土	原色土層	H-9	274 × 146	16	不定形	有	Ⅲ-A	
2号焼土	原色土層	H-7	224 × 110	26	不明	有	Ⅳ-A	一部破乱
3号焼土	原色土層	I-7	46 × 44	10	歪円	無	I-B	
4号焼土	原色土層	I-7・8	220 × 114	16	不定形	無	Ⅲ-B	
5号焼土	原色土層	G-6	84 × 74	14	歪円	無	I-B	
6号焼土	原色土層	J-6	(76) × 48	7	不明	有	Ⅳ-A	一部調査区外
8号焼土	原色土層	H-9	52 × 50	10	円形	無	I-B	
9号焼土	原色土層	H-9	78 × 66	15	歪円	無	I-B	
10号焼土	原色土層	H-9	53 × 50	13	歪円	無	I-B	
11号焼土	原色土層	I-10	84 × (26)	8	不明	有	Ⅳ-A	一部調査区外
12号焼土	原色土層	I-10	50 × 46	13	歪円	有	I-A	
13号焼土	原色土層	I-J-10	79 × 72	10	円形	有	I-A	
14号焼土	原色土層	J-10	58 × 55	10	歪円	有	I-A	
15号焼土	原色土層	J-10	322 × (200)	12	不明	有	Ⅳ-A	一部調査区外
16号焼土	原色土層	J-11	70 × 66	14	円形	有	I-A	
17号焼土	原色土層	I-11	54 × 43	16	楕円形	無	Ⅲ-A	
18号焼土	原色土層	I-10	104 × 70	12	楕円形	無	Ⅲ-A	
19号焼土	原色土層	I-10	260 × 214	10	不定形	有	Ⅲ-B	
20号焼土	原色土層	I-10	216 × 112	15	楕円形	有	Ⅲ-A	
21号焼土	原色土層	I-10	114 × 60	18	楕円形	有	Ⅲ-A	
22号焼土	原色土層	H-11	153 × 95	12	楕円形	無	Ⅲ-B	
23号焼土	原色土層	H-11	80 × 76	30	歪円	無	I-B	
24号焼土	原色土層	H-11	46 × 44	10	歪円	無	I-B	
25号焼土	原色土層	I-11	144 × 100	18	不定形	無	Ⅲ-B	
26号焼土	原色土層	H-6	106 × 40	14	楕円形	無	Ⅲ-B	
27号焼土	原色土層	H-6・7	64 × 48	10	楕円形	無	Ⅲ-B	
28号焼土	原色土層	H-7	122 × 96	11	楕円形	無	I-B	
29号焼土	原色土層	I-10	106 × 70	16	楕円形	無	Ⅲ-B	
31号焼土	原色土層	I-6	78 × (30)	9	不明	有	Ⅳ-A	一部破乱



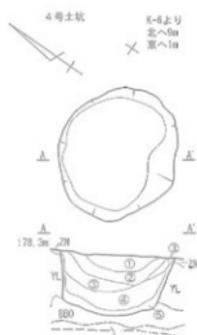
- ①層 少量の褐色スコリア・炭化物を含む。粘性強。締まり強。
- ②層 孔が多量に混入。少量の褐色スコリア・炭化物を含む。粘性やや弱。締まり強。
- ③層 孔が少量混入。微量の褐色スコリア・少量の炭化物を含む。粘性強。締まり強。
- ④層 微量の炭化物を含む。粘性強。締まり強。
- ⑤層 孔が少量混入。微量の炭化物を含む。粘性強。締まり強。
- ⑥層 微量の褐色スコリアを含む。粘性強。締まり強。



- ①層 褐色スコリア・ローム・炭化物を含む。粘性強。締まり強。
- ②層 微量のスコリア。少量のローム。多量の炭化物を含む。粘性強。締まり強。
- ③層 微量のスコリア・炭化物。多量のロームを含む。粘性強。締まり強。
- ④層 多量のローム・炭化物。少量の黄色スコリアを含む。粘性強。締まり強。
- ⑤層 少量の褐色スコリア・ローム・炭化物を含む。粘性強。締まり強。
- ⑥層 ①から⑤層に比べ強い。少量の炭化物を含む。粘性強。締まり強。
- ⑦層 ⑥層が混入。微量・黄色スコリアを多量に含む。粘性強。締まり強。



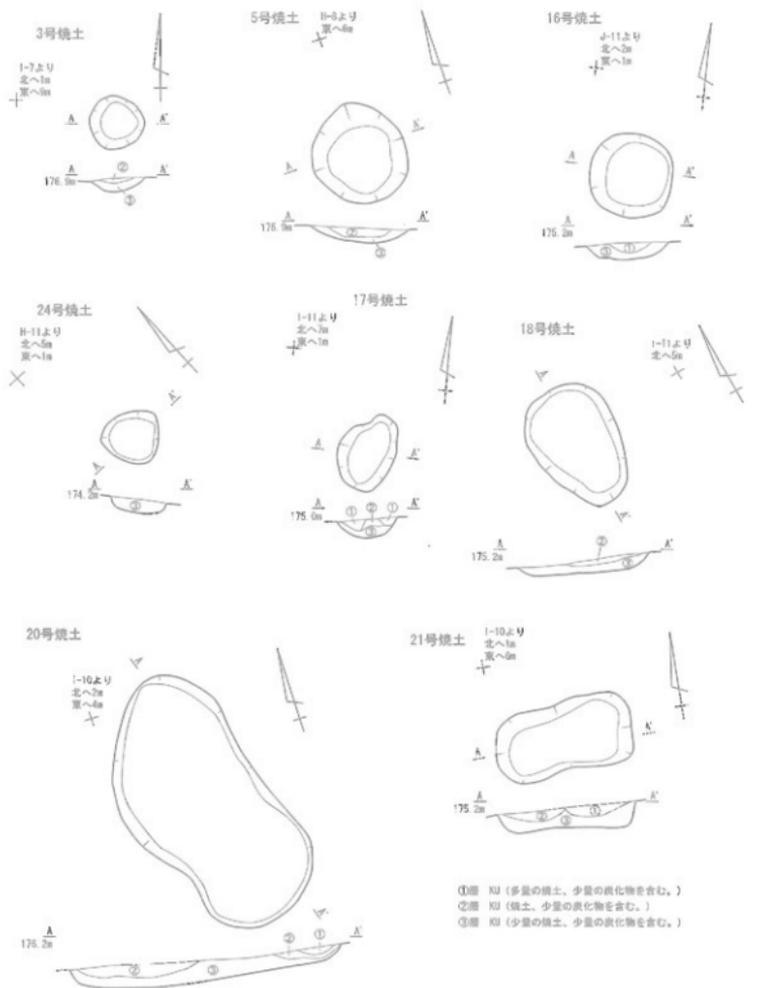
- ①層 褐色スコリア・炭化物を含む。粘性強。締まり強。
- ②層 孔が少量混入。少量の褐色スコリア・炭化物を含む。粘性強。締まり強。
- ③層 孔が少量混入。少量の褐色スコリア・炭化物を含む。粘性やや弱。締まり強。
- ④層 孔が多量に混入。微量の褐色スコリアを含む。粘性強。締まり強。



- ①層 少量の褐色スコリア・炭化物を含む。粘性強。締まり強。
- ②層 孔が少量混入。褐色スコリア・炭化物を含む。粘性強。締まり強。
- ③層 孔が多量に混入。微量の褐色スコリア・炭化物を含む。粘性強。締まり強。
- ④層 孔が少量混入。微量の褐色スコリアを含む。粘性強。締まり強。
- ⑤層 孔が少量混入。微量の褐色スコリアを含む。粘性強。締まり強。



第69図 縄文時代土坑



第70図 縄文時代焼土

## 2. 遺物

縄文時代の遺物は、富士黒土層・栗色土層・暗褐色土層より出土した。遺物取り上げはグリッド単位で行った。遺物の出土グリッドは以下の通りである。

遺物の出土量は全体的に少なく、土器80点、石器29点、礫82点である。礫の中には赤化したものが含まれる。

第22表 遺物出土グリッド一覧

グリッド	土器	石器	礫	グリッド	土器	石器	礫
H-6	1			I-9	1	2	5
G-9			1	I-10	6	1	2
D-7		1		I-11			1
G-8			4	J-4			1
H-6			1	J-6			2
H-6	2	3	3	J-7			2
H-7	1		2	J-8		1	1
I-6		1	1	J-9		3	9
H-9	1	1	3	J-10		9	12
H-10	1	1	2	K-6			3
H-11			1	K-6		1	10
I-5	4			K-7			1
I-6	42	1	1	L-6	7	1	9
I-7		1		遺物	2	1	
I-8	6	2	5	合計	80	29	82

## (1) 土器 (第71図)

土器は縄文時代早期～前期の資料と考えられるものが80点出土した。このうち5個体を報告する。

平面分布ではI-6グリッドを中心に出土した。出土状況は散漫であり、層別的な出土傾向はとらえることはできなかった。分類は以下のとおりである。

## 第I群 早期

- A類 絡条体庄痕文 1種 清水柳E類併行の土器  
 B類 条痕文 1種 野鳥式土器  
 2種 型式不明 (a) 条痕調整有  
 (b) 条痕調整無

## 第II群 前期

- 1種 諸磯b式土器  
 2種 型式不明

## 第I群 早期 (第71図1～4)

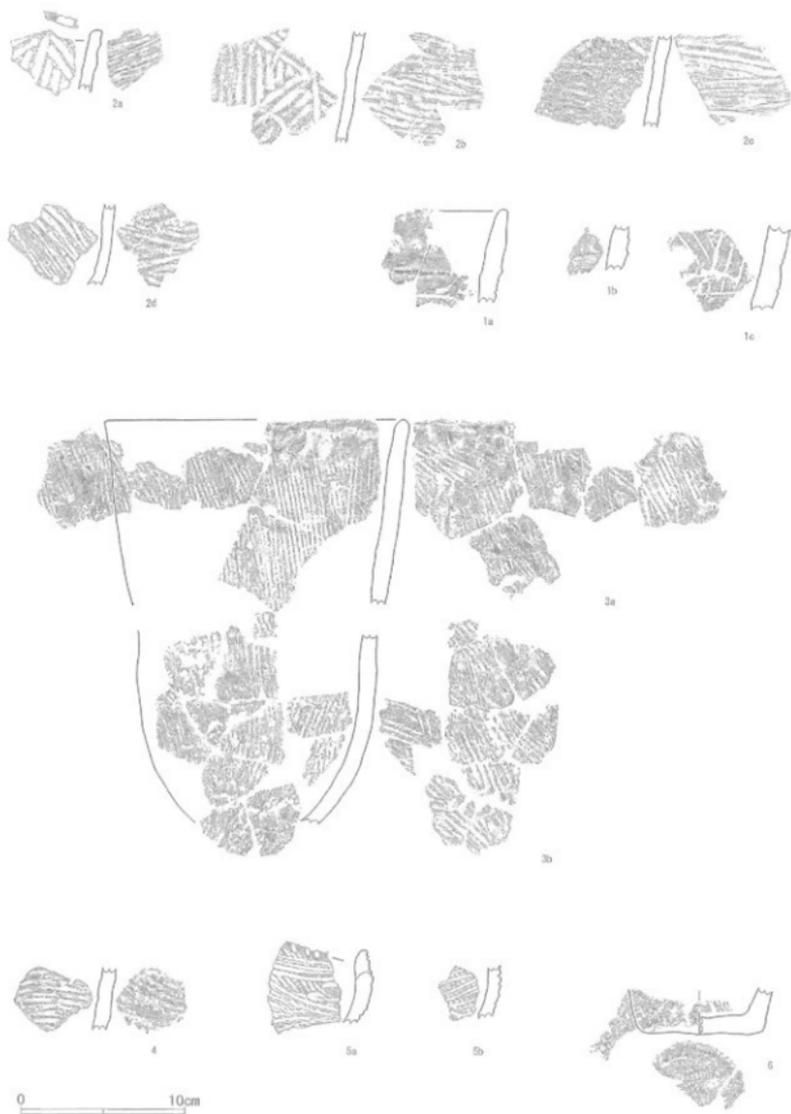
## I群A類1種 清水柳E類併行の土器 (1)

細隆起線、沈線を施文し、幾何学的な文様を描く厚手の土器を清水柳E類併行の土器として分類した。清水柳E類に併行する土器は1個体が出土した。

1a～cは胎土・施文の状況から同一個体である可能性が高い。口縁部に微隆起線、沈線により文様を描くことから清水柳E類併行の土器と分類したが、出土資料から絡条体庄痕文は確認出来なかった。器壁の厚さは15mm程と厚手である。1aは口縁部の破片である。残存部位が少ないため口縁部の形状は不明であるが、平縁であると推測される。口縁部文様帯は1条の微隆起線を横位に施し、微隆起線の下位に沈線により文様を描く。1bは1条の横位の微隆起線から、縦上方に向かう微隆起線が2条施されている。1cは沈線により幾何学的な文様を描く。

## I群B類1種 野鳥式土器 (2)

細隆起線、沈線を施文し、幾何学的な文様を描く薄手の土器を野鳥式土器として分類した。野鳥式土



第71圖 出土土器

器は1個体が主にI-6グリッドから出土した。

2a~dは胎土・施文の状況から同一個体である可能性が高い。器壁の厚さは6mm程である。内面には条痕による調整が残る。2aは口縁部の破片である。残存部位が少ないため口縁部の形状は不明であるが、口唇部に凹みがある。2a・bは沈線により幾何学的な文様を描く。2dは内外両面に条痕による調整が残る。

#### I群A類3種 型式不明(3・4)

##### (a) 条痕調整有(3)

主にI-6グリッドから出土した。3a・bは胎土・施文の状況から同一個体である可能性が高い。口径復元径は18.5cm、器壁は厚さ10mm程である。胎土には多量の繊維を含む。口縁の形状は平縁、口唇部は丸頭状である。残存部位から推測し、底部は尖底であると考えられる。内面には条痕による調整が残る。口縁部直下には横1列の指頭圧痕が残る。外面は条痕による縦位の文様を施す。

##### (b) 条痕調整無(4)

4は胎土に多量の繊維を含む。外面には比較的太い繊維痕が残る。

### 第II群 前期(第71図5~6)

#### II群1種 諸磯b式土器(5)

浮線文、平行沈線を有するものを諸磯b式土器として分類した。諸磯b式土器はG・H-5・6グリッドから出土した。1個体2点中2点を図示する。

5a・bは胎土・施文の状況から同一個体である可能性が高い。5aは口縁部の破片である。断片的な資料であるため器体の形状は不明である。口唇部には丸棒状の工具を用いて刻みを施す。器体外面はRLの縄文を地文とする。半截竹管状の工具を用いた平行沈線により文様を描く。

#### II群2種 型式不明(6)

6は平底土器底部の破片である。底面にRLの縄文が認められる。

第23表 縄文土器観察資料

探検 番号	時期	分類	型式	文様・特徴等	色調	外面 内面	胎土	繊維痕
1	早期	条痕文	清水跡E類群行	平縁。帯状施線文・沈線による幾何学文様。	7.5YR6/6 暗 7.5YR5/4 に近い暗	暗	石英、黒色粒子、白色破片、 赤色破片、灰色破片	多
2	早期	条痕文	野島式	口唇部に凹み、沈線による幾何学文様。内外面 部下方に条痕。	5YR5/6 赤褐 10YR5/6 黄褐色	赤褐色	白色粒子、白色破片、 赤片	多
3	早期	条痕文	型式不明	平縁・口唇部は丸頭状。底部は尖底。指頭圧痕。 内面に条痕による調整。外面に縦位の条痕。	5YR5/3 暗赤褐 5YR4/1 褐灰	暗赤褐	白色粒子、黒色粒子、白 色破片	多
4	早期	-	型式不明	内面に条痕調整。外面に太い繊維痕。	7.5YR4/2 暗 7.5YR4/2 暗	暗	白色粒子、黒色粒子、白 色破片	多
5	前期	-	諸磯b式	口唇部に凹み。丸の縄文の地文。平行沈線。	5YR5/4 に近い赤褐 5YR5/6 暗赤褐	暗赤褐	石英、黒色粒子、白色破片、 赤色破片	多
6	前期	-	型式不明	平縁の条痕。底面に丸の縄文。	5YR5/6 暗赤褐 5YR5/6 暗赤褐	暗赤褐	石英、黒色粒子、白色破 片	多

#### (2) 石 器(第72・73図)

縄文時代に属する石器は総数29点が出土し、有舌尖頭器1点、石鎌4点、石匙1点、石核1点、打製石斧3点、磨石・敲石2点が含まれる。石器はJ-10グリッドを中心に調査区全体から出土した。出土状況は散漫であり、層位的な出土傾向を捉えることはできなかった。

##### 有舌尖頭器(第72図13)

1点が該当する。13(94)はガラス質黒色安山岩を用いる。小型・薄作りで、かえし部分が変形状に張り出す。舌部は折損する。風化のため薄茶色に変色する。

##### 石鎌(第72図14~17)

4点が該当する。

14 (58) は硬質頁岩を用いる。側縁は先端部側は僅かに内湾、基端側は僅かに外湾し、緩やかなカーブを描く。右脚部は折損する。

15(4) は天城柏峠群の黒曜石を用いる。比較的側縁部のみ加工を施し、表面には大きく礫面を残し、表面には節理面が残る。右側縁裏面中程に入る大きな剥離によって器体が欠れている。

16 (89) は天城柏峠群の黒曜石を用いる。側縁は先端部側が僅かに外湾する。先端部は折損する。

17 (92) は神津島恩馳島群の黒曜石を用いる。裏面基部側に素材面と思われる部分が残る。先端部は折損する。

#### 石匙 (第72図18)

1点が該当する。18 (8) は流紋岩を用いる。横長剥片の基端部側に表裏両面からの加工を施し、つまみを作り出す。刃部と考えられる末端は裏面から加工が施され若干内湾する。器体表面は風化し褐色に変色している。

#### 打製石斧 (第72図19~21)

3点が該当する。いずれの資料も礫面が残る。

19 (10) は中粒砂岩を用いた分銅形の打製石斧である。裏面全体と表面の周縁に加工を施す。表面には礫面が残る。右縁辺には着柄痕と考えられる稜線の潰れが認められるが、左縁辺の稜線の潰れと対応していない。

21 (29) は細粒砂岩を用いた打製石斧である。基部側を折損し全体形状は判然としない。

20 (2) は中粒砂岩を用いた打製石斧である。右縁辺と刃部に表裏両面からの加工が見られる。左縁辺は薄くほとんど加工がないため、未製品の可能性がある。基部側を折損し全体形状は判然としない。

#### 磨石・敲石 (第72図22・23)

2点が出土している。

22 (57) は細礫岩を用いる。卵形の礫の端部に敲打痕が残る。

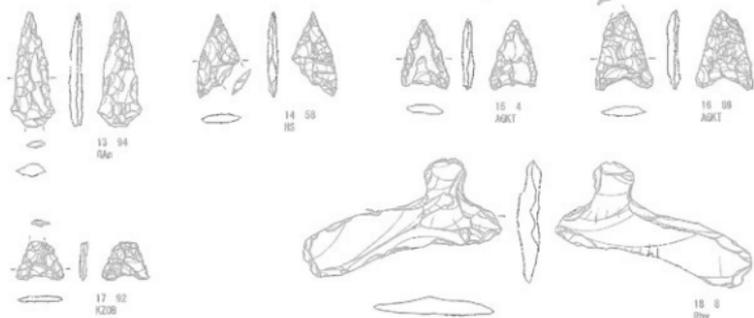
23 (47) は輝石安山岩を用いる。礫の不特定の箇所敲打痕が残る。

#### 礪器 (第72図24)

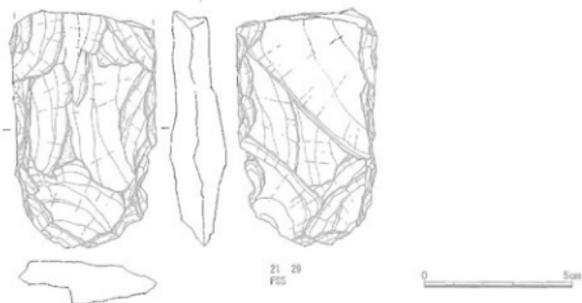
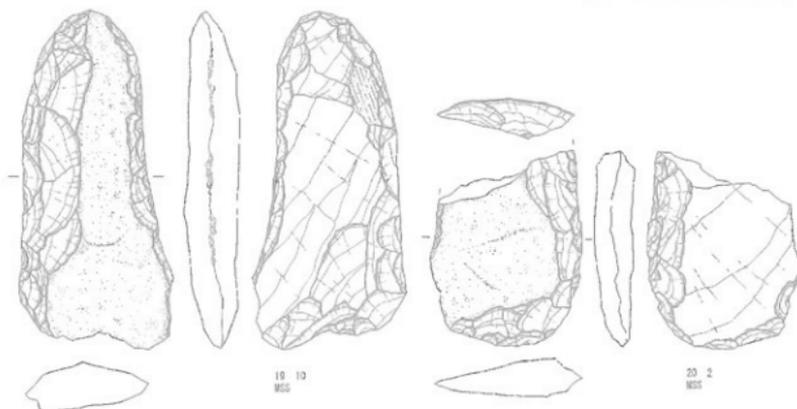
1点が該当する。24 (54) は中粒砂岩を用いる。実測図の正面下部に裏面より加工を施し刃部を作り出す。上部は節理面を活かし加工は施されていない。右縁辺には上部節理面から加工が施され、器形が整えられている。

第24表 縄文時代石器組成

	黒曜石							ホルンフェルス	ガラス質黒曜石	流紋岩	細粒砂岩	中粒砂岩	輝石安山岩	粗面岩	節理面	節理面	合計
	天城柏峠群	神津島恩馳島群	神津島恩馳島群	神津島恩馳島群	神津島恩馳島群	神津島恩馳島群	神津島恩馳島群										
	AGKT	HHHJ	SHBD	HOIT	KZOB	—	hor	Gtn	Rhy	FSS	BSS	An (Py)	HS	GO			
海骨片類									1							1	
石錐	2				1										1	4	
石匙									1							1	
加工産片								1								1	
使用産片	1		1													2	
剥片	3				1	1	2									7	
砕片		2	1	1		1					1	2				6	
石錐	1															1	
打製石斧											1	2				3	
磨石・敲石類													1		1	2	
礪器												1				1	
合計	7	2	2	1	2	2	2	2	1	1	5	2	1	1	1	29	

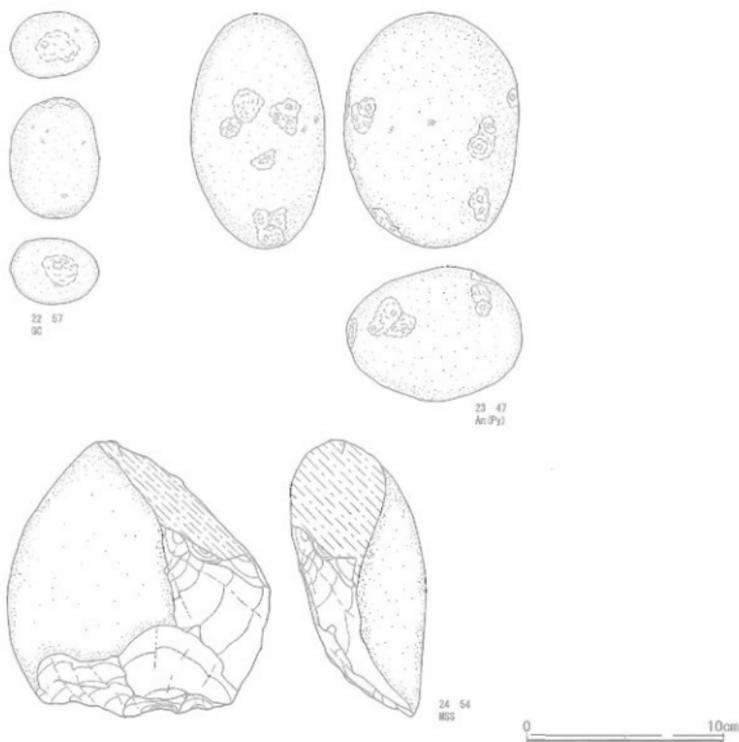


0 5cm



0 5cm

第72図 縄文時代出土石器(1)



第73圖 縄文時代出土石器（2）

# 第IV章 イタドリC遺跡 第二東名No.15地点

## 第1節 調査の方法と経過

### 1. 調査の方法

イタドリC遺跡(第二東名No.15地点)の調査対象面積は、計約19,408㎡(実掘削面積8,808㎡)に及ぶ(第74・75図)。

遺跡全体の把握と作業の効率化を図るため、国家標準座標第Ⅷ系(X=-94320.0、Y=31000.0)=(A、1)上を原点とし、遺跡全体に10×10mのグリッドを設定した。グリッドのX軸方向(南北方向)をアラビア数字、Y軸方向(東西方向)をアラビア数字と設定した。

確認調査ではテストピットとトレンチを併用して掘削を行い、本調査においては面的な掘削を行った。掘削は基本的に人力で行ったものの、表土や遺構・遺物が存在しない層位においては重機を用いた。また人力と重機を併用して掘削を行った場合もある。なお、掘削した土砂はベルトコンベアーで集め、バックフォートクローラダンプを用いて排出した。

遺物の取り上げは株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を用い、光波測定器によって実施した。遺物には層位別に土器=P、石器=S、礫=R、炭化物=C等の略号と4桁の通し番号を付け、X・Y座標値と標高値(Z)を記録し取り上げ、コンピューターデータとして保管している。

地形測量は遺構検出面での測量を基本とし、2.0mメッシュで測量し手実測により図化、個別遺構図は手実測により平面図・立面図等を縮尺1/20を基本とし、微細図については縮尺1/10で図化・保管している。

写真撮影は必要に応じて随時行った。写真撮影には35mmの小型カメラ、およびブローニー6×7判の中型カメラ、三脚を使用した。フィルムは35mm(カラー、白黒、リバーサル)の3種類及びブローニー判(白黒、リバーサル)を使用した。

### 2. 調査の経過

確認調査その1は、平成9年7月～同年8月にNo.14地点遺跡の確認調査と併せて行われた。市道から東側においては8m置きに2m幅のトレンチを設定した後、人力による掘削を行った。しかし茶樹耕作による攪乱が著しく、遺構・遺物共にほとんど見られなかった。市道より西側の調査区には3m方眼のテストピットを1ヶ所設定し、中部ローム層上面まで人力による掘削を行ったが、礫が1点出土したのみであった。

確認調査その2は、平成10年1月～同年2月にかけて行われた。調査区は本調査の遺跡範囲をほぼ網羅している。ここでは、幅3～5mのテストピットを21ヶ所設定し、重機による表土除去後、第Ⅲスコリア帯スコリア2までを人力で掘削した。この調査では、栗色土層と富士黒土層で縄文時代の遺構と遺物が検出され、休場層以下では旧石器時代の遺物が検出された。

本調査は、平成10年6月～同年9月にかけて行われた。この本調査では、調査区中央を東西に走る農道に境に、北区・南区・東区を呼称して調査を行った。調査対象地全域を重機によって表土除去した後、栗色土層の残存状況良好な東区南側のみ人力により掘削した。富士黒土層は8m置きに幅2mのトレンチを設定し、休場層上面まで人力により掘削した。トレンチ内にほとんど遺構・遺物が検出されなかったため、重機により残る富士黒土層を除去した。この時点で、縄文時代の土坑14基を検出した。休場層では各グリッドに2m方眼のテストピットを3ヶ所設定し、休場層直下の黒色帯まで人力により掘削し

た。その結果、北区東西両端及び、南区南東部より礫群や石器ブロックを多数検出したため北区西端については調査区を西側に拡張した。礫群や石器ブロックが検出された部分の休場層を精査した後、2×2m第Ⅲスコリア帯スコリア2までのテストピットを28箇所、3～4m幅の中部ローム層までのテストピットを3箇所設定し人力による掘削を行った。休場層直下の黒色帯から遺物が数点出土したため、周辺部3m四方を拡張したが、遺構・遺物は検出されなかった。

確認調査その3は本調査の結果を受けて、平成10年9月～同年12月、拡張した範囲の確認調査が行われた。本調査の結果から栗色土層までは耕作によって大部分攪乱され、遺構・遺物共に存在しないと判断し、重機により除去した。まず富士黒土層上面を全面精査した後、南北方向に8m置きに幅2mのトレンチを設定し、人力による掘削を行った。遺物・遺構共にほとんど検出されなかったため、重機により残りの富士黒土層を除去した。休場層については、各グリッド2m方眼のテストピットを2～3箇所設定し、人力による掘削を行った。その結果、礫群5基・石器ブロック4基についてはテストピットを拡張し、精査を行った。休場層以下の調査については、中部ローム層までのテストピットを4箇所設定し、人力による掘削を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。

### 3. 資料整理

石器、土器、礫は洗浄の後、順次遺物番号の注記作業を行った。ホルンフェルス製の製品については薬品処理（PARALOID B-72）によって劣化遅延措置を施した。

本格的な資料整理に先立ち、平成17年、黒曜石製石器72点を抽出の上、独立行政法人沼津工業高等専門学校 名誉教授 望月明彦氏に依頼し、産地推定分析を行った。抽出の基準は、縄文時代の石器については調整・加工のあるものを中心に、旧石器時代に関しては全てを分析の対象とした。

資料整理・報告書作成は平成20年6月～平成21年11月にかけて行った。出土遺物の内訳は、旧石器時代の石器901点、礫205点、縄文時代の石器28点、礫70点、縄文時代早期以降の土器38点であった。それらをまとめると出土遺物総点数は1,242点であった。

まず、石器、礫の石材分類や層位ごとの分類を行い、あわせて接合作業も行った。石器は調整・加工の施されているものを中心に実測図を作成した。石器実測については、礫石器類（磨石・敲石・石皿・台石等）と一部の剥片石器類を除き、接合石器を中心に石器実測図作成業務を株式会社シン技術コンサルに委託した。

土器は型式分類を行った後、文様構成が明確なものを中心に拓本及び断面実測を行った。

報告書作成に伴い、全体図や遺構図等の図版作成、出土状況の記録と台帳に基づく一覧表の作成、拓本、実測図の図版作成、遺物写真撮影と写真図版の作成を行い、整理成果を踏まえて本文を執筆した。調査現場で用いた光波測定器の記録データはCADで図化されるが、図化されたデータをベクトルグラフィックソフトに取り込み、ソフト上で図版の編集を行った。



第74図 イタドリC遺跡周辺地形及びグリッド配置

第75図 ナストビツト配座

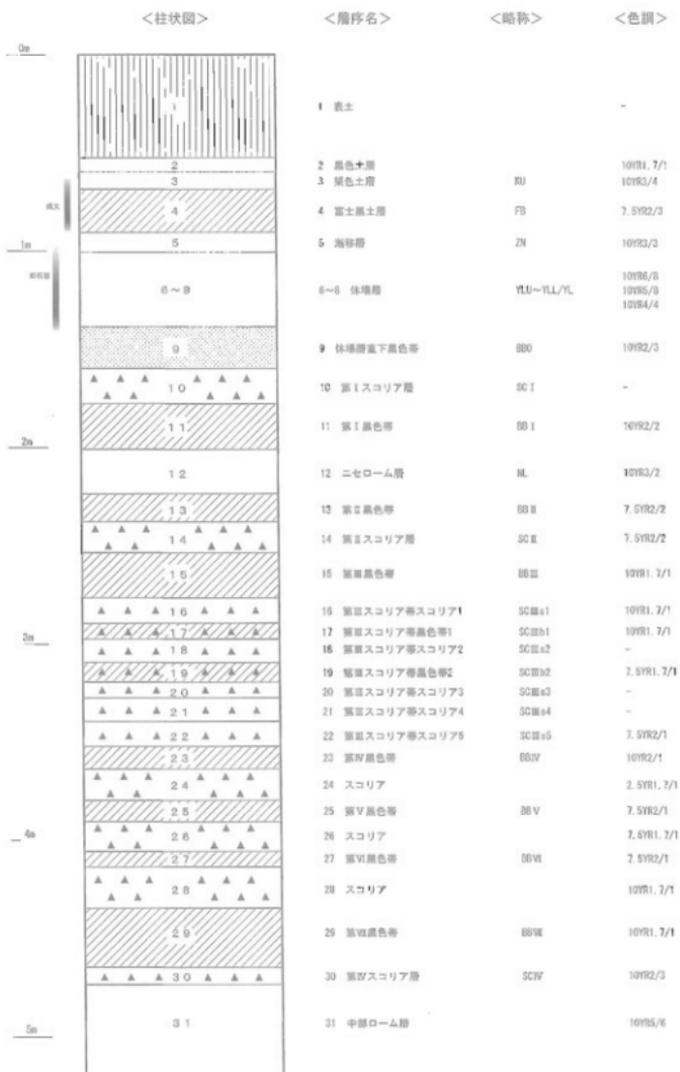


## 第2節 土層の堆積状況

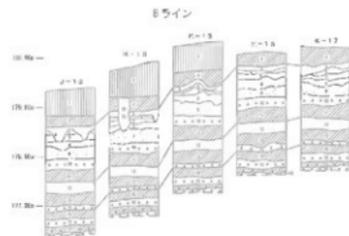
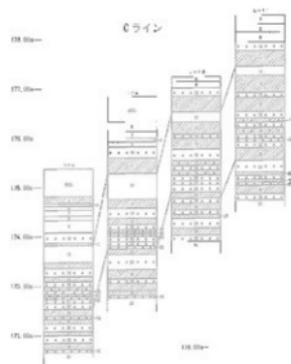
愛鷹山南麓には愛鷹ロームが堆積しており、愛鷹ローム団体研究グループによる火山灰層序学的区分に準拠して考古学的基本層序が定義されている。この基本土層はスコリア礫・軽石礫・ガラス質火山灰層を根拠に定義されたものであり、イタドリ遺跡の基本層序は、愛鷹山麓の考古学的基本層序（以下、愛鷹基本層序）とはほぼ一致する。第12層のニセローム層には広域火山灰である始良・丹沢バミスが認められ、他の層位においても富士起源の地域火山灰の肉眼観察が可能である。堆積状況により分層出来なかった箇所もあるが、基本的に31層に分層した。各層位は以下の通りである（第76図）。

- 第1層は表土である。茶畑の耕作土で、黒色土層にスコリアの粒がかき回された状態で存在している。
- 第2層は黒色土層である。黒褐色の土に、赤褐色のスコリアがごく僅かに入る。見た目は暗褐色に見える。本遺跡では茶畑の掘削などを受けており確認できない箇所がある。
- 第3層は黒色土層（KL）である。上下の層との境界は明瞭ではない。比較的明るい暗黄褐色土である。極めて細かい黄褐色のスコリアをごく僅かに含む。しまりは強く、やや粘性がある。調査区のほぼ全域に渡り、この層の途中までが、茶畑耕作による掘削を受けている。
- 第4層は富士黒土層（FB）である。しまり、粘性共に強く、中位から下位にかけて赤褐色のスコリアをごく僅かに含む。
- 第5層は漸移層（ZN）である。色調は暗褐色から黄褐色に変化する。
- 第6層は休場層上位（YLU）である。休場層の中で最も鮮やかな黄褐色を呈する。しまり、粘性ともに強い。スコリアはほとんど見られない。本遺跡内においては堆積が確認できない箇所もある。
- 第7層は休場層中位（YLM）である。休場層上位に比べややくすんだ黄褐色を呈する。休場層上位に比べ粒子が粗い。ややしまりがあり、粘性は強い。赤褐色の粒子をごく僅かに含む。
- 第8層は休場層下位（YLL）である。休場層上・中位に比べ黒みの強い暗黄褐色を呈する。赤褐色のスコリアを多く含む黄褐色のスコリアをごく僅かに含む。ややしまり、粘性がある。
- 第9層は休場層直下黒色帯（BB 0）である。黒色帯だが、暗褐色に近い色調を呈する。赤褐色のスコリアをごく僅かに含む。
- 第10層は第Iスコリア層（SC I）である。橙色のスコリアと、赤褐色のスコリアを主体としたスコリア層。上半部に比べ下半部のスコリアの密度が低い。
- 第11層は第II黒色帯（BB I）である。暗赤色のスコリアをごく僅かに含む黒みの強い黒色帯である。しまり、粘性共に強い。
- 第12層はニセローム層（NL）である。明赤褐色のスコリアを中心とした層。乾燥すると暗黄褐色に見える。この層から第II黒色帯の中位にかけて、始良・丹沢火山灰（AT）がパッチ状に認められる。
- 第13層は第II黒色帯（BB II）である。やや発色が薄く、暗赤褐色のスコリアを1～2割程度の割合で含む。
- 第14層は第IIスコリア層（SC II）である。第Iスコリア層に比べるとスコリアの割合は少なくとも5割程度である。
- 第15層は第III黒色帯（BB III）である。最も強く発色している黒色帯である。第II黒色帯に比べて柔らかい。褐色・暗赤褐色のスコリアをごく僅かに含む。

- 第16層は第Ⅲスコリア帯スコリア1 (SCⅢ s 1) である。黒色帯の中に赤褐色のスコリアを5割程度、黄褐色のスコリアをごく僅かに含む。
- 第17層は第Ⅲスコリア帯黒色帯1 (SCⅢ b 1) である。第19層の黒色帯に比べ発色が強い。赤褐色のスコリアをごく僅かに含む。
- 第18層は第Ⅲスコリア帯スコリア2 (SCⅢ s 2) である。堅くしまったスコリア層。赤褐色のスコリア層のなかに黄褐色のスコリアがブロック状に入る。
- 第19層は第Ⅲスコリア帯黒色帯2 (SCⅢ b 2) である。堅くしまった黒色帯のなかに、赤褐色と暗褐色のスコリアが3割程度入る。
- 第20層は第Ⅲスコリア帯スコリア3 (SCⅢ s 3) である。明黄褐色や赤褐色のスコリアを中心とした極めて堅くしまった層。1cmほどのやや緑がかった石片をまばらに含む。
- 第21層は第Ⅲスコリア帯スコリア4 (SCⅢ s 4) である。黄褐色や暗赤褐色のスコリアを主体としたスコリア層に暗褐色のスコリアが入る。乾燥すると黄褐色のスコリアが目立ち、ブロック状に見える。極めて硬くしまっている。
- 第22層は第Ⅲスコリア帯スコリア5 (SCⅢ s 5) である。黒ずんで見えるスコリア帯である。極暗赤褐色のスコリアが密集する形で形成されている。
- 第23層は第Ⅳ黒色帯 (BBⅣ) である。発色の強い黒色帯である。しまり、粘性共に強い。暗赤褐色、暗褐色のスコリアを1～2割程度含む。
- 第24層はスコリアから成る層である。赤褐色と暗赤褐色のスコリアを4割程度含む褐色のスコリアである。なお、この層より第27層第Ⅵ黒色帯までは場所によって分層が難しく、曖昧なところが多い。
- 第25層は第Ⅴ黒色帯 (BBⅤ) である。第24・26層に比べ軟らかい。暗赤褐色のスコリアを2割程度、オリーブ褐色のスコリアをごく僅かに含んでいる。
- 第26層はスコリアから成る層である。第24層と色調の類似するスコリアである。第24層より軟らかい。赤褐色、暗褐色のスコリアを3割程度含む。
- 第27層は第Ⅵ黒色帯 (BBⅥ) である。黒色土のなかに暗赤褐色と赤褐色のスコリアを1～2割程度含む。第26層よりやや軟らかい。
- 第28層はスコリアから成る層である。第24層と色調の類似するスコリアである。褐色や暗赤褐色のスコリアを主体とし、橙色のスコリアをごく少量含む。第23層以下の層中で最も硬くしまっている。
- 第29層は第Ⅶ黒色帯 (BBⅦ) である。強く発色している黒色帯である。第23層以下の層中では第27層と並んでわかりやすい。赤褐色と暗赤褐色のスコリアをごく僅かに含む。
- 第30層は第Ⅳスコリア層 (SCⅣ) である。第24・26・28層のスコリアとは異なり、はっきりとした褐色を呈する。漸移的に変化しているようにも見えるが、上下との分層は容易である。しまりは強く、褐色のスコリアと暗赤褐色のスコリアを1割程度含む。
- 第31層は中部ローム層である。黄褐色のローム層である。最上部においては暗赤色のスコリアを1割程度含む。



第76図 基本土層



- 1 黄土
- 2 黄色土層
- 3 黄色土層 (砂)
- 4 黄土層土層 (砂)
- 5 角礫層 (20)
- 6-8 砂礫層 (1/10-1/10L)
- 9 (砂礫層)下黄色砂 (砂)
- 10 第1スコリア層 (SC1)
- 11 第1黄色砂 (砂1)
- 12 ニセローム層 (NL)
- 13 第2黄色砂 (砂2)
- 14 黄変スコリア層 (SC2)
- 15 黄変黄色砂 (砂黄)
- 16 黄変スコリア層スコリア1 (SC2a1)
- 17 黄変スコリア層黄色砂1 (SC2a1)
- 18 黄変スコリア層スコリア2 (SC2a2)
- 19 黄変スコリア層黄色砂2 (SC2a2)
- 20 黄変スコリア層スコリア3 (SC2a3)
- 21 黄変スコリア層スコリア4 (SC2a4)
- 22 黄変スコリア層スコリア5 (SC2a5)
- 23 黄砂層 (SD)
- 24 スコリア
- 25 黄V黄色砂 (SDV)
- 26 スコリア
- 27 黄砂層 (SD)
- 28 スコリア
- 29 黄砂層 (SD)
- 30 黄砂スコリア層 (SDV)
- 31 中層ローム層

第77図 土層地質状況

### 第3節 旧石器時代の遺構と遺物

旧石器時代石器群の時期区分は、平面/垂直分布密度、石材、形態等の観点から行った。旧石器時代の遺構や遺物は休場層下位から中位を中心に上下の層にも僅かに包含される。石器900点、礫205点、総計1,105点が出土した。遺構は礫群20基を検出した。石器は、出土層位に上下差があるものの接合関係が認められ、使用石材や石器形態が類似することが判明した。石器形態から、箱根愛鷹編年の第4期から5期に相当する遺物が混在すると考えられるため文化層の設定は行わず休場層中の石器群として報告する。

#### 1. 遺 構

##### (1) 礫群 (第79図～83図・第25表)

休場層中の石器群からは礫205点が出土した。礫群は2点以上の礫が集中して検出された地点を便宜的に礫群とした。礫群は20基検出された。

##### 1号礫群

G-7グリッド内で休場層中位を中心に休場層下位から中位(YLL~YLM)から検出した。南北1.2m、東西1.7mの範囲に4点の礫が散漫に出土している。石材は多孔質玄武岩3点、輝石安山岩1点である。3点は赤化が確認され、内1点はスス状の黒色付着物が確認されている。総重量は3,880g(平均重量970g)である。

##### 2号礫群

G-7・8グリッド内で休場層中位を中心に休場層下位から中位(YLL~YLM)から検出した。南北2.6m、東西1.8mの範囲に8点の礫が散漫に出土している。石材は輝石安山岩4点、多孔質玄武岩2点、玄武岩2点である。4点は赤化が確認され、内3点はスス状の黒色付着物が確認されている。総重量は7,320g(平均重量915g)である。

##### 3号礫群

H-8グリッド内で休場層中位を中心に休場層下位から上位(YLL~YLU)から検出した。南北2.4m、東西3.0mの範囲に9点の礫が傾斜に添うように散漫に出土している。石材は多孔質玄武岩4点、多孔質安山岩3点、輝石安山岩2点である。6点は赤化が確認されている。総重量は3,860g(平均重量429g)である。

##### 4号礫群

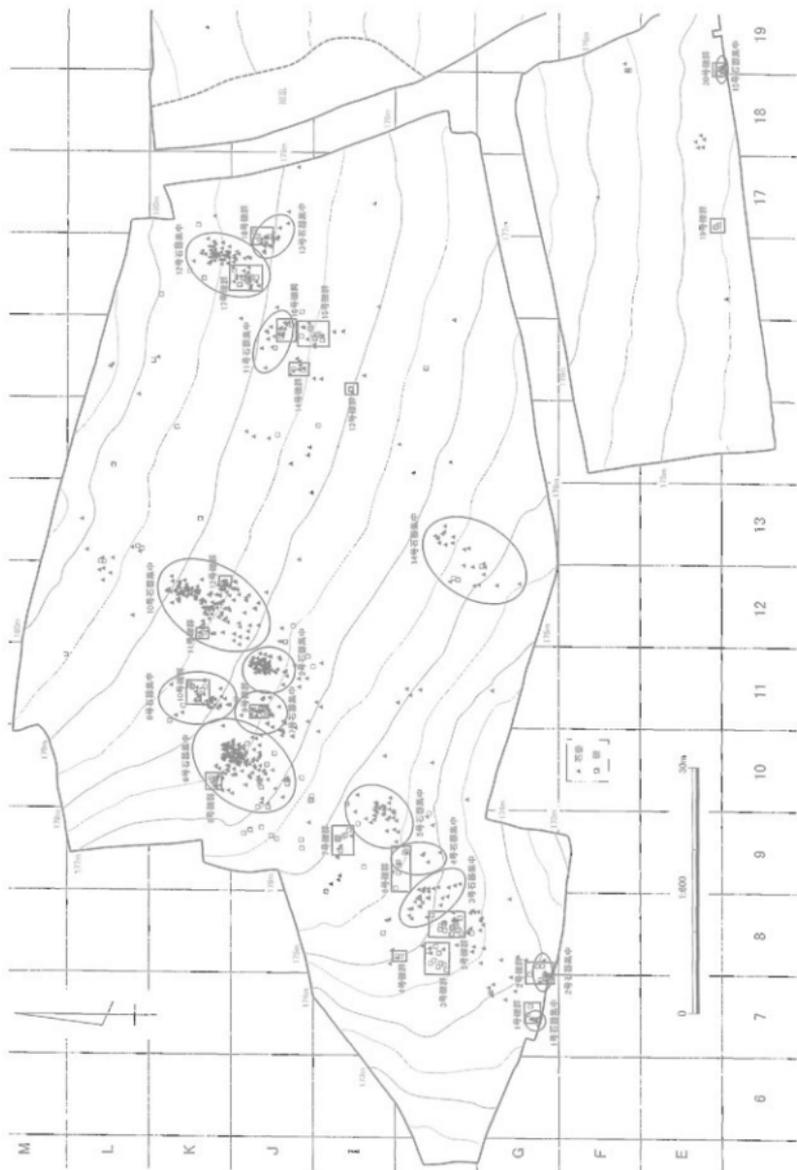
H-8グリッド内で休場層下位から検出した。南北0.6m、東西0.1mの範囲に2点の礫が出土している。石材は玄武岩1点、輝石安山岩1点である。1点は赤化が確認されている。総重量は2,030g(平均重量1,015g)である。

##### 5号礫群

H-5グリッド内で休場層中位を中心に休場層下位から上位(YLL~YLU)から検出した。南北3.8m、東西2.5mの範囲に20点の礫が傾斜に添うように散漫に出土している。石材は輝石安山岩10点、多孔質玄武岩4点、玄武岩3点、多孔質安山岩3点である。10点は赤化が確認され、内2点はスス状の黒色付着物が確認されている。なお、礫群内に礫2点が接合している。また本礫群内の礫1点と70m以上離れた17号礫群の礫3点が接合している。総重量は5,840g(平均重量292g)である。

##### 6号礫群

H・I-9グリッド内で休場層中位から検出した。南北4.5m、東西1.4mの範囲に7点の礫が散漫に



第78圖 旧石器時代遺構配置

出土している。石材は輝石安山岩5点、細粒安山岩1点、多孔質安山岩1点である。1点は赤化が確認されている。なお、礫群内で礫3点が接合している。総重量は1,750g（平均重量250g）である。

#### 7号礫群

I-9グリッド内で休場層中位を中心に休場層下位から中位（YLL～YLM）から検出した。南北1.4m、東西2.6mの範囲に9点の礫が散漫に出土している。石材は輝石安山岩5点、多孔質玄武岩3点、多孔質安山岩1点である。6点は赤化が確認されている。総重量は2,610g（平均重量290g）である。

#### 8号礫群

K-10グリッド内で休場層下位を中心に休場層下位から中位（YLL～YLM）から検出した。南北1.0m、東西0.8mの範囲に7点の礫が密集して出土している。石材は輝石安山岩5点、玄武岩2点である。1点は赤化が確認されている。礫群内より台石・石皿類1点が出土している。石皿を除く総重量は3,020g（平均重量431g）である。

#### 台石・石皿類（第95図1）

1（230）は多孔質玄武岩を用いる。礫の比較的平坦な面の中央が皿状に凹み、磨痕らしき礫面の潰れが認められる。

#### 9号礫群

J-11グリッド内で休場層中位から検出した。南北1.4m、東西0.8mの範囲に4点の礫が散漫に出土している。石材は輝石安山岩3点、多孔質安山岩1点である。3点は赤化が確認されている。総重量は11,400g（平均重量2,850g）である。

#### 10号礫群

K-11グリッド内で休場層中位を中心に休場層下位から中位（YLL～YLM）から検出した。南北2.0m、東西2.1mの範囲に9点の礫が散漫に出土している。石材は輝石安山岩6点、多孔質安山岩2点、多孔質玄武岩1点である。4点は赤化が確認されている。総重量は9,590g（平均重量1,066g）である。

#### 11号礫群

K-12グリッド内で休場層中位から検出した。南北0.5m、東西0.4mの範囲に2点の礫が出土している。石材は輝石安山岩2点である。総重量は4,210g（平均重量2,105g）である。

#### 12号礫群

K-12グリッド内で休場層中位から検出した。南北0.3m、東西0.4mの範囲に2点の礫が出土している。石材は輝石安山岩2点である。総重量は3,400g（平均重量1,700g）である。

#### 13号礫群

I-15グリッド内で休場層中位から検出した。南北0.3m、東西0.3mの範囲に3点の礫が出土している。石材は輝石安山岩3点である。1点は赤化が確認されている。総重量は5,040g（平均重量1,680g）である。

#### 14号礫群

J-15グリッド内で休場層中位から検出した。南北0.5m、東西0.2mの範囲に2点の礫が出土している。石材は輝石安山岩1点、多孔質玄武岩1点である。2点共に赤化が確認されている。総重量は7,420g（平均重量3,710g）である。

#### 15号礫群

I・J-15グリッド内に休場層中位から検出した。南北2.7m、東西1.4mの範囲に10点の礫が散漫に出土している。石材は輝石安山岩8点、多孔質安山岩2点である。9点は赤化が確認されている。なお、礫群内で礫5点が、16号礫群の礫1点と本礫群内の礫1点がそれぞれ接合している。総重量は3,960g（平均重量396g）である。

## 16号礫群

J-15グリッド内で休場層中位を中心に休場層中位から上位(YLM~YLU)から検出した。南北1.2m、東西1.7mの範囲に3点の礫が散漫に出土している。石材は輝石安山岩2点、玄武岩1点である。3点共に赤化が確認されている。なお、15号礫群の礫1点と本礫群内の礫1点が接合している。総重量は840g(平均重量280g)である。

## 17号礫群

J-16グリッド内で休場層中位を中心に休場層中位から上位(YLM~YLU)から検出した。南北2.1m、東西1.8mの範囲に13点の礫が傾斜に添うように散漫に出土している。石材は多孔質安山岩5点、玄武岩4点、多孔質玄武岩3点、輝石安山岩1点である。7点は赤化が確認されている。なお礫群内にて礫2点が接合している。また、本礫群内の礫3点と70m以上離れた5号礫群の礫1点が接合している。総重量は5,360g(平均重量412g)である。

## 18号礫群

J-16・17グリッド内で休場層中位から検出した。南北1.9m、東西1.2mの範囲に6点の礫が散漫に出土している。石材は輝石安山岩4点、玄武岩2点である。6点共に赤化が確認されている。なお、礫群内にて礫2点が接合している。総重量は3,680g(平均重量613g)である。

## 19号礫群

E-17グリッド内で休場層上位から検出した。南北0.5m、東西0.3mの範囲に3点の礫が出土している。石材は玄武岩2点、輝石安山岩1点である。3点共に赤化が確認されている。総重量は2,720g(平均重量907g)である。

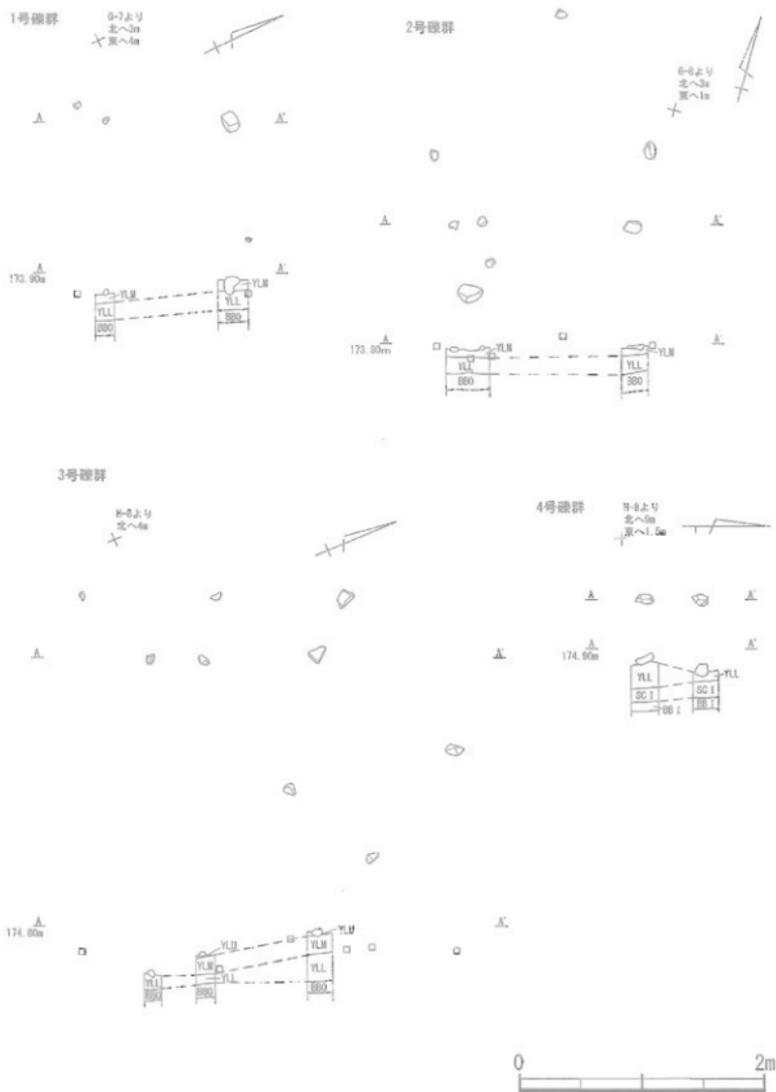
## 20号礫群

E-18・19グリッド内で休場層下位を中心に休場層下位から中位(YLL~YLM)から検出した。南北0.5m、東西0.5mの範囲に4点の礫が傾斜に添うように出土している。石材は輝石安山岩3点、玄武岩1点である。1点は赤化が確認されている。総重量は390g(平均重量98g)である。

第25表 礫群一覧

	1号 礫群	2号 礫群	3号 礫群	4号 礫群	5号 礫群	6号 礫群	7号 礫群	8号 礫群	9号 礫群	10号 礫群
玄武岩	Ba	2		1	3			2		
多孔質玄武岩	VBa	3	2	4	4		3			1
輝石安山岩	An (Py)	1	4	2	1	10	5	5	3	6
輝石安山岩	FAn						1			
多孔質安山岩	VAn			3	3	1	1		1	2
計		4	8	9	2	20	7	3	7	4
総重量 (g)		3,680	7,320	3,360	2,620	5,640	1,750	2,610	3,020	11,400
平均重量 (g)		970	615	428	1,615	282	250	290	431	2,850
休場層上位	YLU			1						
休場層中位	YLM	3	5	6		13	7	7	2	8
休場層下位	YLL	1	2	3	2	4		2	5	1
計		4	8	9	2	20	7	9	7	4

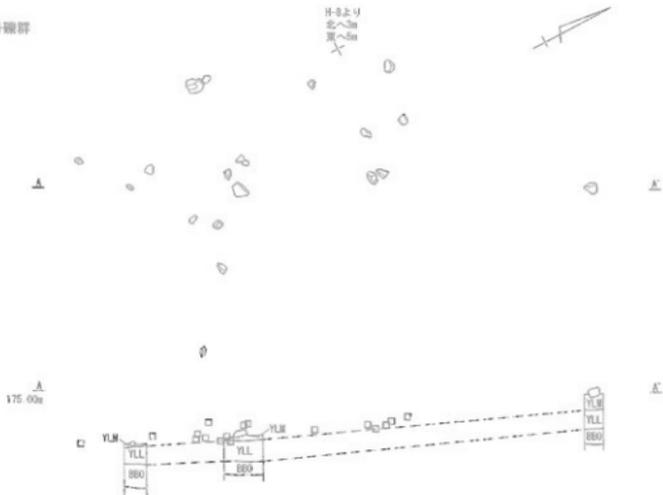
	11号 礫群	12号 礫群	13号 礫群	14号 礫群	15号 礫群	16号 礫群	17号 礫群	18号 礫群	19号 礫群	20号 礫群	計
玄武岩	Ba					1	4	2	2	1	10
多孔質玄武岩	VBa			1			3				21
輝石安山岩	An (Py)	2	2	3	1	8	2	1	4	1	69
輝石安山岩	FAn										
多孔質安山岩	VAn				2		5				18
計		2	2	3	2	19	2	13	6	2	47
総重量 (g)		4,210	3,490	5,040	7,420	5,060	840	5,260	3,930	2,750	88,320
平均重量 (g)		2,105	1,745	1,680	3,710	266	280	412	655	1,375	1,870
休場層上位	YLU					1	1		3		5
休場層中位	YLM	2	2	3	2	10	2	12	4	1	65
休場層下位	YLL										2
計		2	2	3	2	19	2	12	6	3	47



第79図 礫群(1)

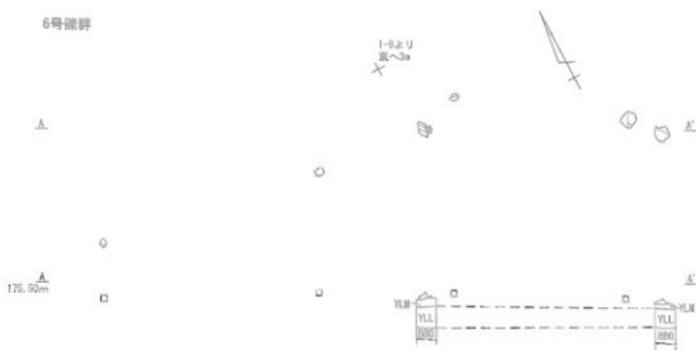
5号礫群

H-9.2-U  
北へ3m  
東へ5m  
X

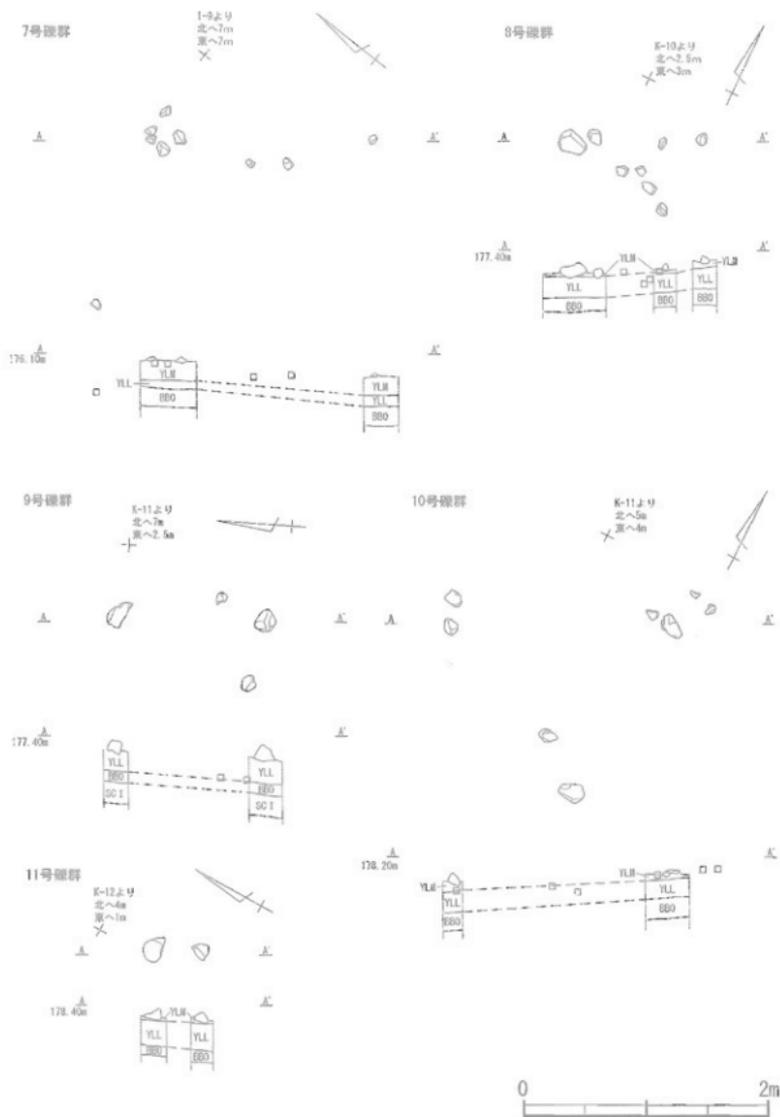


6号礫群

H-9.2-U  
北へ3m  
東へ5m  
X

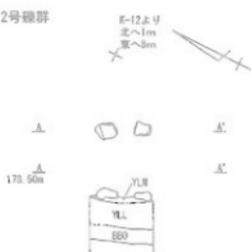


第80図 礫群(2)

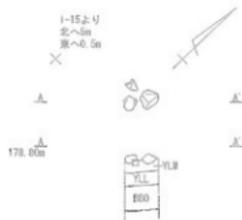


第81図 礎群(3)

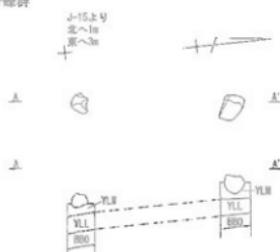
12号碑群



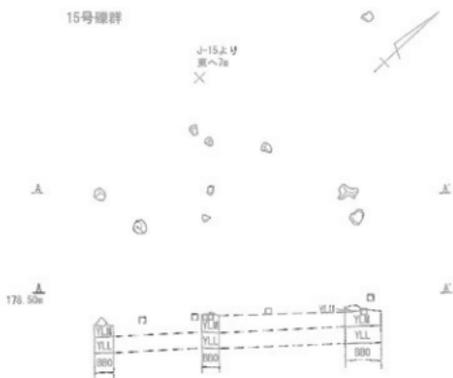
13号碑群



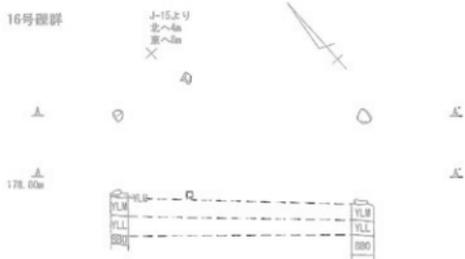
14号碑群



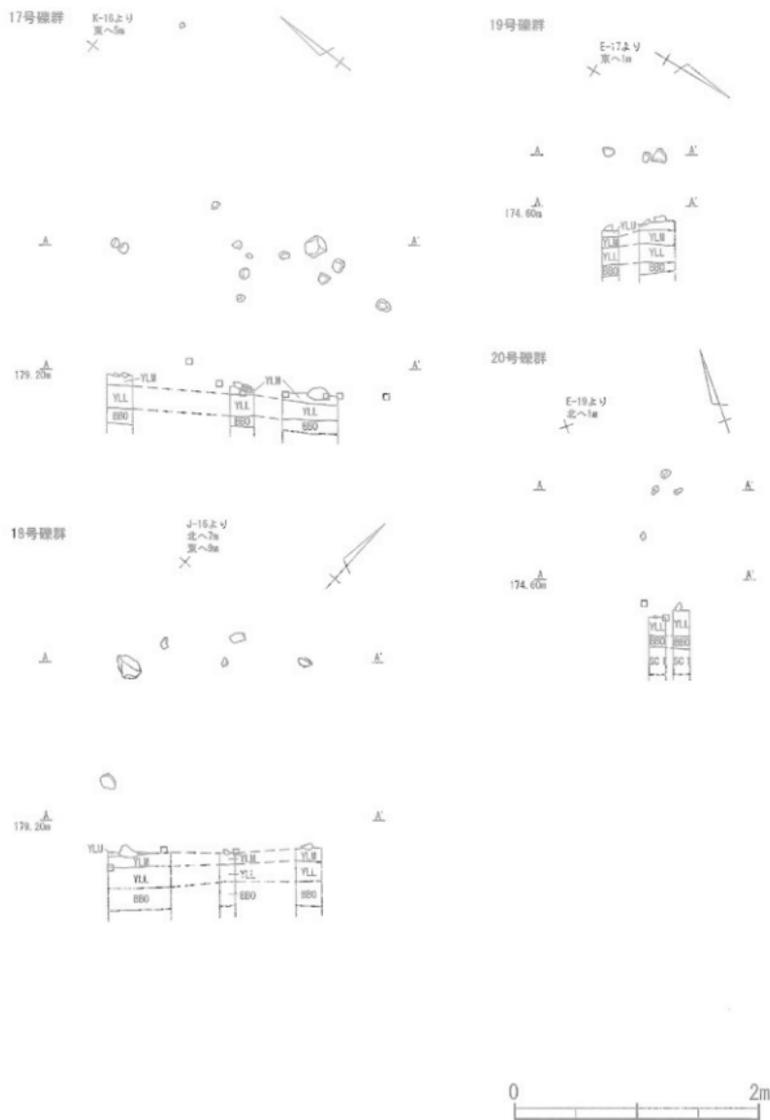
15号碑群



16号碑群



第82圖 碑群(4)



第83図 礎群(5)

## 2. 遺物

旧石器時代の遺物は主に休場層下位から中位に包含されていた。出土遺物の内訳は石器900点、礫205点の計1,105点である。石器集中15箇所を確認した。石器の内訳は以下の表の通りである（第26表）。

使用石材は近傍産石材であるホルンフェルスが約86%と大部分を占め、黒曜石が7%弱で、その他の石材で残りの1割を構成する。

第26表 休場層石器組成

	ホルンフェルス										黒曜石					近隣産石材		ホルンフェルス		ホルンフェルス		ホルンフェルス		ホルンフェルス		合計
	Hor	AKT	188U	K20B	SMB	TSTY	WP-	-	SS1	Ch	189y	GAs	FAr	Sh	SDs	Ja	FSS	Vba	Ar(Py)							
ナイフ形石片	12				3	2	1	1				1											23			
尖頭器	1				2							1											4			
スクレイパー	3								2														6			
細形石核					1					1													3			
細石刀					6				1														8			
細石核																							1			
加工痕石片	5				1	2	2				1	2	1										15			
使用痕石片	2		2													1							14			
打撃再産石片	1																						1			
石刃	43					2										2							47			
剥片	423		10		2		1			8	1	2	3	2		6	1	3					462			
剥片	265		2	6		4	1	1	2	6	1	1	1		1	3							295			
石核	18																						19			
原石										1													1			
礫石																							2			
石皿・台石類																							1			
合計	774	2	19	7	22	6	3	6	10	4	6	7	2	1	15	2	3	1	2				900			
石材比率	81.0%	0.2%	2.1%	0.9%	2.8%	0.7%	0.3%	0.7%	1.1%	0.4%	0.8%	0.9%	0.2%	0.1%	1.7%	0.2%	0.3%	0.1%	0.2%				100.0%			

### (1) 石器集中（第78図・第84図～第94図・第27・28表）

ここでは石器集中内から出土した石器を石器集中の概略と共に報告する。石器集中は14箇所確認された。石器集中はその多くが調査区北側一帯から検出された礫群の周辺に位置する（第78図）。

#### 1号石器集中（第84図）

G-7グリッドを中心に確認された。長軸1.1m、短軸1.0mの範囲にホルンフェルス7点が分布する。北東から南西にかけて傾斜しており、それに沿って遺物が出土している。出土層位は休場層下位から中位（YLL～YLM）である。出土範囲は標高173.7mを中心に約0.2mのレベル差が生じている。石器群は剥片類7点である。石器集中内に剥片2点の接合が確認された。石器集中の北東端と1号礫群の検出位置が重複している。

#### 2号石器集中（第84図）

G-7・8グリッドを中心に確認された。長軸2.7m、短軸1.8mの範囲にホルンフェルス8点が分布する。出土層位は休場層中位を中心に休場層上位から下位（YLL～YLU）である。出土範囲は標高173.8mを中心に約0.2mのレベル差が生じている。石器群は剥片類8点である。石器集中内外との石器の接合は認められない。石器集中と2号礫群の検出位置が重複している。

#### 3号石器集中（第85図）

H-8グリッドを中心に確認された。長軸6.7m、短軸3.3mの範囲にホルンフェルス27点、黒曜石2点が分布する。南北に傾斜しており、それに沿って遺物が出土している。出土層位は休場層下位を中心に休場層下位から上位（YLL～YLU）である。出土範囲は標高174.9mを中心に約0.6mのレベル差が生じている。石器集中は5号礫群と6号礫群の間に位置する。石器群はスクレイパー1点、石核2点、剥片類26点の合計29点である。黒曜石については産地同定の結果、諏訪屋ヶ台群1点、和田小深沢群1点となっている。石器集中内の剥片2点の接合が確認された。石核1点を図示する。

## スクレイパー

未掲載 (697) はホルンフェルスを用いる。剥片の縁辺に裏面から加工を施し切り立った鋸歯状の刃部を作り出す。刃部の幅は1.9cmと小さい。

## 石核 (第95図2)

2 (710) はホルンフェルスを用いる。旧作業面を打面とし、剥片剥離作業を行う。縁辺部に打面調整を行っている。部分的に礫面が残ることから比較的小さな原石を用いたと思われる。

未掲載 (691) はホルンフェルスを用いた石核である。風化が著しく稜線及び剥離の方向は判然としない。多方向から打撃を加え、複数の剥離を行う。

## 4号石器集中 (第85図)

H-4グリッドを中心に確認された。長軸5.3m、短軸2.0mの範囲にホルンフェルス6点が分布する。北から南にかけて傾斜しており、それに沿って遺物が出土している。出土層位は休場層中位を中心に休場層下位から上位 (YLL~YLU) である。出土範囲は標高175.3mを中心に約0.2mのレベル差が生じている。石器群は剥片類6点である。石器集中内外との石器の接合は認められない。

## 5号石器集中 (第86図)

H・I-9・10グリッドを中心に確認された。長軸7.5m、短軸4.4mの範囲にホルンフェルス39点、チャート1点が密集して分布する。北東から南西にかけて傾斜しており、それに沿って遺物が出土している。出土層位は休場層下位を中心に休場層下位から中位 (YLL~YLM) である。出土範囲は標高175.6mを中心に約0.5mのレベル差が生じている。石器群は使用痕剥片1点、石刃5点、剥片類34点の合計40点である。石器集中内の剥片2点の接合が確認された。使用痕剥片1点、石刃2点を図示する。使用痕剥片 (95図3)

3 (570) はチャートを用いる。縦長の剥片の左右縁辺に複数の剥離痕と微細な剥離痕が確認できる。剥片の基端部にも表面からの加工が見られる。

## 石刃 (95図4・5)

4 (553) はホルンフェルスを用いる。風化により器体を損傷し、基端部は失われる。後に石刃の剥離に先立つ加工が認められる。

5 (555) はホルンフェルスを用いる。末端部を風化により損傷している。後に石刃の剥離に先立つ加工が認められる。

## 6号石器集中 (第87図)

J・K-10グリッドを中心に確認された。長軸11.4m、短軸8.4mの範囲にホルンフェルス153点、黒曜石6点、珪質シルト岩2点、流紋岩1点、黄玉石1点、輝石安山岩1点が密集して分布する。北東から南西にかけて傾斜しており、それに沿って遺物が出土している。出土層位は休場層下位を中心に休場層下位から上位 (YLL~YLU) である。出土範囲は標高177.2mを中心に約1.0mのレベル差が生じている。石器群はナイフ形石器3点、スクレイパー1点、加工痕剥片1点、使用痕剥片2点、打面再生剥片1点、石刃9点、剥片類143点、石核3点、敲石1点の合計164点である。黒曜石6点は、産地同定の結果、全点諏訪星ヶ台群となっている。接合資料は5資料23点が確認された。石器集中の北西端と8号礫群の検出位置が重複している。ナイフ形石器3点、スクレイパー1点、使用痕剥片1点、打面再生剥片1点、石刃2点、石核2点、接合石器3資料18点、敲石1点を図示する。

## ナイフ形石器 (第95図6~8)

6 (184) は諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いた二側縁加工のナイフ形石器である。石刃を素材とする。素材剥片の打点部を先端部側に置く。打点は除去する。左側縁は先端部まで裏面から二次加工を施す。裏面の基部側全体に平坦剥離を施す。表面中央に走る稜線の先端部と基部に加工を施し形状を整える。

7 (210) は黄玉石を用いた二側縁加工のナイフ形石器である。縦長剥片の打点部を先端部側に置く。打点は除去する。左側縁部は先端部まで表裏両面から二次加工を施し急斜度の背部を形成する。右側縁は張り出しの手前まで表裏両面から二次加工を施す。先端部には左側縁の二次加工部からの植状剥離が確認できるが、衝突剥離であると考えられる。

8 (211) はホルンフェルスを用いた一側縁加工のナイフ形石器である。左側縁は先端部まで二次加工を施し、急斜度の背部を形成する。打点は除去する。基部は折損する。右側縁基部側には発掘時の欠損がある。

#### スクレイパー (第96図9)

9 (118) は珪質シルト岩を用いる。石刃を素材とする。素材剥片の左縁辺中央にに表面より加工を施し抉りを作り出す。左縁辺の基部側にも加工が認められる。

#### 使用痕剥片 (第96図10)

10 (146) は諏訪屋ヶ台群の黒曜石を用いる。剥片の左縁辺に微細な剥離痕が認められる。

#### 打面再生剥片 (第96図11)

11 (168) はホルンフェルスを用いる。風化のため器体を大きく損傷する。縁辺には少なくとも4箇所剥片剥離の打点が認められる。打面再生は旧打面を作り出した際と同じ打面から再度打撃を加え打面を再生したと考えられる。

#### 石刃 (第96図12・13)

12(199)、13(185)はホルンフェルスを用いる。いずれにも後に石刃の剥離に先立つ加工が認められる。12は末端部を節理により欠損、13は基部部を欠損する。

#### 石核 (第96図14～第99図18)

14 (229) はホルンフェルスを用いる。一定方向から打撃を繰り返す。実測図上部の縁辺には打面調整の痕跡が確認できる。

15 (113) はホルンフェルスを用いる。打面転移を繰り返し、様々な方向から剥片を剥離する。

16 (接-27) はホルンフェルスを用いる。頭部調整後、複数の石刃を剥離している。接合した剥片の剥離はa→dの順で行われ、その後e・f・gのいずれかを剥離している。打面を作り出すための剥離はa→dである。e→gは頭部調整後の剥離である。eを剥離した後、打面調整を行っている。

17 (接-28) はホルンフェルスを用いる。石刃を剥離するために頭部調整を行い、複数の石刃を剥離している。接合した剥片の剥離順はa→gである。b・c間、e・f間に打面転移をする。dには頭部調整の痕跡とともに後に石刃の剥離に先立つ加工が認められる。石刃の一部は使用されたか、石核と共に持ち去られた可能性がある。

18 (接-29) はホルンフェルスを用いた剥片接合の資料である。石核の両端に打面を設定し剥離を行い、打面転移したと考えられる。

#### 敲石 (第99図19)

19 (241) は輝石安山岩を用いる。扁平な礫の至る所に敲打痕が残る。特に礫の端部に敲打痕が顕著に認められる。

#### 7号石器集中 (第88図)

J-11グリッドを中心に確認された。長軸4.7m、短軸3.6mの範囲にホルンフェルス24点、黒曜石1点、珪質シルト岩1点が分布する。北東から南西にかけて傾斜しており、それに沿って遺物が出土している。出土層位は休場層下位を中心に休場層直下黒色帯から漸移層 (BB0～ZN) である。出土範囲は標高177.3mを中心に約0.6mのレベル差が生じている。石器群はナイフ形石器1点、スクレイパー1点、剥片類24点の合計26点である。黒曜石産地同定の結果は、諏訪屋ヶ台群1点となっている。石器集中内

外との石器の接合は認められない。石器集中の中心と9号礫群の検出位置が重複している。石器集中内より神津島思馳高群の細石刃が1点出土したが、石器の形態から石器集中内の石器群と時期が異なる可能性が高いと考え、集中の石器と分離し他の細石刃と共に報告する。ナイフ形石器1点を図示する。

#### ナイフ形石器（第100図20）

20（57）は諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いた一側縁加工のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用い打点部を右側縁に置く。右側縁は先端部まで裏面から二次加工を施し、急斜度の背部を形成する。その際打点部は除去する。右側縁の基部側は素材剥片の螺旋剥離状の彎曲を未加工部として残す。右側縁の張り出し部には微細な剥離痕が認められる。

#### 8号石器集中（第88図）

K-11グリッドを中心に確認された。長軸7.6m、短軸5.4mの範囲にホルンフェルス30点、珪質シルト岩2点、黒曜石1点、流紋岩1点、ガラス質黒色安山岩1点、赤玉石1点が分布する。北東から南西にかけて傾斜しており、それに沿って遺物が出土している。出土層位は休場層下位を中心に休場層下位から上位（YLL～YLU）である。出土範囲は標高177.9mを中心に約0.8mのレベル差が生じている。石器群は加工痕剥片1点、石刃2点、石核1点、剥片類32点の合計36点である。黒曜石産地同定の結果は、箱根畑宿群1点となっている。石器集中内の剥片2点の接合が確認された。また、石器集中内の剥片1点と9号石器集中の石器1点の接合が確認された。石器集中の北寄りの一部と10号礫群の検出位置が重複している。石刃1点、石核1点を図示する。

#### 石刃（第100図21）

21（接-19）はホルンフェルスを用いる。後に石刃の剥離に先立つ加工が認められる。基部付近は節理面を境に欠損する。末端部側の縁辺は風化により損傷する。

#### 石核（第100図22）

22（593）は珪質シルト岩を用いる。礫面・剥離面を打面とし剥片を剥離している。礫面が広く残るため、それほど剥離作業は行われていないと思われる。

#### 9号石器集中（第89図）

J-11グリッドを中心に確認された。長軸5.0m、短軸3.4mの範囲にホルンフェルス61点、珪質シルト岩12点、黒曜石2点、珪質頁岩1点が密集して分布する。北東から南西にかけて傾斜しており、それに沿って遺物が出土している。出土層位は休場層下位から中位を中心に休場層下位から漸移層（YLL～ZN）である。出土範囲は標高177.5mを中心に約0.5mのレベル差が生じている。石器群はナイフ形石器3点、加工痕剥片2点、剥片類71点の合計76点である。黒曜石産地同定の結果は諏訪星ヶ台群2点となっている。石器集中内において剥片2点の接合が2資料、石器集中内の剥片1点と8号石器集中の石器1点の接合、及び石器集中内の剥片1点と石器集中外の石器1点の接合の合計4資料8点が確認された。ナイフ形石器3点、接合石器3資料6点を図示する。

#### ナイフ形石器（第100図23～25）

23（506）はホルンフェルスを用いた一側縁加工のナイフ形石器である。素材剥片を縦位に用い、打点部を先端部側右側縁寄りに置く。右側縁には先端部まで二次加工を施し急斜度の背部を形成する。その際、素材剥片の打点を除去していると考えられるが、先端部や裏面の周囲を風化のため損傷しているため判然としない。器体表面の風化が著しい。

24（449）はホルンフェルスを用いた二側縁加工のナイフ形石器である。素材剥片を縦位に用い打点部を先端部側右側縁寄りに置く。右側縁には裏面から加工を施す。先端部まで加工が及んでいる可能性があるが、先端部を風化のため損傷しており判然としない。左側縁は基部にのみ裏面から加工を施す。風化による損傷のため全体形状は判然としない。

25 (661) はホルンフェルスを用いたナイフ形石器である。右側縁の裏面からの加工が打面を除去するように施されているためナイフ形石器と分類した。先端部欠損のため全体形状は判然としない。

#### 加工痕剥片 (第100図26)

26 (接-2) は諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いた加工痕剥片である。実測図上面の縁辺に裏面からの細かな加工痕が見られる。左縁辺からの打撃により破損し、全体形状は判然としない。

#### 接合資料 (第100図27～第101図28)

27 (接-23) は珪質シルト岩を用いる。礫面から打撃を加え剥片剥離を行っている。打撃は打面を横に移動しながら行われている。剥離された剥片は、不定型な剥片である。aを剥離し、bの剥片の稜上に加工を施した後、bの剥片を剥離する。

28 (接-24) は珪質シルト岩を用いる。両極方向からの剥離痕が認められる。礫面の残る資料である。剥離順は、a→bである。

#### 10号石器集中 (第90図)

J・K-12グリッドを中心に確認された。長軸12.0m、短軸4.0mの範囲にホルンフェルス135点、黒曜石7点、流紋岩1点、珪質頁岩2点が分布する。北東から南西にかけて傾斜しており、それに沿って遺物が出土している。出土層位は休場層下位から中位を中心に休場層下位から新移層(YLL～ZN)である。出土範囲は標高178.4mを中心に約1.0mのレベル差が生じている。石器群はナイフ形石器1点、楔形石器2点、使用痕剥片3点、石刃9点、石核3点、剥片類127点の合計145点である。黒曜石産地同定の結果、諏訪星ヶ台群5点、天城柏峠群1点、箱根畑宿群1点となっている。石器集中内において5資料10点の接合が確認された。石器集中の西端の一部と11号礫群、東端の一部と12号礫群の検出位置が重複している。ナイフ形石器1点、楔形石器1点、使用痕剥片1点、石刃2点、石核1点、接合石器1資料を図示する。

#### ナイフ形石器 (第101図29)

29 (408) は諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いた二側縁加工のナイフ形石器である。縦長剥片を縦位に用いる。素材剥片の打点部を基部側に置き加工を施す。左側縁は先端部まで表面から二次加工を施し、急斜度の背部を形成する。右側縁は張り出し部まで表面から二次加工を施す。基部を折損するため、素材剥片の打点部の状態は不明である。

#### 楔形石器 (第101図30)

30 (407) は珪質頁岩を用いる。基部部と末端部に潰れたような細かなひび割れが見られ、そこから対向方向の剥離痕が残ることから衝撃痕であると考え楔形石器とした。他、諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いた楔形石器412 (未掲載) が出土している。

#### 使用痕剥片 (第101図31)

31 (372) はホルンフェルスを用いる。礫面の残る石刃を素材とする。左縁辺の一部に使用痕と考えられる剥離が認められる。

#### 石刃 (第101図32・33)

32 (343) は諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いる。素材の一部に礫面を残す資料である。基部部に複数の頭部調整痕が認められる。末端部は折損する。

33 (接-13) はホルンフェルスを用いる。比較的大型の石刃である。石刃の剥離に先立ち、少なくとも1枚の石刃剥離を行っている。また、縁辺に残る剥離痕から稜の調整を行っていたと考えられる。

#### 石核 (第101図34)

34 (304) はホルンフェルスを用いる。剥離面を打面とし、剥片剥離作業を行う。器体の一部に礫面を残す資料である。打面転移も行っていると考えられる。得られる剥片は不定形である。

## 接合資料（第102図35）

35（接-11）はホルンフェルスを用いる。礫面から打撃を加え、節理に添って2分割されている。更に分割面を打面としてそれぞれ剥片剥離を行う。

## 11号石器集中（第91図）

J-15グリッドを中心に確認された。長軸6.1m、短軸2.0mの範囲にホルンフェルス12点、珪質頁岩5点、黒曜石1点が分布する。北から南にかけて傾斜しており、それに沿って遺物が出土している。出土層位は休場層下位を中心に休場層下位から上位（YLL~YLU）である。出土範囲は標高178.7mを中心に約0.3mのレベル差が生じている。石器群は石刃2点、剥片類16点の合計18点である。黒曜石産地同定の結果、箱根畑宿群1点となっている。石器集中内の剥片2点の接合が確認された。石器集中の南東端と16号礫群の検出位置が重複している。接合石器1資料を図示する。

## 接合資料（第102図36・37）

36（接-26）は珪質頁岩を用いる。剥片の形状より石刃を目的とした剥片剥離が行われたと考えられる。石器の色調が薄い灰色を呈し特徴的である。本遺跡においては石器集中内より同一個体である可能性の高い石刃37（891）が出土している。接合関係は認められない。

## 12号石器集中（第92図）

J・K-16グリッドを中心に確認された。長軸8.5m、短軸4.7mの範囲にホルンフェルス60点、黒曜石11点、細粒砂岩3点が密集して分布する。北から南にかけて傾斜しており、それに沿って遺物が出土している。出土層位は休場層中位を中心に休場層下位から上位（YLL~YLU）である。出土範囲は標高179.2mを中心に約0.7mのレベル差が生じている。石器群はナイフ形石器4点、使用痕剥片1点、石刃1点、石核2点、剥片類66点の合計74点である。黒曜石産地同定の結果、箱根畑宿群8点、天城柏峠群1点、和田麓山群1点、分析不可1点である。石器集中内において6資料16点の接合が確認された。石器集中の南西端と17号礫群の検出位置が重複している。ナイフ形石器4点、石刃1点、石核1点、接合石器4資料11点を図示する。

## ナイフ形石器（第103図38~41）

38（966）はホルンフェルスを用いた二側縁加工の切出形石器である。素材剥片の打点部を基部側に置き加工を施す。左縁には裏面から急斜度の二次加工を施す。右側縁は素材の剥離に先行する剥離面を活かし、二次加工を施す。風化のため基部を損傷し、素材剥片の打点部を除去しているかどうかは不明である。全体的に風化による損傷が著しい。

39（969）はホルンフェルスを用いたナイフ形石器である。素材剥片の打点部側を先端部に置き加工を施す。先端部を折損するため、素材剥片の打点部を除去しているかは判然としない。基部側右側縁に裏面から急斜度の二次加工を施す。

40（936）はホルンフェルスを用いた基部加工のナイフ形石器である。小型の石刃を素材とし、基端部に主軸に斜行するように裏面から急斜度の二次加工を施す。その際、素材剥片の打点部は除去する。先端部を折損する。

41（958）はホルンフェルスを用いた一側縁加工のナイフ形石器である。比較的薄造りの資料である。素材剥片の打点部を基部側に置き打点部を残置する。右側縁に裏面から急斜度の加工を施す。先端部側を折損し、全体形状は判然としない。

## 石刃（第103図42）

42（912）はホルンフェルスを用いる。基端部を風化により損傷する。

## 石核（第104図44）

44（974）はホルンフェルスを用いる。主に石刃を剥離していたと考えられる。剥離面を打面とし、

打面転移を行いながら剥片剥離作業を行っていると考えられる。側面の一部に礫面が残る。

接合資料（第103図43・第104図45～第106図47）

43（接-4）はホルンフェルスを用いる。礫面を多く残す剥片が2点接合する。

45（接-14）はホルンフェルスを用いる。石核959に剥片1点が接合する。打面の縁辺の一部に頭部調整が認められる。打面転移を行いながら剥片剥離作業を行っていると考えられる。側面の一部に礫面が残る。

46（接-5）はホルンフェルスを用いた接合資料である。5点の剥片が接合する。剥離順はa→dである。打面調整や頭部調整を行いながら剥片を剥離していると考えられる。

47（接-15）はホルンフェルスを用いる。2点の剥片が接合する。剥片の形は不定形である。

13号石器集中（第92図）

J-16・17グリッドを中心に確認された。長軸4.6m、短軸1.7mの範囲にホルンフェルス17点、珪質頁岩1点が分布する。出土層位は休場層下位を中心に下位から上位（YLL～YLU）である。北から南にかけて傾斜しており、それに沿って遺物が出土している。出土範囲は標高178.8mを中心に約0.4mのレベル差が生じている。石器群はスクレイパー3点、剥片類15点の合計18点である。

石器集中内外との石器の接合は認められない。石器集中の北端と18号礫群の検出位置が重複している。スクレイパー3点を図示する。

スクレイパー（第106図48～50）

48（988）はホルンフェルスを用いる。剥片の縁辺部2箇所加工を施し、刃部を作り出す。

49（985）はホルンフェルスを用いる。礫面の残る剥片を素材とする。剥片の末端に裏面から加工を施し急斜度の刃部を作り出す。

50（993）はホルンフェルスを用いる。礫面の残る剥片を素材とする。剥片の縁辺部に裏面から加工を施し、急斜度の刃部を作り出す。

14号石器集中（第93図）

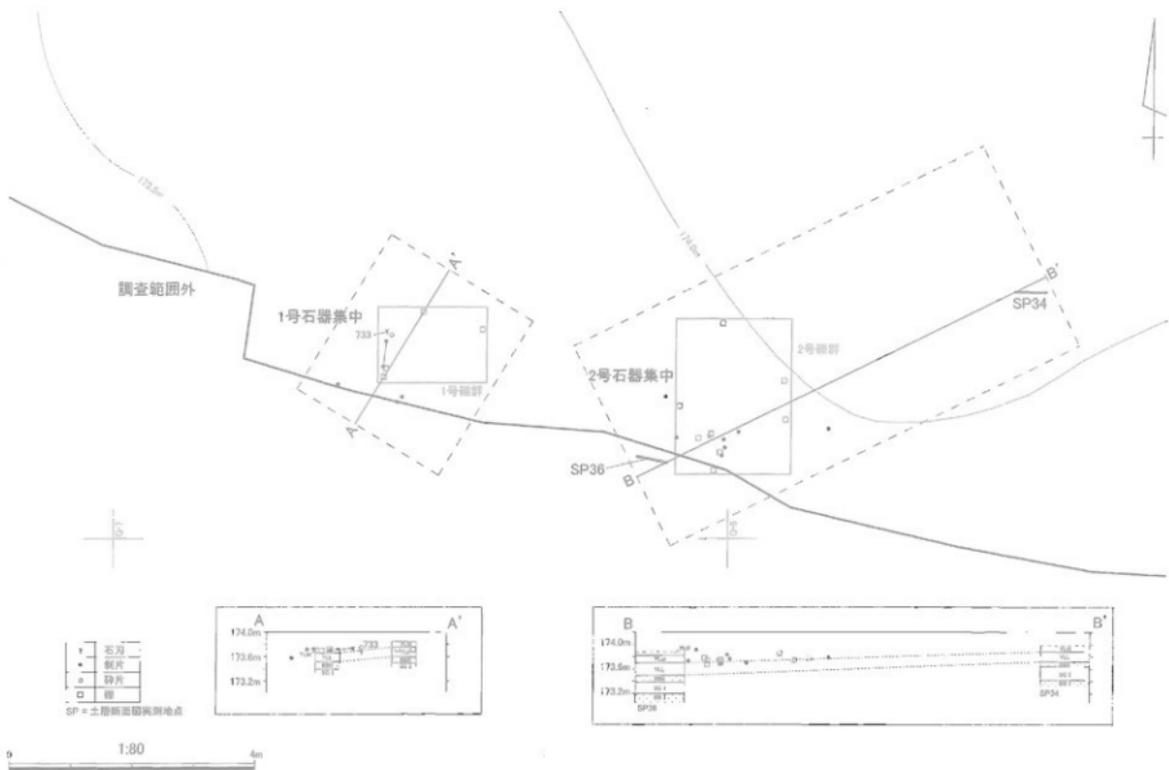
G・H-12・13グリッドを中心に確認された。長軸11.6m、短軸2.7mの範囲にホルンフェルス17点、黒曜石1点、ガラス質黒色安山岩1点が分布する。北東から南西にかけて傾斜しており、それに沿って遺物が出土している。出土層位は休場層中位を中心に休場層下位から富士黒土層（YLL～FB）である。出土範囲は標高176.2mを中心に約1.2mのレベル差が生じている。石器群は加工痕剥片1点、石刃1点、石核1点、剥片類16点の合計19点である。黒曜石産地同定の結果、箱根如宿群1点となっている。石器集中内外との石器の接合は認められない。石器集中内より神津島恩馳高群の細石刃が1点出土したが、石器の形態から石器集中内の石器群と時期が異なる可能性が高いと考え、集中の石器と分離し他の細石刃と共に報告する。石核1点を図示する。

石核（第106図51）

51（749）はホルンフェルスを用いる。剥離面を打面とし、打面を転移しながら剥片剥離作業を行う。風化による器体の損傷が著しい。

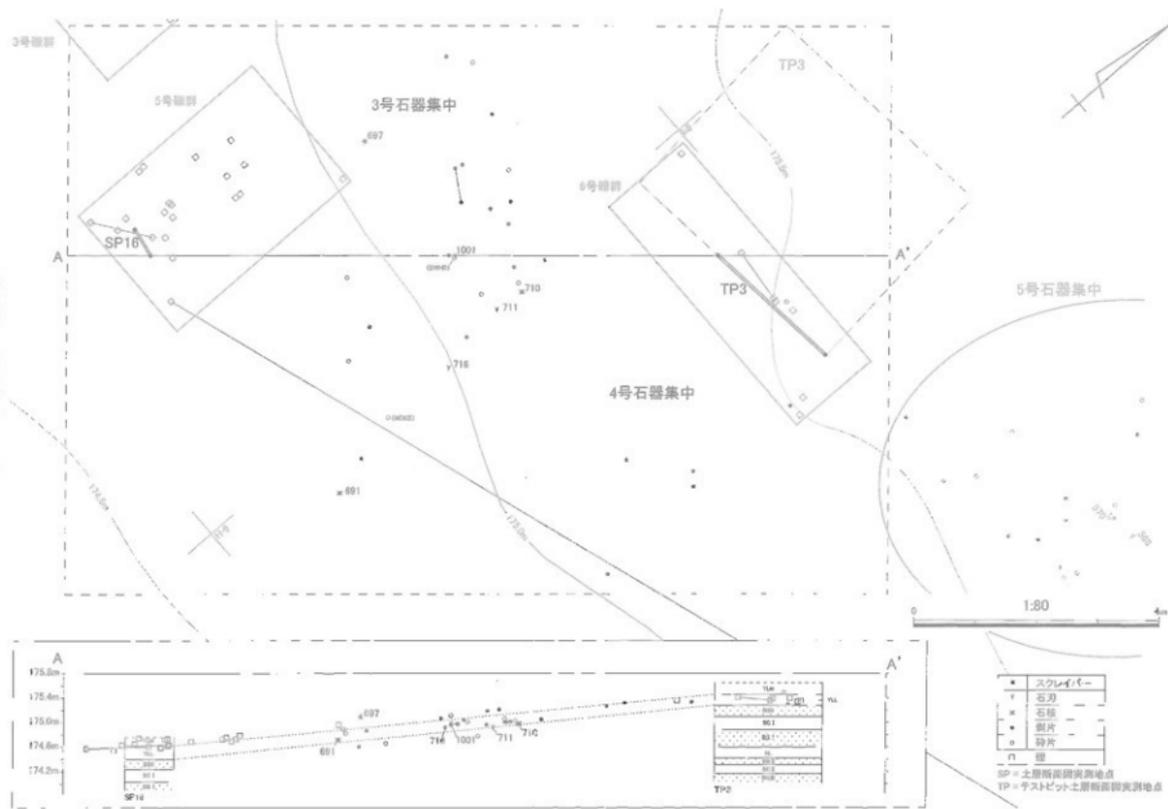
15号石器集中（第94図）

D・E-19グリッドを中心に確認された。長軸0.9m、短軸0.5mの範囲にホルンフェルス7点が分布する。出土層位は休場層下位を中心に休場層下位から上位（YLL～YLU）である。出土範囲は標高174.4mを中心に約0.4mのレベル差が生じている。石器群は加工痕剥片1点、剥片類6点の合計7点である。石器集中内外との石器の接合は認められない。石器集中と20号礫群の検出位置が重複している。

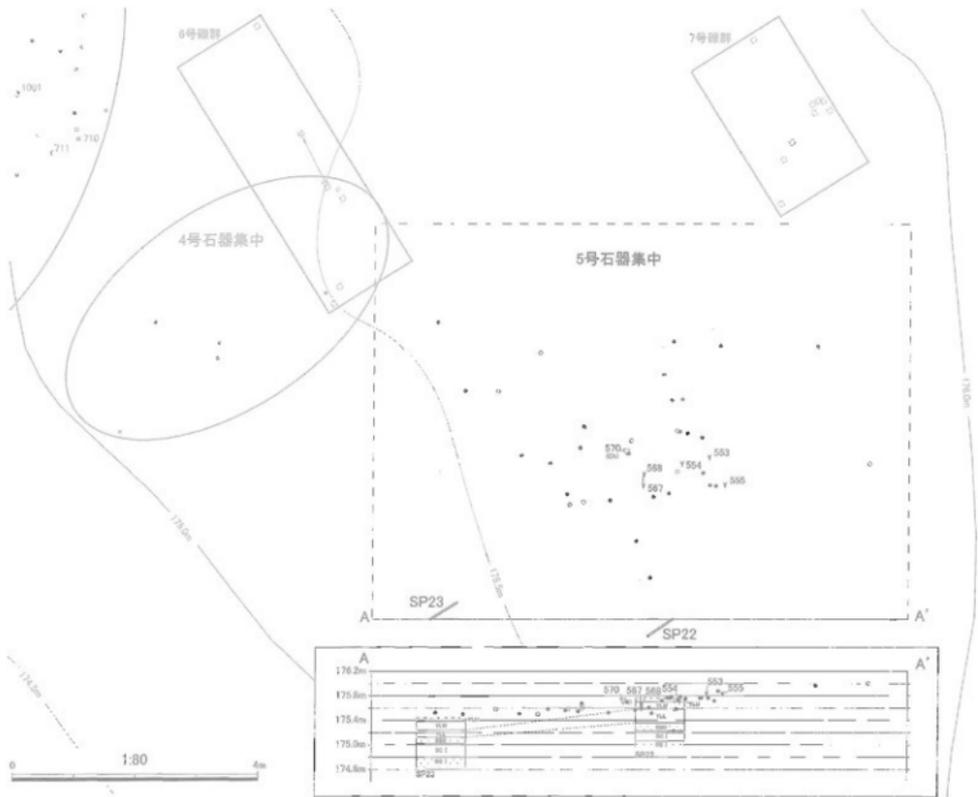


第84図 石器集中 (1号・2号)

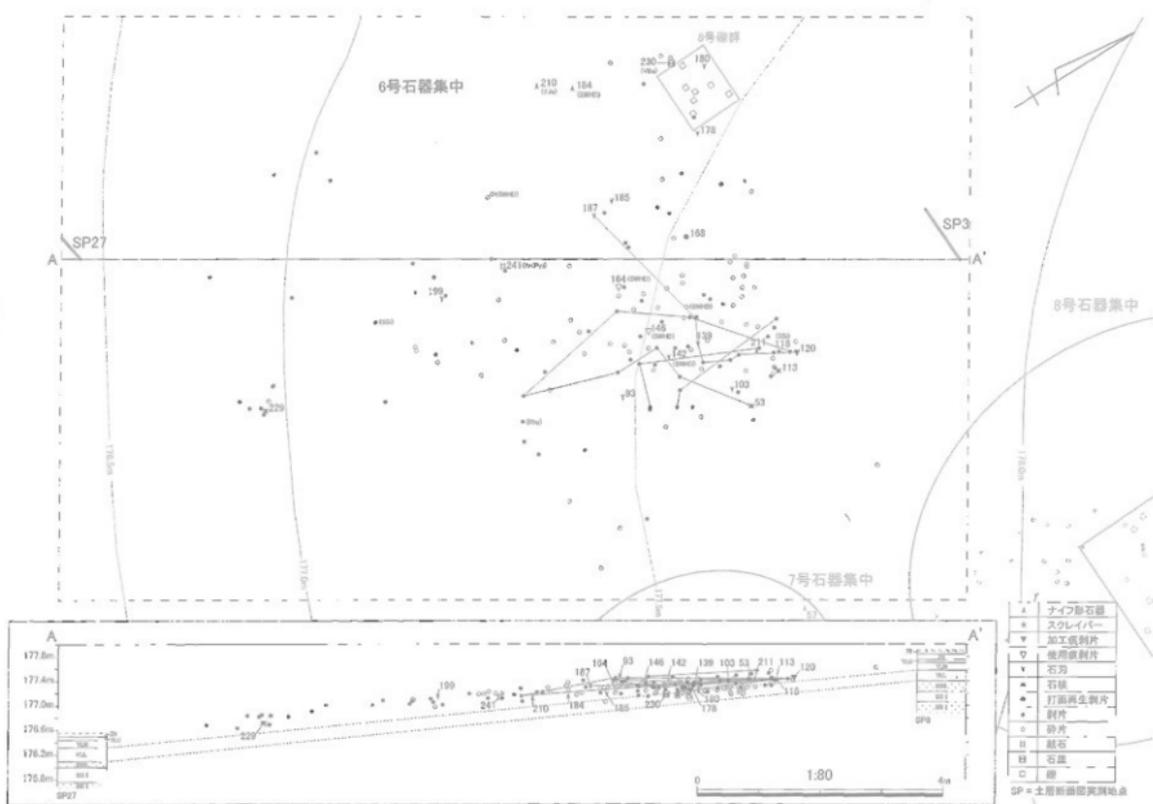
第95図 石器集中 (3号・4号)



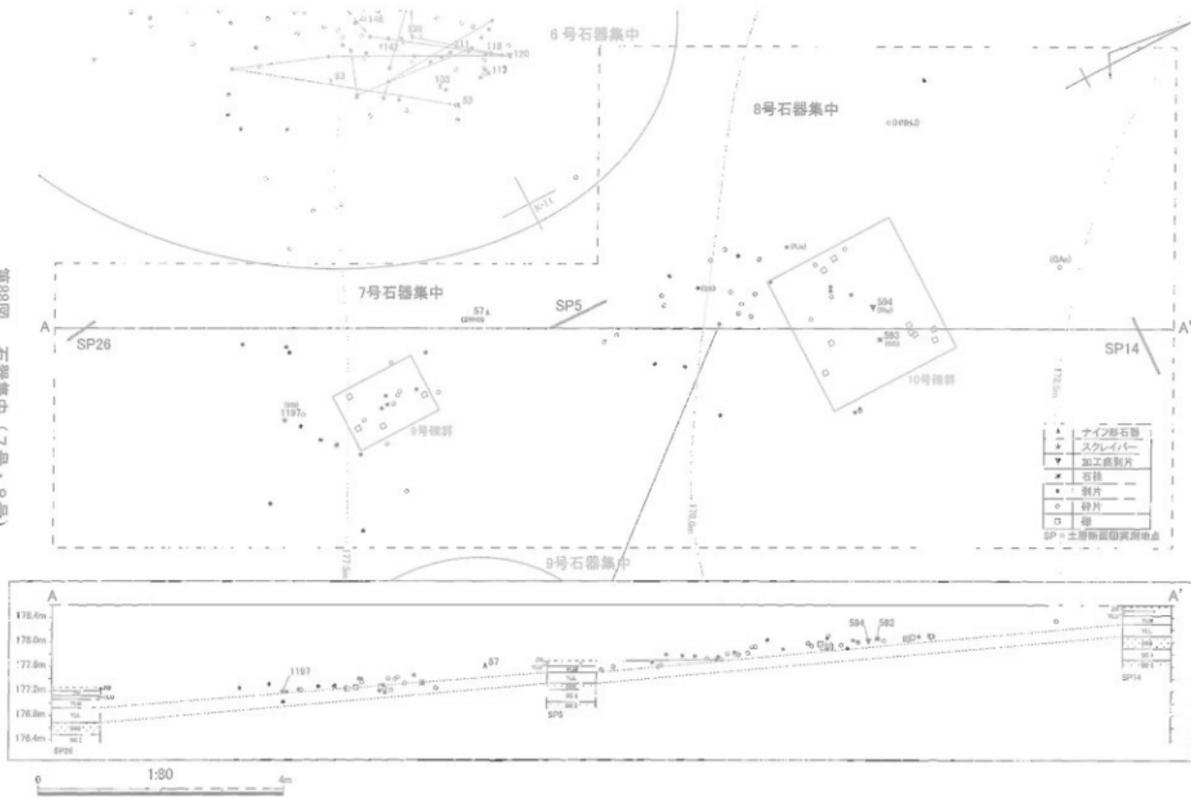
第06図 石器集中(5号)



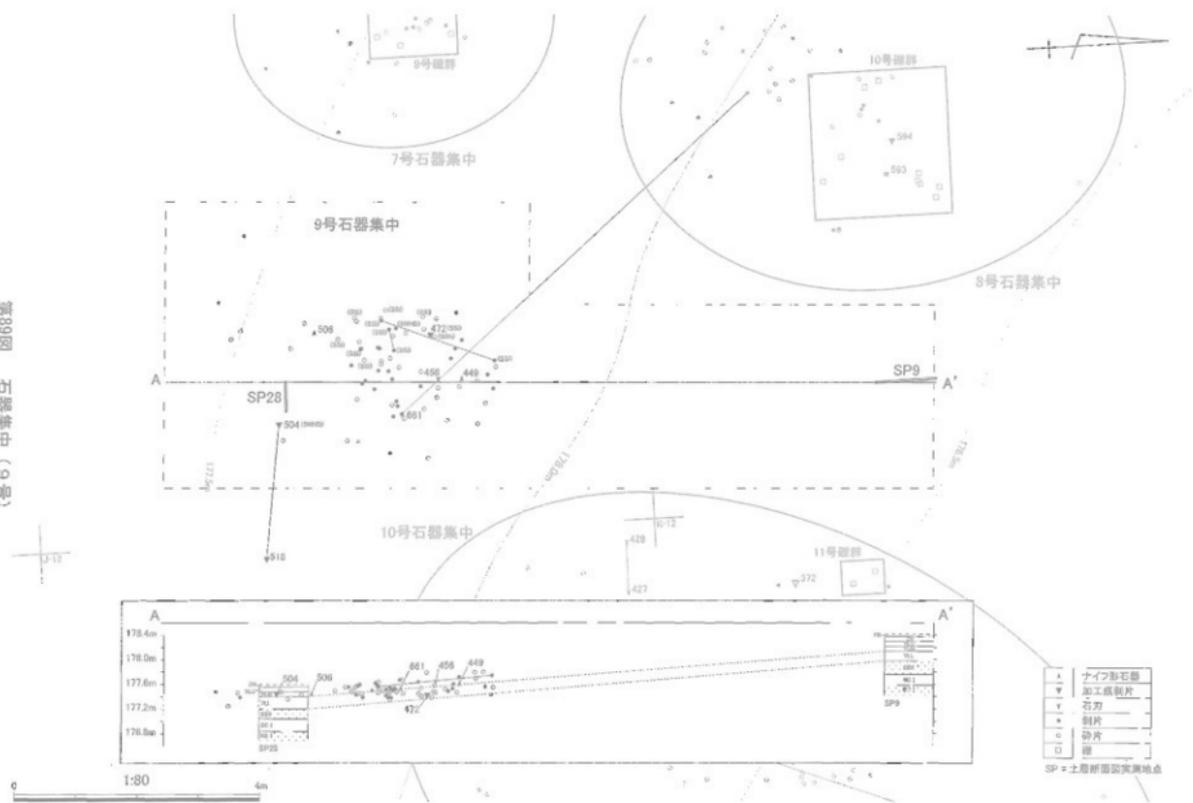
第87図 石器集中（6号）



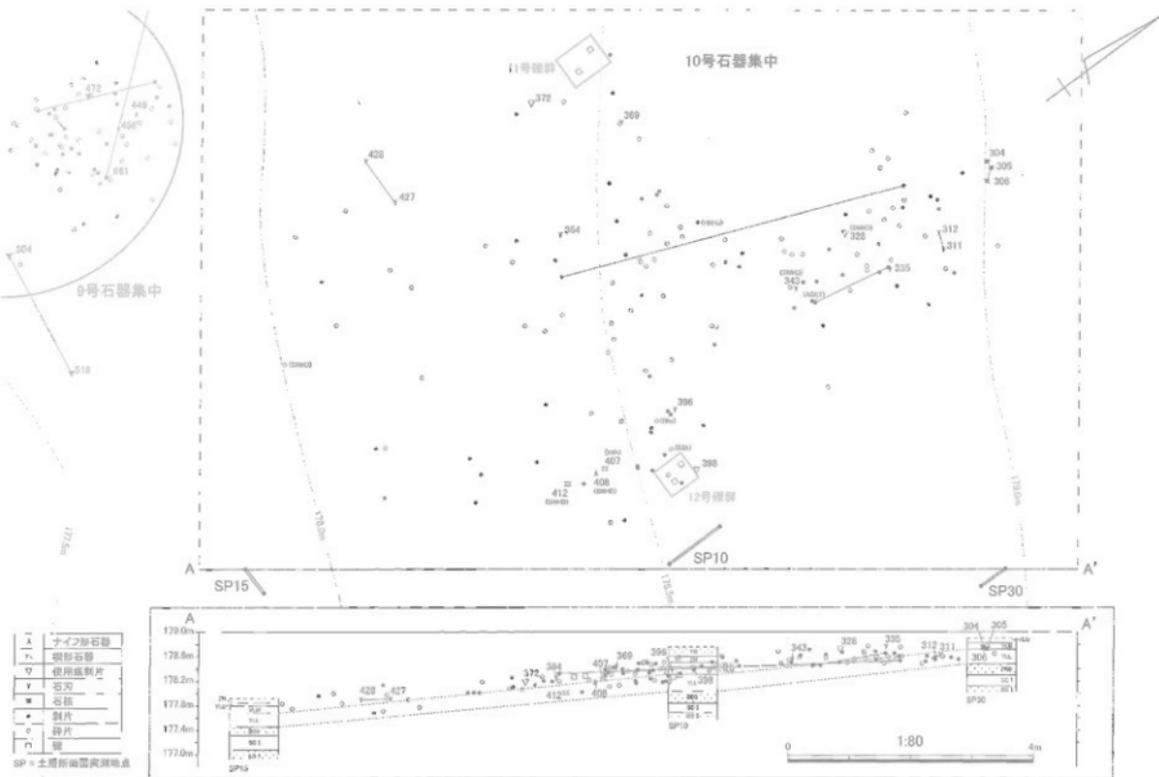
第88図 石器集中 (7号・8号)

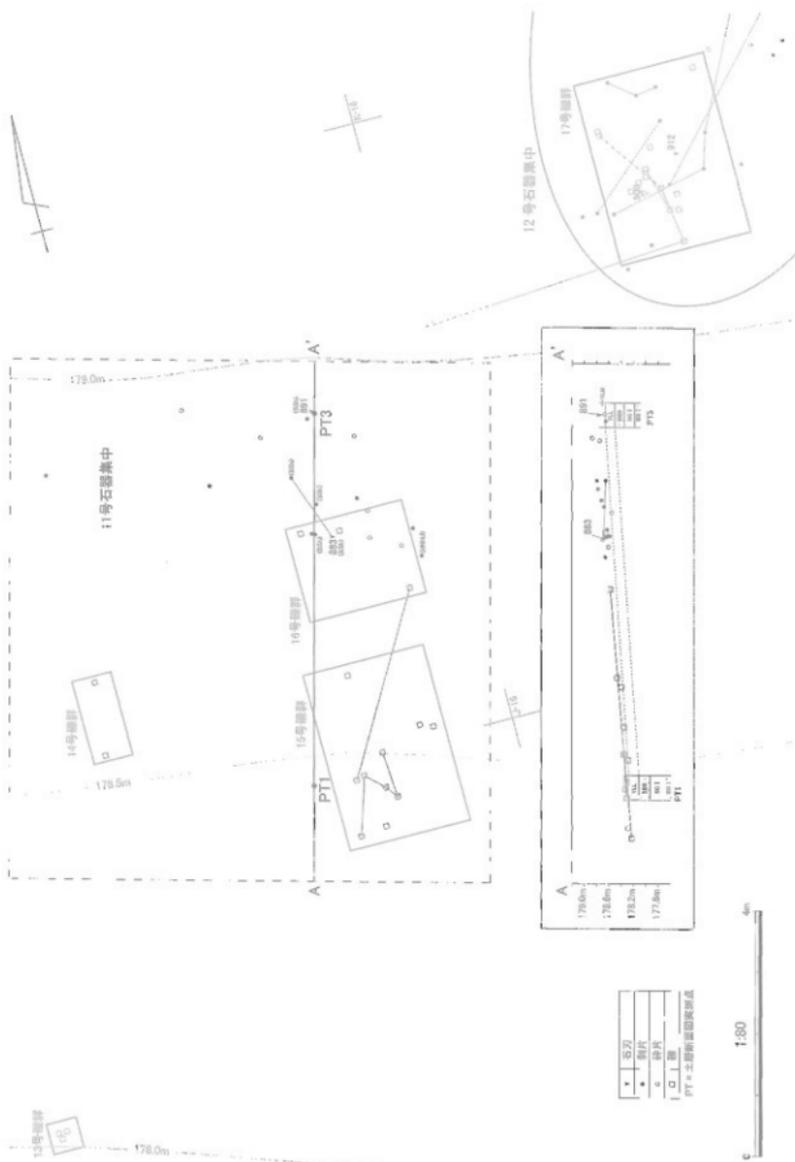


第89図 石器集中(9号)

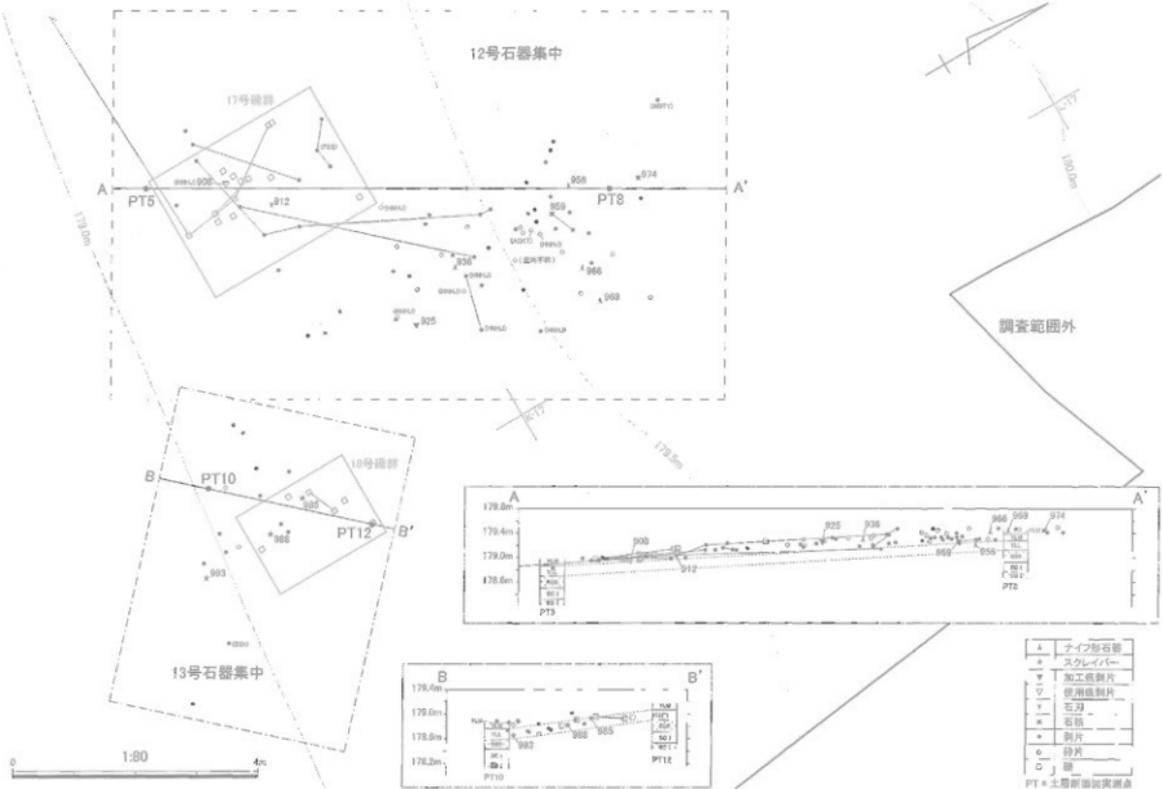


第90図 石器集中 (10号)

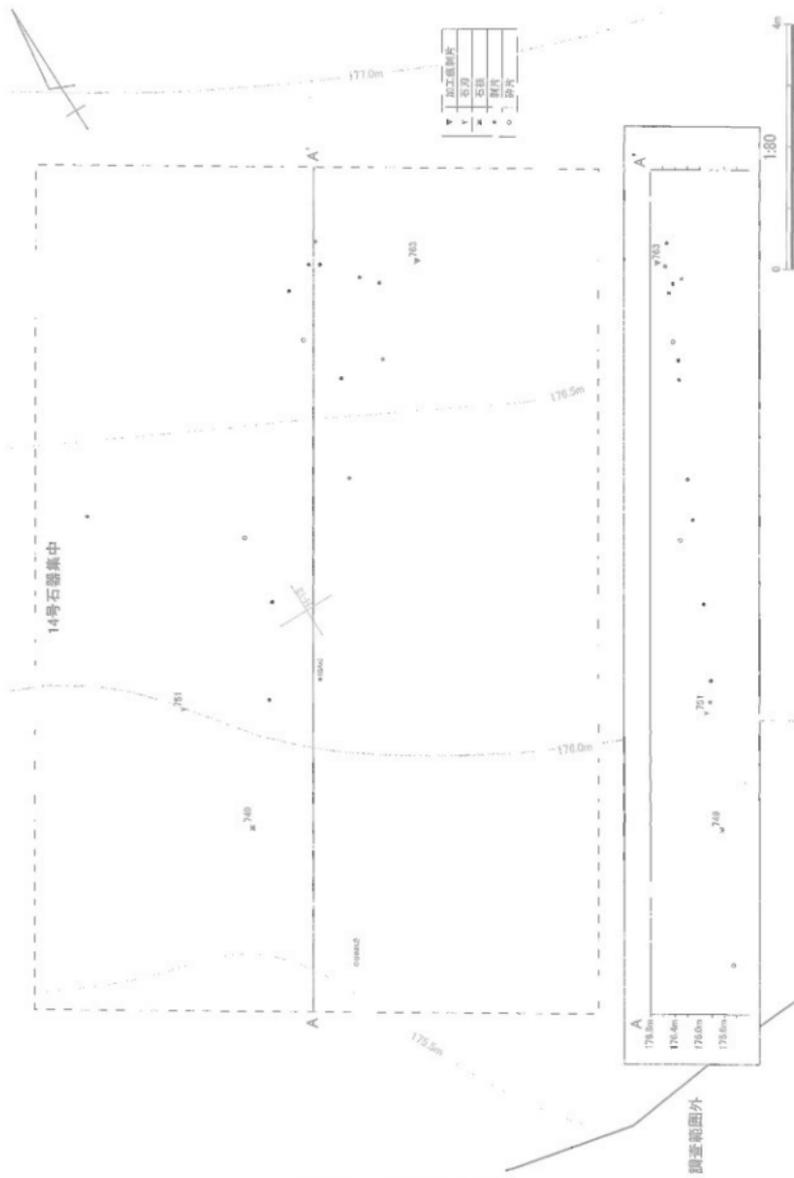




第91圖 石器集中 (11号)



第92図 石器集中(12号・13号)



第93圖 石器集中 (14号)



第94図 石器集中 (15号)

第27表 各石器集中出土石器一覧

1号石器集中

	ホルンフェルス		合計
	Hor		
石刃	1	1	
刮片	6	5	
砕片	1	1	
合計	7	7	
YLL	2		
YLL	5		
合計	7		

2号石器集中

	ホルンフェルス		合計
	Hor		
刮片	7	7	
砕片	1	1	
合計	8	8	
YLL	3		
YLL	4		
YLL	1		
合計	8		

3号石器集中

	黒曜石			ホルンフェルス	合計
	SMD	HOKI	Hor		
スクレイパー				1	1
石刃				3	3
刮片				15	15
砕片	1	1		6	8
石核				2	2
合計	1	1		27	29
YLL				5	5
YLL				3	3
YLL	1	1		19	21
合計	1	1		27	29

4号石器集中

	ホルンフェルス		合計
	Hor		
刮片	5	5	
砕片	1	1	
合計	6	6	
YLL	2		
YLL	3		
YLL	1		
合計	6		

5号石器集中

	ホルンフェルス		チャート	合計
	Hor	Oh		
使用痕刮片		1	1	
石刃	5		5	
刮片	25		25	
砕片	9		9	
合計	39	1	40	
YLL	17	1	18	
YLL	22		22	
合計	39	1	40	

6号石器集中

	黒曜石		ホルンフェルス	流紋岩	流紋岩 製石具 ケ残片	燧石 (HOKI)	燧石 製石具 ケ残片	合計
	SMD	Hor						
ナイフ形石器	1	1				1		3
スクレイパー			1					1
加工痕刮片		1						1
使用痕刮片	2							2
打面再生刮片		1						1
石刃		1	3					9
刮片		76	1	1				78
砕片	2	63						65
石核		3						3
砕石							1	1
合計	6	153	2	1	1	1	1	164
YLL	2	13						15
YLL	2	56	1	1	1			61
YLL	2	84				1		89
合計	6	153	2	1	1	1	1	164

7号石器集中

	黒曜石		ホルンフェルス	流紋岩 製石具 ケ残片	合計
	SMD	Hor			
ナイフ形石器	1				1
スクレイパー		1			1
刮片	14				14
砕片	10				10
合計	1	24	1		26
Zn		1			1
YLL	1	1			2
YLL		6			6
YLL		15	1		16
ZOO		1			1
合計	1	24	1		26

8号石器集中

	黒曜石		流紋岩	流紋岩 製石具 ケ残片	燧石 製石具 ケ残片	燧石 製石具 ケ残片	合計
	HOKI	Hor					
加工痕刮片				1			1
石刃		2					2
刮片		11	1				12
砕片		1	17		1		19
石核			1				1
合計	1	30	2	1	1	1	36
YLL		3					3
YLL		9	1		1		12
YLL	1	18	1	1			21
合計	1	30	2	1	1	1	36

9号石器集中

	黒曜石		珪質頁岩	合計
	磨製遺物	ホルンフェルス		
	Hor	SSh		
ナイフ形石器		3		3
加工遺物	1		1	2
石刃		1		1
削片	1	25	5	31
砕片		22	6	28
合計	2	61	12	76
Zn	4			4
YLU	12	2		14
YLB	22	3	1	26
YLL	33	7	1	42
合計	61	12	2	76

10号石器集中

	黒曜石			ホルンフェルス	珪質頁岩	合計
	天候石	磨製遺物	磨製遺物			
	AGK	HBJ	CBH	Hor	SBy	SSh
ナイフ形石器			1			1
磨製石器					1	1
使用遺物			1	2		3
石刃			1	8		9
削片		1		59		60
砕片	1		1	63	1	67
石核				3		3
合計	1	1	5	135	1	145
Zn				6		6
YLU			1	21		22
YLB			2	49		52
YLL	1	1	2	59	1	65
合計	1	1	5	135	1	145

11号石器集中

	黒曜石		珪質頁岩	合計
	磨製遺物	ホルンフェルス		
	HBJ	Hor	SSh	
石刃			2	2
削片	1	6	3	10
砕片		6		6
合計	1	12	5	18
YLU		3		3
YLB	1	3	5	9
YLL		6		6
合計	1	12	5	18

12号石器集中

	黒曜石			ホルンフェルス	珪質頁岩	合計
	天候石	磨製遺物	磨製遺物			
	AGK	HBJ	BDY	Hor	FSS	
ナイフ形石器				4		4
加工遺物					1	1
使用遺物		1				1
石刃				1		1
削片		2	1	42	3	48
砕片	1	4		1	19	16
石核				2		2
合計	1	6	1	60	2	74
YLU	1	2		1	22	26
YLB		3			22	27
YLL		2	1		16	19
合計	1	8	1	60	2	74

13号石器集中

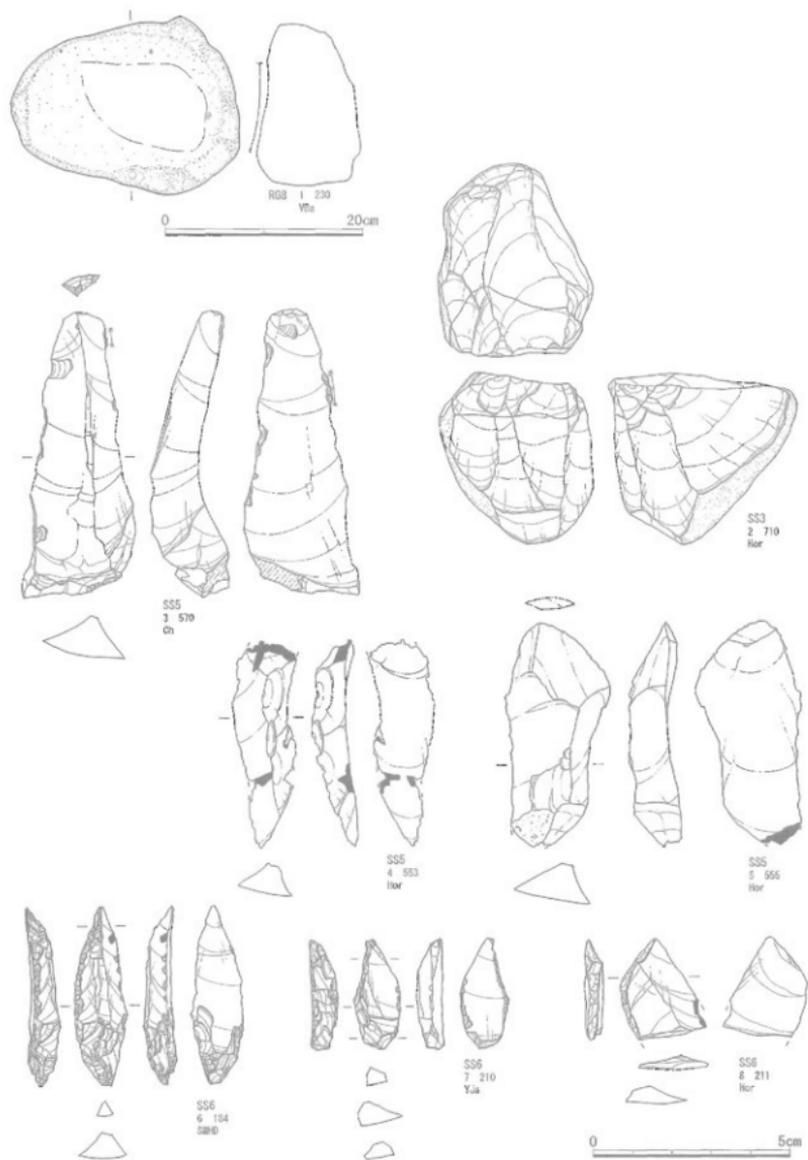
	ホルンフェルス		合計
	珪質頁岩	ホルンフェルス	
	Hor	SSh	
スクレイパー	3		3
削片	12	1	13
砕片	5		5
合計	17	1	18
YLU	3		3
YLB	5	1	6
YLL	9		9
合計	17	1	18

14号石器集中

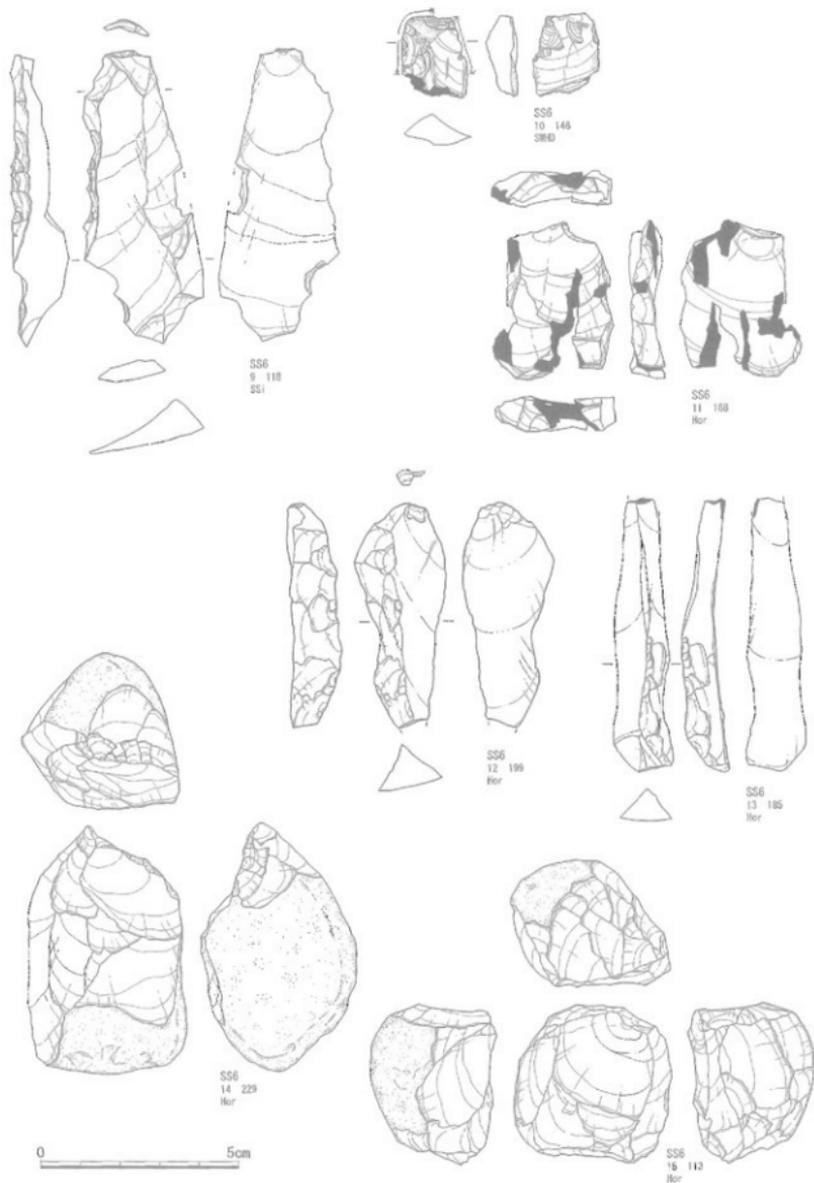
	黒曜石		合計
	磨製遺物	ホルンフェルス	
	HBJ	Grn	
加工遺物	1		1
石刃	1		1
削片	12	1	13
砕片	2		2
石核	1		1
合計	17	1	18
FB	1	1	2
YLU	1	1	2
YLB	11		11
YLL	3		3
合計	17	1	18
合計	17	1	18

15号石器集中

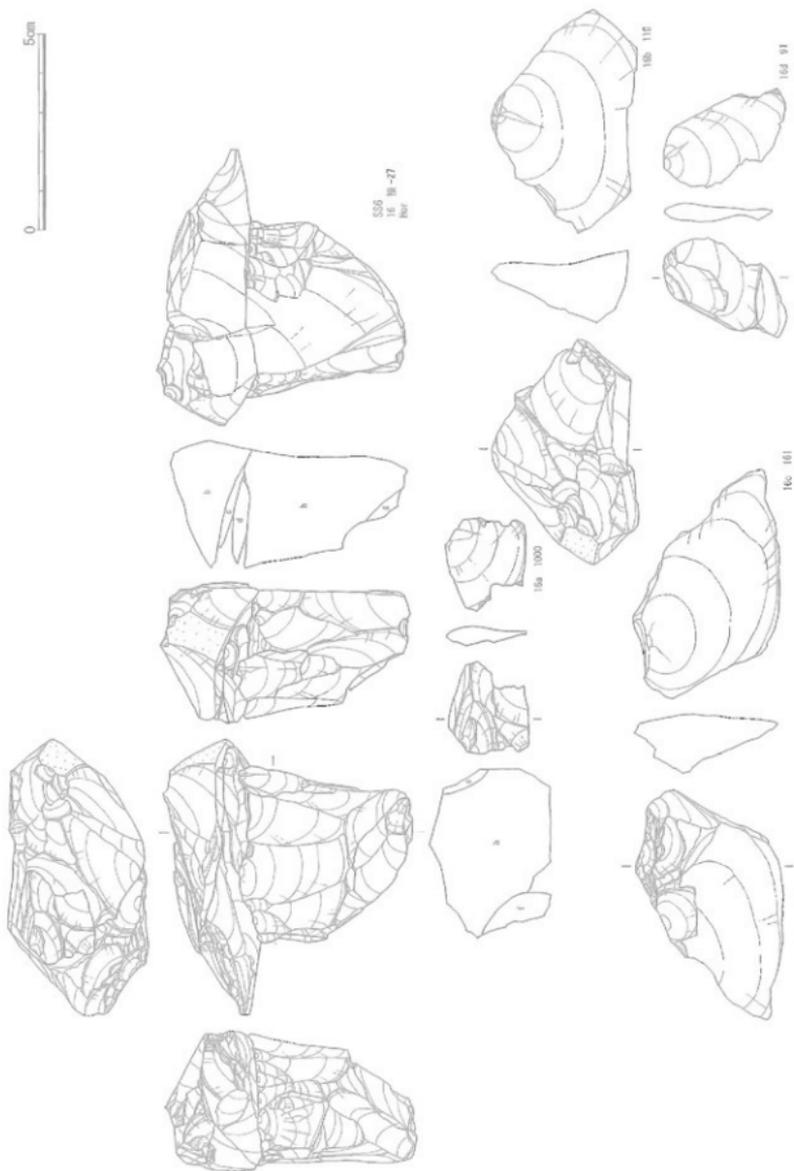
	ホルンフェルス		合計
	珪質頁岩	ホルンフェルス	
	Hor		
加工遺物	1		1
削片	5		5
砕片	1		1
合計	7		7
YLU	2		2
YLB	2		2
YLL	3		3
合計	7		7



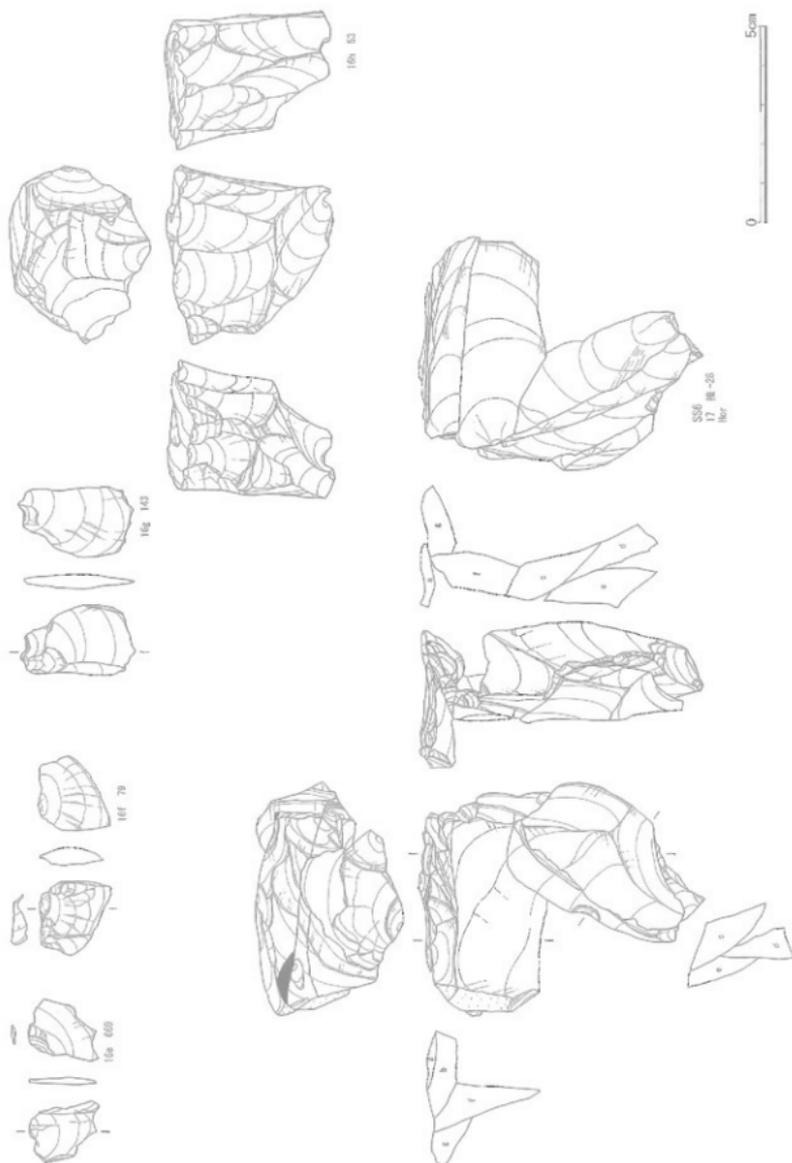
第95図 礫群出土石器・石器集中出土石器（1）



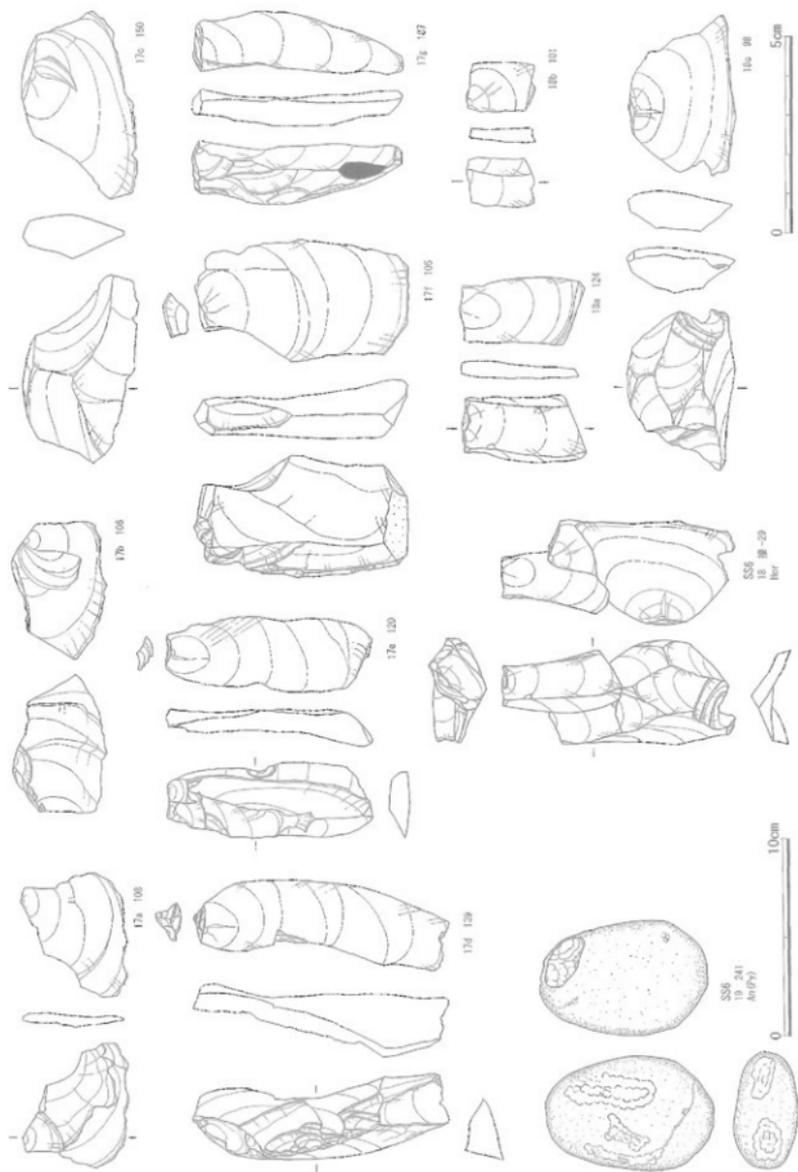
第96図 石器集中出土石器(2)



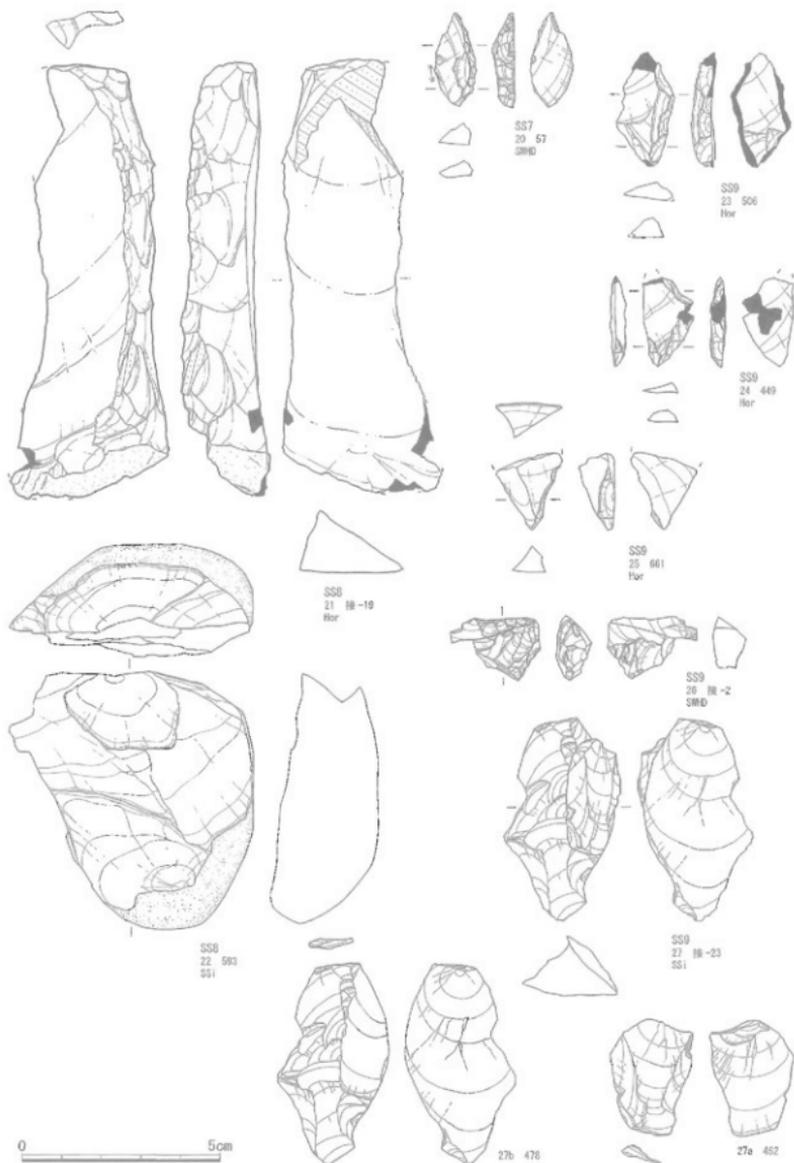
第97圖 石器集中出土石器(3)



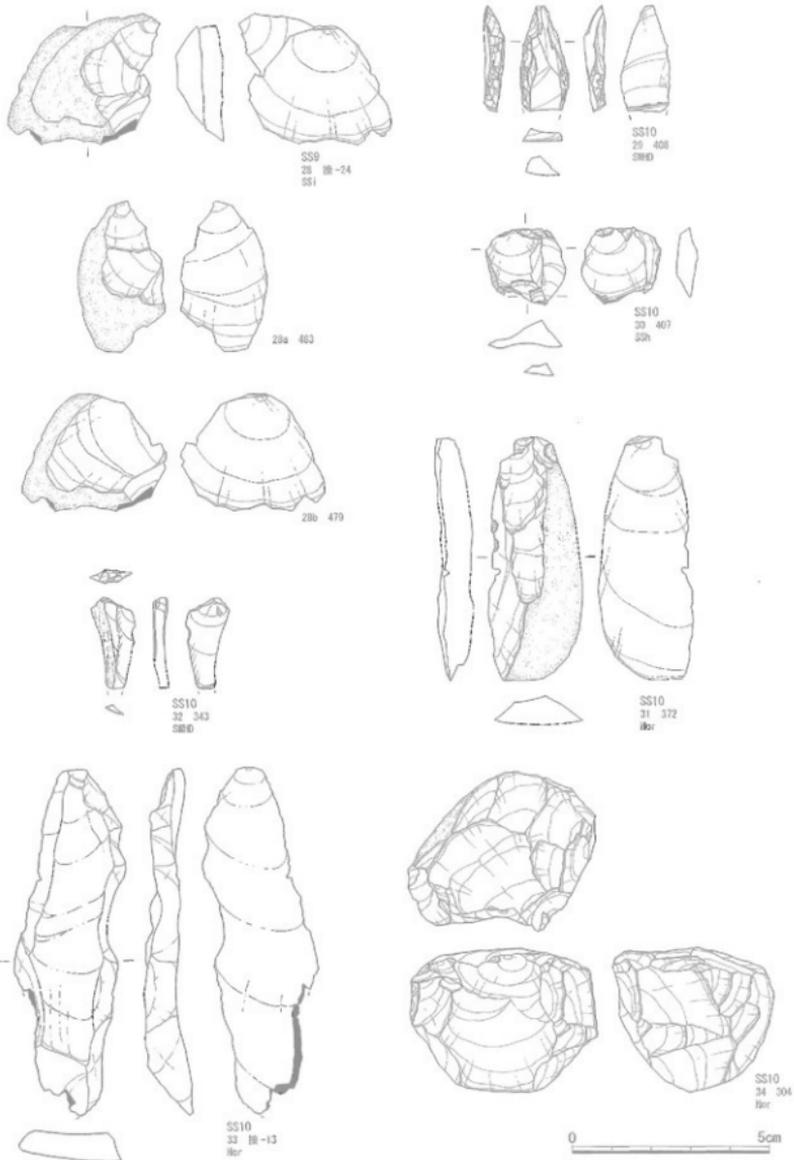
第98回 石器集中出土石器(4)



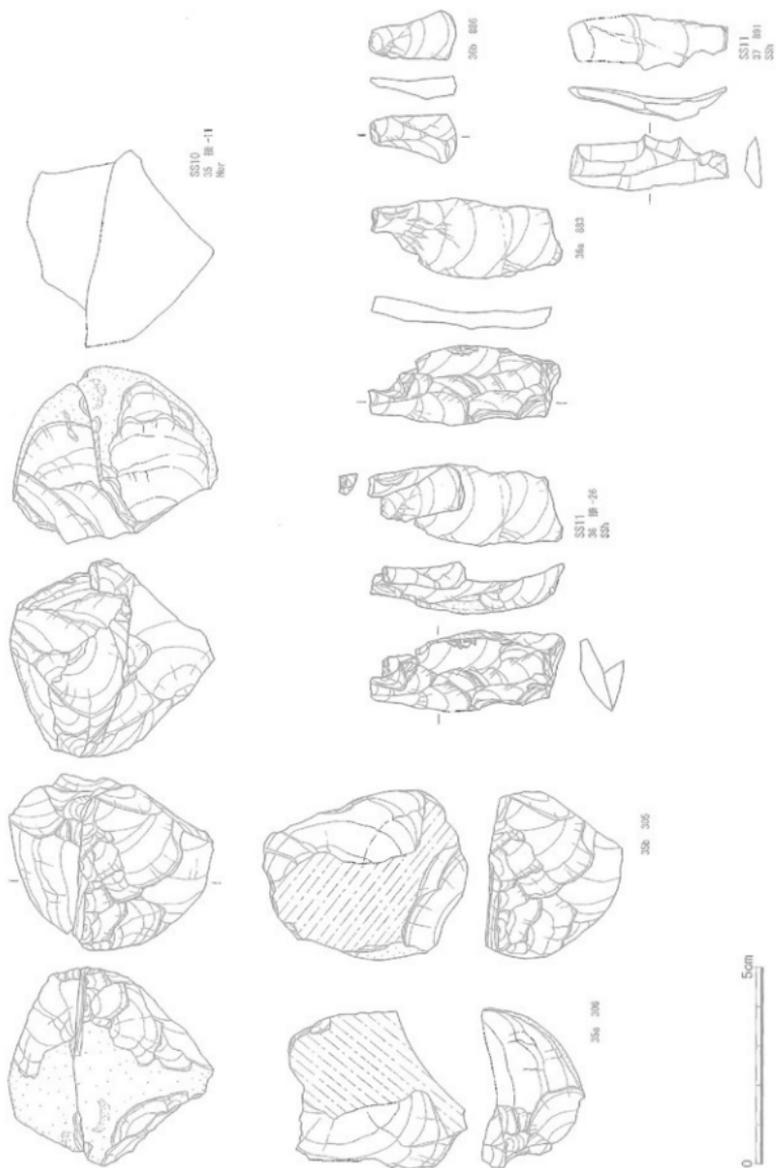
第99圖 石器集中出土石器(5)



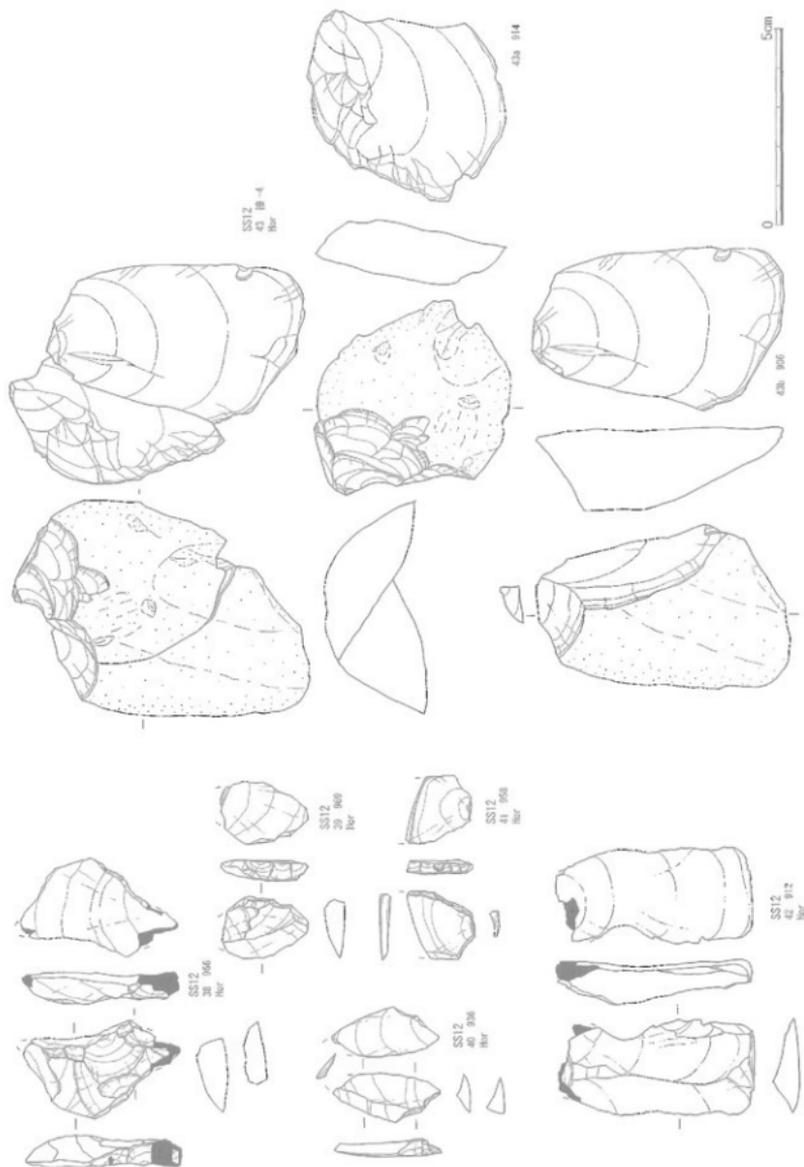
第100図 石器集中出土石器(6)



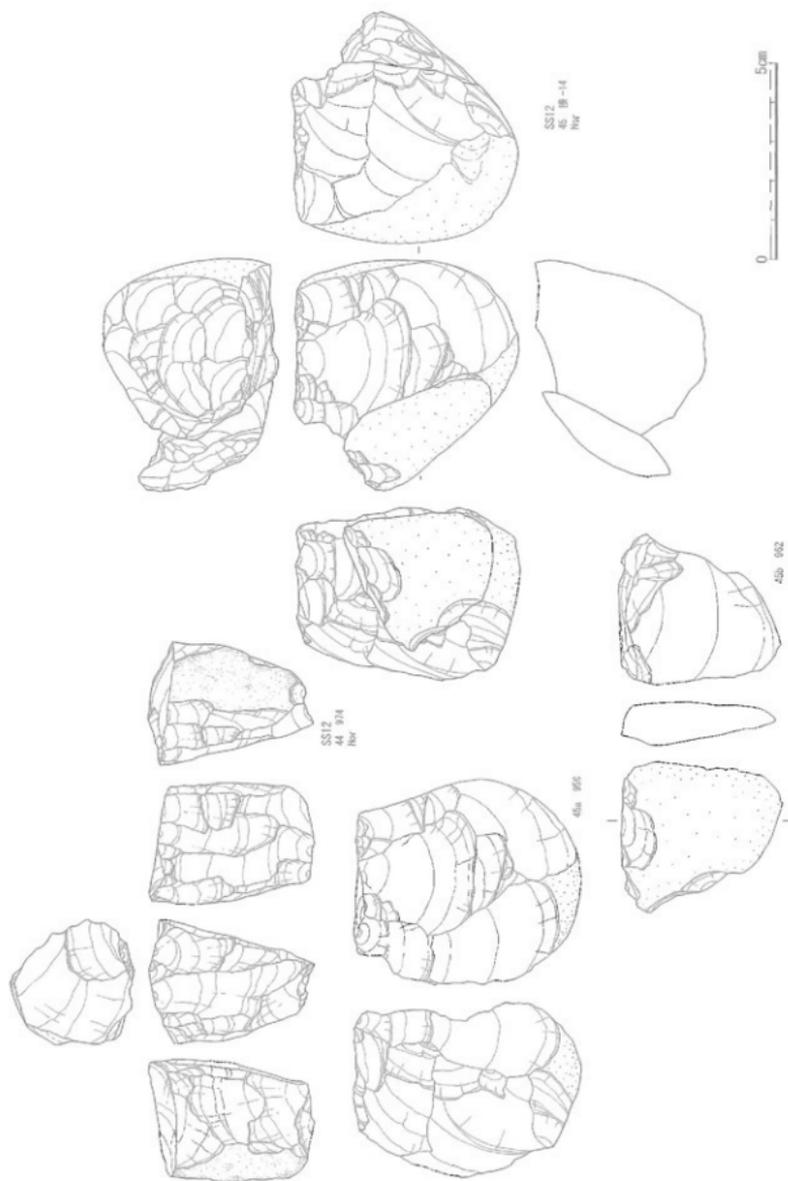
第101圖 石器集中出土石器(7)



第102図 石器集中出土石器(8)

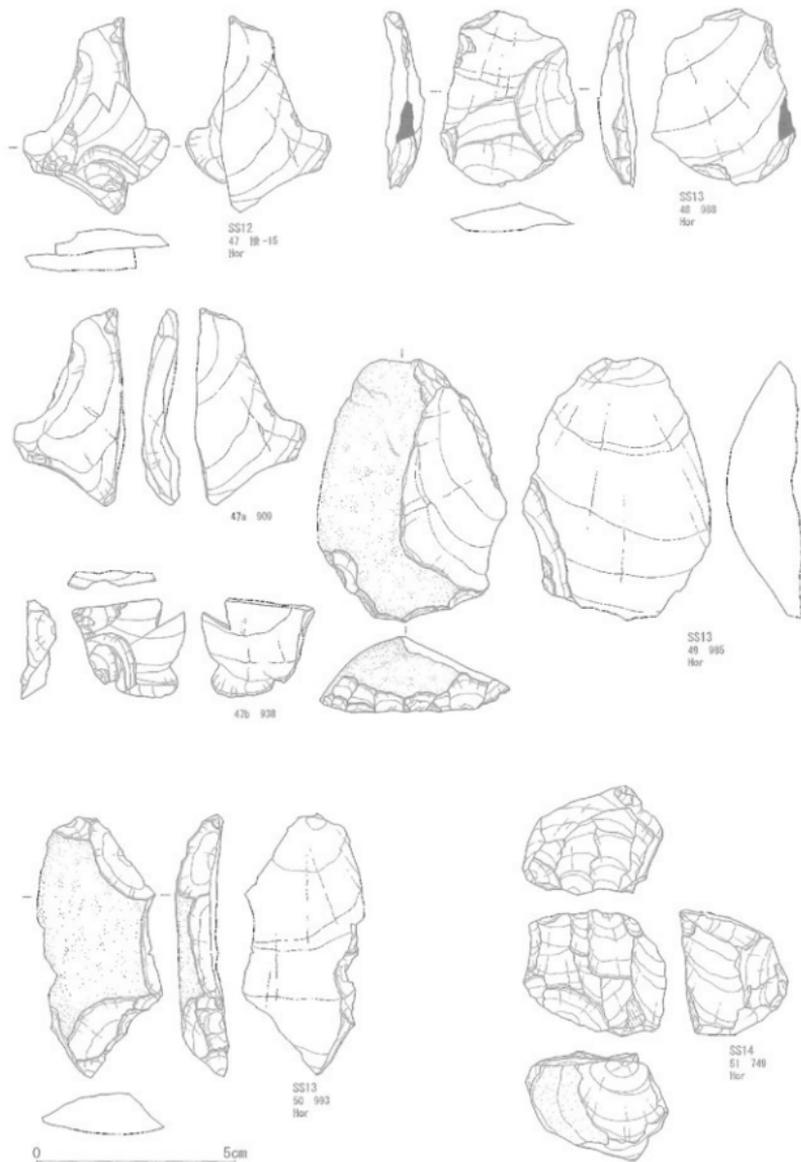


第103圖 石器集中出土石器(9)



第104図 石器集中出土石器 (10)





第106図 石器集中出土石器 (12)

## (2) 包含層出土石器

ここでは遺構・石器集中外から出土した石器について一括して報告する。石器集中外から出土した石器は227点である(第28表・第107・108図)。

第28表 休場層包含層出土石器組成

	ホルンフェルス	黒曜石										珪質シルト岩	チャート	炭酸塩	ガラス質黒色安山岩	珪質安山岩	頁岩	珪質頁岩	珪質砂岩	輝石安山岩	合計	
		箱根畑宿群	神奈川島根群	鎌倉足子群	部科冷山群	和土土屋橋南群	丹波不可	黒曜石	珪質	SS1	Ch											Rhy
ナイフ形石器	4	1			2	1	1	1														11
黒曜石				2																		4
黒曜石																						1
黒石片			6																			6
黒石核			1																			1
加工黒石片	1			1	2																	3
使用黒石片				3	1																	4
石片	15																					15
割片	104	5		1					1	1	1	2	2	2		2						119
砕片	42				1			1	1	1					1	1						47
石核	7																					7
黒石																						1
黒石																						2
合計	172	7	7	7	6	1		5	2	3	2	5	2	1	5	2						227
石材比率	75.95	3.15	3.15	3.15	2.05	0.45		2.25	0.95	1.25	0.95	2.25	0.95	0.45	2.25	0.95						100.00
遺構	3		1																			5
FB						1																1
ZH	10	4						1		1		1				4						21
FLU	24	1	4	3	2	1	1	1	2	1	2	1	1									43
YLL	42	2	1	2	1			2	1			1	1	1								54
YLL	88		1	2	2			1				1	1		1							98
SEP	5																					5
合計	172	7	7	7	6	1		5	2	3	2	5	2	1	5	2						227

## ナイフ形石器(第109図52~62)

11点が該当する。石材の内訳は、黒曜石製5点、ホルンフェルス製4点、ガラス質黒色安山岩製1点、珪質シルト岩製1点である。

52(69)は蓼科冷山群の黒曜石を用いた二側縁加工のナイフ形石器である。素材剥片を縦位に用い、打点部を基部側に置く。左側縁は先端部まで表面から二次加工を施し急斜度の背部を形成する。右側縁は張り出し部まで表面から急斜度の二次加工を施す。打点は右側縁の加工により除去する。

53(1069)は蓼科冷山群の黒曜石を用いた切出形石器である。素材剥片を横位に用い打点部を右側縁に置く。左右側縁に表面から急斜度の二次加工を施す。

54(1115)は和土土屋橋南群の黒曜石を用いた二側縁加工のナイフ形石器である。素材剥片を縦位に用い、打点部を先端部側に置く。左側縁は先端部まで表面から二次加工を施し急斜度の背部を形成する。右側縁は張り出し部まで表面から急斜度の二次加工を施す。

55(676)は箱根畑宿群の黒曜石を用いたナイフ形石器の基部だと考えられる。素材剥片を縦位に用い、打点部を先端部側に置く。右側縁と基部に表面から急斜度の二次加工を施す。刃部側を折損するため全体形状は判然としない。

56(1185)は黒曜石を用いたナイフ形石器の基部だと考えられる。産地同定の結果、風化のため分析不可となった。風化のため器体表面は褐色に変色し、手触りはガラス質黒色安山岩を思わせる。肉眼での鑑定も難しい。右側縁は表面から二次加工を施し急斜度の背部を形成する。素材剥片を横位に用い、打点部を左側縁に置く。打点は左側縁の二次加工により除去する。刃部側を折損するため全体形状は判然としない。折損部を除く縁辺全てに加工が及ぶため、実測図の天地を逆転し、尖頭器または角錐状石

器として分類することも可能である。

57(1183)はガラス質黒色安山岩を用いた二側縁加工のナイフ形石器である。素材剥片を縦位に用い、打点部を基部側に置く。左側縁は張り出し部まで、右側縁は先端部まで裏面から急斜度の二次加工を施す。表面基部側には稜面が残る。

58(537)は珪質シルト岩を用いたナイフ形石器の一部だと考えられる。素材剥片の打点部を基部側に置く。左側縁基部側に裏面から急斜度の二次加工を施す。刃部側と基部の一部を折損するため全体形状は判然としない。折損のため打点を除去しているかどうか不明である。

59(656)はホルンフェルスを用いたナイフ形石器の一部だと考えられる。素材剥片を横位に用い、打点部を左側縁に置く。左側縁は先端部まで表面から急斜度の二次加工を施している。打点は二次加工により除去する。先端部と基部を折損するため全体形状は判然としない。風化が進み、器体の損傷が著しい。

60(652)はホルンフェルスを用いた基部加工のナイフ形石器だと考えられる。縦長の剥片を縦位に用い、打点部を基部側に置く。基部に裏面から急斜度の二次加工を施す。打点は二次加工により除去される。先端部折損のため全体形状は判然としない。風化が進み、器体の損傷が著しい。

61(687)はホルンフェルスを用いたナイフ形石器だと考えられる。横長の素材剥片を横位に用い打点部を左側縁に置く。左側縁は先端部まで、表裏両面から急斜度の二次加工を施す。打点は二次加工により除去する。右側縁基部側の折れ面より表面に平坦剥離を施す。先端部及び基部は風化のため失われている。風化が進み、器体の損傷が著しい。

62(636)はホルンフェルスを用いたナイフ形石器だと考えられる。剥片を横位に用い、打点部を右側縁基部側に置く。リングの方向より素材剥片の打点は除去したと考えられるが、風化による損傷が著しく判然としない。左側縁は張り出し部まで、裏面から急斜度の二次加工を施す。右側縁は先端部側に裏面から急斜度の二次加工が施されているが、基部側は風化により表面が剥がれ落ち判然としない。おそらく右側縁全体に二次加工が施されていたと考えられる。

#### 尖頭器(第109図63~66)

4点が該当する。ガラス質黒色安山岩製1点、ホルンフェルス製1点、黒曜石製2点である。全点を図示する。

63(56)は諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いた両面加工の尖頭器である。表面は、大きな加工を左側縁一方から行い、側縁には表裏両面より細かな加工を施し器形を整える。裏面中央部には素材剥片の剥離面が残る。

64(677)はホルンフェルスを用いた両面加工の尖頭器である。加工は粗く、側縁部への細かな加工はあまり見られない。器体の損傷が著しく先端部と基部は風化のために失われる。形状から縄文時代草創期の尖頭器の可能性も考えられるが、出土層位が休場層であったため旧石器時代に分類した。

65(68)は諏訪星ヶ台群の黒曜石を使用した片面加工の尖頭器である。素材剥片を縦位に用い、打点部を基部側に置く。裏面は素材剥片の剥離面である。側縁部には細かな加工を施し器形を整える。表面には稜面が残る。右側縁部の基部側には1箇所裏面側に剥離が入り、挟んでいる部分がある。著柄痕の可能性はあるが挟れ部分に稜線の潰れは観察できない。基部は折損する。裏面に発掘時の欠損がある。

66(642)はガラス質黒色安山岩を用いた両面加工の尖頭器である。粗い加工が器体の中央部まで入り込んでいる。側縁にはあまり細かい加工は施されていない。器幅は狭く柳葉形である。先端部を折損する。形状から縄文時代草創期の尖頭器の可能性も考えられるが、出土層位が休場層であったため、旧石器時代に分類した。

#### 加工痕剥片 (第110図67)

6点が該当する。使用石材は黒曜石製3点(蓼科冷山群2点、諏訪星ヶ台群1点)、流紋岩製1点、ホルンフェルス製1点、ガラス質黒色安山岩製1点である。1点を図示する。

67(528)は流紋岩を用いる。剥片の縁辺と基端部に剥離痕が認められる。

#### 使用痕剥片 (第110図68)

7点が該当する。使用石材は黒曜石製5点(諏訪星ヶ台群3点、箱根畑宿群1点、蓼科冷山群1点)チャート製1点、珪質頁岩製1点である。1点を図示する。

68(1177)は諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いる。一定方向から剥離した剥片の左右縁辺および基端部に微細な剥離痕が認められる。

#### 楔形石器 (第110図69)

1点が該当する。上端部と下端部に潰れたような細かなひび割れが見られ、そこから対向方向の剥離痕が残ることから衝撃痕であると考え楔形石器とした。

69(284)は黒曜石を用いる。産地同定の結果、風化のため分析不可となった。肉眼観察からは信州系黒曜石だと推定される。石器表面は風化し曇っている。

#### 石刃 (第110図70~73)

12個体13点が該当する。全てホルンフェルスを用いる。いずれも剥離面を打面とする資料である。4点を図示する。

70(649)はホルンフェルスを用いる。末端部に稜面が残る。風化により縁辺の一部を損傷する。

71(278)はホルンフェルスを用いる。末端部に稜面が残る。基端部に打面調整と考えられる剥離が認められる。

72(1229)はホルンフェルスを用いる。剥離面を打面とする。風化のため損傷が著しい。

73(285)はホルンフェルスを用いる。石刃の剥離に先立ち、少なくとも1枚の石刃剥離を行っている。剥離痕から、剥離面を打面として両極からの剥離を行っていたと考えられる。

#### 原石 (第111図74)

1点が該当する。74(1171)は黒曜石の原石である。産地同定の結果、風化のため分析不可となった。肉眼観察からは箱根畑宿産の可能性が高いと思われる。石器表面は風化し曇っている。いくつかの剥離痕が認められるが、石質を確認するための剥離の可能性が考えられる。

#### 石核 (第111図75~第112図80)

7点が該当する。全点ホルンフェルス製の石核である。小型の原石を使用しているようで、稜面を残すものが多い。不定形の剥片を剥離したと考えられる石核75・79~80・未掲載(719)と、主に石刃を剥離したと考えられる石核76~78に分類できる。6点を図示する。

75(832)はホルンフェルスを用いる。小さな石核で、剥離面を打面とする。

76(1124)はホルンフェルスを用いる。両極に打面を設定し、打面調整を行いつつ石刃を剥離していると考えられる。打面転移も行っている。風化による表面の損傷が著しい。

77(526)はホルンフェルスを用いる。剥離面を打面とする。両極に打面を設定し石刃を剥離していると考えられる。実測図下端の縁辺に連続した頭部調整を行う。実測図表面には稜面が残る。

78(640)はホルンフェルスを用いる。稜面および剥離面を打面とし、剥片を剥離している。実測図上下端部に頭部調整と考えられる剥離が認められる。得られる剥片は不定形であると考えられる。

79(293)はホルンフェルスを用いる。剥離面を打面とし、剥片を剥離している。実測図上下端部に頭部調整と考えられる剥離が認められる。

80(277)はホルンフェルスを用いる。節理面を打面とし、剥片を剥離している。剥離されている剥

片は不定形な縦長剥片である。

#### 細石刃 (第112図81~88)

8点が該当する。主に休場層上位から出土し、石器の形態から石器集中内の石器群と時期が異なる可能性が高いと考えられる。なお、83(283)・85(266)は表土内出土の資料である。散発的な出土であるため、共存する石器の有無は不明である。

使用石材は黒曜石製7点、珪質頁岩製1点である。81(1210)~86(1205)は神津島恩馳島群の黒曜石製である。87(26)は分析不可であるが、肉眼観察では神津島恩馳島群の黒曜石に似る。88は珪質頁岩製である。

82(514)は縁辺の一部に微細な剥離痕が認められるが、意図的なものかは不明である。また、右縁辺に微細な剥離痕が観察できる。

83(283)は左縁辺を発掘時に欠損する。

85(266)~87(26)は基端部と末端部の両方を折損する。

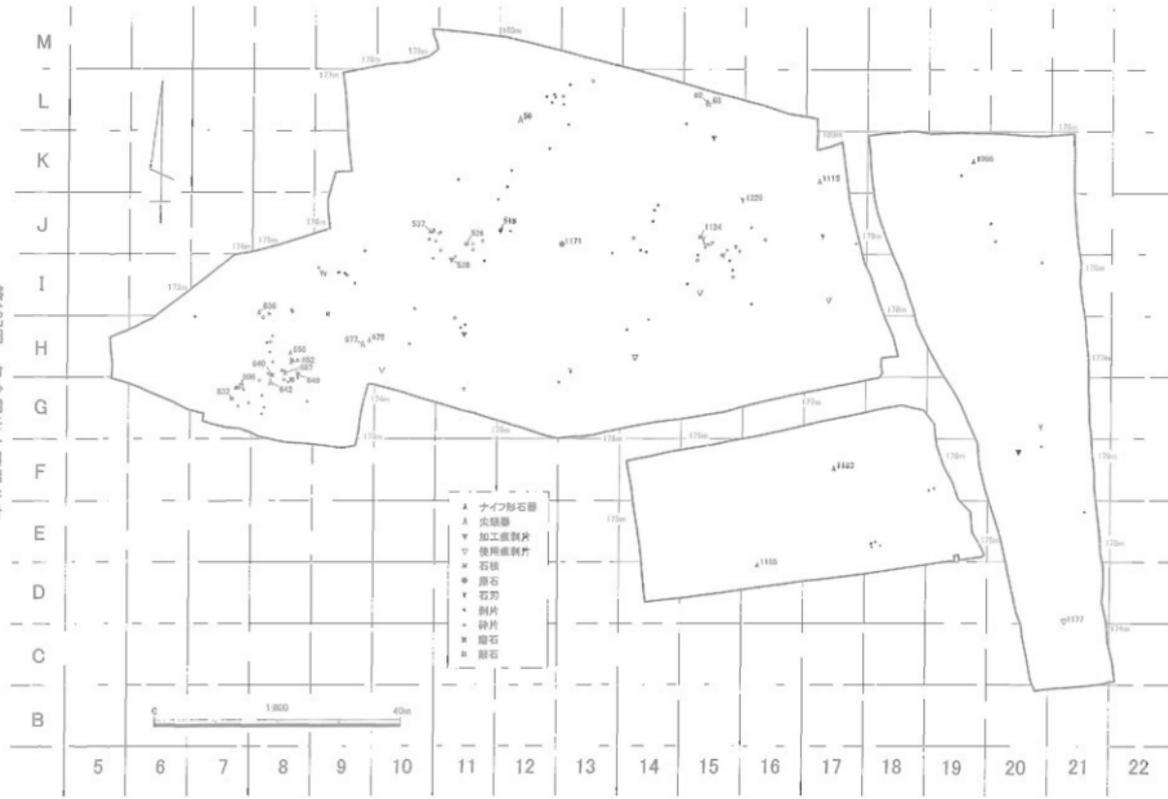
#### 細石核 (第112図89)

1点が該当する。表土内出土の資料である。89(1140)は神津島恩馳島群の黒曜石を用いる。作業面と接する縁辺部の打面調整を入念に行う。

#### 敲石 (第112図90)

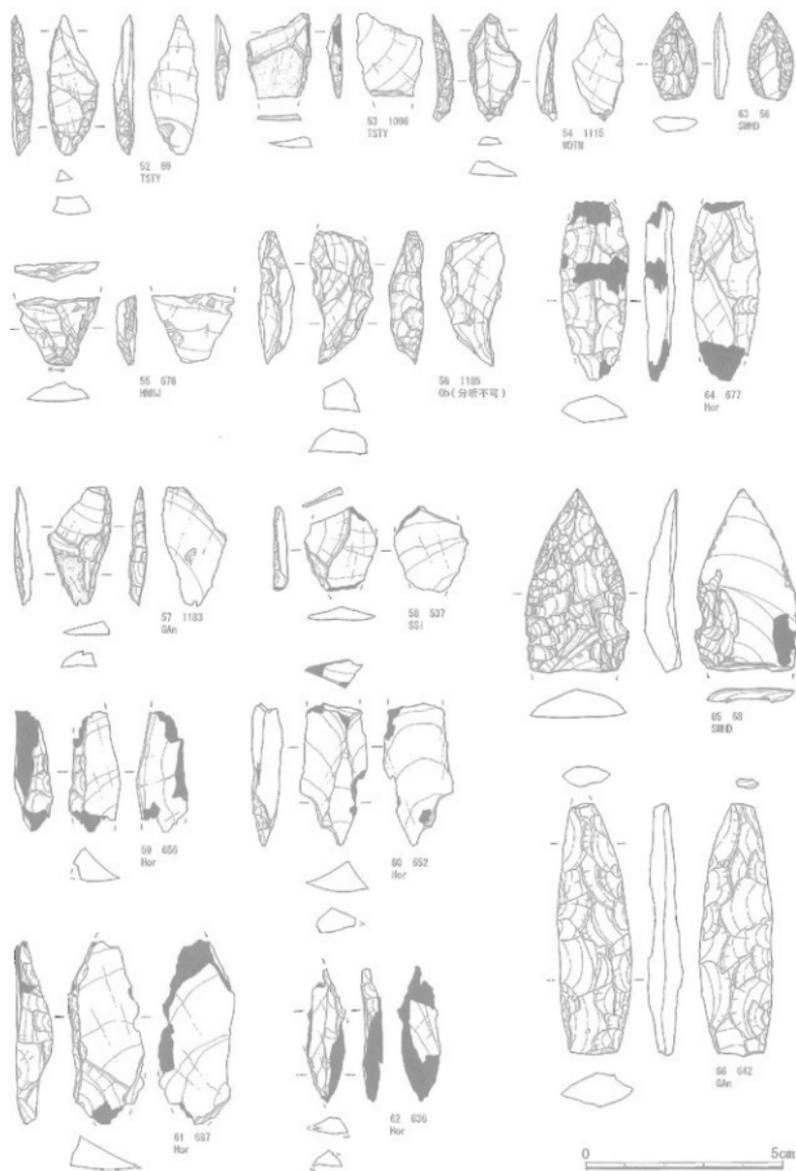
90(806)は輝石安山岩を用いる。扁平な礫の縁辺部に敲打痕が残る。敲打の著しい部分は、礫の縁辺が潰れ断面がコの字型を呈する。

第107図 包含層出土石器分布





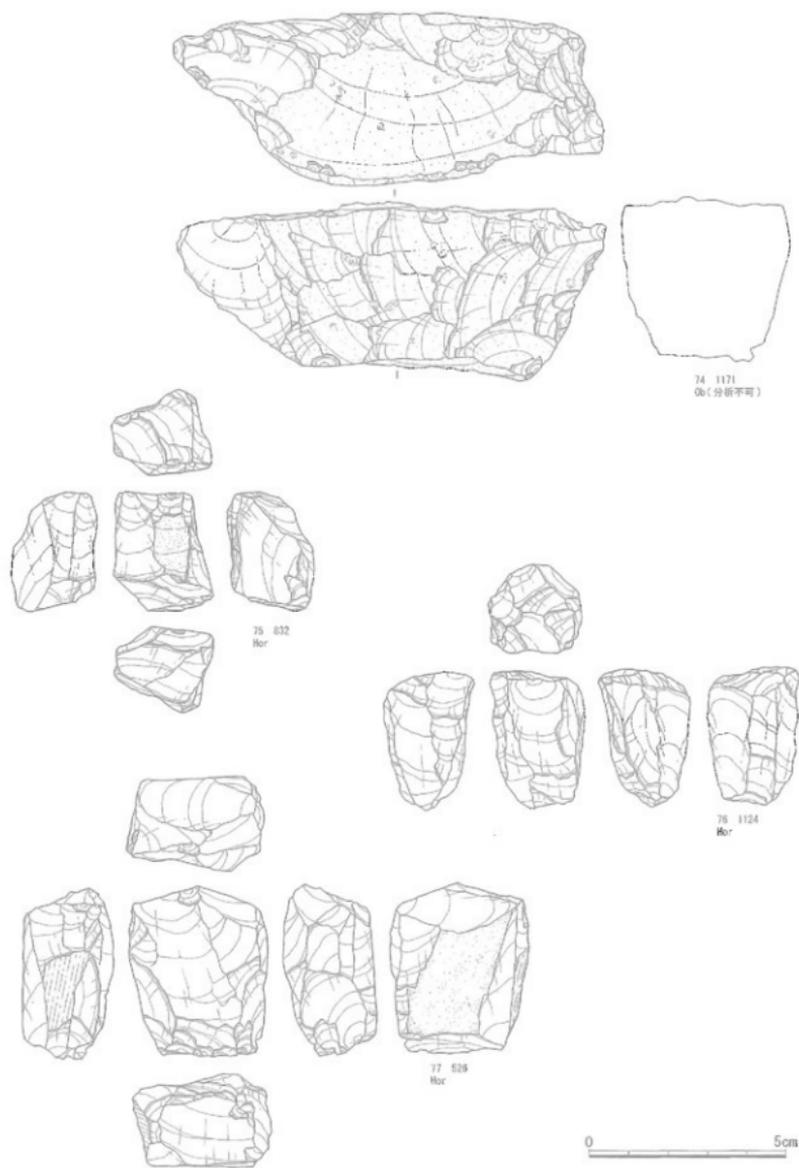
第108図 包含層出土石器分布(細石刃)



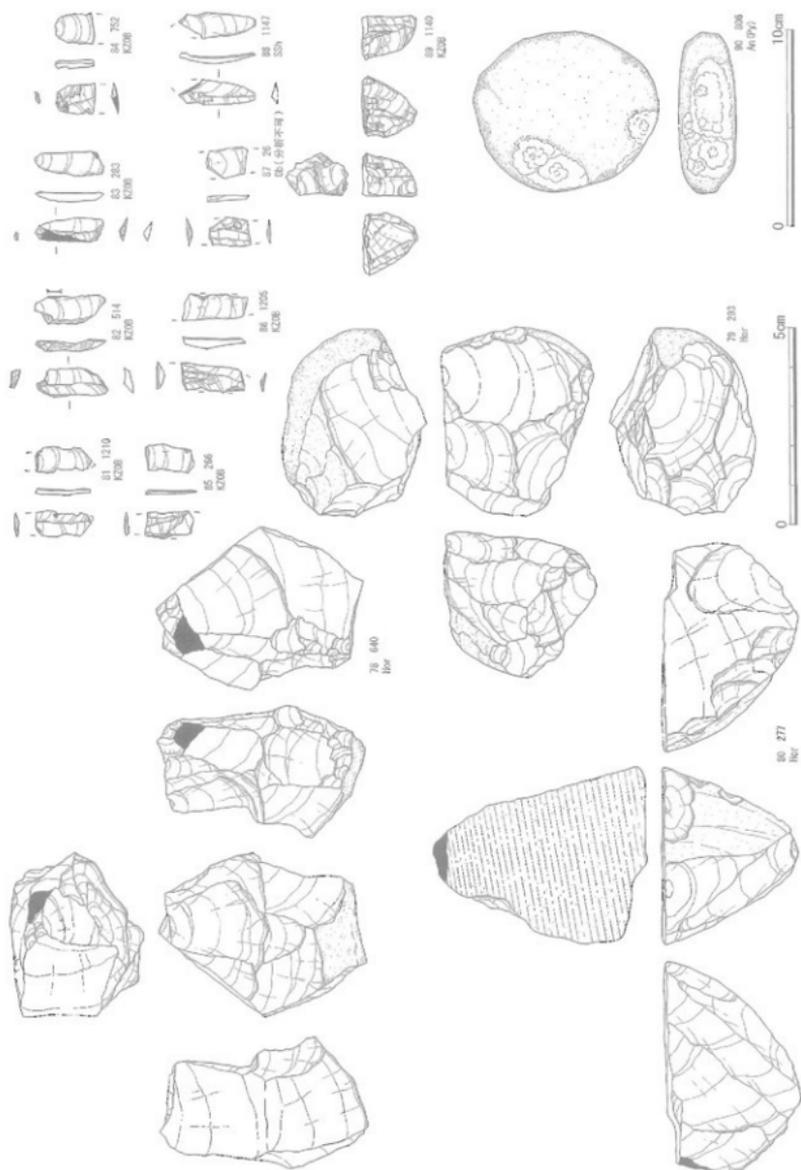
第109图 包含层出土石器(1)



第110図 包含層出土石器(2)



第111图 包含隔出土石器(3)



第112図 包含層出土石器(4)

## 第4節 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺物は、主に富士黒土層 (FB)・栗色土層 (KU) を中心にその上下の層にも僅かに包含されていた。検出した遺構は土坑20基である。遺物は、土器38点、石器28点、礫70点、合計136点と少量である。暗褐色土層等から出土した遺物に関しては、形態により明らかに縄文時代の遺物と判断できるものは縄文時代の遺物として扱い、一括して報告する。

### 1. 遺 構

#### (1) 土 坑 (第114~118図・第29表)

縄文時代の遺構と考えられる土坑は20基検出した。調査区北壁にかかる形で検出された15・16号土坑を除く18基は、休場層上面で検出され、掘り込み面の確認はできなかった。土坑底部の形状に若干の差があるものの、覆土の状況および立地から考え、検出された全ての土坑は似通った時期に構築されたものと推測できるが、遺構の構築時期については、覆土・検出状況の情報のみで判断材料に乏しく、詳細な時期特定は不可能であった。底部の長幅比を用いて大別した。基準は、長幅比1.5以上を長楕円形、1.49以下を円～楕円形とした。更に遺構底部小穴の有無により小別した。16号土坑に関しては底部の全体形状は不明であるが、検出範囲より分類した。なお、1～5・13・15・16・19号土坑については検出位置に連続性が認められる。

#### 第Ⅰ群 底部の形状 長楕円形 (1～4・6・16・18)

a類 小穴有

#### 第Ⅱ群 底部の形状 円～楕円 (5・7～13・17・19・20)

a類 小穴有 (7～10・12・13・17・19・20)

b類 小穴無 (5・11)

#### 第Ⅲ群 底部の形状 不明 (14・15)

a類 小穴有 (15)

b類 小穴無 (14)

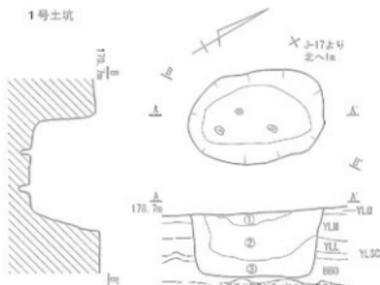
第29表 縄文時代土坑一覧

土坑名	分類	形状	検出部位	グリッド	断面 長径 × 短径 (cm)	検出面 長径 × 短径 (cm)	最大径 (cm)	埋没 小穴
1号土坑	I-a	楕円	休場層上面	J-17	87 × 47	119 × 76	52	有
2号土坑	I-a	不正形楕円	休場層上面	J-16	92 × 29	122 × 59	50	有
3号土坑	I-a	楕円	休場層上面	J-16	106 × 50	118 × 64	50	有
4号土坑	I-a	楕円	休場層上面	J-15	96 × 58	120 × 83	46	有
5号土坑	II-b	不正形楕円	休場層上面	J-17	59 × 46	91 × 74	161	無
6号土坑	I-a	不正形楕円	休場層上面	G-14	99 × 43	142 × 65	62	有
7号土坑	II-a	不正形楕円	休場層上面	G-17	69 × 50	97 × 89	52	有
8号土坑	II-a	不正形楕円	休場層上面	J-21	59 × 45	86 × 68	70	有
9号土坑	II-a	楕円	休場層上面	J-21	64 × 50	91 × 88	66	有
10号土坑	II-a	不正形楕円	休場層上面	E-15	40 × 36	90 × 80	100	有
11号土坑	II-b	円	休場層上面	F-17	38 × 41	122 × 100	140	無
12号土坑	II-a	不正形楕円	休場層上面	F-18	48 × 41	74 × 65	59	有
13号土坑	II-a	楕円	休場層上面	K-17	70 × 54	82 × 58	45	有
14号土坑	II-b	楕円	休場層上面	G-9	64 × 不明	84 × 不明	78	無
15号土坑	III-a	不正形楕円	栗色土層上面	L-15	64 × 不明	86 × 不明	95	有
16号土坑	I-a	長楕円	栗色土層上面	L-15	65 × 不明	115 × 不明	149	有
17号土坑	II-a	円	休場層上面	L-12	39 × 34	99 × 90	83	有
18号土坑	I-a	楕円	休場層上面	K-10	101 × 45	121 × 51	59	有
19号土坑	II-a	円	休場層上面	K-16	53 × 38	87 × 74	88	有
20号土坑	II-a	不正形	休場層上面	K-16	24 × 22	82 × 76	100	有



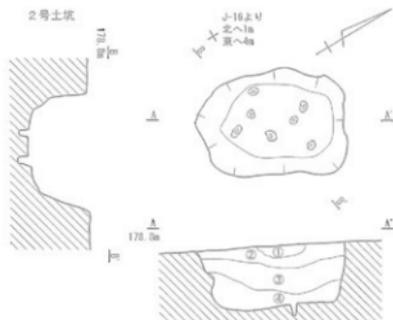
第113圖 縄文時代遺跡配置

1号土坑



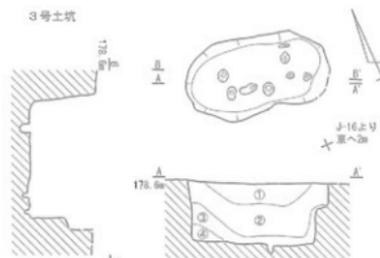
- ① 黒褐色土 7.5YR2/1 ①2mmの赤褐色(2.5YR4/6)スコリア。  
②2~3mmの明褐色土粒子をごく少量含む。  
しまり強。
- ② 暗褐色土 7.5YR2/4 ①2mmの赤褐色(2.5YR4/6)スコリア。  
②2~3mmの明褐色土粒子をごく少量含む。  
粘性強。しまり強。
- ③ 褐色土 2.5YR2/6 ①2~3mmの赤褐色(2.5YR4/6)スコリア。  
①1~2mmのカーボン粒子をごく少量含む。  
パウダー状の明褐色土粒子を2割程度含む。  
粘性強。しまり強。

2号土坑



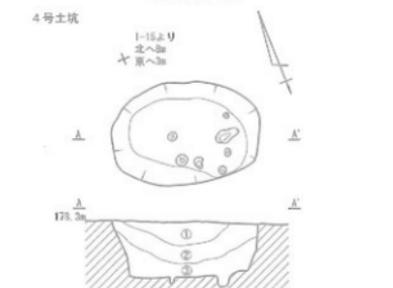
- ① 黒褐色土 7.5YR2/1 混入物なし。しまり強。
- ② 黒褐色土 7.5YR2/2 ①2mmの赤褐色(2.5YR4/6)スコリア。①1~2mmのカーボン粒子。②2~3mmの明褐色土粒子をごく少量含む。しまり強。
- ③ 暗褐色土 7.5YR2/3 ①2~3mmの赤褐色(2.5YR4/6)スコリア。①1~2mmのカーボン粒子をごく少量含む。パウダー状の明褐色土粒子を1~2割含む。しまり強。
- ④ 暗褐色土 2.5YR2/3 ①2~3mmの赤褐色(2.5YR4/6)スコリア。①1~2mmのカーボン粒子をごく少量含む。パウダー状の明褐色土粒子を2~3割含む。粘性強。しまり強。

3号土坑



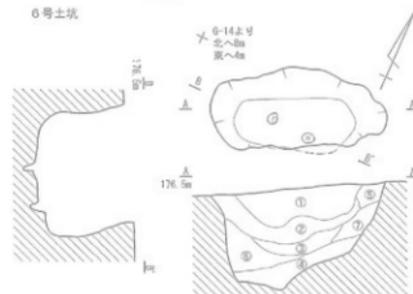
- ① 黒褐色土 7.5YR2/1 ①2mmの赤褐色(2.5YR4/6)スコリア。  
②2~3mmの明褐色土粒子をごく少量含む。  
しまり強。
- ② 黒褐色土 7.5YR2/2 ①2mmの赤褐色(2.5YR4/6)スコリア。  
②2~3mmの明褐色土粒子をごく少量含む。  
粘性強。しまり強。
- ③ 暗褐色土 10YR2/3 ①1~2mmの明褐色土粒子を少量含む。  
粘性強。
- ④ 黒褐色土 7.5YR2/2 ①2~3mmの赤褐色(2.5YR4/6)スコリア。  
②2~3mmの明褐色土粒子をごく少量含む。  
粘性強。

4号土坑



- ① 黒褐色土 7.5YR2/1 ①1~2mmの赤褐色(2.5YR4/6)スコリア。  
①1~3mmの明褐色土粒子をごく少量含む。  
しまり強。
- ② 黒褐色土 7.5YR2/2 ①1~2mmの赤褐色(2.5YR4/6)スコリア。  
①1~4mmの明褐色土粒子をごく少量含む。  
粘性強。しまり強。
- ③ 暗褐色土 10YR2/3 パウダー状の明褐色土粒子を1~2割含む。

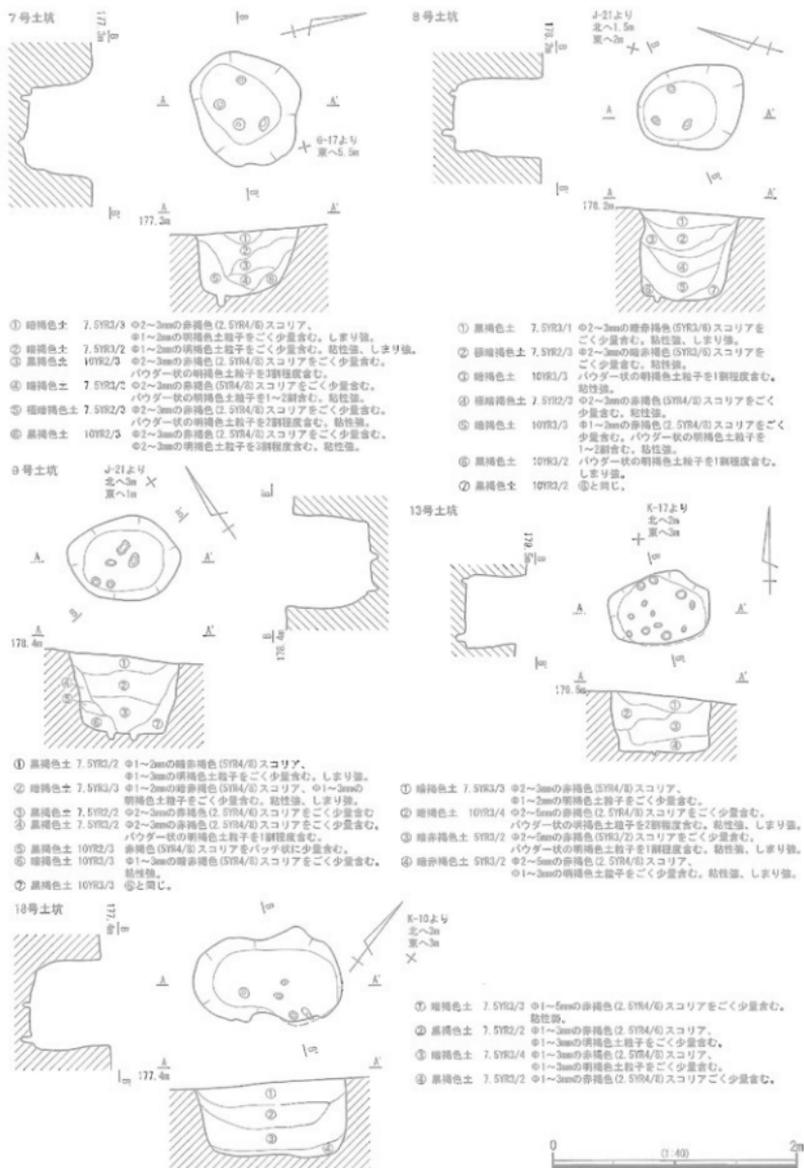
6号土坑



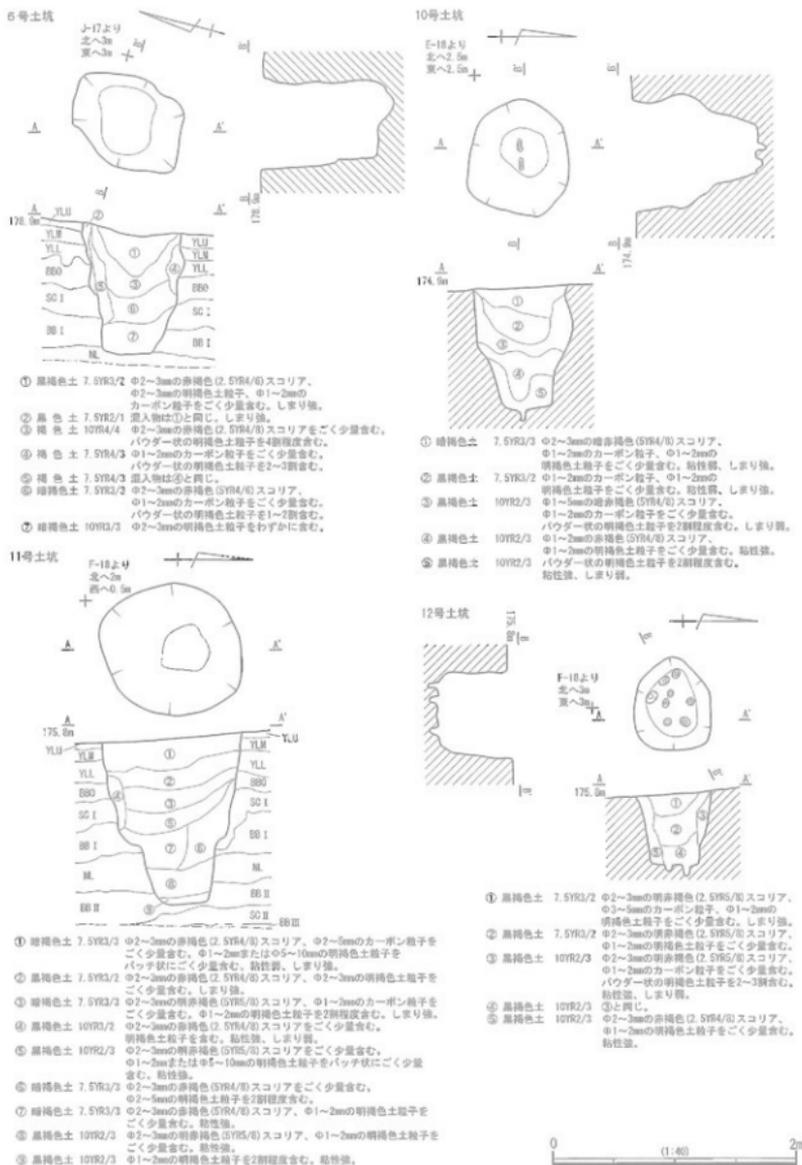
- ① 黒褐色土 7.5YR2/1 ②2~3mmの赤褐色(2.5YR4/6)スコリアをごく少量含む。  
しまり強。
- ② 黒褐色土 7.5YR2/1 ②2~3mmの赤褐色(2.5YR4/6)スコリアをごく少量含む。  
パウダー状の明褐色土粒子を1~2割含む。粘性強。
- ③ 暗褐色土 10YR2/3 ①1~2mmの赤褐色(2.5YR4/6)スコリアをごく少量含む。  
①1mmの明褐色(7.5YR2/6)スコリアと、①1mmの黄褐色(10YR3/6)スコリアの混入をパウダー状に少量含む。  
パウダー状の明褐色土粒子を1~2割含む。しまり強。
- ④ 黒褐色土 7.5YR2/2 ①1~2mmの赤褐色(2.5YR4/6)スコリアをごく少量含む。  
パウダー状の明褐色土粒子を1~2割含む。粘性強。
- ⑤ 褐色土 10YR4/4 パウダー状の明褐色土粒子を2割程度含む。粘性強。
- ⑥ 黒褐色土 10YR2/2 パウダー状の明褐色土粒子を1割程度含む。しまり強。
- ⑦ 黒褐色土 10YR2/2 ⑥と同じ。

第114図 縄文時代土坑(1)



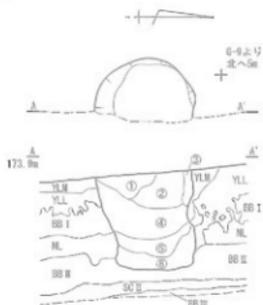


第115図 縄文時代土坑(2)



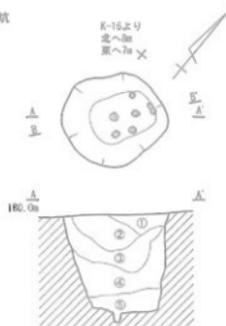
第116図 縄文時代土坑(3)

14号土坑

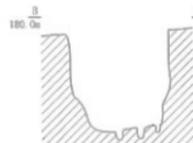


- ① 黒褐色土 7.5YR2/2 ①1~2mmの明褐色(7.5YR5/6)スコリアをごく少量含む。粘性弱。
- ② 黒褐色土 5YR4/6 ②2~3mmの赤褐色(5YR4/6)スコリアをごく少量含む。しまり強。
- ③ 暗褐色土 10YR3/3 ①1~2mmの明褐色土粒子を1~2個含む。
- ④ 黒褐色土 10YR2/2 ①1~2mmの赤褐色(5YR4/6)スコリアをごく少量含む。
- ⑤ 黒褐色土 10YR2/2 ①1~2mmの褐色(7.5YR4/6)スコリアをごく少量含む。粘性強。
- ⑥ 黒褐色土 10YR2/2 ②2~3mmの明褐色(7.5YR5/6)スコリアをごく少量含む。粘性強。

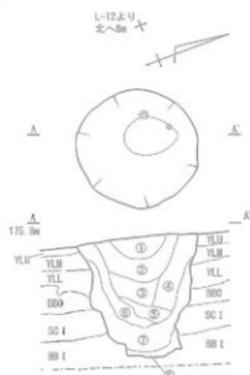
19号土坑



- ① 黒褐色土 7.5YR2/3 ①1~4mmの赤褐色(5YR4/6)スコリアをごく少量含む。しまり強。
- ② 暗褐色土 7.5YR3/4 ②2~3mmの赤褐色(5YR4/6)スコリア。粘性弱。
- ③ 黒褐色土 7.5YR2/2 フロック状の明褐色土粒子をごく少量含む。粘性弱。
- ④ 黒褐色土 7.5YR2/2 フロック状の暗褐色土粒子を1個程度含む。粘性強。しまり強。
- ⑤ 暗褐色土 7.5YR2/3 ②2~3mmの明褐色(7.5YR5/6)スコリアをごく少量含む。

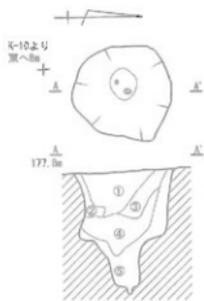


17号土坑



- ① 暗褐色土 7.5YR3/2 ③3~3mmの赤褐色(5YR5/6)スコリア。②2~3mmの明褐色土粒子をごく少量含む。粘性弱。しまり強。
- ② 黒褐色土 7.5YR2/2 ③3~3mmの赤褐色(5YR5/6)スコリア。②2~3mmの明褐色土粒子をごく少量含む。粘性弱。
- ③ 黒褐色土 7.5YR2/2 ②2~3mmの赤褐色(5YR5/6)スコリアをごく少量含む。パウダー状の明褐色土粒子を1個程度含む。
- ④ 黒褐色土 7.5YR3/1 ②2~3mmの赤褐色(5YR5/6)スコリアをごく少量含む。パウダー状の明褐色土粒子を2個程度含む。粘性弱。
- ⑤ 黒褐色土 7.5YR2/1 ①1~2mmの赤褐色(5YR4/6)スコリア。②2~3mmの明褐色土粒子をごく少量含む。しまり強。
- ⑥ 黒褐色土 7.5YR3/2 ①1~2mmの赤褐色(5YR4/6)スコリアをごく少量含む。パウダー状の明褐色土粒子を2個程度含む。しまり強。
- ⑦ 暗褐色土 10YR2/4 ①1~2mmの赤褐色(5YR4/6)スコリアをごく少量含む。パウダー状およびブロック状の明褐色土粒子を1~2個含む。粘性強。
- ⑧ 褐色土 10YR4/4 ②2~3mmの赤褐色(5YR4/6)スコリアをごく少量含む(SC I層からの流入スコリア)。ブロック状の明褐色土粒子を1個程度含む。粘性強。しまり強。

20号土坑

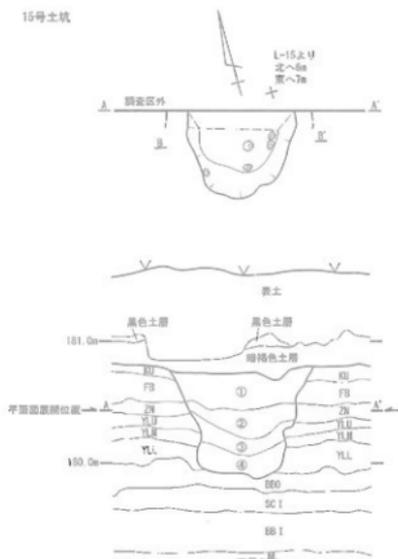


- ① 黒褐色土 7.5YR2/2 ②2~3mmの赤褐色(5YR4/6)スコリア。①1~2mmの明褐色土粒子をごく少量含む。しまり強。
- ② 暗褐色土 7.5YR2/3 ②2~3mmの赤褐色(5YR4/6)スコリア。パウダー状の明褐色土粒子をごく少量含む。
- ③ 褐色土 7.5YR4/4 ③3~4mmの赤褐色(5YR4/6)スコリアをごく少量含む。パウダー状の明褐色土粒子を3個程度含む。粘性強。しまり強。
- ④ 褐色土 7.5YR4/4 ③3~4mmの赤褐色(5YR4/6)スコリアをごく少量含む。パウダー状の明褐色土粒子を1個程度含む。粘性強。しまり強。
- ⑤ 暗褐色土 7.5YR2/3 ②2~3mmの赤褐色(5YR4/6)スコリアをごく少量含む。②2~3mmの赤褐色土粒子を1個程度含む。粘性強。しまり強。



第117図 縄文時代土坑(4)

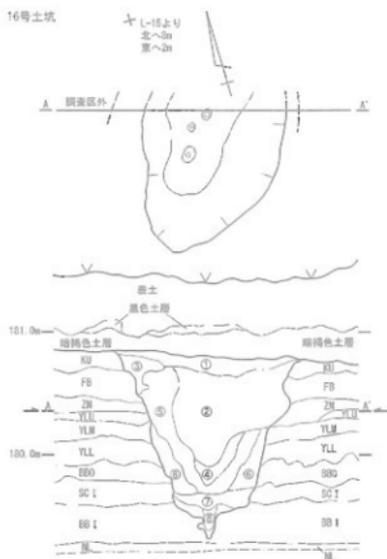
15号土坑



- ① 褐色土 7.5YR4/4 ① 1mm以下の橙色(7.5YR6/3)スコリア、③-4mmのカーボン粒子をごく少量含む。粘性弱、しまり強。  
 ② 暗褐色土 7.5YR2/3 ① 1mm以下の橙色(7.5YR6/3)スコリア、②-5mmのカーボン粒子、①-2mmの暗褐色土粒子をごく少量含む。粘性弱、しまり強。  
 ③ 黒褐色土 7.5YR2/2 ① 2-3mmの明褐色(7.5YR5/4)スコリア、②-5mmのカーボン粒子、①-2mmの暗褐色土粒子をごく少量含む。しまり強。  
 ④ 暗褐色土 7.5YR2/4 ① 1-3mmの明赤褐色(5YR5/4)スコリア、③-10mmのカーボン粒子をごく少量含む。パウダー状の暗褐色土粒子を4割程度含む。粘性強。



16号土坑



- ① 暗褐色土 7.5YR2/3 ① 1-2mmの赤褐色(7.5YR6/4)スコリアをごく少量含む。粘性弱、しまり強。  
 ② 黒褐色土 7.5YR2/2 ① 1-4mmの赤褐色(7.5YR6/4)スコリア、②mm次のカーボン粒子をごく少量含む。粘性弱、しまり強。  
 ③ 褐色土 7.5YR4/4 ① 1-2mmの明褐色(7.5YR7/2)粒子をごく少量含む(カワゴロパヒス少ク)。粘性弱、しまり強。  
 ④ 黒暗褐色土 7.5YR2/2 ① 2-5mmの暗褐色土(7.5YR5/4)粒子(YL層)をごく少量含む。粘性弱、しまり強。  
 ⑤ 暗褐色土 7.5YR2/2 ① 2-7mmの明褐色土(7.5YR5/4)粒子(YL層)を1割程度含む。粘性弱、しまり強。  
 ⑥ 暗褐色土 7.5YR2/2 ① 2-7mmの暗褐色土(7.5YR5/4)粒子(YL層)を3割程度含む。粘性弱、しまり強。  
 ⑦ 黒褐色土 7.5YR2/2 ① 10mm次の赤褐色(7.5YR6/4)スコリアをごく少量含む、②-7mmの暗褐色土(7.5YR5/4)粒子(YL層)を2割程度含む。粘性極めて強、しまり強。  
 ⑧ 暗褐色土 7.5YR2/3 ① 7mm次の赤褐色(7.5YR6/4)スコリアをごく少量含む、②-7mmの明褐色土(7.5YR5/4)粒子(YL層)を1割程度含む。粘性極めて弱、しまり強。



第118図 縄文時代土坑(5)



第119図 縄文時代遺物分布

## 2. 遺物

縄文時代の遺物は、主に栗色土層(KU)・富士黒土層(FB)より出土した。遺物の量は全体的に少なく、遺物の種類は、土器・石器と礫が出土した。礫の中には赤化したものが含まれる。

### (1) 土器 (第120図・第30表)

縄文時代早期の資料と考えられる9個体が出土した。8個体を図示する。分類は以下の通りである。

#### 第I群 早期

- A類 燃糸文
- B類 縄文
- C類 その他(条痕/沈線/無文/不明)

#### 第I群 早期 (第120図1~8)

いずれの土器も胎土に繊維を含むことから早期に分類し報告する。出土状況は散漫である。

##### I群A類 燃糸文(1~3)

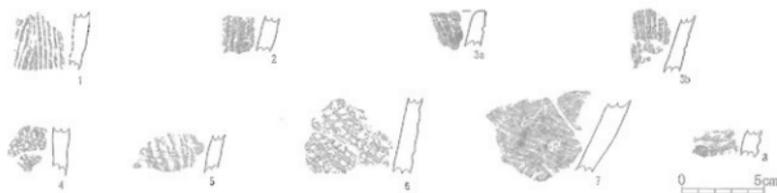
- 1はrの燃糸原体を縦位に施文する。
- 2はLの燃糸原体を斜位に施文する。
- 3-a・bは胎土・施文状況から同一個体である可能性が高い。Rの燃糸原体を、縦位に施文する。

##### I群B類 縄文(4~6)

- 4・5はLRの縄文原体を4は横位、5は縦位に施文する。
- 6はLRLの縄文原体を縦位に施文する。

##### I群C類 その他(7・8)

- 7は表に斜方向の条痕が残る。8は沈線文を施す。部分的な資料であるため詳細は不明である。



第120図 出土土器

第30表 縄文土器観察資料

図番	時期	分類	型式	文様・特徴等	色相	外層内面	胎土	繊維値
1	早期	燃糸文	-	縦位にrの燃糸文。	5YR5/6 明赤焼 5YR5/4 にぶい赤焼		石灰、白色礫片、赤色礫片	多
2	早期	燃糸文	-	斜位にLの燃糸文。	7.5YR6/4 暗 7.5YR6/6 暗		石灰、黒色礫子、白色礫片	少
3	早期	燃糸文	-	縦位にRの燃糸文。	5YR4/6 赤焼 5YR4/6 赤焼		角閃石、白色礫片、礫片	少
4	早期	縄文	-	横位にLRの縄文。	5YR5/6 明赤焼 5YR3/3 暗赤焼		白色礫子、黒色礫子、白色礫片	少
5	早期	縄文	-	縦位にLRの縄文。	5YR4/6 赤焼 5YR2/1 赤焼		石灰、白色礫片、赤色礫片、黄色礫片	少
6	早期	縄文	-	縦位にLRLの縄文。	5YR5/6 明赤焼 5YR5/6 明赤焼		石灰、黒色礫子、白色礫片	少
7	早期	その他	-	外面に斜方向の条痕文。	5YR6/6 暗 5YR5/4 にぶい赤焼		石灰、黒色礫子、礫片	多
8	早期	その他	-	沈線文。	10YR4/2 灰黄焼 10YR4/1 褐赤		石灰、白色礫片、礫片	
P-30	早期	その他	-	胎文。内面は十字による模様。	10YR4/2 灰黄焼 10YR4/1 褐赤		石灰、黒色礫子、白色礫片	

## (2) 石器(第121図・第31表)

縄文時代に属する石器は総数28点が出土し、石鏃6点、スクレイパー2点、石核2点、礫器1点、台石1点が含まれる。土器と同じく出土状況は散漫である。

第31表 縄文時代石器組成

	黒曜石				ガラス質黒色安山岩	ホルンフェルス	黒曜砂岩	珪質頁岩	珪質シルト岩	凝灰岩	燧石安山岩	合計
	天城山群	天城山群	天城山群	不明								
	AKT	AKT	AKT	-	GAr	Hrn	FSS	CSb	Sal	Rhy	An(Py)	
石鏃	2	2	1		1							6
スクレイパー			1			1						2
加工剥片						1				1		1
剥片						7	1	2	1			11
砕片			3			1						4
石核						2						2
台石											1	1
礫器											1	1
合計	2	2	2	3	1	11	1	2	1	1	2	28

## 石鏃(第121図1~6)

6点が該当する。基部形態により1~3は凹基、4~6は平基に分類できる。

- 1(1099)は諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いる。基部の加工はV字状で浅い。
- 2(1113)は諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いる。側縁が僅かに外湾する。基部加工はU字状である。
- 3(1088)は天城山群の黒曜石を用いる。中央にU字状の加工が入る。
- 4(1071)は天城山群の黒曜石を用いる。先端部の加工が僅かに丸みを帯びる。
- 5(1114)は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。側縁が僅かに外湾する。左脚の一部を折損する。
- 6(1184)はガラス質黒色安山岩を用いる。側縁がごく僅かに内湾する。先端部と両脚の一部を折損する。

## スクレイパー(第121図7・8)

2点が該当する。

7(1092)は箱根畑宿群の黒曜石を用いる。素材剥片の右縁辺に裏面から加工を施し刃部を作り出す。末端部と左縁辺を折損する。左縁辺には折損後の剥離痕が認められる。

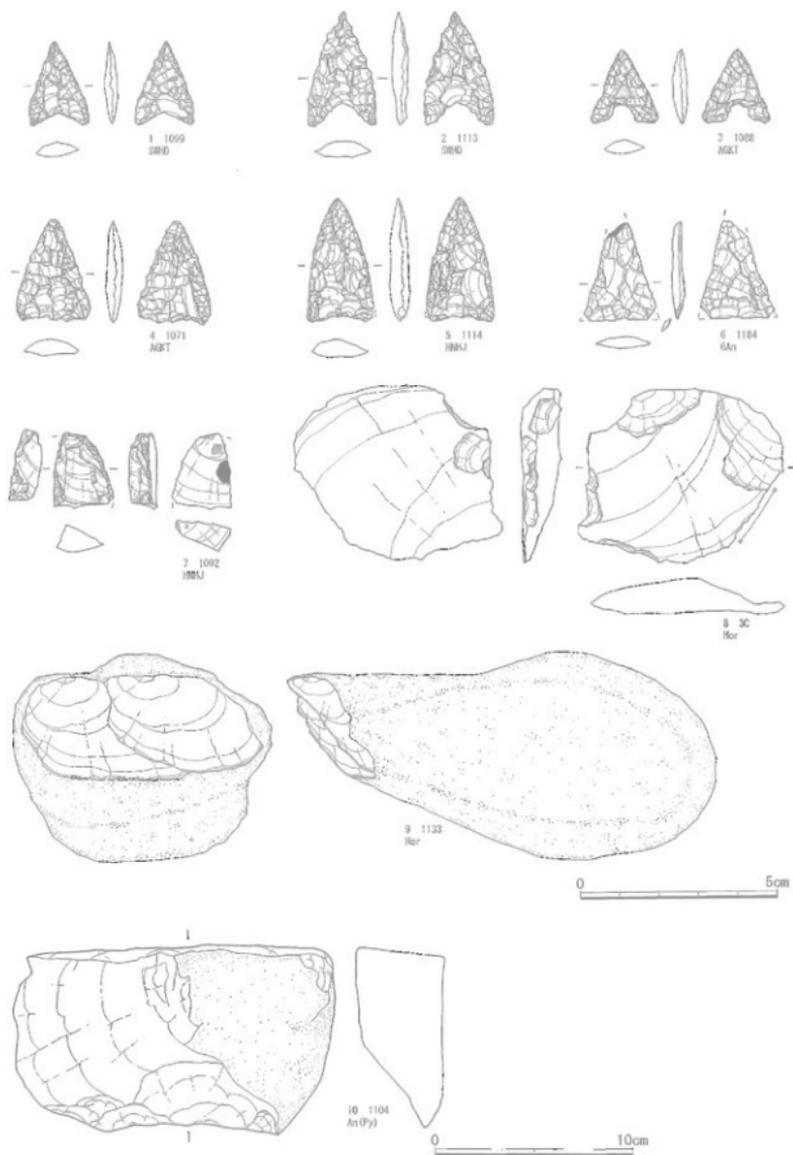
8(30)はホルンフェルスを用いる。素材剥片の比較的薄い右縁辺・末端部に加工を施す。左縁辺には微細な剥離痕が観察できる。右縁辺の末端部側には突起部分を作り出しているため石鏃の可能性もある。

## 石核(第121図9)

2点が該当する。1点を図示する。9(1133)はホルンフェルスを用いる。礫面的一端から打撃を加え剥片を得る。石核の形状から、剥片剥離の回数は少なく原石に近い状態で放棄する。片刃礫器の可能性もある。

## 礫器(第121図10)

1点が該当する。10(1104)は燧石安山岩を用いる。比較的扁平な礫の正面下部に表裏両面より加工を施し刃部を作り出す。左縁辺には裏面に剥離が残ることから、左縁辺も刃部の可能性がある。



第121圖 縄文時代出土石器

## 第V章 調査の成果とまとめ

ここでは、本書で報告した各遺跡の特徴を端的に示すと考えられる石器・土器を抽出し、若干の考察を加えることによって調査のまとめとする。

### 第1節 イタドリA遺跡

イタドリA遺跡では後期旧石器時代後半期に帰属する2枚の文化層と縄文時代草創期から中期に帰属すると考えられる土器群と石器群、および各種遺構を検出した。

#### 1. 旧石器時代

##### (1) 第I文化層

第I文化層はニセローム層(NL)に包含される。出土石器が少なく集中して出土した点、上下の層中から遺物が出土していない点から文化層は明瞭に分離できた。残念ながら重ねることのできる土層断面図がなく写真等の資料からの判断も難しいことから、ニセローム層中における出土位置の詳細は不明である。

使用石材は近傍産石材の天城柏峠群の黒曜石のみである。1箇所(第122図)の石器集中を確認した。接合関係が認められ、石器製作を行ったと考えられるが、剥片・砕片の点数から大半の製品は持ち込まれたものであると考えられる。ナイフ形石器は不定型な剥片を素材とし、二次加工により剥片の形状を大幅に変え器形を整形していると考えられる。

出土層位から中村雄紀の第3期前半(中村2006)に位置づけられると予想されるが、ナイフ形石器の石器形態は第3期の石器より時期を遡る印象も受ける。長泉町中見代第I遺跡第II文化層、長泉町陣場上B遺跡第I文化層、三島市上ノ池遺跡第III文化層出土の石器群に似た形態の石器が含まれると考えたが、出土石器も少なく位置づけは難しい。

##### (2) 第II文化層

第II文化層は休場層中位から上位(YLM~YLU)を中心にその上下の層にも僅かに包含される。

石器集中2箇所を確認し、大半の製品が石器集中内より出土している。使用石材は、箱根畑宿群の黒曜石が最も多くおよそ7割を占め、そこに信州産黒曜石と他の石材が混入する。黒曜石以外の石材使用はおよそ7%と1割に満たず、石器製作の痕跡は少ない。以上の点から、近傍産黒曜石を用いた石器製作を行ったと考えられ、信州系黒曜石等の遠隔地産石材製の製品の大半は持ち込まれたものであると考えられる。

ナイフ形石器は全て黒曜石を用いている。比較的小型で厚手のものが多く主要剥離面の打面を残置するものが見受けられる。また、製品や石核からは意識的に石刃を剥離し使用したと考えられる痕跡は認められず、不定型な剥片を用いた石器製作を行っていたと考えられる。

ナイフ形石器の石器形態および出土層位から第4期後半(中村2006)に位置づけられる。形態の似る石器群として三島市中村分遺跡(漸移層-休場層中位)、三島市観音洞G遺跡第2地点出土の石器群が挙げられる。



## 2. 縄文時代

縄文時代の遺構・遺物は、主に漸移層から栗色土層（ZN～KU）に包含される。遺構は土坑、集石、焼土が検出された。しかし、住居跡等、時期判断の指標となる遺構が検出されず、土器資料と石器資料の共存関係も判然としない。第二章 第1節 1. 調査の方法に述べた理由から、出土層位および位置からの検討に不安があり、その点からも分類に課題を残すこととなった。

遺物は主に草創期から前期の資料が出土した。草創期と考えられる表裏縄文を施文した土器片が出土しているが、断片的な資料であり、出土も散漫である。

相木式土器併行の可能性があるととしてⅡ群D類に分類した個体については、富士宮市石敷遺跡出土の土器を分類の根拠とした。口縁部の形状、外面の施文状況及び胎土は石敷遺跡の個体によく似るが、内面に山型文を施文した資料は認められなかった。沈線文に併行する土器として主要遺物園においては早期前半の位置に配置したが、型式分類に併せて時期的な位置づけについても検討の余地が残る。

出土した土器資料分布（第125図）から時期毎の分布傾向は見て取れるものの、第V群縄文土器及び出土石器（第124図）との関係等は読み取れなかった。

早・前期の土器に関しては土器付着炭化物が良好に残存している個体からAMS年代測定を行い、7個体の時期データを取得した。同型式の土器の詳細な時期分布を知る1つの資料となり得る。茅山下層式土器について得られた年代測定値は、おおよそ「縄紋時代前半期の実年代」（小林蔵一2007）に示された年代値に沿うものであると考えられる。

清水ノ上Ⅱ式～上の坊式併行に分類した4個体の土器に関しては、滋賀県入江内湖遺跡出土の清水ノ上Ⅱ式土器に分類された土器との比較が可能である。本遺跡において清水ノ上Ⅱ式～上ノ坊併行の土器とした刺突文を施す個体の年代測定値（IAAA-80623）4525BC-4363BC（95.4%）～（IAAA-80622）4453BC-4344BC（95.4%）は、入江内湖遺跡の施文状況が類似する土器の年代測定値（SGMB-4534a）4835-4685BC（94.9%）、（SGMB-5124）4340-4230（95.4%）とほぼ一致する。

早期に分類し茅山上層式土器として報告した個体に関しては、年代測定値は前期の年代値を示している。本書では器形と施文状況から判断し分類を行ったが、類似する器形および施文の施された個体との暦年代値の比較は出来なかった。測定炭化物が汚染されていた可能性もあるが、本書の型式分類に検討の余地が残った。

なお、施文状況より中期以降に分類された土器も出土したが、断片的な資料であった。

石器は、神津島思馳島群の黒曜石の資料が多く約26%を占め、次いで諏訪星ヶ台群の黒曜石が約16%、天城柏峠群が約9%を占める。石器は遺跡範囲全体に散漫に広がり出土の傾向を捉えることは出来なかった。

ホルンフェルスを用いた有舌尖頭器および、神津島思馳島群・箱根畑宿群・諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いた尖頭器が出土しているが、出土土器との関係は判然としない。

石鏃は主に神津島思馳島群と諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いるが、黒曜石原産地による形状の差異および分布の偏りは認められない。

スクレイパーについては多様な石材を用いているが、同一個体と考えられる剥片類の出土がないことから大半は持ち込まれたものであると考えられる。

また、当地域では珍しい縦長の石匙1点が出土しているが、加工は縁辺部のみにとどまり、粗雑な印象を受ける。

縄文海進の時期と考え合わせ、前期初頭の土器としばしば関連付けられる石鏃も11点出土しているが、やはり分布に傾向はない。石器に関しては、総じて土器と関係づけることは出来ず、時期の特定には至らなかった。



踏碓b式土器



JAA-0818  
44576C - 43480C (95.4)

茅山上層式土器



拍燵式土器



有尾式土器



JAA-0822  
41230C - 43480C (95.4)



JAA-0827  
44580C - 43570C (95.4)



JAA-0833  
42300C - 43630C (95.4)

溝水ノ上Ⅱ式への坊式併行

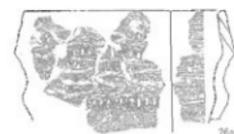


縄文

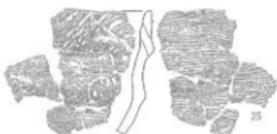
JAA-0824  
43260C - 42230C (98.8)



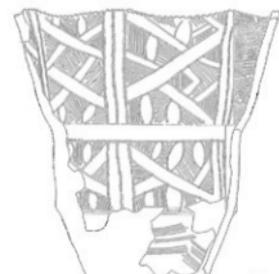
JAA-0850  
44570C - 43270C (95.4)



茅山下層式土器



JAA-0819  
41000C - 43630C (95.4)



鶴ヶ島台式土器



相木式併行



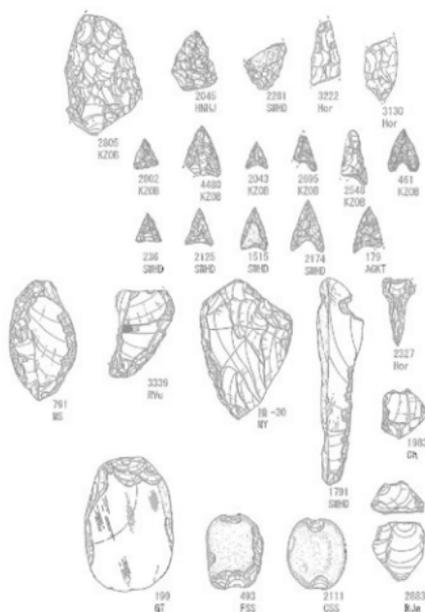
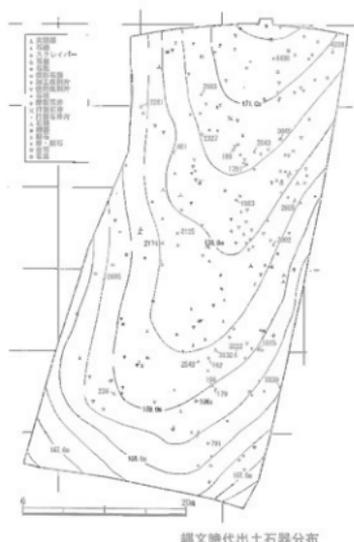
縦糸文

押型文

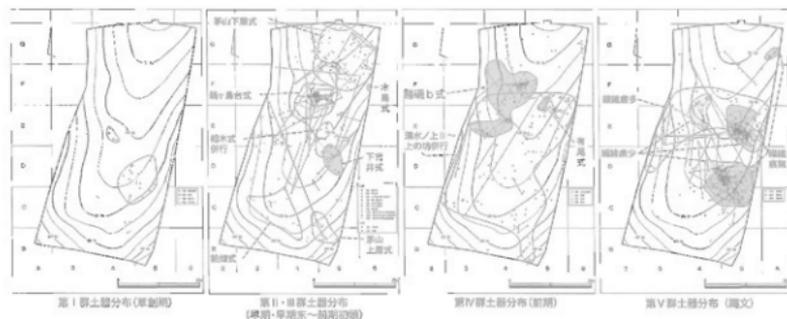


表裏縄文

第123図 イタドリA遺跡縄文時代主要出土遺物(1)



第124図 イタドリA遺跡縄文時代主要出土物（2）



第125図 イタドリA遺跡分類別土器分布

## 第2節 イタドリB遺跡

イタドリB遺跡では旧石器時代に帰属すると考えられる石器17点、礫9点、縄文時代に帰属すると考えられる土器80点、石器29点、礫82点が出土した。

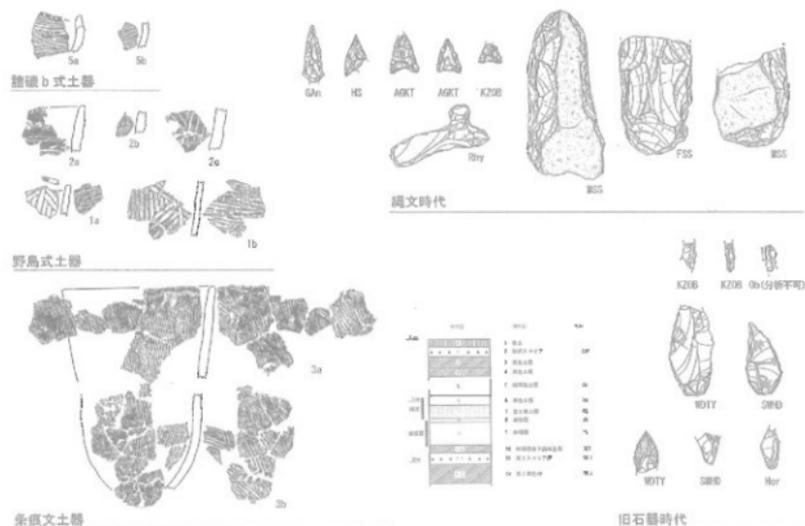
### 1. 旧石器時代

旧石器時代の遺物は休場層直下黒色帯から休場層（BB 0～YL）に含まれていた（第126図）。遺構は検出されなかった。遺物の出土は僅かで時期特定は困難であった。

### 2. 縄文時代

縄文時代の遺物は主に富士黒土層から栗色土層（FB～KU）に含まれる（第126図）。遺構は土坑を4基、焼土29基を検出した。規則性は見いだせず、用途も判然としなかった。遺物は散発的な出土で出土量も少ない。土器は繊維痕および施文状況から早期から前期の遺物と判断した。

特徴的な土器に清水柳E類土器・野鳥式土器として分類した個体が挙げられる。この2個体はそれぞれ菅原（2009）に示された搬入品「薄い土器」と在地系「厚い土器」の特徴を備える。「薄い土器」は、沈線により幾何学文様が描かれており、いわゆる「野鳥式土器」と呼ばれるものである。一方「厚い土器」は、口縁部文様帯の微隆起線と沈線による幾何学文様が認められ、清水柳E類の特徴を有する。類似は大越遺跡等に見られる。いずれの個体も断片的な資料であり、全体形状は判然としなが、1は厚手土器の変遷試案の第2段階（菅原2009）に相当すると推定される。



第126図 イタドリB遺跡主要出土遺物

### 第3節 イタドリC遺跡

イタドリC遺跡では後期旧石器時代後半期に帰属すると考えられる石器と、縄文時代早期に帰属すると考えられる土器群と石器群、および複数の土坑を検出した。

#### 1. 旧石器時代

旧石器時代の遺物は主に休場層下位から中位(YLL~YLM)に包含される。遺構は礫群20基を検出した。70m以上離れた礫群間での礫接合が確認されている。

出土石器の形態から、箱根愛鷹層年第4期の遺物に第5期に相当する遺物が含まれる可能性があり、文化層の分離は難しいと判断し文化層の設定は行わなかった。

しかし、ホルンフェルスを中心とした石材組成、石刃を使用した石器形態、および出土分布から考え、大半の石器は第4期ほぼ一時期の石器群と捉えられる。そのためここでは、第5期の遺物と考えられる細石刃・細石核(第108・112図)および縄文時代の遺物の可能性がある尖頭器2点(第107・109図)《64・66》を除き、ほぼ一時期の遺物として主要遺物分布図を作成した(第127図)。

石器集中は、礫群に沿う形で確認された。石器集中の包含の中心は休場層下位上部から中位下部である。いずれの石器集中も近傍産石材のホルンフェルスが中心で出土石器の86%を占める。そこに信州系の黒曜石等の石材製石器が少量混入する。残された石核・剥片から主に近傍産石材であるホルンフェルスを用いた石器製作を行ったと考えられ、信州系黒曜石等の遠隔地産石材製の製品の大半は製品として持ち込まれたものであると考えられる。

出土石器には石刃剥離を行ったと考えられる石核4点、石刃47点が含まれ、石刃技法を用いた石器製作を行ったと考えられる。残された石刃は主にホルンフェルスを中心に製作され、その他珪質頁岩やチャート、諏訪星ヶ台群の黒曜石を用いる。遺跡内においてホルンフェルス以外の石材を加工した痕跡はほとんど残されていない。石刃の大きさは大小様々で長さは最大110.1mm、最小22.9mm、平均57mmである。ホルンフェルスの性質上、劣化遅延措置を施したにも関わらず風化による損傷が著しく、残念ながら形状の判然としない資料が多数認められた。ホルンフェルス製の石刃を用いたナイフ形石器も出土しており、石刃の用途は石器製作の素材であると考えられる。

平面分布から、礫群および石器集中にはA~C3箇所の濃集範囲が見て取れる。各濃集範囲における石器組成(第32表)および石器形態は若干の差があるものの類似しており、ほぼ同時期の石器集中であると考えられる。なお、5号礫群とその南側の範囲に石器集中を設定することも可能である。

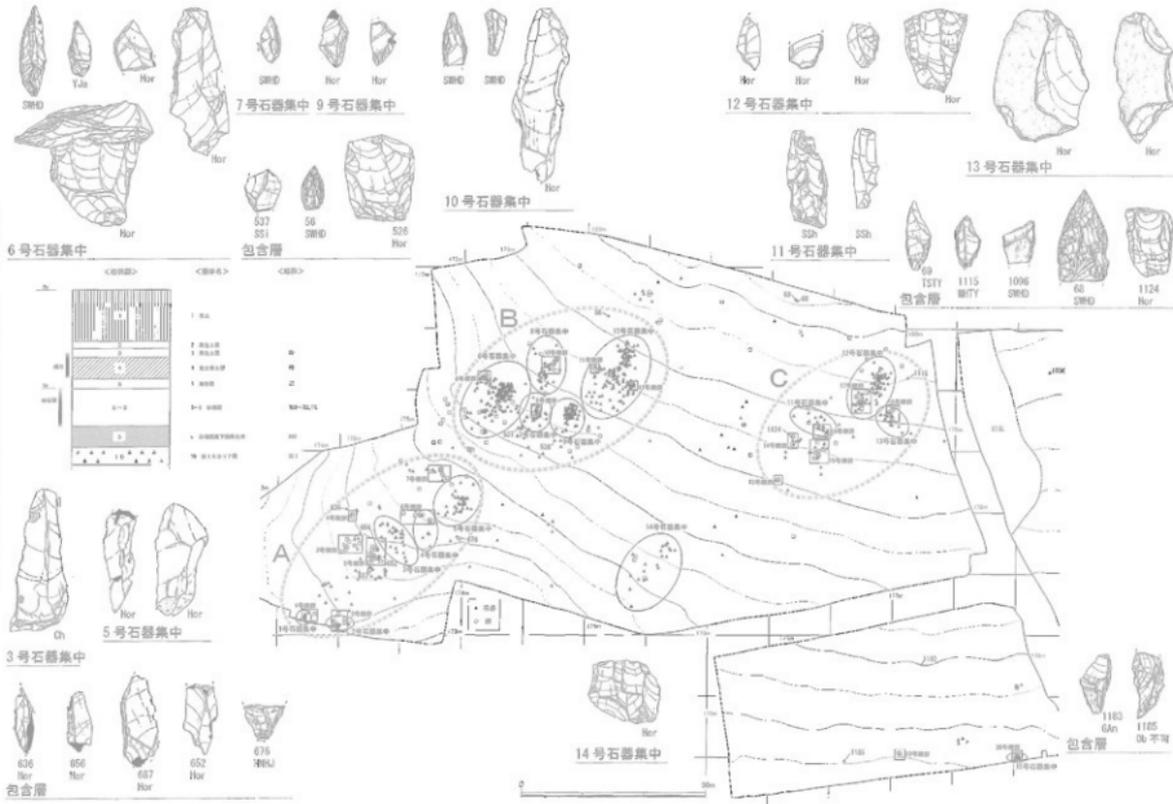
石器形態および出土層位から第4期前半(中村2006)に位置づけられる。形態の似る石器群として、ナイフ形石器の形態では沼津市上松沢平第IV文化層、ホルンフェルスを用いた石刃製石器の形態では三島市南山D遺跡第1地点第II文化層出土の石器群が挙げられる。

#### 2. 縄文時代

縄文時代の遺物は主に富士黒土層(FB)に包含される。遺構は土坑20基を確認した(第113~118図)。尾根筋に沿う配列、尾根を横切る配列が推測されるが判然としない。掘り込み面に関しては、15・16号土坑の掘り込み面が栗色土層内に存在することが確認された。その他の土坑と配列に規則性が予想され、覆土も似通う点から遺構構築は同一時期の可能性もある。

遺物はごく少量出土した。土器は繊維痕が多く観察される点と施文状況より早期の遺物と判断した。石器もごく少量の出土で時期的な判断は難しい。他の時期の土器が見られないことから考え、出土石器

第127図 イタドリC遺跡旧石器時代主要遺物分布



第32表 濃集範囲別石器組成

## 範囲A

	ホルンフェルス	黒曜石				瑠璃シルト層	チャート	頁岩	凝灰岩層	礫石層	合計	感度比率
		天城砂群	湯浅砂群	御前山山系	御前山山系							
	Nor	ABKJ	SHD	HO-	SS1	Ch	Sh	SH	An (Py)			
ナイフ形石器	4	1								5	3.4%	
スクレイパー	1									1	0.7%	
加工産削片	1									1	0.7%	
使用産削片						1				1	0.7%	
石刃	12									12	8.2%	
削片	84		1					1		86	58.9%	
砕片	29		1	1	1		1	1		33	22.0%	
石核	5									5	3.4%	
砕石									?	?	1.4%	
合計	136	1	2	1	1	1	1	1	2	146	100.0%	
石材比率	93.2%	0.7%	1.4%	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%	1.4%	100.0%		

## 範囲B

	ホルンフェルス	黒曜石				瑠璃シルト層	凝灰岩	ガラス質黒色火山岩	凝灰岩層	赤土・黄褐色石層(砂層)	玄武岩層(砂岩)	礫石層	合計	感度比率
		天城砂群	湯浅砂群	御前山山系	御前山山系									
	Nor	ABKJ	SHD	SHD	SS1	SHy	GA	SH	Ja	YBa	An (Py)			
ナイフ形石器	4			3	1					1		9	1.9%	
尖頭器				1								1	0.2%	
スクレイパー					2							2	0.4%	
削片				1					1			2	0.4%	
加工産削片	1		2	1	2							6	1.3%	
使用産削片	2		3									5	1.1%	
打痕再生削片	1											1	0.2%	
石刃	18		2									20	4.2%	
削片	199		1	1	7	2			1			211	44.4%	
砕片	192	1	1	3	6	1	1	2				208	43.8%	
石核	7				1							8	1.7%	
砕石											1	1	0.2%	
砕石層											1	1	0.2%	
合計	425	1	2	16	18	5	1	3	2	1	1	475	100.0%	
石材比率	89.5%	0.2%	0.4%	3.4%	3.8%	1.1%	0.2%	0.6%	0.4%	0.2%	0.2%	100.0%		

## 範囲C

	ホルンフェルス	黒曜石				瑠璃シルト層	チャート	礫石層	凝灰岩層	砂岩層	合計	感度比率
		天城砂群	湯浅砂群	御前山山系	御前山山系							
	Nor	ABKJ	SHD	HO-	Ch	Fln	SH	SH	FG			
ナイフ形石器	4			1						5	3.7%	
尖頭器										9	0.6%	
スクレイパー	3									3	2.2%	
加工産削片	1									1	0.7%	
使用産削片			1							2	1.5%	
石刃	5							2		7	5.1%	
削片	70		4	1		1	2	4		82	69.2%	
砕片	23	1	4		1				3	33	24.3%	
石核	3									3	2.7%	
合計	100		9	2	1	1	2	8	2	136	100.0%	
石材比率	80.1%	0.7%	6.9%	1.6%	0.7%	0.7%	1.5%	5.9%	2.2%	100.0%		

も土器と同時期のものである可能性がある。

参考文献（順不同五十音順）

- 芦川忠利・池谷初恵 1994 『五輪・観音瀧・元山中・陸羽遺跡Ⅰ』三島市教育委員会
- 阿部敬 2008 『志平遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 池谷信之 2001 『葛原沢第Ⅳ遺跡（a・b区）発掘調査報告書Ⅰ』沼津市教育委員会
- 池谷初恵・寺田光一郎 1998 『中村分遺跡 天台B遺跡 台崎C遺跡 試掘調査』三島市教育委員会
- 今村啓爾 1981 『竊磯式土器』『縄文文化の研究3 縄文土器Ⅰ』雄山閣
- 大川清・鈴木公雄・工藤善通編 1996 『日本土器辞典』雄山閣
- 小林謙一 2007 『縄文時代前半期の実年代』『国立歴史民族博物館研究報告 第137集』
- 笹原千賀子 2004 『上松沢平遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 笹原千賀子 2009 『ふたつの「野島」～長泉町権ノ木沢遺跡の第Ⅱ群土器～』『研究紀要 第15号』静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 静岡県考古学会 1995 『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代層年予稿集』静岡県考古学会シンポジウムⅩ
- 柴田亮平・小崎晋・前嶋秀張・矢島一 2008 『元野遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 縄文時代研究プロジェクトチーム 1996 『神奈川における縄文時代文化の変遷Ⅲ 前期・間山～黒浜式～竊磯式期の様相～』『神奈川の考古学 研究紀要Ⅰ』神奈川県立埋蔵文化財センター（財）神奈川県考古学財団
- 瀬川眞司・久保田ひかる・田中咲子他 2007 『入江内湖遺跡Ⅰ』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 高尾好之 2006 『東海地方の地域層年』『旧石器時代の地域層年の研究』安斎正人・佐藤宏之編
- 寺田光一郎・伊藤慎彦 2004 『南山D遺跡 東山遺跡 香台Ⅱ-D遺跡 奥山遺跡』三島市教育委員会
- 戸沢光則編 1994 『縄文時代研究事典』東京堂出版
- 中村雄紀 2006 『後期旧石器時代後半期の住居形態の地域的様相～愛鷹・箱根第3・第4期の遺跡群～』『東京大学考古学研究室紀要 第20号』
- 長野県 1982 『長野県史 考古資料編 前巻（二）主要遺跡（北・東信）』長野県
- 沼津市史編纂委員会 2002 『沼津市史 資料編 考古』沼津市
- 沼津市史編纂委員会 2005 『沼津市史 通史編』沼津市
- 廣瀬高文・片平剛・森成史 1994 『平蛙遺跡・陣場上B遺跡』長泉町教育委員会
- 廣瀬高文・前嶋秀張 1984 『中尾・野台・イラウネ』長泉町教育委員会
- 廣瀬高文・渡辺康広 2000 『木戸遺跡・中見代遺跡・東野Ⅱ橋下遺跡』長泉町教育委員会
- 前嶋秀張 1998 『上ノ港遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 松村和男 2000 『結晶片岩製細平棒状石器Ⅰについて～打製石斧及び類似石器との比較検討～』『土曜考古 第24号』
- 山村貴輝・竹花和晴・茶木清明・薄井孝子 1995 『大越遺跡』熱海市教育委員会
- 渡辺英・佐野恵理・小野田晶 2000 『石敷遺跡』富士宮市教育委員会





編號 年份 月份 日期

地點 時間 緯度 經度

天區 名稱 赤經 赤緯

位置 高度 方位 速度

大小 類型 狀態

描述 說明

儀器 設備

參數 值

單位 說明

備註 說明

其他 說明

Table with columns: 編號, 年份, 月份, 日期, 地點, 時間, 緯度, 經度, 天區, 名稱, 赤經, 赤緯, 位置, 高度, 方位, 速度, 大小, 類型, 狀態, 描述, 說明, 儀器, 設備, 參數, 值, 單位, 說明, 備註, 說明, 其他, 說明. The table contains multiple rows of astronomical observation data.

日期	星期	时段	名称	备注	地点	内容	时长	票价	备注	日期	星期	时段	名称	备注	地点	内容	时长	票价	备注
2820	周六	下午	YLL C-004 06		YLLC	0.54	5.33	2.00	1.49	-94230	8000	21480	2300	168	10000	2048	19.50	2048	19.50
2821	周六	下午	YLL C-004 06		YLLC	0.54	4.94	1.50	1.41	-94231	10000	21480	2300	168	10000	2048	19.50	2048	19.50
2822	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	2.7	1.10	0.75	-94004	0400	31680	3300	118	10000	2048	19.50	2048	19.50
2823	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	2.51	1.04	0.75	-94000	0200	31680	3300	118	10000	2048	19.50	2048	19.50
2824	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	4.44	1.81	1.37	-94231	0100	31680	3300	118	10000	2048	19.50	2048	19.50
2825	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	2.1	0.83	0.65	-94231	0300	31680	3300	118	10000	2048	19.50	2048	19.50
2826	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.02	7.26	3.27	2.08	-94231	2300	31680	3300	118	10000	2048	19.50	2048	19.50
2827	周六	下午	YLL F-005 06		YLLC	0.48	4.86	1.74	1.36	-94229	2200	31680	3300	118	10000	2048	19.50	2048	19.50
2828	周六	下午	YLL F-005 06		YLLC	0.28	7.16	3.27	1.87	-94230	1600	31680	3300	118	10000	2048	19.50	2048	19.50
2829	周六	下午	YLL F-005 06	小学	YLLC	0.06	5.01	1.93	1.36	-94229	7300	21600	2400	188	3300	2048	19.50	2048	19.50
2830	周六	下午	YLL F-005 06	小学	YLLC	0.56	5.71	1.97	1.27	-94231	4800	31680	3300	118	10000	2048	19.50	2048	19.50
2831	周六	下午	YLL F-005 06	小学	YLLC	0.01	6.14	2.41	1.82	-94230	0600	31680	3300	118	10000	2048	19.50	2048	19.50
2832	周六	下午	YLL F-004 06		YLLC	0.03	4.03	1.53	1.14	-94228	8300	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2833	周六	下午	YLL F-005 06		YLLC	0.05	4.08	1.50	1.25	-94228	5800	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2834	周六	下午	YLL F-004 06		YLLC	0.04	5.96	2.47	1.36	-94228	2400	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2835	周六	下午	YLL F-004 06		YLLC	0.09	2.67	1.10	1.09	-94228	6300	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2836	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	8.79	2.44	1.43	-94229	0000	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2837	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	4.23	1.62	1.27	-94228	2400	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2838	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	4.44	1.62	1.07	-94228	5700	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2839	周六	下午	YLL F-006 06		YLLC	0.11	4.44	1.71	1.35	-94227	5800	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2840	周六	下午	YLL F-004 06		YLLC	0.00	5.74	2.19	1.57	-94228	1300	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2841	周六	下午	YLL F-004 06		YLLC	0.04	4.9	1.81	1.44	-94228	7400	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2842	周六	下午	YLL F-004 06		YLLC	0.01	5.71	2.14	1.58	-94227	2100	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2843	周六	下午	YLL F-004 06		YLLC	0.04	6.63	2.54	1.59	-94230	1900	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2844	周六	下午	YLL F-004 06		YLLC	0.13	2.21	2.55	2.25	-94228	0800	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2845	周六	下午	YLL F-004 06		YLLC	0.12	6.65	2.10	1.27	-94228	7600	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2846	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	2.35	3.26	0.82	-94228	6000	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2847	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.02	7.24	2.87	1.75	-94229	1300	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2848	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	8.91	3.01	0.95	-94228	2100	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2849	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.08	4.41	3.05	1.24	-94229	0000	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2850	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	4.4	1.77	1.74	-94229	0000	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2851	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.02	4.27	1.70	1.52	-94228	1900	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2852	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.03	5.4	2.35	1.80	-94230	1500	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2853	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	4.28	1.60	1.47	-94229	2500	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2854	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.04	2.49	3.20	2.03	-94231	2800	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2855	周六	下午	YLL F-005 06	小学	YLLC	0.02	2.41	1.32	-94230	6200	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50	
2856	周六	下午	YLL F-005 06	小学	YLLC	0.12	0.16	0.21	0.41	-94231	0000	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2857	周六	下午	YLL F-005 06	小学	YLLC	0.04	3.80	1.67	1.44	-94227	3200	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2858	周六	下午	YLL F-005 06	小学	YLLC	0.01	5.21	2.04	1.72	-94228	2400	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2859	周六	下午	YLL F-005 06	小学	YLLC	0.01	5.61	2.24	0.92	-94227	6000	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2860	周六	下午	YLL F-005 06	小学	YLLC	0.01	2.81	1.04	0.72	-94228	2400	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2861	周六	下午	YLL F-005 06	小学	YLLC	0.01	2.51	2.04	0.92	-94227	6000	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2862	周六	下午	YLL F-005 06	小学	YLLC	0.01	4.13	1.80	1.68	-94227	0800	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2863	周六	下午	YLL F-005 06	小学	YLLC	0.02	4.22	1.58	1.44	-94227	7900	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2864	周六	下午	YLL F-005 06	小学	YLLC	0.03	1.61	0.93	1.32	-94230	0300	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2865	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	4.26	1.97	1.41	-94227	0800	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2866	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.02	4.73	1.70	1.30	-94227	6800	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2867	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.03	8.21	3.65	1.25	-94228	5800	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2868	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.11	3.14	2.04	1.12	-94228	2500	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2869	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.09	6.37	3.40	1.96	-94228	0400	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2870	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.09	5.69	3.27	1.80	-94228	7300	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2871	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.02	2.84	2.49	2.07	-94229	0200	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2872	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.02	5.08	2.13	1.08	-94228	6500	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2873	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.02	6.28	3.17	0.80	-94228	4500	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2874	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	2.42	0.54	1.16	-94228	3800	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2875	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	4.94	2.47	2.39	-94228	0800	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2876	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.02	5.22	0.88	0.91	-94228	3800	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2877	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	2.22	4.28	1.89	-94228	3800	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2878	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	2.11	2.18	1.19	-94228	2300	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2879	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.04	7.16	4.75	1.54	-94227	7000	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2880	周六	下午	YLL F-005 06	小学	YLLC	0.06	5.77	3.45	1.30	-94231	1000	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2881	周六	下午	YLL F-005 06	小学	YLLC	0.08	7.49	4.91	2.74	-94229	8600	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2882	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.09	6.76	3.16	1.27	-94231	1900	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2883	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.01	6.29	3.26	1.76	-94227	2500	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2884	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.00	6.25	4.9	1.70	-94228	9000	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2885	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.03	7.65	4.29	1.41	-94230	8500	21600	2100	168	6600	2048	19.50	2048	19.50
2886	周六	下午	YLL F-004 06	小学	YLLC	0.04	4.73	2.27											

国名	番号	社名	社種	文化	放送	放送	電波	周波数	出力	送信機	受信機	周波数	出力	送信機	受信機	備考		
呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称		
呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称		
呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称	呼称		
002	402	青森・岩手放送	電	FL	F-004	FM	FM	4590	313	190	71	-8430	6000	21402.2500	100	4770		
002	2219	青森・岩手放送	電	F	F-004	FM	FM	5610	313	221	81	-8430	1200	21402.2500	100	1470		
002	406	青森・岩手放送	電	B	B-005	FM	FM	3000	184.5	150	55	-8430	6000	21403.7000	100	5850		
002	2114	青森・岩手放送	電	FL	F-004	FM	FM	7064	364	107	80	-8430	2000	21403.8200	100	4000		
002	4423	青森	電	F	F-005	FM	FM	415	114	85	35	-8420	2500	21403.9400	100	1710		
002	3413	青森	電	FL	F-005	Fm	Fm	155.3	37	67	20.2	-8424	6100	21410.5150	100	3070		
002	2505	青森	電	FL	F-005	FM	FM	8200	29.3	62.1	38.9	0	-8431	2700	21401.9700	100	2400	
002	3398	青森	電	FM	F-005	FM	FM	9693	6.40	30.1	22.1	8.0	-8430	3200	21412.2500	100	2320	
002	2294	青森	電	FM	F-004	FM	FM	3960	52	21.4	11.2	-8430	5000	21405.0000	100	3000		
002	4126	青森	電	FL	F-004	FM	FM	9899	0.4	45.16	12.9	15.0	-8434	8700	21403.7500	100	8200	
002	5	青森青森放送	電	FL	F-005	FM	FM	2.20	21.16	15.6	8.0	-8430	4800	21401.0300	100	3200		
002	2119	青森青森放送	電	FL	F-005	FM	FM	2.22	21.16	15.6	8.0	-8429	7700	21403.1300	100	3000		
002	7	青森	電	FL	F-005	FM	FM	8200	0.7	45.16	12.9	15.0	-8434	8700	21403.7500	100	8200	
002	3002	青森	電	FL	F-005	FM	FM	8200	0.7	45.16	12.9	15.0	-8434	8700	21403.7500	100	8200	
002	185	青森	電	FL	F-004	FM	FM	8200	0.39	14.0	11.7	2.40	-8430	8000	21401.0700	100	2870	
002	165	青森	電	FL	F-004	FM	FM	8200	1.12	22.1	18.5	4.0	-8434	7000	21401.1200	100	2800	
002	1824	青森	電	FL	F-005	FM	FM	8200	0.41	9.85	15.2	22.2	-8434	2700	21400.0000	100	4800	
002	1140	青森	電	FL	F-005	FM	FM	8200	1.7	25.2	18.1	4	-8429	1200	21400.2700	100	2150	
002	2288	青森	電	FL	F-004	FM	FM	8200	0.9	26.1	13.4	4	-8436	5100	21403.5000	100	4800	
002	1825	青森	電	FL	F-005	FM	FM	8200	0.20	13.3	18.5	1.40	-8431	1900	21401.0000	100	1150	
002	2189	青森放送協会	電	FL	F-005	FM	FM	8200	1.45	30.7	17.7	9.40	-8430	8000	21403.6000	100	3400	
002	403	青森	電	FL	F-005	FM	FM	8200	0.47	16.5	11.7	2	-8421	2100	21415.5000	100	2400	
002	181	青森	電	FL	F-004	FM	FM	8200	0.97	12.1	15.50	4.90	-8436	6400	21403.9000	100	3400	
002	2189	青森放送協会	電	FL	F-005	FM	FM	8200	1.45	30.7	17.7	9.40	-8430	8000	21403.6000	100	3400	
002	407	青森	電	FL	F-005	FM	FM	8200	0.48	16.8	11.51	2	-8439	0700	21405.1500	100	2100	
002	80	146	青森	電	FL	F-004	FM	FM	8200	0.84	18.2	15.20	4.74	-8430	4000	21401.8000	100	3000
002	1971	青森	電	FL	F-003	FM	FM	8200	0.20	14.10	10.12	2.54	-8421	3800	21414.8000	100	1800	
002	224	青森	電	FL	F-003	FM	FM	8200	0.33	14.35	12.82	2.82	-8425	1700	21414.7000	100	1900	
002	2148	青森	電	FL	F-005	FM	FM	8200	0.20	11.3	11.33	2	-8430	7200	21402.1000	100	1800	
002	221	青森	電	FL	F-004	FM	FM	8200	0.29	12.0	12.80	4.0	-8422	3800	21405.0000	100	1200	
002	2125	青森	電	FL	F-004	FM	FM	8200	0.32	18.2	13.88	2.55	-8415	3000	21404.5000	100	1800	
002	2145	青森	電	FL	F-005	FM	FM	8200	0.59	21.12	13.31	2	-8429	6800	21404.2000	100	1800	
002	3510	青森	電	FL	F-005	FM	FM	8200	0.40	21.45	13.91	4.0	-8416	8100	21402.9000	100	2200	
002	2174	青森	電	FL	F-004	FM	FM	8200	1.11	28.14	18.58	5.0	-8434	3200	21402.7000	100	2200	
002	27	11	青森	電	FL	F-004	FM	FM	8200	0.30	12.0	11.18	2.51	-8424	7800	21404.1500	100	1800
002	83	33	岩手放送協会	電	FL	F-005	FM	FM	4590	1.23	13.2	13.94	4.62	-8422	6000	21400.2500	100	1900
002	129	岩手	電	FL	F-004	FM	FM	4651	0.84	22.2	14.72	3.7	-8424	5800	21400.8000	100	1900	
002	219	岩手	電	FL	F-004	FM	FM	8200	12.42	52	23.83	8.84	-8412	2300	21401.9900	100	6200	
002	1910	岩手	電	FL	F-003	FM	FM	8200	4.18	21.2	20.83	3.81	-8430	4800	21412.5000	100	10500	
002	2283	岩手	電	FL	F-004	FM	FM	8200	9.0	17.7	16.3	3.2	-8420	5110	21409.0000	100	11400	
002	4200	岩手	電	FL	F-005	FM	FM	8200	3.0	14.8	12.1	8	-8430	8000	21401.2100	100	1000	
002	2223	岩手	電	FL	F-004	FM	FM	8200	1.48	22.7	16.8	4	-8430	5000	21400.8000	100	1000	
002	34	81	岩手	電	FL	F-004	FM	FM	17.4	8.1	32.7	37.8	-8431	1520	21403.2000	100	2300	
002	37	117	岩手	電	FL	F-005	FM	FM	14.1	36.8	40.9	8.2	-8431	1980	21401.7200	100	3000	
002	43	133	岩手	電	FL	F-005	FM	FM	52.2	43.7	61.4	12.4	-8421	2100	21500.8000	100	2500	
002	173	岩手	電	FL	F-005	FM	FM	8200	-	-	-	-	-8427	2200	21406.7200	100	1810	
002	2081	岩手	電	FL	F-005	FM	FM	8200	8.9	35.8	25.2	2.8	-8430	4800	21500.8000	100	3200	
002	1981	岩手	電	FL	F-004	FM	FM	8200	4.3	17.2	19.8	4	-8420	9100	21407.0000	100	2700	
002	2048	岩手	電	FL	F-003	FM	FM	8200	3.92	16.45	11.8	6	-8432	4800	21415.0000	100	1150	
002	4030	岩手	電	FL	F-005	FM	FM	8200	11.7	43.9	32.9	9	-8434	2500	21400.1500	100	1500	
002	47	140	岩手	電	FL	F-005	FM	FM	37.0	46.2	71.1	12.2	-	-	-	-	30	
002	162	岩手	電	FL	F-004	FM	FM	-	-	-	-	-	-8430	7200	21403.2500	100	2000	
002	481	岩手	電	FL	F-003	FM	FM	-	-	-	-	-	-8425	5020	21402.2800	100	2000	
002	2885	岩手	電	FL	F-004	FM	FM	12.0	41	25.5	9.4	-8426	2200	21407.2000	100	3500		
002	1472	岩手	電	FL	F-005	FM	FM	147	68	82	8.8	-8431	2000	21403.2500	100	2000		
002	1453	岩手	電	FL	F-005	FM	FM	98.94	9.83	35.8	25.5	9.4	-8431	2400	21403.6000	100	1700	
002	485	岩手	電	FL	F-004	FM	FM	98.94	17.4	36.6	30.1	10.5	-8430	4900	21403.9500	100	2400	
002	480	岩手	電	FL	F-005	FM	FM	8200	3.2	16.2	10.9	8	-8420	4100	21403.4100	100	4000	
002	487	岩手	電	FL	F-005	FM	FM	8200	16.3	10.5	22.5	10.2	-8432	6200	21403.0000	100	3700	
002	479	岩手	電	FL	F-004	FM	FM	8200	2.6	34.5	18.1	5.1	-8430	4300	21407.4000	100	4200	
002	478	岩手	電	FL	F-005	FM	FM	8200	3.5	35.8	23.2	6.2	-8421	4200	21400.8000	100	1520	
002	49	183	岩手	電	FL	F-005	FM	FM	8200	1.6	25.8	9.8	1	-8420	7000	21414.5000	100	1000
002	50	2045	岩手	電	FL	F-004	FM	FM	21.9	48.4	33.8	10.5	-8423	7900	21416.0000	100	8000	
002	4233	岩手	電	FL	F-005	FM	FM	240.7	58.2	38.9	30.4	-8420	2200	21503.5400	100	4100		
002	424	岩手	電	FL	F-004	FM	FM	72	42.9	38	48.85	72	-8436	5900	21402.2400	100	7100	
002	54	2500	岩手	電	FL	F-004	FM	FM	14.2	38.1	26.9	17.2	-8439	5900	21402.4500	100	6100	
002	59	2181	岩手	電	FL	F-005	FM	FM	73.7	32.8	58.1	11	-8429	6200	21501.2700	100	6000	
002	424	岩手	電	FL	F-004	FM	FM	4.8	71	20.7	7.2	-8434	9100	21407.8000	100	8000		
002	50	22																

品番	名称	型式	内容	形状	重量	容積	容量	寸法	価格	備考	品名	型式	内容	形状	重量	容積	容量	寸法	価格	備考
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
113	4635	新車・取組機	取組機	取組機	9655	266	352	116	-9493.1400	21483.1200	130.8790									
114	4276	新車・取組機	取組機	取組機	4777	214														
115	1532	新車・取組機	取組機	取組機	5540	200	241	91	-86354.8700	21623.3700	168.6110									
1216	2218	取組機	取組機	取組機	25	43.1	43.5	17	-9429.5700	31623.3700	130.8690									
6	取組機	取組機	取組機	取組機	0.12	7.39	0.41	21	-94254.8700	31623.3700	130.8690									
302	取組機	取組機	取組機	取組機	0.51	85.31	11.81	4.92	-94298.8600	31623.3700	130.8690									
1623	取組機	取組機	取組機	取組機	K208	0.04	9.30	10.64	2.50	-94299.2800	31623.3700	130.8690								
1965	取組機	取組機	取組機	取組機	K209	0.28	12.31	13.72	3.42	-94247.6800	31623.3700	130.8690								
1968	取組機	取組機	取組機	取組機	K210	0.18	9.30	10.64	2.50	-94298.8600	31623.3700	130.8690								
1977	取組機	取組機	取組機	取組機	K205	0.26	12.56	14.06	3.50	-94313.8300	31623.3700	130.8690								
2363	取組機	取組機	取組機	取組機	K206	0.17	10.88	12.25	3.04	-94299.2800	31623.3700	130.8690								
2482	取組機	取組機	取組機	取組機	K207	0.16	11.42	12.83	3.25	-94299.2800	31623.3700	130.8690								
2760	取組機	取組機	取組機	取組機	K208	0.16	11.42	12.83	3.25	-94299.2800	31623.3700	130.8690								
2947	取組機	取組機	取組機	取組機	K209	0.16	11.42	12.83	3.25	-94299.2800	31623.3700	130.8690								
3034	取組機	取組機	取組機	取組機	K210	0.16	11.42	12.83	3.25	-94299.2800	31623.3700	130.8690								
3102	取組機	取組機	取組機	取組機	K205	0.24	12.56	14.06	3.50	-94299.2800	31623.3700	130.8690								
385	スプレイ	取組機	取組機	取組機	取組機	0.06	2.15	2.88	0.27	-94294.9100	31623.3700	130.8690								
1155	スプレイ	取組機	取組機	取組機	取組機	1.13	9.5	14.43	4.84	-94252.9500	31623.3700	130.8690								
2275	スプレイ	取組機	取組機	取組機	取組機	K202	3.32	36.22	39.48	9.28	-94215.2530	31623.3700	130.8690							
1031	スプレイ	取組機	取組機	取組機	取組機	4.17	25.33	35.95	10.14	-94213.9100	31623.3700	130.8690								
381	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	1.14	13.44	14.85	4.67	-94290.2700	31623.3700	130.8690								
382	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	0.74	11	12.53	4.4	-94297.9200	31623.3700	130.8690								
390	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K210	1.1	11.42	12.83	3.25	-94299.2800	31623.3700	130.8690							
1912	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K209	2.32	23.54	26.52	7.77	-94291.9000	31623.3700	130.8690							
1916	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K208	1.1	11.42	12.83	3.25	-94299.2800	31623.3700	130.8690							
1945	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K207	1.1	11.42	12.83	3.25	-94299.2800	31623.3700	130.8690							
1950	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K206	2.06	20.48	24.16	6.37	-94296.3870	31623.3700	130.8690							
1955	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K205	0.55	6.46	7.17	1.71	-94297.9200	31623.3700	130.8690							
3493	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	1.25	12.33	13.61	4.12	-94286.6300	31623.3700	130.8690							
408	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	2.17	18.12	19.55	6.60	-94254.6400	31623.3700	130.8690							
426	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	0.54	5.17	5.69	1.60	-94291.9000	31623.3700	130.8690							
784	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	0.46	4.86	5.27	1.6	-94299.2800	31623.3700	130.8690							
832	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	3.40	34.07	37.84	9.57	-94274.2800	31623.3700	130.8690							
833	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	2.68	26.12	29.54	8.00	-94271.2300	31623.3700	130.8690							
834	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	0.28	2.73	3.03	0.83	-94233.1800	31623.3700	130.8690							
911	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	0.75	7.36	7.84	2.17	-94233.1800	31623.3700	130.8690							
953	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	2.68	13.14	15.29	3.72	-94229.4000	31623.3700	130.8690							
1001	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	7.14	28.11	31.94	8.62	-94242.2300	31623.3700	130.8690							
1175	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K208	6.00	60.59	67.34	18.44	-94214.6870	31623.3700	130.8690						
1290	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K209	0.77	12.59	13.87	3.64	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
1382	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K210	0.46	4.86	5.27	1.6	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
1624	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K205	2.54	25.14	28.25	8.11	-94298.2400	31623.3700	130.8690						
1784	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	AK1	2.44	23.77	27.12	8.44	-94297.9200	31623.3700	130.8690						
1967	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K206	0.78	7.41	8.09	2.30	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
1978	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K207	1.16	11.42	12.83	3.25	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
2067	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K208	0.46	4.86	5.27	1.6	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
2072	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K209	0.12	1.26	1.37	0.37	-94313.9100	31623.3700	130.8690						
2118	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	0.17	1.72	1.87	0.51	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
2122	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	15.36	157.29	174.81	47.64	-94298.2400	31623.3700	130.8690						
2212	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	3.05	30.22	34.04	9.24	-94311.9000	31623.3700	130.8690						
2219	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	0.46	4.86	5.27	1.6	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
2379	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K206	1.26	12.63	13.85	3.67	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
2534	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K207	1.16	11.42	12.83	3.25	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
2716	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K208	0.17	1.72	1.87	0.51	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
2874	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K209	0.17	1.72	1.87	0.51	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
2916	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K210	0.17	1.72	1.87	0.51	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
3017	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K205	0.28	2.89	3.17	0.84	-94313.9100	31623.3700	130.8690						
3058	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K206	0.18	1.85	2.03	0.56	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
3113	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	1.16	11.42	12.83	3.25	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
4178	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	0.46	4.86	5.27	1.6	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
4343	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	K208	4.21	42.18	46.39	12.37	-94299.2800	31623.3700	130.8690					
304	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	1.19	11.68	12.83	3.42	-94294.9100	31623.3700	130.8690						
311	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	0.29	2.9	3.18	0.84	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
324	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	1.20	12.48	13.56	3.71	-94293.7400	31623.3700	130.8690						
337	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	取組機	4.28	42.88	46.89	12.41	-94299.2800	31623.3700	130.8690						
351																				



日期	地区	品种	交易所	合约	数量	最高	最低	开盘	收盘	涨跌	涨跌%	持仓	成交量	成交额	备注			
2282	期货	橡胶	RU	RU04	6200	6.07	12.1	6.34	-61430	8000	-21401	4600	106	2209				
2283	期货	白糖	SR	SR05	4200	6.18	6.04	6.56	-43337	5000	-7400	9000	100	5000				
2282	期货	玉米	Y	Y05	6200	0.12	14.35	0.25	2.19	-10210	4000	3400	500	1629				
2302	期货	玉米	Y	Y04	6077	0.24	12.85	10.45	2.15	-90216	5000	37400	100	1200				
2304	期货	玉米	Y	Y04	6200	0.26	10.72	11.24	-6225	3000	-2140	1200	168	400				
2304	期货	玉米	Y	Y04	6000	0.01	0.11	0.24	1.80	-19201	4000	35400	100	180				
2442	期货	玉米	Y	Y04	6200	0.16	16.22	17.64	4.32	-3428	8700	31400	4100	100	200			
2448	期货	玉米	Y	Y04	6200	0.18	11.54	12.71	2.04	-60228	2000	31400	500	1170	170	170		
2450	期货	玉米	Y	Y04	6200	0.11	6.94	7.12	-1624	4400	31400	500	1800	13				
2450	期货	玉米	Y	Y04	6200	0.52	17.77	1.96	5.06	-1256	6500	31400	7200	100	350			
2450	期货	玉米	Y	Y04	6200	0.45	14.42	15.71	2.16	-1027	2100	31400	600	300				
2450	期货	玉米	Y	Y04	6200	0.62	14.42	15.71	2.16	-1027	2100	31400	1100	160	470			
2501	期货	玉米	Y	Y05	6200	1.58	20.77	15.51	6.41	-1022	6400	31400	600	100	270			
2501	期货	玉米	Y	Y05	6200	1.07	18.78	19.38	1.97	-10320	3900	31400	600	180	700			
2504	期货	玉米	Y	Y04	6200	0.11	11.99	9.91	2.28	-10340	2000	31400	500	170	200			
2504	期货	玉米	Y	Y04	6087	0.46	6.10	32.93	14.56	-14080	6000	31400	710	2000				
2504	期货	玉米	Y	Y04	6087	0.44	10.29	16.94	2.54	-10311	2000	31400	2700	180	200			
2507	期货	玉米	Y	Y04	6200	2.71	38.1	35.97	11.82	-10327	8000	31400	3400	100	180			
2628	期货	玉米	Y	Y04	6087	0.11	12.34	4.22	1.83	-10312	8000	31400	1800	180	910			
2628	期货	玉米	Y	Y04	6087	1.34	14.18	19.82	7.78	-10310	7900	31400	4300	100	1020	14		
2640	期货	玉米	Y	Y04	6087	0.16	4.10	32.20	8.74	-10312	3000	31400	8700	180	1710			
2650	期货	玉米	Y	Y03	6000	10.18	14.82	16.92	1.64	-10317	3400	31400	6700	100	1800			
2650	期货	玉米	Y	Y03	6200	0.25	0.59	1.91	11.72	2	-10319	2000	2173	7910	10	930		
2700	期货	玉米	Y	Y03	6000	1.01	11.23	40.90	7.2	-10225	6100	31400	7600	160	1000			
2700	期货	玉米	Y	Y03	6200	0.17	22.81	8.23	5.44	-10315	6200	31400	3200	100	140			
2701	期货	玉米	Y	Y03	6000	0.22	14.5	17.89	8.21	-10320	6400	31400	9100	100	1000			
2701	期货	玉米	Y	Y03	6000	3.44	14.21	27.83	6.22	-10296	4000	31400	2200	170	2100			
2702	期货	玉米	Y	Y05	6200	0.23	22.56	22.6	3.96	-10291	5200	31400	100	400				
2702	期货	玉米	Y	Y05	6000	0.21	21.87	24	20.88	-10300	2200	31400	100	1300				
2703	期货	玉米	Y	Y05	6087	0.83	16.20	16.98	2.7	-10304	4700	31400	3200	100	840			
2704	期货	玉米	Y	Y05	6200	1.25	13.27	40.90	1.82	-10308	5600	31400	6000	100	1600			
2708	期货	玉米	Y	Y05	6200	0.45	16.29	15.51	3.89	-10312	1600	31400	1200	100	100			
2710	期货	玉米	Y	Y05	6200	3.16	22.55	11.99	5.4	-10304	9000	31400	4200	100	1000			
2704	期货	玉米	Y	Y05	6200	1.17	17.56	12.62	2.82	-10306	6000	31400	5400	100	200			
2708	期货	玉米	Y	Y05	6087	0.16	11.33	11.27	2.38	-10305	6100	31400	7100	130	1300			
2801	期货	玉米	Y	Y05	6087	51.26	42.74	43.70	22.81	-10315	6200	31400	6000	180	200			
2823	期货	玉米	Y	Y05	6200	0.25	14.10	11.62	2.56									
2854	期货	玉米	Y	Y05	6200	0.27	48.82	17.98	12.12	-10344	1000	31400	9000	180	200			
2852	期货	玉米	Y	Y05	6200	6.57	27.14	16.64	4.83	-10331	9300	31400	6400	180	600			
2900	期货	玉米	Y	Y04	6200	0.12	7.7	14.3	13.70	-10338	6000	31400	4400	160	3000			
3000	期货	玉米	Y	Y05	6200	0.52	12.20	18.40	18.70									
3000	期货	玉米	Y	Y03	6200	3.54	40.08	26.87	15.27	-10337	1200	31400	4300	160	450			
3000	期货	玉米	Y	Y03	6200	2.62	5.29	12.22	2.6	-10336	7800	31400	2500	160	1600			
3000	期货	玉米	Y	Y03	6200	6.16	11.80	7.7	2.40	-10337	1300	31400	8700	1800				
3000	期货	玉米	Y	Y03	6200	4.20	14.64	15.51	2.99	-10325	5200	31400	3700	100	1600			
3001	期货	玉米	Y	Y04	6200	0.46	26.28	15.48	0	-10322	6000	31400	7900	80	6000			
3002	期货	玉米	Y	Y05	6200	1.19	18.10	15.22	0.75	-10329	5400	31400	7500	180	1000			
3101	期货	玉米	Y	Y04	6200	0.11	18.11	17.09	1.95	-10329	4000	31400	2800	100	1800			
3105	期货	玉米	Y	Y06	6000	0.30	18.11	19.12	1.75	-10345	4200	31400	6000	180	700			
3101	期货	玉米	Y	Y05	6200	0.22	11.46	10.58	4.7	-10295	1400	31400	6200	1100	1100			
3202	期货	玉米	Y	Y04	6200	0.27	12.20	42.55	22.24									
3202	期货	玉米	Y	Y04	6087	0.12	14.42	16.56	9.98	-10300	2000	31400	500	1200				
3304	期货	玉米	Y	Y04	F33	23.20	22.70	24.94	5.32	-10326	1400	31400	500	100	200			
4000	期货	玉米	Y	Y05	6200	2.11	26.10	13.70	18.19	-10299	2500	31400	2900	700	100			
4000	期货	玉米	Y	Y05	6200	1.23	24.1	20.18	11.23	-10322	1400	31400	1600	100	100			
4000	期货	玉米	Y	Y05	6200	0.20	8.2	14.2	2.86	-10297	1030	31400	600	100	100			
4000	期货	玉米	Y	Y05	6200	0.93	16.36	18.44	1.81	-10299	1200	31400	100	1710				
4000	期货	玉米	Y	Y05	6200	0.71	28.84	18.42	11.10	-10286	9700	31400	100	1000	11	1100		
4005	期货	玉米	Y	Y06	6000	0.20	15.75	17.2	2.12	-10420	2300	31400	2500	100	2000			
4005	期货	玉米	Y	Y06	6200	0.10	5.86	11.48	8.4	-10296	9000	31400	1100	700	200			
4005	期货	玉米	Y	Y06	6200	2.69	15.57	28.15	12.20	-10291	4200	31400	2900	100	2000			
4005	期货	玉米	Y	Y06	6200	2.64	21.78	20.18	4.52	-10300	1130	31400	500	1100				
4007	期货	玉米	Y	Y05	F45	1.74	16.20	11.12	4.17	-10299	5300	31400	2020	170	800			
4007	期货	玉米	Y	Y05	6200	1.88	16.20	11.12	4.4	-10292	5300	31400	8600	171	4200			
4004	期货	玉米	Y	Y05	6200	2.01	18.72	25.20	6.39	-10295	1670	31400	610	170	100			
4100	期货	玉米	Y	Y05	6200	2.44	20.18	25.21	5.32	-10297	2000	31400	100	200				
4100	期货	玉米	Y	Y05	6200	1.26	14.2	25.25	2.64	-10294	4700	31400	1400	100	700			

調査年度 調査地 調査種別

調査年度	調査地	調査種別	文化財種別	調査方法	調査内容	調査結果	調査年度	調査地	調査種別	文化財種別	調査方法	調査内容	調査結果	調査年度	調査地	調査種別	文化財種別	調査方法	調査内容	調査結果	調査年度	調査地	調査種別	文化財種別	調査方法	調査内容	調査結果							
年	名	種	名	種	名	種	年	名	種	名	種	名	種	年	名	種	名	種	名	種	年	名	種	名	種	名	種							
2195	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	A8T7	0.54	5.75	8.52	1.00	-0-0312	0.690	31487	6500	170	170																		
2211	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	A8T7	0.58	4.43	7.24	1.46	-0-0306	0.640	31487	4800	170	2300																		
2213	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	A8T7	0.01	4.28	4.46	1.29	-0-0300	1.500	31487	2100	170	2100																		
2214	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	A8T7	0.20	4.17	3.95	2.19	-0-0300	0.040	31487	5400	170	2090																		
2221	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	A8T7	0.02	4.45	4.43	1.11	-0-0310	0.220	31487	6300	170	4000																		
2300	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	調査結果	0.12	2.7	3.35	2.57	-0-0329	0.950	31454	6300	170	2200																		
2306	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	K200	0.16	5.32	9.35	3.36	-0-0336	0.890	31485	9900	187	8690																		
2376	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	調査結果	0.06	2.76	6.08	3.21	-0-0310	0.220	31485	9900	186	9770																		
2382	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	K200	0.16	4.42	6.42	3.88	-0-0326	0.990	31452	8500	186	2170																		
2396	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	A8T7	0.08	4.00	4.59	1.47	-0-0300	0.490	31481	9500	170	8270																		
2482	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	S98D	0.11	7.28	9.91	2.57	-0-0327	0.890	31489	3600	191	1100																		
2490	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	S205	0.02	6.79	8.45	2.65	-0-0325	0.600	31488	2000	191	1100																		
2504	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	調査結果	0.11	8.23	9.12	1.35	-0-0325	0.980	31488	2100	190	2600																		
2511	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	小笠原	0.22	7.91	2.46	1.35	-0-0327	0.870	31489	2000	190	2000																		
2520	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	小笠原	0.01	2.79	4.93	2.65	-0-0325	0.600	31488	2000	190	2000																		
2523	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	調査結果	0.05	3.73	3.87	2.07	-0-0325	0.260	31488	8100	188	1210																		
2554	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	小笠原	0.02	4.01	4.81	1.05	-0-0322	0.740	31487	2400	188	2380																		
2586	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	小笠原	0.61	6.22	3.19	0.83	-0-0310	0.870	31485	1180	186	9740																		
2588	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	K200	0.41	4.84	5.3	1.35	-0-0310	0.960	31485	1800	186	9740																		
2589	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	小笠原	0.02	4.44	1.96	1.04	-0-0310	0.920	31484	9900	186	9810																		
2589	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	小笠原	0.21	2.94	1.93	1.07	-0-0310	0.920	31484	9400	186	9190																		
2793	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	S98D	0.02	3.90	4.15	2.91	-0-0306	0.530	31482	3200	170	3450																		
3023	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	小笠原	0.01	4.55	4.4	1.38	-0-0300	0.950	31489	5400	188	2100																		
3024	跡見	跡見	Ⅱ	0-002	0b	K200	0.63	4.83	6.4	1.95	-0-0337	4.990	31474	2400	186	2690																		
3026	跡見	跡見	Ⅱ	0-002	0b	K200	0.16	3.22	2.71	3.02	-0-0327	0.180	31474	2200	186	4700																		
3123	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	K200	0.14	3.93	6.06	5.54	-0-0325	0.630	31487	4200	186	2050																		
4174	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	調査結果	0.41	4.39	4.25	0.97	-0-0301	0.870	31488	9900	170	9780																		
800	岩屋	岩屋	Ⅲ	0-005	0b	調査結果	18.42	28.91	29.15	24.05	-0-0325	2.580	31483	6000	192	4210																		
434	岩屋	岩屋	Ⅲ	0-005	0b	S98D	1.24	11.02	10.3	2.91	-0-0294	1.390	31508	6400	170	0760																		
4367	岩屋	岩屋	Ⅲ	0-004	0b	Ⅱa	53.92	54.38	87.14	13.6	-0-0292	2.040	31488	1300	170	0900																		
2124	狩野岩屋跡片Ⅰ	跡見	Ⅱ	0-004	0b	Ⅱ	8.86	21.40	20.16	8.32	-0-0308	1.080	31487	5400	192	9800																		
2656	狩野岩屋跡片Ⅱ	跡見	Ⅱ	0-004	0b	Ⅱ	34.01	38.32	59.66	12.22	-0-0300	0.060	31487	1000	190	2000																		
2142	狩野岩屋跡片Ⅲ	跡見	Ⅱ	0-005	0b	Ⅱ	16.58	42.32	27.22	12.73	-0-0307	0.720	31489	7400	170	0200																		
6	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	Ⅱb	6.94	97	93	42																								
262	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	Ⅱb	67	93	42																									
263	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	Ⅱ	116.5	61	47	27	-0-0300	0.220	31488	8200	170	0500																		
264	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	Ⅱ	50	60	38.5	14	-0-0310	4.090	31482	3600	190	0500																		
282	跡見	跡見	Ⅱ	0-002	0b	Ⅱ	52	65	36	14	-0-0314	2.220	31478	2470	186	0900																		
323	跡見	跡見	Ⅲ	0-004	0b	Ⅱ	466.4	101.5	67	84	-0-0317	0.080	31484	550	192	9890																		
1000	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	Ⅱ	283.2	132	97	28	-0-0330	0.850	31484	1700	186	0300																		
1086	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	Ⅱ	222	32	48	46	-0-0303	0.180	31483	1900	186	0900																		
1141	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	Ⅱ	185	70	57	38	-0-0321	0.780	31483	9400	182	3200																		
2589	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	Ⅱ	292	102	84	26																								
2649	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	Ⅱ	128.1	61	67	25.5	-0-0321	0.800	31488	2400	186	7500																		
2680	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	Ⅱ	113.6	61	66	26	-0-0331	1.060	31488	2000	186	7100																		
4041	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	Ⅱ	129	81	47	24	-0-0296	4.270	31392	8700	170	2450																		
4061	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	Ⅱ	186.1	84	62	26	-0-0320	1.220	31485	4600	177	2520																		
4380	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	Ⅱ	189.3	72	62	22.5	-0-0329	0.620	31486	9200	170	2300																		
4382	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	Ⅱ	421	87	74	43	-0-0292	0.450	31481	6118	170	2200																		
4370	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	Ⅱ	59	4	42	39	-0-0292	0.510	31484	2200	170	2500																		
4463	跡見	跡見	Ⅱ	0-006	0b	Ⅱ	280.3	74	67	22.5	-0-0292	0.630	31398	3400	180	2100																		
4605	跡見	跡見	Ⅱ	0-005	0b	Ⅱ	182.5	86	45	25																								
4643	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	Ⅱ	240.3	82	50	44																								
1667	谷家・新築跡	跡見	Ⅱ	0-005	0b	Ⅱ	481	101	61.5	44	-0-0320	0.800	31488	8000	180	2120																		
2477	谷家・新築跡	跡見	Ⅱ	0-005	0b	Ⅱ	22	12.1	22	61.5	-0-0300	0.580	31487	2500	170	1820																		
2777	谷家・新築跡	跡見	Ⅱ	0-004	0b	Ⅱ	2406	188	242	82																								
4265	谷家・新築跡	跡見	Ⅱ	0-004	0b	Ⅱ	1627	130	146	78	-0-0292	0.680	31488	2418	171	1000																		
4268	谷家・新築跡	跡見	Ⅱ	0-004	0b	Ⅱ	1784	100	106	89	-0-0320	0.170	31481	5400	190	2418																		
2606	跡見	跡見	Ⅱ	0-004	0b	Ⅱ	37.47	49.4	32.54	10.4	-0-0319																							

















第38巻 イタドリC遺跡検出資料

区	町	地区	地番	用途	面積	所有者	備考	区	町	地区	地番	用途	面積	所有者	備考
大	大	大	大	大	大	大		大	大	大	大	大	大	大	

区	町	地区	地番	用途	面積	所有者	備考	区	町	地区	地番	用途	面積	所有者	備考
大	大	大	大	大	大	大		大	大	大	大	大	大	大	

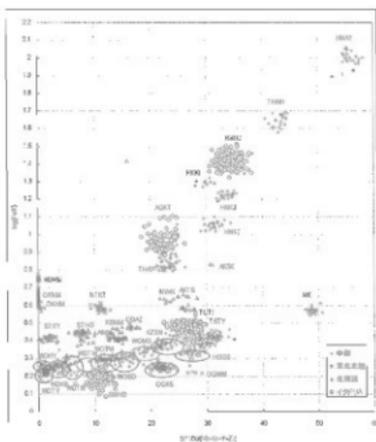
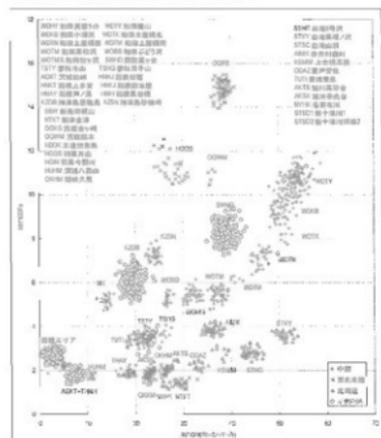
登記簿と地籍図が異なる場合の注記

- ① 用途変更届出済
- ② 用途変更届出済
- ③ 用途変更届出済
- ④ 用途変更届出済
- ⑤ 用途変更届出済
- ⑥ 用途変更届出済
- ⑦ 用途変更届出済
- ⑧ 用途変更届出済
- ⑨ 用途変更届出済
- ⑩ 用途変更届出済
- ⑪ 用途変更届出済
- ⑫ 用途変更届出済
- ⑬ 用途変更届出済
- ⑭ 用途変更届出済
- ⑮ 用途変更届出済
- ⑯ 用途変更届出済
- ⑰ 用途変更届出済
- ⑱ 用途変更届出済
- ⑲ 用途変更届出済
- ⑳ 用途変更届出済
- ㉑ 用途変更届出済
- ㉒ 用途変更届出済
- ㉓ 用途変更届出済
- ㉔ 用途変更届出済
- ㉕ 用途変更届出済
- ㉖ 用途変更届出済
- ㉗ 用途変更届出済
- ㉘ 用途変更届出済
- ㉙ 用途変更届出済
- ㉚ 用途変更届出済
- ㉛ 用途変更届出済
- ㉜ 用途変更届出済
- ㉝ 用途変更届出済
- ㉞ 用途変更届出済
- ㉟ 用途変更届出済
- ㊱ 用途変更届出済
- ㊲ 用途変更届出済
- ㊳ 用途変更届出済
- ㊴ 用途変更届出済
- ㊵ 用途変更届出済
- ㊶ 用途変更届出済
- ㊷ 用途変更届出済
- ㊸ 用途変更届出済
- ㊹ 用途変更届出済
- ㊺ 用途変更届出済

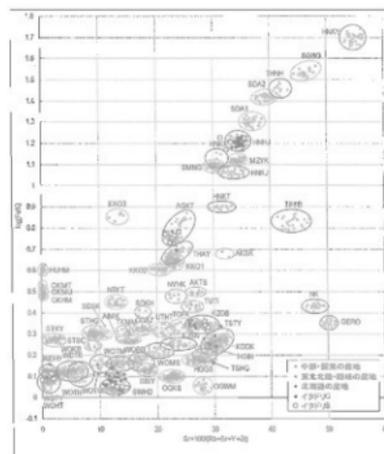
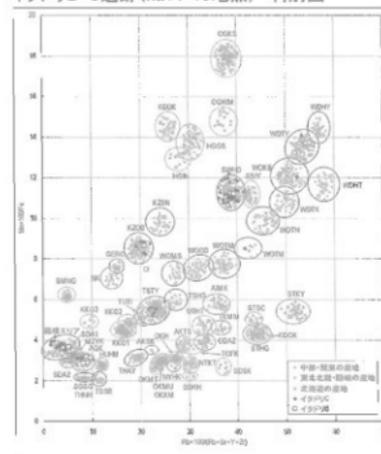
附 編



イタドリA遺跡 (No.13地点) 判別図



イタドリB・C遺跡 (No.14・15地点) 判別図









分類	運動番号	種	種別	種別名	距離1	距離2	距離3	距離4	備考1	備考2	分秒	備考	種別	種別名	距離1	距離2	距離3	距離4	備考1	備考2	備考3				
506	1883 K200	K200	K200	K200	1.421	16.360					542	2209 K200	K200	K200	2.747	25.552									
581	1884 平走	平走	平走								545	2344 AKT	AKT	AKT	1.329	63.860									
582	1903 0800	0800	0800	0800	39.23	64.905					546	2351 0800	0800	0800	6.326	53.704									
583	1914 AKT	AKT	AKT	AKT	4.47	74.224					549	2352 K200	K200	K200	18.260	37.4									
584	1924 鹿走	鹿走	鹿走								547	2353 K200	K200	K200	15.729	49.628									
585	1930 平走	平走	平走								548	2354 K200	K200	K200	2.113	56.262									
586	1931 AKT	AKT	AKT	AKT	18.820	71.419					549	2374 K200	K200	K200	9.929	19.934									
587	1951 0800	0800	0800	0800	5.296	21.49					548	2376 平走	平走	平走											
588	1952 K200	K200	K200	K200	2.249	22.160					550	2378 K200	K200	K200	20.981	57.203									
589	1953 0800	0800	0800	0800	29.346	38.831					541	2381 K200	K200	K200	4.294	49.384									
590	1974 AKT	AKT	AKT	AKT	9.747	94.917					552	2384 0800	0800	0800	6.111	44.388									
591	1975 K200	K200	K200	K200	5.12	46.668					553	2387 0800	0800	0800	6.264	17.372									
592	1980 K200	K200	K200	K200	9.955	33.624					554	2388 0800	0800	0800	5.641	1.332									
593	1981 K200	K200	K200	K200	1.944	20.282					555	2394 K200	K200	K200	4.725	33.6278									
594	1987 AKT	AKT	AKT	AKT	3.468	54.380					556	2395 0800	0800	0800	3.241	26.911									
595	1993 平走	平走	平走								557	2398 0800	0800	0800	5.627	51.262									
596	1997 平走	平走	平走								558	2411 K200	K200	K200	8.1747	47.0460									
597	1998 AKT	AKT	AKT	AKT	12.183	68.839					559	2416 0800	0800	0800	15.624	127.878									
598	1999 平走	平走	平走								561	2417 0800	0800	0800	3.227	22.708									
599	2000 平走	平走	平走								562	2443 K200	K200	K200	2.3803	29.572									
600	2001 0800	0800	0800	0800	0.316	66.444					563	2443 TST	TST	TST	9.226	56.4674									
601	2003 平走	平走	平走								564	2448 0800	0800	0800	1.114	25.887									
602	2003 平走	平走	平走								565	2449 0800	0800	0800	1.054	26.192									
603	2004 平走	平走	平走								566	2462 0800	0800	0800	6.119	16.129									
604	2005 0800	0800	0800	0800	8.455	111.547					567	2462 0800	0800	0800	4.983	35.885									
605	2006 0800	0800	0800	0800	7.093	80.111					568	2463 0800	0800	0800	4.444	14.812									
606	2007 0800	0800	0800	0800	12.596	38.804					569	2468 0800	0800	0800	1.353	16.721									
607	2012 平走	平走	平走								570	2478 0800	0800	0800	4.038	36.37									
608	2016 K200	K200	K200	K200	4.660	25.572					571	2478 0800	0800	0800	5.226	16.129									
609	2019 K200	K200	K200	K200	8.260	26.372					572	2479 K200	K200	K200	8.286	24.2129									
610	2024 K200	K200	K200	K200	6.267	47.140					573	2479 0800	0800	0800	3.523	24.865									
611	2025 0800	0800	0800	0800	6.317	38.714					574	2479 0800	0800	0800	5.219	7.566									
612	2026 0800	0800	0800	0800	12.000	88.831					575	2479 平走	平走	平走											
613	2028 平走	平走	平走								576	2516 K200	K200	K200	11.9056	43.326									
614	2042 K200	K200	K200	K200	2.476	24.546					577	2521 AKT	AKT	AKT	1.380	40.601									
615	2050 K200	K200	K200	K200	9.194	51.641					578	2521 AKT	AKT	AKT	1.214	43.244									
616	2054 0800	0800	0800	0800	15.611	23.204					579	2584 AKT	AKT	AKT	2.245	61.951									
617	2058 鹿走	鹿走	鹿走								600	2584 平走	平走	平走											
618	2060 0800	0800	0800	0800	18.576	97.625					601	2584 K200	K200	K200	14.2272	42.622									
619	2072 0800	0800	0800	0800	2.269	92.12					602	2584 K200	K200	K200	13.4442	58.9656									
620	2073 TST	TST	TST	TST	19.466	54.637					603	2584 平走	平走	平走											
621	2090 AKT	AKT	AKT	AKT	12.724	84.067					604	2584 平走	平走	平走											
622	2095 AKT	AKT	AKT	AKT	9.787	92.219					605	2590 AKT	AKT	AKT	20.42	110.25									
623	2100 0800	0800	0800	0800	3.819	36.488					606	2592 K200	K200	K200	5.204	46.8027									
624	2100 0800	0800	0800	0800	7.966	26.422					607	2592 AKT	AKT	AKT	1.629	56.991									
625	2110 AKT	AKT	AKT	AKT	82.418	96.726					608	2624 AKT	AKT	AKT	9.854	48.514									
626	2113 0800	0800	0800	0800	12.432	14.42					609	2625 AKT	AKT	AKT	11.424	51.652									
627	2117 AKT	AKT	AKT	AKT	11.840	84.884					610	2630 0800	0800	0800	4.829	14.768									
628	2118 AKT	AKT	AKT	AKT	19.185	91.662					611	2631 K200	K200	K200	21.2140	42.0628									
629	2120 AKT	AKT	AKT	AKT	23.825	100.226					612	2644 AKT	AKT	AKT	2.976	54.772									
630	2121 AKT	AKT	AKT	AKT	12.446	92.731					613	2648 鹿走	鹿走	鹿走											
631	2122 0800	0800	0800	0800	8.449	28.000					614	2650 0800	0800	0800	4.714	59.852									
632	2126 K200	K200	K200	K200	21.991	97.620					615	2682 K200	K200	K200	4.2629	37.9571									
633	2127 鹿走	鹿走	鹿走								616	2682 0800	0800	0800											
634	2128 K200	K200	K200	K200	18.167	42.012					617	2721 K200	K200	K200	11.2212	52.0666									
635	2141 K200	K200	K200	K200	4.116	12.213					618	2721 0800	0800	0800	11.2211	69.6016									
636	2142 K200	K200	K200	K200	41.188	18.968					619	2743 0800	0800	0800	5.216	16.226									
637	2152 AKT	AKT	AKT	AKT	1.006	56.281					620	2750 鹿走	鹿走	鹿走											
638	2154 AKT	AKT	AKT	AKT	16.289	56.237					621	2772 0800	0800	0800	14.418	23.967									
639	2155 AKT	AKT	AKT	AKT	29.299	467.881					622	2776 0800	0800	0800	6.266	56.122									
640	2162 AKT	AKT	AKT	AKT	29.50	111.617					623	2778 K200	K200	K200	4.6926	22.4487									
641	2164 0800	0800	0800	0800	12.714	96.748					624	2782 K200	K200	K200	31.9853	58.513									

序號	機位編號	機型	航線 1	航線 2	週數 1	週數 2	座位	備註
724	3020 K200	K200	K220	0 0119	02 2200	0	0	
725	3033 K200	K200	K230	18 9600	00 71	0	0	
730	3010 K200	K200	K010	16 8011	00 507	0	0	
731	3017 K200	K200	K230	18 2702	00 081	0	0	
732	3018 K200	K200	K010	3 0851	00 527	0	0	
733	3024 K200	K200	K230	9 0208	02 3170	0	0	
740	3007 K200	K200	K230	3 2444	11 8170	0	0	
741	3034 K200	K200	K230	22 1455	00 2661	0	0	
742	3038 K200	K200	K230	7 2010	02 2540	0	0	
743	3039 K200	K200	K230	16 0270	00 1644	0	0	
744	3041 K200	K200	K230	6 2020	00 4020	0	0	
745	3036 K200	K200	K230	12 1470	03 4260	0	0	
746	3128 8K2	8K2	8K2					
747	3130 K200	K200	K230	6 4001	20 0077	0	0	
748	2201 K200	K200	K010	6 0940	54 90	0	0	
749	2204 K200	K200	K230	3 3621	00 5977	0	0	
750	3232 K200	K200	K010	7 1951	00 3171	0	0	
751	3237 K200	K200	K010	2 1471	00 6200	0	0	
752	3239 K200	K200	K010	6 1465	00 4131	0	0	
753	3276 K200	K200	K010	6 2227	02 8460	0	0	
754	3282 K200	K200	K230	3 2048	00 4511	0	0	
755	3019 K200	K200	K230	10 2000	04 0002	0	0	
756	3030 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
757	3408 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
758	3022 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
759	3023 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
760	3024 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
761	3025 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
762	3026 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
763	3027 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
764	3028 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
765	3029 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
766	3031 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
767	3032 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
768	3033 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
769	3034 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
770	3035 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
771	3036 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
772	3037 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
773	3038 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
774	3039 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
775	3040 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
776	3041 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
777	3042 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
778	3043 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
779	3044 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
780	3045 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
781	3046 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
782	3047 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
783	3048 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
784	3049 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
785	3050 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
786	3051 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
787	3052 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
788	3053 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
789	3054 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
790	3055 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
791	3056 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
792	3057 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
793	3058 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
794	3059 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
795	3060 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
796	3061 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
797	3062 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
798	3063 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
799	3064 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
800	3065 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
801	3066 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
802	3067 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
803	3068 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
804	3069 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
805	3070 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
806	3071 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
807	3072 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
808	3073 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
809	3074 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
810	3075 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
811	3076 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
812	3077 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
813	3078 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
814	3079 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
815	3080 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
816	3081 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
817	3082 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
818	3083 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
819	3084 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
820	3085 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
821	3086 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
822	3087 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
823	3088 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
824	3089 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
825	3090 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	

序號	機位編號	機型	航線 1	航線 2	週數 1	週數 2	座位	備註
826	3091 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
827	3092 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
828	3093 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
829	3094 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
830	3095 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
831	3096 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
832	3097 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
833	3098 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
834	3099 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
835	3100 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
836	3101 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
837	3102 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
838	3103 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
839	3104 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
840	3105 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
841	3106 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
842	3107 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
843	3108 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
844	3109 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
845	3110 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
846	3111 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
847	3112 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
848	3113 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
849	3114 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
850	3115 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
851	3116 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
852	3117 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
853	3118 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
854	3119 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
855	3120 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
856	3121 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
857	3122 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
858	3123 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
859	3124 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
860	3125 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
861	3126 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
862	3127 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
863	3128 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
864	3129 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
865	3130 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
866	3131 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
867	3132 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
868	3133 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
869	3134 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
870	3135 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
871	3136 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
872	3137 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	
873	3138 K200	K200	K010	5 2201	00 3000	0	0	

▲上列機位均係臨時機位

機位編號	機型	航線	週數
3010	K200	K010	16 8011
3017	K200	K230	18 2702
3018	K200	K010	3 0851
3024	K200	K230	9 0208
3034	K200	K230	22 1455
3038	K200	K230	7 2010
3039	K200	K230	16 0270
3041	K200	K230	6 2020
3036	K200	K230	12 1470
3128	8K2	8K2	
3130	K200	K230	6 4001
2201	K200	K010	6 0940
2204	K200	K230	3 3621
3232	K200	K010	7 1951
3237	K200	K010	2 1471



## 分析2 イタドリA遺跡における放射性炭素年代

(株) 加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

イタドリA遺跡は、静岡県沼津市足高字尾上51-44 (北緯35° 09' 09", 東経138° 50' 26") に所在する。測定対象試料は、KU (富士黒土層) ~FB (栗色土層) 層出土の土器付着炭化物4点 (13-1~13-4: IAAA-80618~80621) とFB出土の土器付着炭化物3点 (13-5~13-7: IAAA-80622~80624)、合計7点である。13-1~6では土器の外側、13-7では土器の内側から炭化物を採取した。

### 2 測定の意義

静岡県東部における土器編年の詳細なデータを取得し、土器の時間的並行関係を明らかにする。

### 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理 (AAA: Acid Alkali Acid) により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸 (80℃) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では1Nの水酸化ナトリウム水溶液 (80℃) を用いて数時間処理する。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が1N未満の場合、表中にAaAと記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸 (80℃) を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (水素で還元) し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

### 4 測定方法

測定機器は、加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置を使用する。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOxII) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 5 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polash 1977)。
- (2) <sup>14</sup>C年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。<sup>14</sup>C年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰) で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cを測定した場合には表中に (AMS) と注記する。
- (4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。
- (5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の<sup>14</sup>C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の<sup>14</sup>C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 (1 $\sigma$ =68.2%) あるいは2標準偏差 (2 $\sigma$ =95.4%) で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない<sup>14</sup>C年代値であ

る。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を使い、OxCalv4.0較正プログラム (Bronk Ransey 1995 Bronk Ransey 2001 Bronk Ransey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

## 6 測定結果

KU (富士黒土層) ~FB (栗色土層) 層出土の土器付着炭化物4点とFB出土の土器付着炭化物3点の<sup>14</sup>C年代は、主に5550±40~5620±40yrBPの範囲に含まれ、まとまった値である。13-2が古く、7180±40yrBPである。13-7はやや新しく5370±40yrBPである。土器型式から、縄文時代早期から前期にかけてと予想されており、ほぼ合致する。試料は調査後10年を経過し、表面汚染の可能性も考えられたため、炭化物の表面部分を採取しない等、各試料に応じて適切な採取方法を採用した。また、土壌や塵のような不純物が混じれば、試料の炭素含有率が低下することも予想されるが、測定結果によれば試料の炭素含有率は57.3~62.4%であり、炭化物の標準的な値と判断できる。化学処理および測定内容にも問題は無く、妥当な年代と考えられる。

表1 イタドリA遺跡の<sup>14</sup>C年代測定結果

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-80618	13-1	層位Ku~FB	土器付着炭化物	AaA	-27.44±0.45	5,560 ± 40	50.03 ± 0.22
IAAA-80619	13-2	層位Ku~FB	土器付着炭化物	AaA	-23.26±0.46	7,180 ± 40	40.92 ± 0.19
IAAA-80620	13-3	層位Ku~FB	土器付着炭化物	AaA	-21.96±0.45	5,600 ± 30	49.78 ± 0.21
IAAA-80621	13-4	層位Ku~FB	土器付着炭化物	AaA	-21.46±0.47	5,590 ± 40	49.86 ± 0.21
IAAA-80622	13-5	層位: FE	土器付着炭化物	AaA	-25.01±0.40	5,550 ± 40	50.10 ± 0.22
IAAA-80623	13-6	層位: FB	土器付着炭化物	AaA	-25.19±0.37	5,620 ± 40	49.66 ± 0.21
IAAA-80624	13-7	層位: FB	土器付着炭化物	AaA	-24.83±0.43	5,370 ± 40	51.24 ± 0.22

[#2318]

表2 イタドリA遺跡の<sup>14</sup>C年代測定結果 (参考値)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-80618	5,600±30	49.78±0.21	5,562±34	4447BC - 4419BC (28.0%) 4402BC - 4359BC (40.2%)	4457BC - 4346BC (95.4%)
IAAA-80619	7,150±40	41.06±0.19	7,178±38	6066BC - 6011BC (68.2%)	6202BC - 6194BC ( 0.7%) 6159BC - 6144BC ( 1.2%) 6106BC - 5984BC (93.5%)
IAAA-80620	5,550±30	50.09±0.21	5,603±33	4460BC - 4437BC (19.1%) 4427BC - 4369BC (49.1%)	4497BC - 4357BC (95.4%)
IAAA-80621	5,530±30	50.23±0.21	5,589±34	4454BC - 4437BC (14.9%) 4427BC - 4369BC (53.3%)	4489BC - 4352BC (95.4%)
IAAA-80622	5,550±30	50.10±0.21	5,551±34	4446BC - 4419BC (27.3%) 4400BC - 4380BC (17.6%) 4375BC - 4352BC (23.4%)	4453BC - 4344BC (95.4%)
IAAA-80623	5,630±30	49.64±0.21	5,622±34	4495BC - 4444BC (41.5%) 4421BC - 4395BC (18.8%) 4386BC - 4373BC ( 7.9%)	4525BC - 4363BC (95.4%)
IAAA-80624	5,370±30	51.26±0.22	5,370±34	4324BC - 4288BC (20.9%) 4268BC - 4228BC (27.9%) 4200BC - 4170BC (15.9%) 4090BC - 4081BC ( 3.5%)	4330BC - 4223BC (55.6%) 4209BC - 4154BC (21.1%) 4132BC - 4060BC (18.7%)

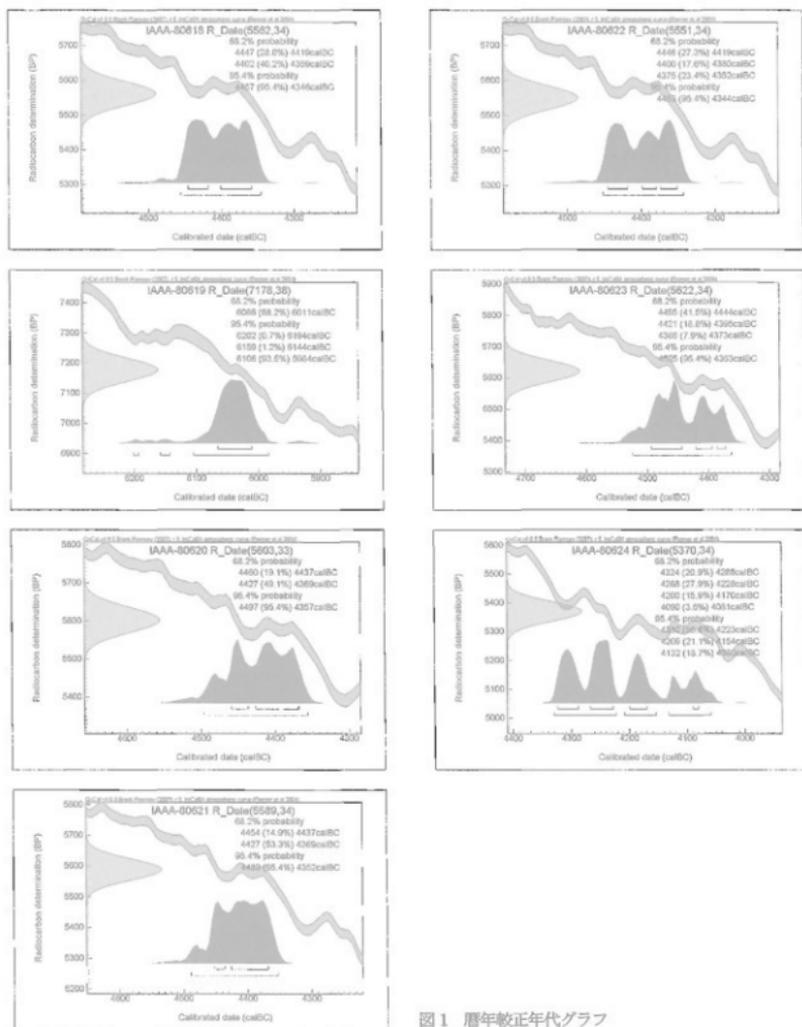


図1 暦年校正年代グラフ

参考文献

Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19, 355-363  
 Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), 425-430  
 Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43(2A), 355-363  
 Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389  
 Reimer, P.J., et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058

写真図版





遺跡周辺全景（南から）

図版2 イタドリA遺跡



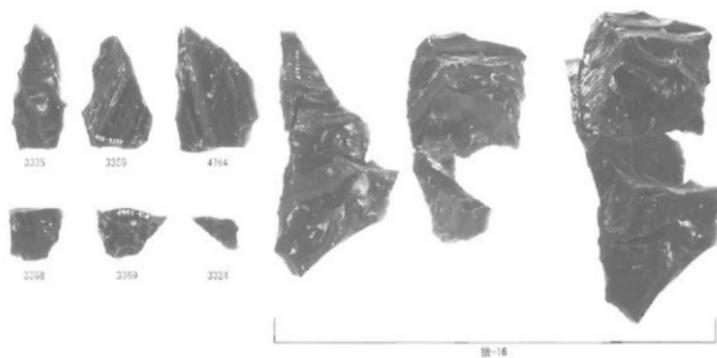
イタドリA遺跡全景（西から）



土層堆積状況（G-6グリッド）



旧石器時代第I文化層石器集中出土状況



旧石器時代第I文化層出土石器

図版4 イタドリA遺跡



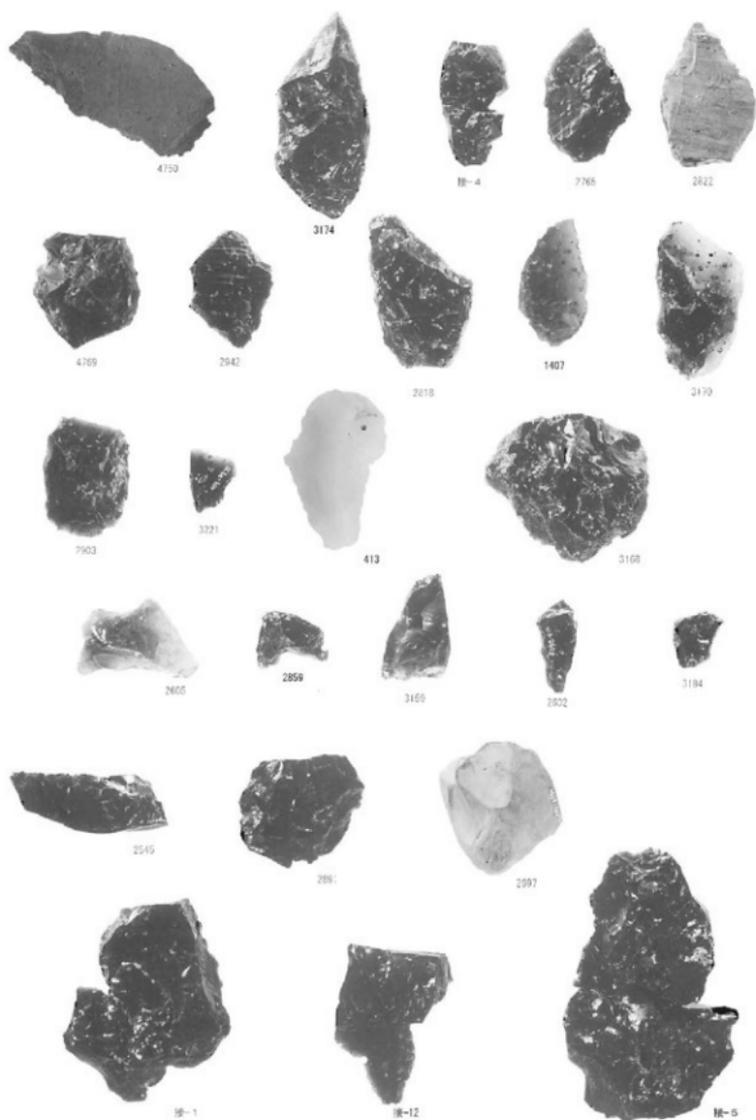
旧石器時代第Ⅱ文化層1号群  
検出状況(南西から)



旧石器時代第Ⅱ文化層2号群  
検出状況(南から)

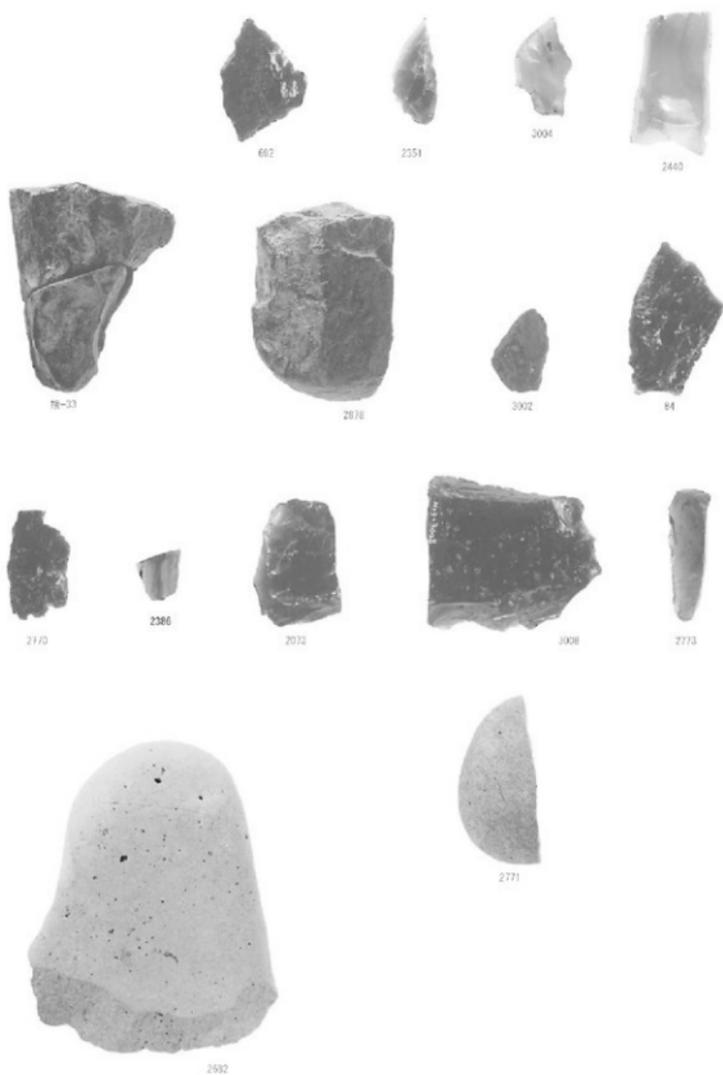


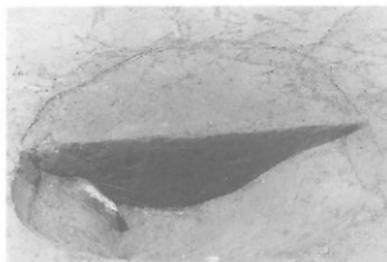
旧石器時代第Ⅱ文化層石器集中出土状況(南西から)



旧石器時代第Ⅱ文化層出土石器(1)

図版6 イタドリA遺跡





縄文時代1号土坑（南から）



縄文時代1号焼土（南東から）



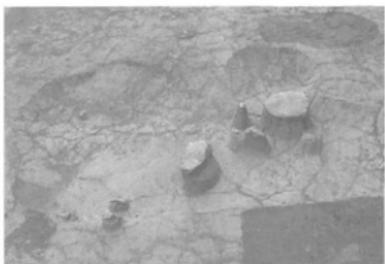
縄文時代2号焼土（南西から）



縄文時代3号焼土（東から）



縄文時代4号焼土（西から）



縄文時代5・6号焼土（東から）



縄文時代2号集石（西から）



縄文時代3号集石（西から）

図版8 イタドリA遺跡



縄文時代4号集石（南東から）



縄文時代5号集石（南東から）



縄文時代6号集石（南から）

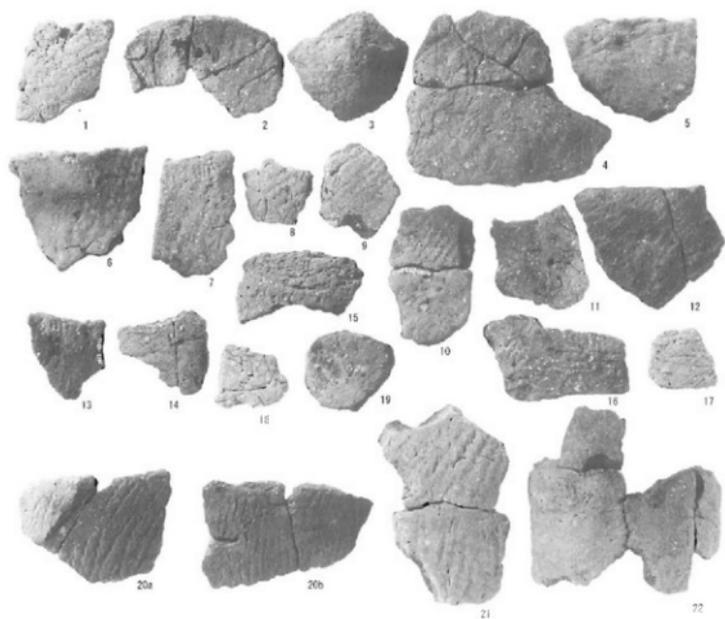


4431

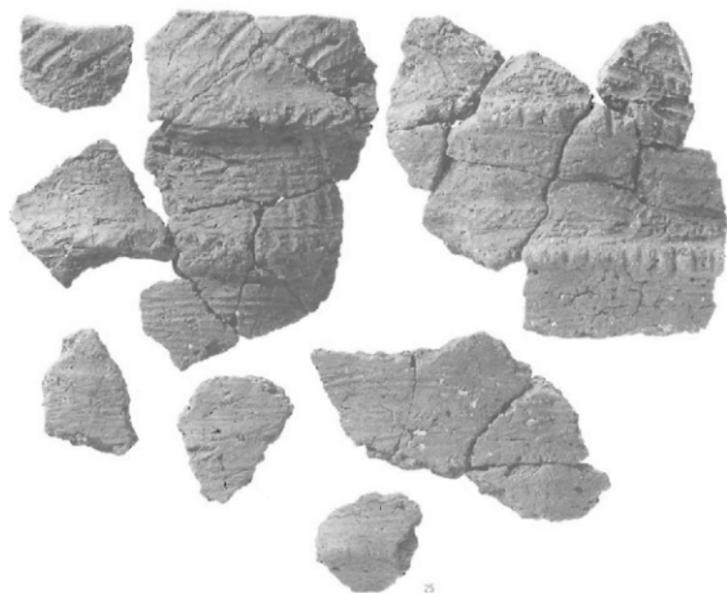


4432

縄文時代遺構内出土石器



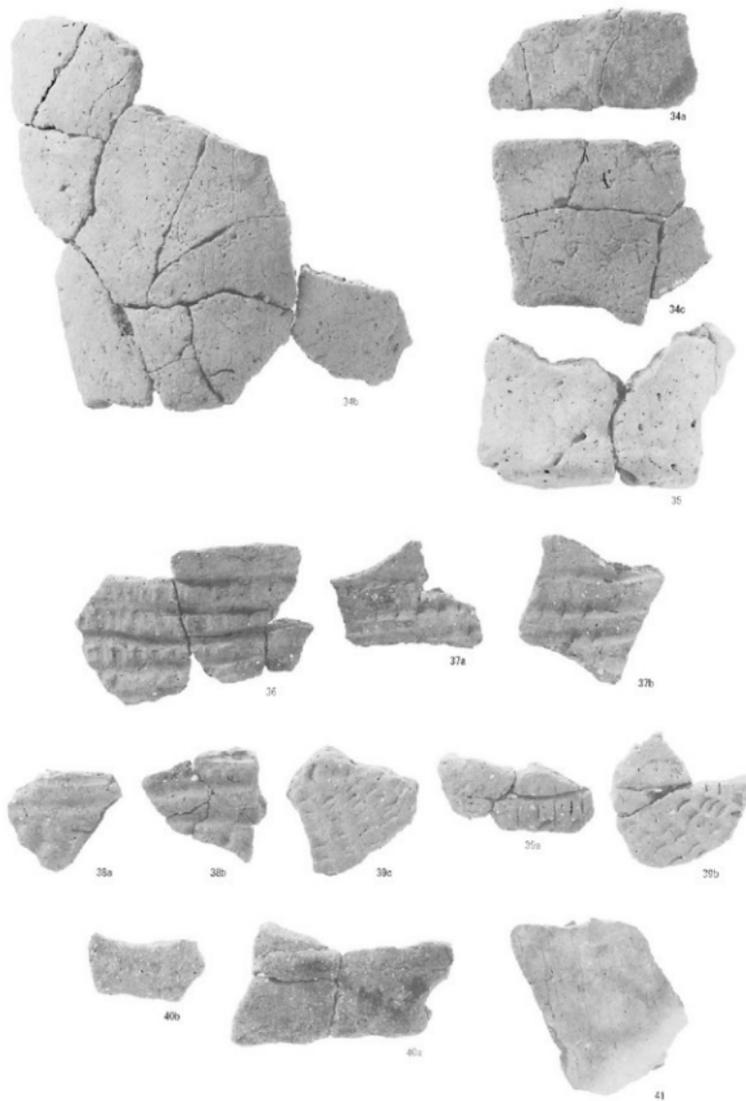
縄文土器 1 草創期 摺糸文・押型文土器・縄ヶ島台式土器（立面）



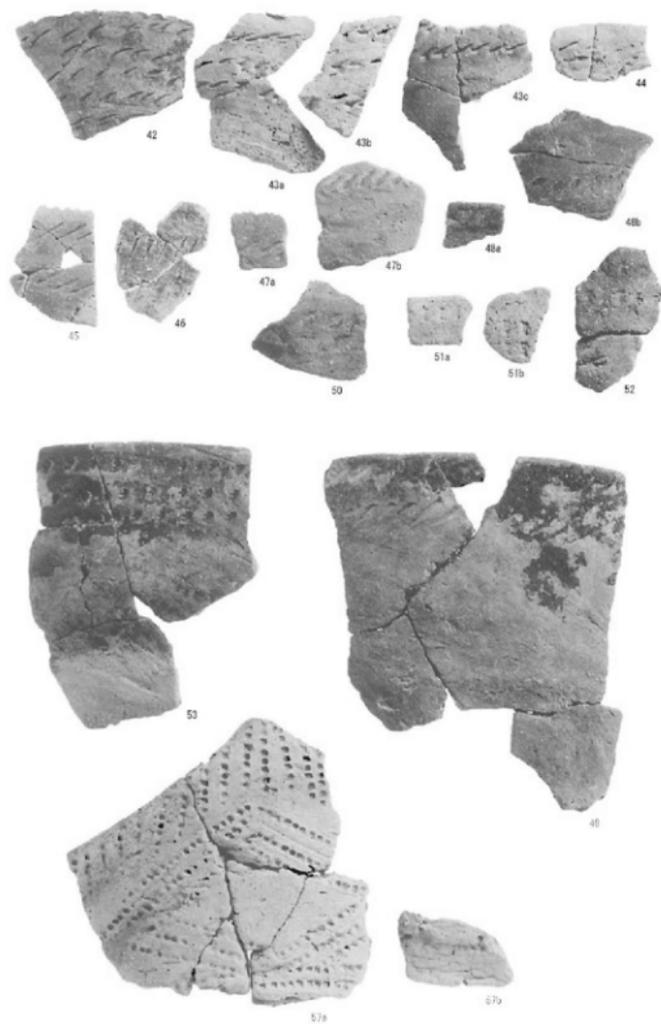
縄文土器2 茅山下層式土器



横文土器 3 茅山上層式土器 条痕文土器



縄文土器 4 条痕土器（無文） 相木式併行 下吉井式土器 木島式土器



縄文土器 5 清水ノ上Ⅱ～上ノ坊式併行 有尾式土器

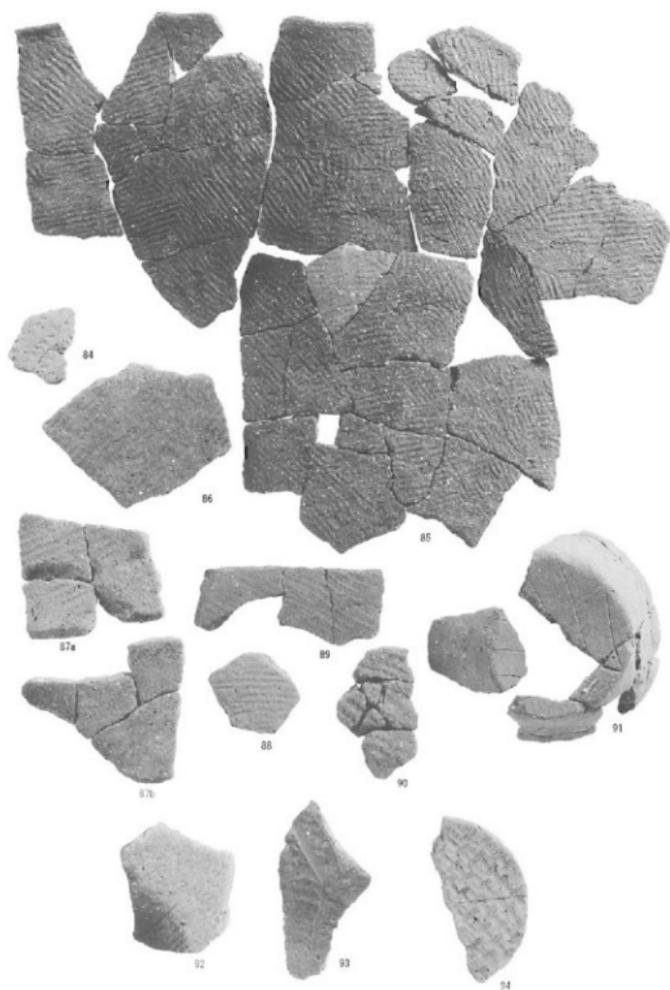


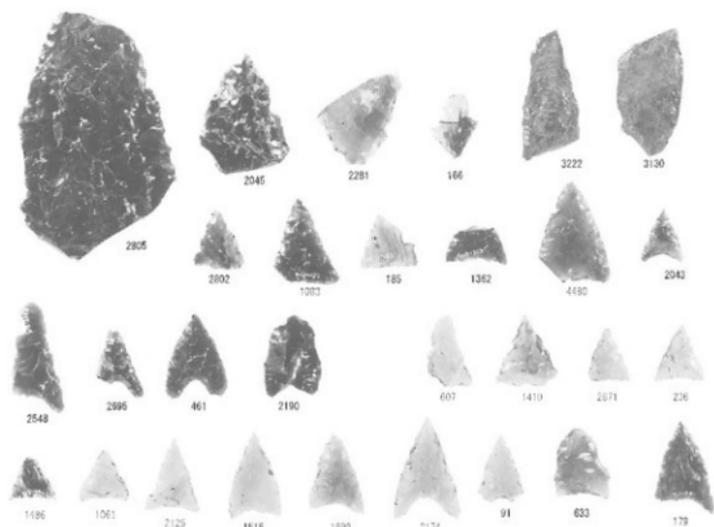
縄文土器6 諸磯b式土器



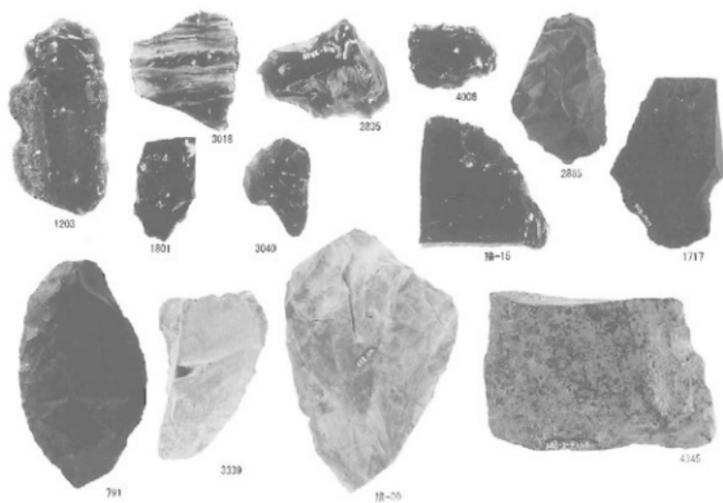
縄文土器7 縄文



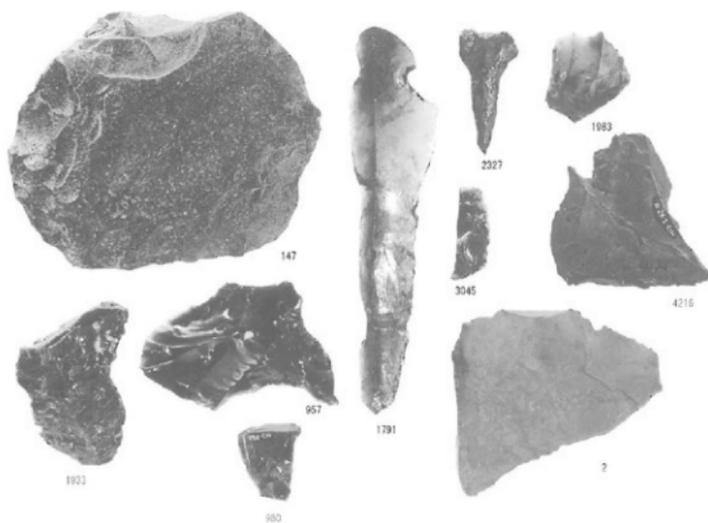




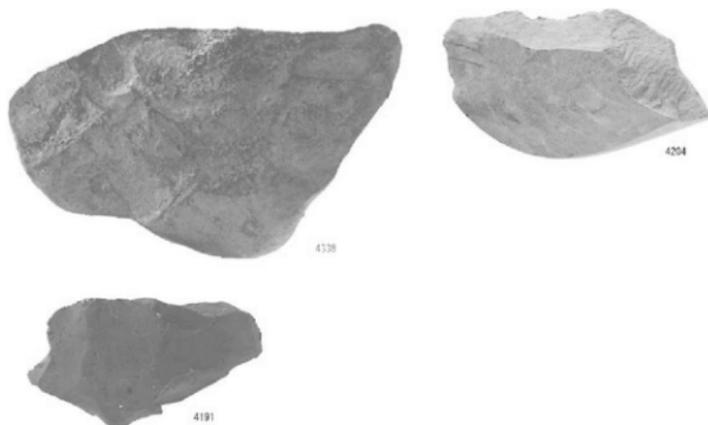
縄文石器（尖頭器・石鏃）



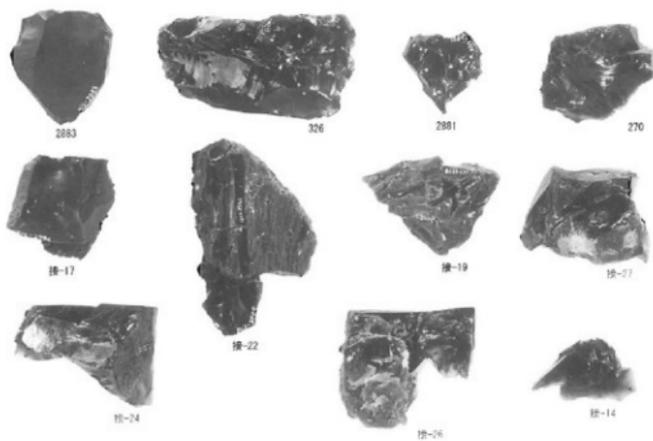
縄文石器（スクレイパー1）



縄文石器（スクレイパー2）



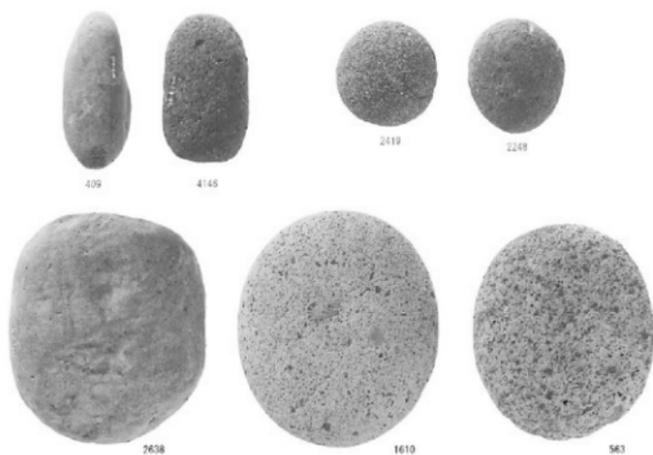
縄文石器（石核1）



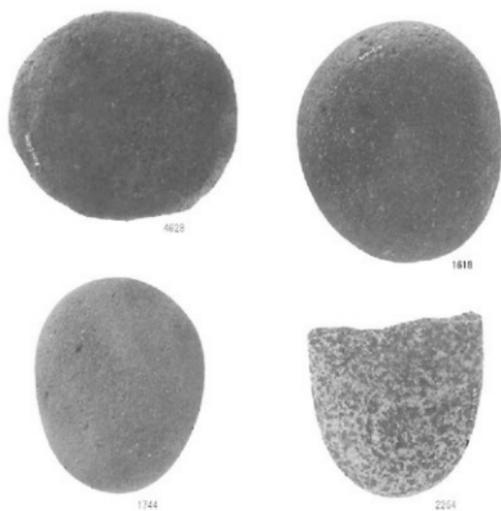
縄文石器（石核2）



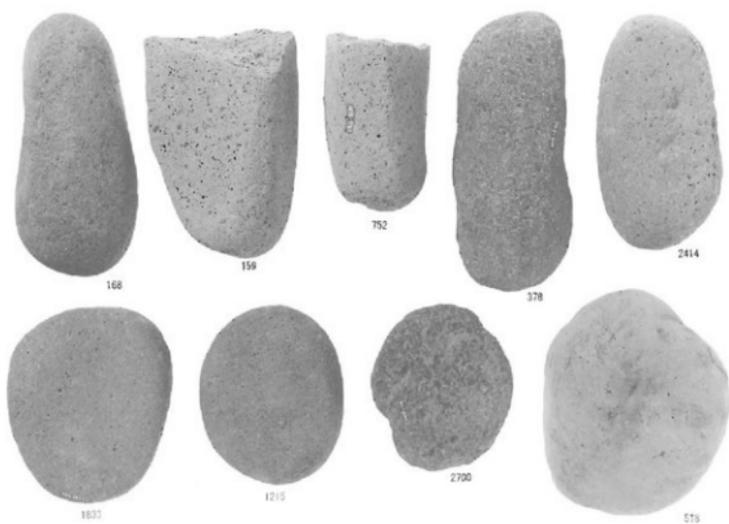
縄文石器（石斧）



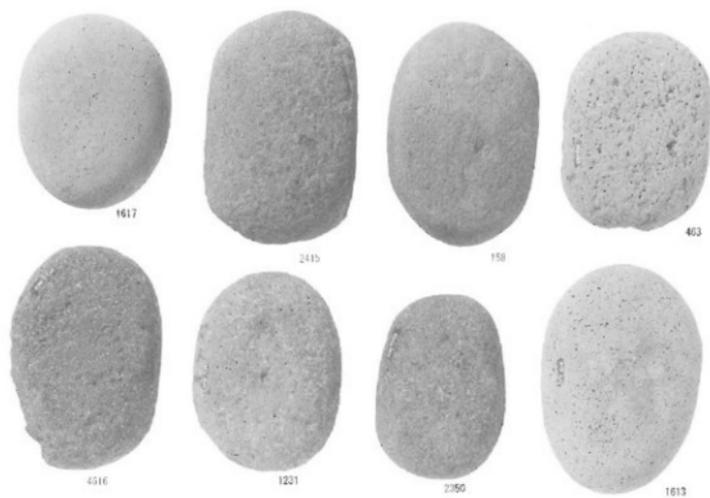
縄文石器（磨石・敲石類 1）



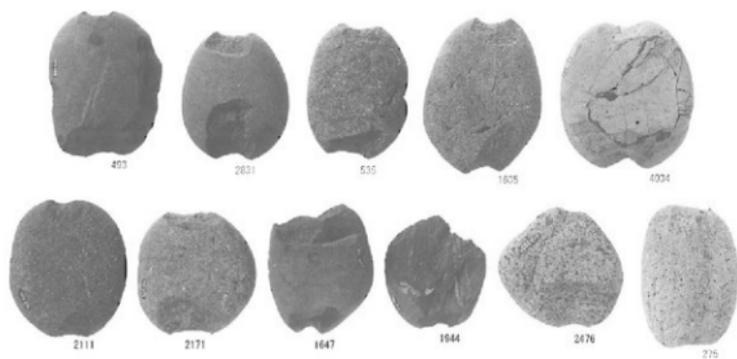
縄文石器  
（磨石・敲石類 2）



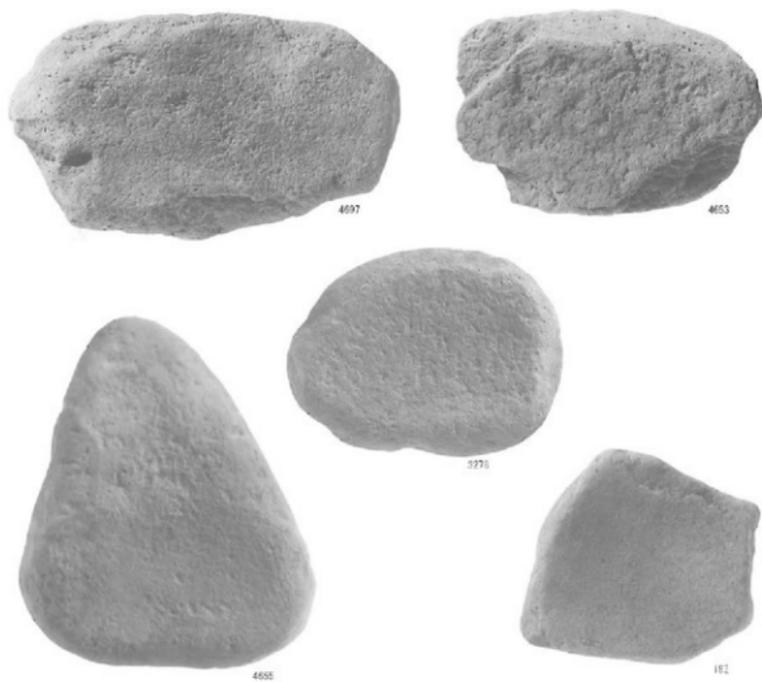
縄文石器（磨石・敲石類 3）



縄文石器（磨石・敲石類 4）



縄文石器（石鏝）



縄文石器（台石・石皿）

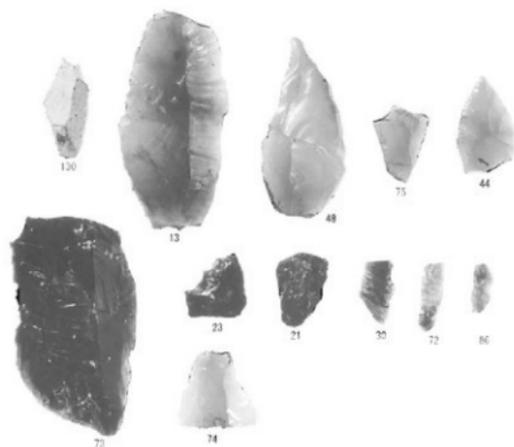
図版24 イタドリB遺跡



イタドリB遺跡全景（西から）



土層堆積状況  
(テストピット1)



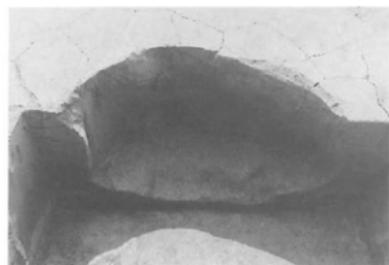
旧石器時代石器



縄文時代 1号土坑検出状況



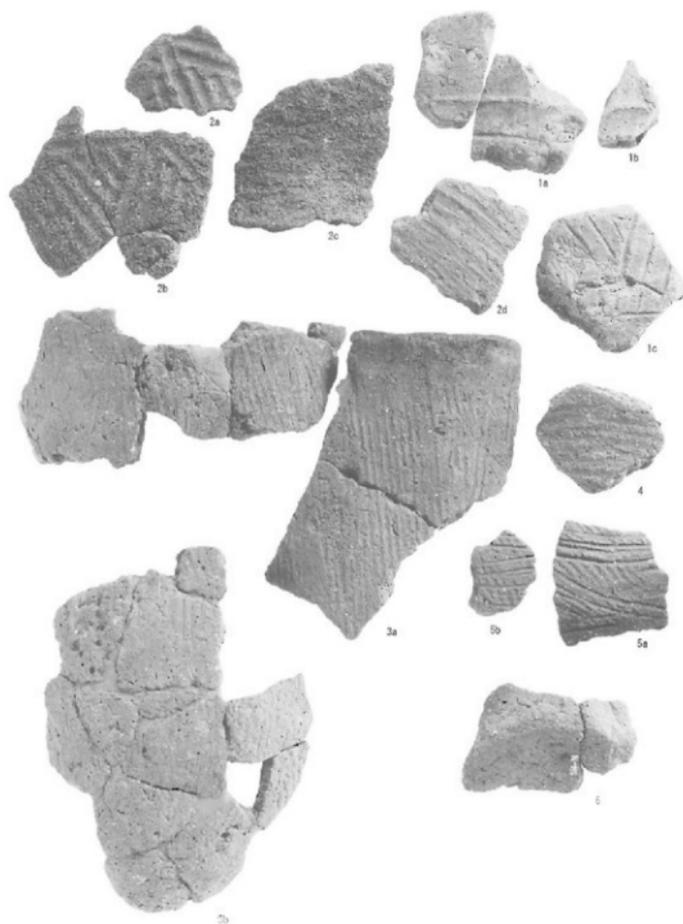
縄文時代 2号土坑検出状況



縄文時代 3号土坑検出状況



縄文時代 4号土坑検出状況



縄文時代土器



縄文時代石器 1



縄文時代石器 2



イタドリC遺跡全景（南から）



土層堆積状況（K-15グリッド）



1号礫群検出状況（北から）



2号礫群検出状況（北から）



3号礫群検出状況（南から）



4号礫群検出状況（南から）



5号礫群検出状況（南から）



6号礫群検出状況（南から）



7号礫群検出状況（南西から）



8号礫群検出状況（北から）

図版30 イタドリC遺跡



9号礫群検出状況（南から）



10号礫群検出状況（南から）



11号礫群検出状況（東から）



12号礫群検出状況（東から）



13号礫群検出状況（南から）



14号礫群検出状況（南から）



15号礫群検出状況（西から）



16号礫群検出状況（南から）



17号碟群検出状況（南から）



18号碟群検出状況（西から）



19号碟群検出状況（東から）



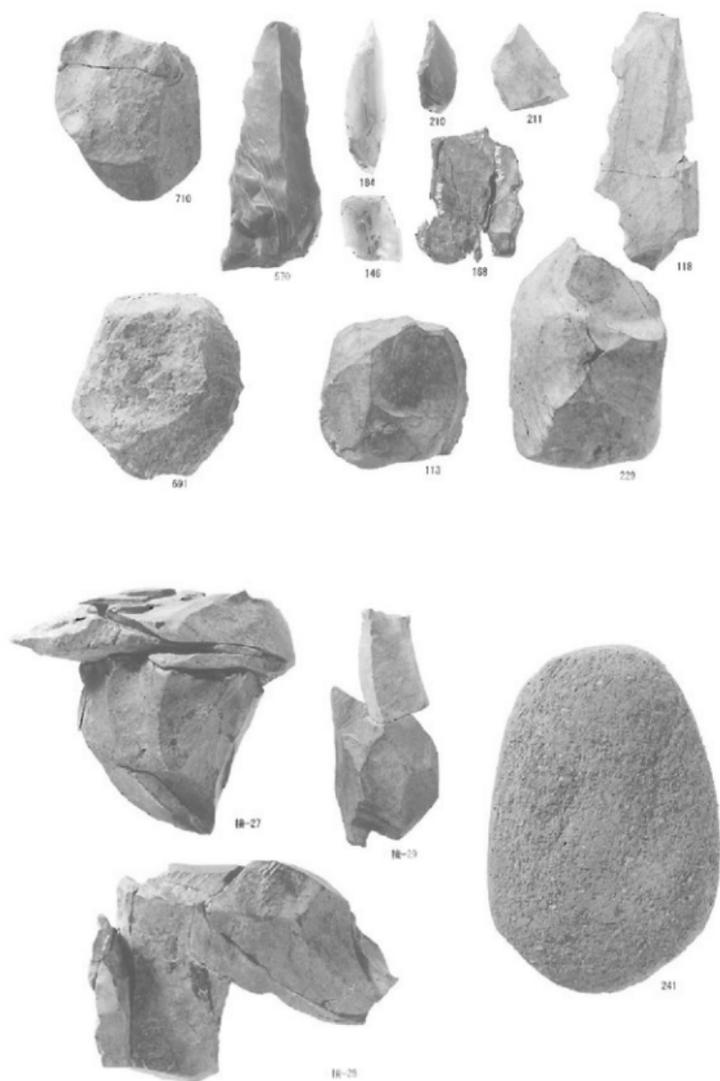
1号～6号石器集中出土状況（南東から）



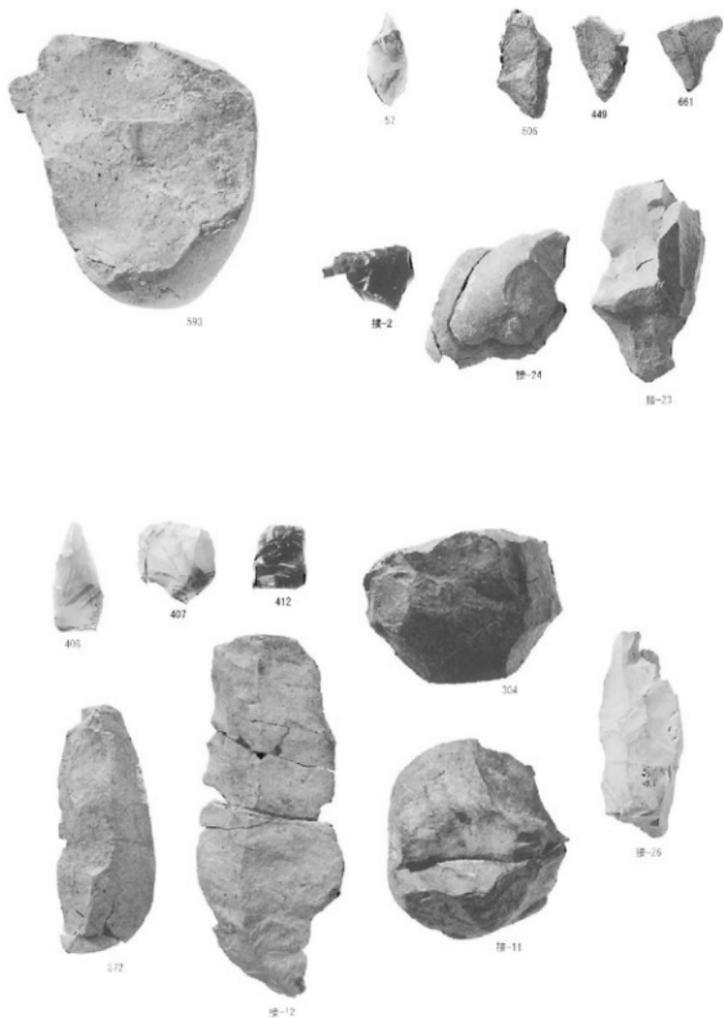
6号～10号石器集中出土状況（南から）



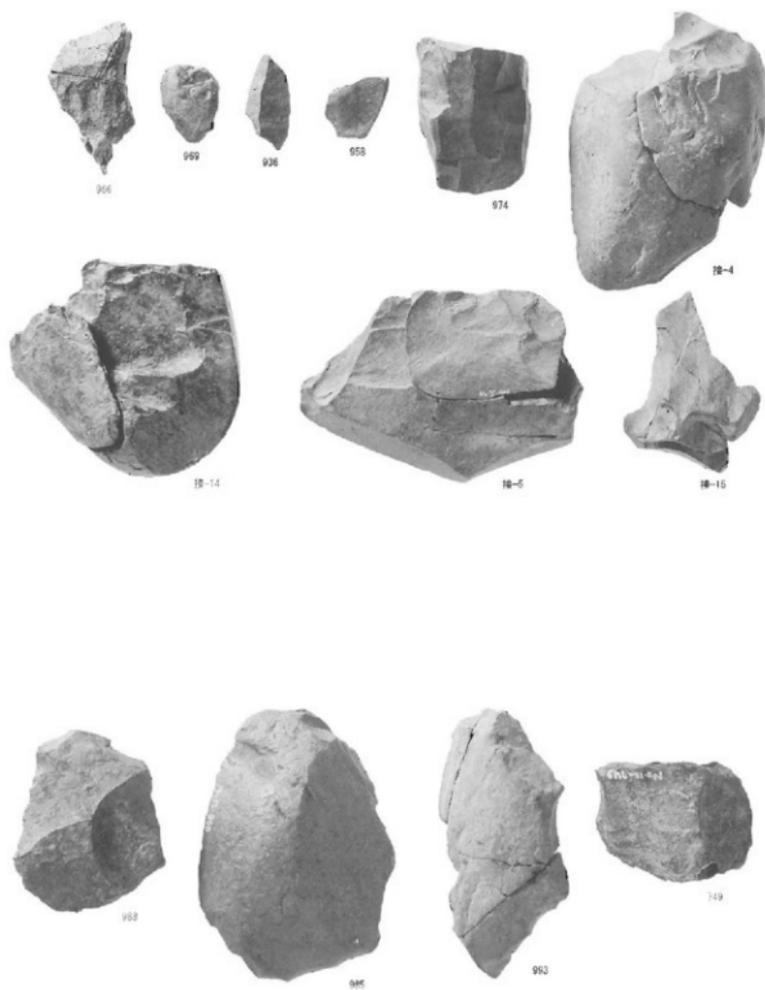
11号～13号石器集中出土状況（北東から）



旧石器時代出土石器 1 (集中)

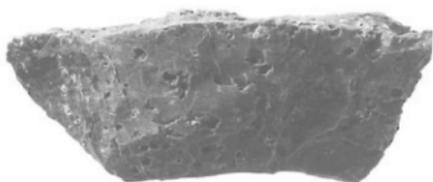
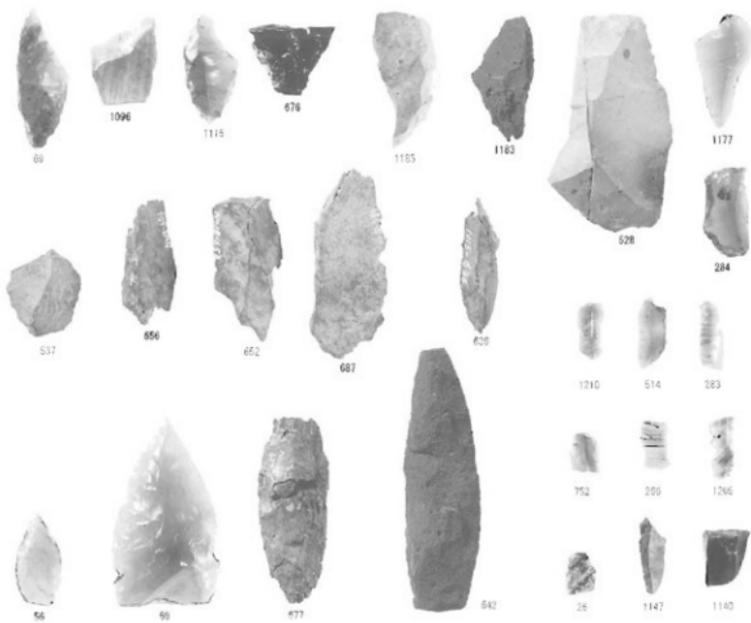


旧石器時代出土石器 2 (集中)



旧石器時代出土石器3 (集中)

図版36 イタドリC遺跡



1171



832

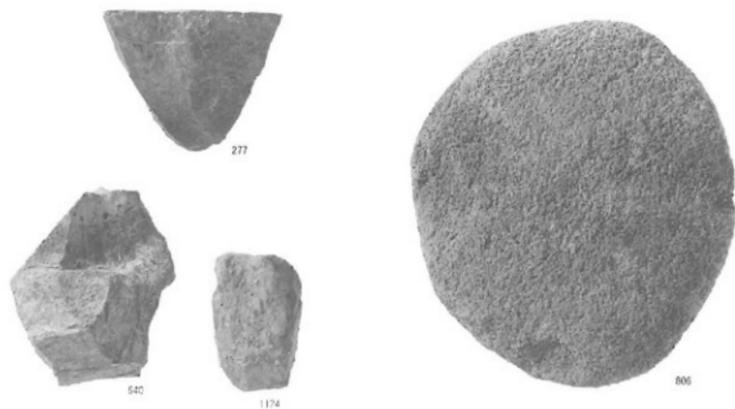


793



578

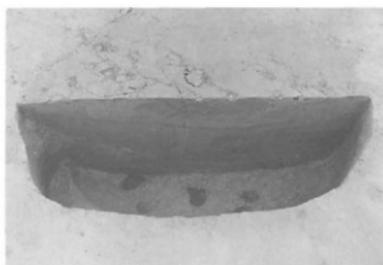
旧石器時代出土石器4 (包含版)



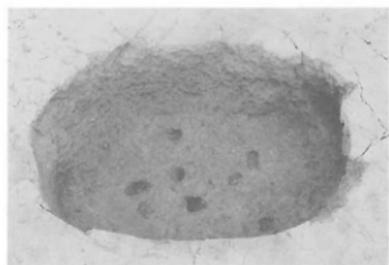
旧石器時代出土石器5（包含層）



縄文時代1号～5号土坑（東から）



縄文時代1号土坑



縄文時代2号土坑



縄文時代3号土坑



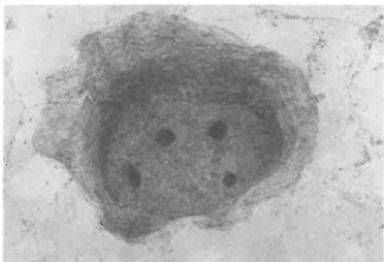
縄文時代4号土坑



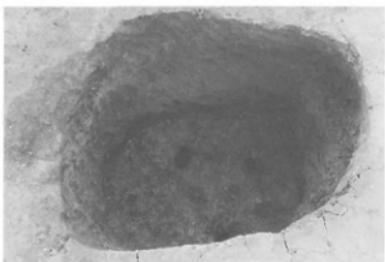
縄文時代5号土坑



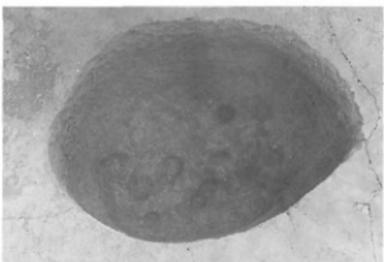
縄文時代6号土坑



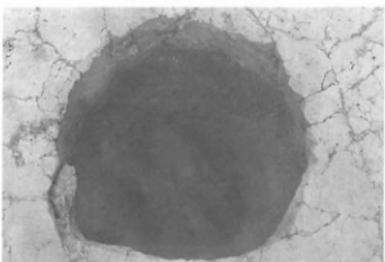
縄文時代7号土坑



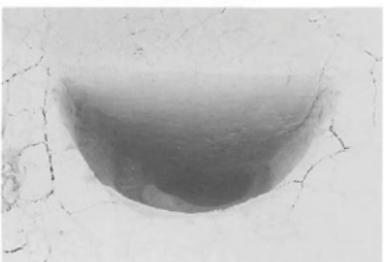
縄文時代8号土坑



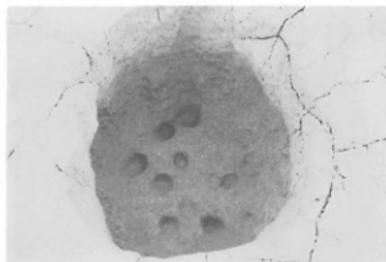
縄文時代9号土坑



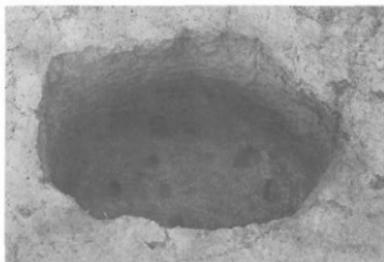
縄文時代10号土坑



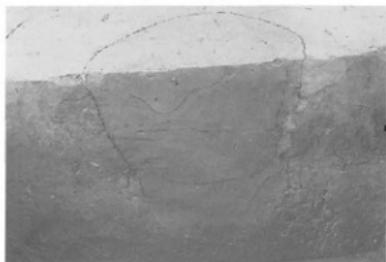
縄文時代11号土坑



縄文時代12号土坑



縄文時代13号土坑



縄文時代14号土坑



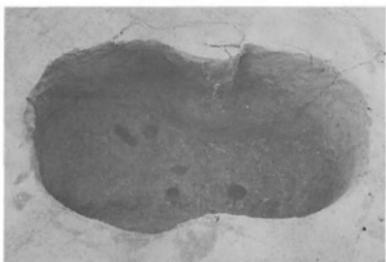
縄文時代15号土坑



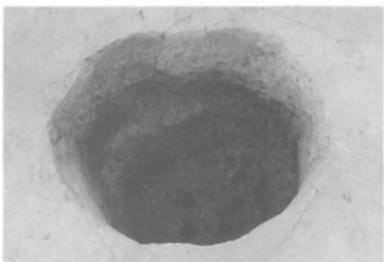
縄文時代16号土坑



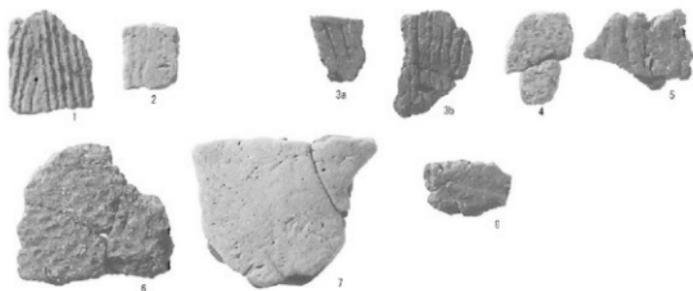
縄文時代17号土坑



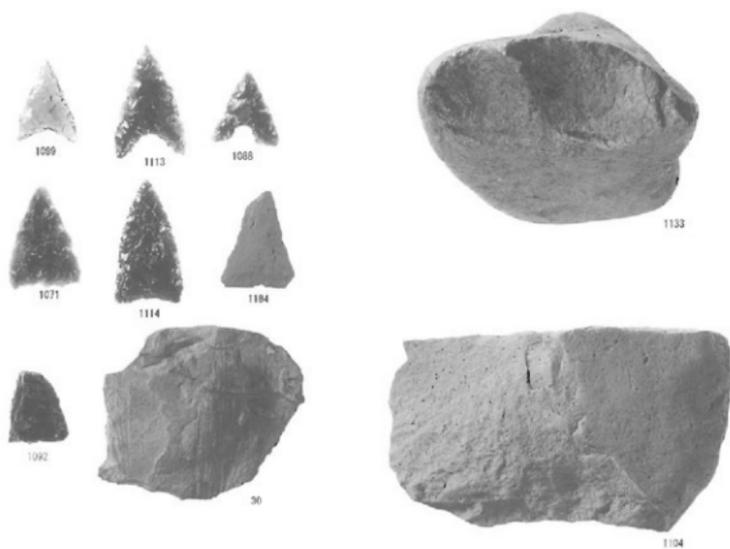
縄文時代18号土坑



縄文時代19号土坑



縄文時代出土土器



縄文時代出土石器

## 報告書抄録

ふりがな	いたどりAいせき・いたどりBいせき・いたどりCいせき							
番名	イタドリA遺跡・イタドリB遺跡・イタドリC遺跡							
副番名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書							
巻次	沼津市-3 (第二東名No13地点・No14地点・No15地点)							
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書							
シリーズ番号	第211集							
編集者名	壬生亮輔 杉山和徳							
編集機関	財団法人埋蔵文化財調査研究所							
所在地	〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23-20 TEL.054-262-4261							
発行年月日	西暦2009年11月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町	遺跡番号					
いたどりAいせき イタドリA遺跡	静岡県 沼津市 足高 字尾上 51-44他	22203		世界測地系		確認(その1) 199804~199806 本調査1期 199806~199808 本調査2期 199809~199810	1,925㎡	道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査(第二東名)
				138° 35'	50° 9' 33"			
				日本測地系				
いたどりBいせき イタドリB遺跡	静岡県 沼津市 足高 字尾上 43-25他	22203		世界測地系		確認(その1) 199707~199708 確認(その2) 199802~199803 本調査 199804~199806	3,320㎡	道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査(第一東名)
				138° 35'	50° 9' 28"			
				日本測地系				
いたどりCいせき イタドリC遺跡	静岡県 沼津市 宮本 字元野 266-18他	22203		世界測地系		確認(その1) 199707~199708 確認(その2) 199801~199802 本調査1期 199806~199809 確認(その3) 199809~199812	8,808㎡	道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査(第二東名)
				138° 35'	50° 9' 20"			
				日本測地系				
所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物			*特記事項	
イタドリA遺跡	散布地	旧石器時代 NL YLM~YLU	竪群2基	石器(ナイフ形石器/スクレイパー/楔形石器/加工痕剥片/使用痕剥片/石核/敲石/礫石/磨石/台石類/割片/砕片)			箱根畑宿群の黒曜石製石器製作。	
	散布地	縄文時代 草創期 早期	土坑1基 焼土6基 集石6基	土器(草創期~前期) 石器(有舌尖頭器/尖頭器/石鏃/スクレイパー/石匙/石鏃/楔形石器/加工痕剥片/使用痕剥片/石核/磨石/打製石斧/打製石斧/石鏃/磨石/敲石/台石/石皿類/割片/砕片)			縄文時代草創期の土器片多数。	
	散布地	中近世	-	須恵器			-	
イタドリB遺跡	散布地	旧石器時代	-	石器(ナイフ形石器/尖頭器/スクレイパー/加工痕剥片/使用痕剥片/石核/細石核/細石刃/割片/砕片)			-	
	散布地	縄文時代 早期	土坑4基 焼土29基	土器(早期)石器(石鏃/石匙/打製石斧/礫石/敲石/磨石類/台石/石皿類/割片/砕片)			-	
イタドリC遺跡	散布地	旧石器時代 YLL~YLM YLU	竪群20基	石器(ナイフ形石器/尖頭器/スクレイパー/加工痕剥片/使用痕剥片/石核/細石核/細石刃/割片/砕片)			ホルンフェルス製石刃石器製作。	
	散布地	縄文時代 早期	土坑20基	土器(早期)石器(石鏃/スクレイパー/加工痕剥片/使用痕剥片/石核/台石/石皿類/割片/砕片)			土坑18基は掘込面不明。	

要約 イタドリA遺跡では、旧石器時代は2枚の文化層を確認。第1文化層の包含の中心はニセローム層。石器集中部1箇所を確認。第2文化層の包含の中心は体層層上位。石器集中部2箇所を確認。縄文時代は草創期~前期の土器・石斧出土。土坑1基・集石6基・焼土6基を検出。イタドリB遺跡では旧石器時代の石器、縄文時代早期の土器、石器が少量出土。縄文時代の焼土29基・土坑4基を検出。イタドリC遺跡では、旧石器時代を一括報告。遺物包含の中心は体層層下~上位。竪群20基を検出。ホルンフェルス製石刃を伴う石器集中15箇所を確認。縄文時代の土器・石器少量出土。縄文時代の土坑20基を検出。

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第211集  
イタドリA遺跡・イタドリB遺跡・イタドリC遺跡  
第二東名No13・No14・No15地点  
第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書  
平成21年11月30日

編集・発行 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所  
〒422-8002 静岡市駿河区谷田23-20  
TEL 054-262-4261 (代)  
FAX 054-262-4266

印刷所 松本印刷株式会社  
〒421-0303 静岡県榛原郡吉田町片岡1282  
TEL 0548-32-0851 (代)

